（様式４）

一般社団法人　薬学教育評価機構

（　調　書　）

薬学教育評価　基礎資料

（平成27年5月1日現在）

慶應義塾大学薬学部

「基礎資料」作成上の注意事項

１　記述の対象となる年度が提示されていない場合は、自己点検・評価対象年度の5月1日現在の数値を記述してください。平成28年度に第三者評価を受ける大学の場合は、自己点検・評価対象年度の平成27年5月1日となります。

２　記述に際し、各シートの[注]を確認し、作成してください。

３　各シートの表中の表記例は、消去して作成してください。また、各シートに付されている[注]は消去しないでください。

４　各表に記入する数値について小数点以下の端数が出る場合、特に指示のない限り小数点以下第２位を四捨五入して小数点第１位まで表示してください。

５　説明を付す必要があると思われるものについては、備考欄に記述するか、欄外に大学独自の注をつけて説明を記してください。

６　提出形態について

・基本的にＡ４判で作成してください。

・表紙および目次を作成し、全体に通しページ番号を付してください。

・両面印刷して加除が可能な体裁でファイル綴じにした印刷物を提出してください。

・カラー表記のあるページは、カラーで印刷してください。

・PDFファイルに変換したデータを自己点検・評価書と同じCD-Rに保存してください。

薬学教育評価　基礎資料

（目次）

	資料概要	ページ
基礎資料1	学年別授業科目	p1-7
基礎資料2	修学状況（在籍学生数・休学退学者数・学士課程修了状況）	p8-14
基礎資料3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のＳＢＯｓに該当する科目	p15-102
基礎資料4	カリキュラム・マップ	p103-104
基礎資料5	語学教育の要素	p105
基礎資料6	４年次の実務実習事前学習のスケジュール	p106-114
基礎資料7	学生受入状況について	p115-116
基礎資料8	教員・事務職員数	p117-118
基礎資料9	専任教員年齢構成	p119-120
基礎資料10	専任教員の担当授業科目および時間数	p121-136
基礎資料11	卒業研究の配属状況	p137
基礎資料12	講義室等の数と面積	p138
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	p139
基礎資料14	図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況	p140
基礎資料15	専任教員の教育・研究業績	p141-208

薬学教育評価　基礎資料

（目次）（細目）

	資料概要	ページ
基礎資料1	学年別授業科目	
基礎資料1-1	学年別授業科目（１年次）	p1
基礎資料1-2	学年別授業科目（２年次）	p2
基礎資料1-3	学年別授業科目（３年次）	p3
基礎資料1-4	学年別授業科目（４年次）	p4
基礎資料1-5	学年別授業科目（５年次）	p5
基礎資料1-6	学年別授業科目（６年次）	p6
基礎資料1-7	学年別授業科目（まとめ）	p7
基礎資料2	修学状況（在籍学生数・休学退学者数・学士課程修了状況）	
基礎資料2-1a	在籍学生数（薬学科）	p8
基礎資料2-1b	在籍学生数（薬科学科）	p9
基礎資料2-1c	転学科状況（薬学科・薬科学科）	p10
基礎資料2-2a	休学者数、留年者数、退学者数および転学科者数（薬学科）	p11
基礎資料2-2b	休学者数、留年者数、退学者数および転学科者数（薬科学科）	p12
基礎資料2-3a	学士課程修了状況（薬学科）	p13
基礎資料2-3b	学士課程修了状況（薬科学科）	p14
基礎資料3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のＳＢＯｓに該当する科目	
基礎資料3-1	ＳＢＯｓに該当する科目（旧カリキュラム）	p15-56
基礎資料3-2	ＳＢＯｓに該当する科目（実務実習）	p57-60
基礎資料3-3	ＳＢＯｓに該当する科目（新カリキュラム）	p61-102
基礎資料4	カリキュラム・マップ	
基礎資料4a	カリキュラム・マップ（旧カリキュラム）	p103
基礎資料4b	カリキュラム・マップ（新カリキュラム）	p104
基礎資料5	語学教育の要素	p105
基礎資料6	４年次の実務実習事前学習のスケジュール	p106-114
基礎資料7	学生受入状況について	
基礎資料7a	学生受入状況について（薬学科）	p115
基礎資料7b	学生受入状況について（薬科学科）	p116
基礎資料8	教員・事務職員数	
基礎資料8a	教員・事務職員数（薬学科専任教員）	p117
基礎資料8b	教員・事務職員数（薬学部専任教員）	p118
基礎資料9	専任教員年齢構成	
基礎資料9a	専任教員年齢構成（薬学科専任教員）	p119
基礎資料9b	専任教員年齢構成（薬学部専任教員）	p120
基礎資料10	専任教員の担当授業科目および時間数	p121-136
基礎資料11	卒業研究の配属状況	p137
基礎資料12	講義室等の数と面積	p138
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	p139
基礎資料14	図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況	p140
基礎資料15	専任教員の教育および研究活動の業績	p141-208

（基礎資料１－１）学年別授業科目（１年次）

	１　年　次								
	科目名	春学期・秋学期	１クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	薬学研究のためのコミュニケーションスキル１Ａ/１Ｂ	春学期	27.3	8	218	コ			2
	薬学研究のためのコミュニケーションスキル２Ａ/２Ｂ	秋学期	27.3	8	218	コ			2
	数学	秋学期	93.5	2	187	コ			2
	(択)基礎数学	春学期	93.5	2	187	コ			2
	(択)基礎物理学	春学期	174	1	174	コ			2
	(択)基礎生物学	春学期	196	1	196	コ			2
	(択)ドイツ語１	春学期	47	2	94	コ			2
	(択)ドイツ語２	秋学期	47	2	94	コ			2
	(択)フランス語１	春学期	27	1	27	コ			2
	(択)フランス語２	秋学期	27	1	27	コ			2
	(択)スペイン語１	春学期	34	1	34	コ			2
	(択)スペイン語２	秋学期	34	1	34	コ			2
	(択)中国語１	春学期	43	1	43	コ			2
	(択)中国語２	秋学期	43	1	43	コ			2
	(択)韓国語１	春学期	9	1	9	コ			2
	(択)韓国語２	秋学期	9	1	9	コ			2
	(択)一般教養（日吉共通科目319科目）　(b)	春学期・秋学期	－	－	－	コ			－
	(択)体育実技（229科目）　(b)	春学期・秋学期	－	－	－			実	－
	(択)外国語教育センター設置の語学科目(39科目)　(b)	春学期・秋学期	－	－	－	コ	エ		－
	(択)センター設置科目(16科目)　(b)	春学期・秋学期	－	－	－	コ	エ		－
薬学専門教育	生命倫理	春学期	75.5	2	151	コ		Ｓ	1
	情報・コミュニケーション論	春学期	72.5	2	145	コ	エ	Ｓ	1
	薬学への招待	春学期	219	1	219	コ			1
	早期体験学習(薬学科)	春学期	160	1	156	コ		体	1
	物理化学１	春学期	109.5	2	219	コ			2
	分析化学	秋学期	218	1	218	コ			2
	有機化学１	春学期	220	1	220	コ			2
	有機化学２	秋学期	219	1	219	コ			2
	細胞の機能と構成分子	春学期	220	1	220	コ			2
	機能生理学１	秋学期	219	1	219	コ			2
	実験法概論	秋学期	219	1	219	コ			2
実習	薬学基礎実習	秋学期	219	1	219			実	2
	(択)多職種連携体験学習	通年	5	1	5			体	0.5
	(択)リハビリ体験学習	通年	5	1	5			体	0.5
演習	(自)有機化学演習１	秋学期	93	1	93	コ	エ		2
	(自)薬化学演習	春学期	112	1	112	コ	エ		1
単位数の合計						（必須科目）			26
						（選択科目）(c)			27
						合計			53

（凡例）

講義＝コ　　PBL/SGD＝Ｓ

実習＝実　　体験学習＝体

演習＝エ

［注］　１　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

２　下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

３　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

４　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。

５　表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の２つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝Ｓ

６　行は適宜加除し、記入してください。

［大学追記］　(a)　自由科目については、頭に「(自)」と記した。

(b)　薬学科の学生が時間割上履修可能な科目の合計（資料6b：2015年度薬学部第1学年授業時間割）。薬学科の学生の履修の有無については考慮していない。

(c)　一般教養（日吉共通科目319科目）、体育実技（229科目）、外国語教育センター設置の語学科目（39科目）、センター設置科目（16科目）は除外した。

(d)　平成27年度1年次生が学ぶ新カリキュラムに従って作成した。

（基礎資料１－２）学年別授業科目（２年次）

	２　年　次								
	科目名	春学期・秋学期	１クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	F(2)英語Ⅱ	春学期・秋学期	26.5	4	106	コ			1
	F(2)科学英語ⅡＡ	春学期・秋学期	28.8	4	115	コ			1
	F(2)科学英語ⅡＢ	春学期・秋学期	28.5	4	114	コ			1
	F(2)科学英語ⅡＣ	春学期・秋学期	26.5	4	106	コ			1
	F(2)基礎統計	春学期	110	2	220	コ			1
薬学専門教育	A(2)生命の大切さを知るために-2(生命倫理)	春学期	81	2	162	コ	S		1
	C1(3)物質の状態ⅡＡ	春学期	110	2	220	コ			1
	C1(3)物質の状態ⅡＢ	秋学期	110.5	2	221	コ			0.5
	C1(4)物質の変化	秋学期	109.5	2	219	コ			0.5
	C4(3)官能基Ａ	春学期	111	2	222	コ			1
	C4(3)官能基Ｂ	秋学期	220	1	220	コ			1
	C4(4)化学物質の構造決定	秋学期	222	1	222	コ			1
	C6(1)生体分子のコアとパーツＡ	秋学期	109.5	2	219	コ			1
	C7(1)生薬学Ａ	春学期	220	1	220	コ			1
	C7(1)生薬学Ｂ	秋学期	220	1	220	コ			1
	C8(1)ヒトの成り立ちＢ	春学期	110.5	2	221	コ			1
	C8(2)生命体の基本単位としての細胞Ｂ	春学期	111.5	2	223	コ			1
	C8(3)生理学Ａ	春学期	110.5	2	221	コ			1
	C8(3)生理学Ｂ	秋学期	110.5	2	221	コ			1
	C9(2)生命情報を担う遺伝子	春学期	111	2	222	コ			1
	C9(4生体エネルギー	秋学期	109.5	2	219	コ			1
	C9(5生理活性分子とシグナル分子	秋学期	223	1	223	コ			1
	C9(6遺伝子を操作する	秋学期	110.5	2	221	コ			1
	C10(3)感染症にかかる	秋学期	222	1	222	コ			1
	(自)ＯＴＣ薬とセルフケア	春学期	41	1	41	コ			1
	(自)医薬品試験法	秋学期	25	2	50	コ			0.5
実習	薬学実習ⅡＡ(化学，物理)	春学期	1～2		220			実	2
	薬学実習ⅡＢ(生物)	春学期	1～2		220			実	2
	薬学実習ⅡＣ(有機系)	秋学期	2～4		113			実	5
	薬学科早期実習	秋学期	1～4		155			実	0.5
	(自)薬学生のための体験学習プログラムＡ　(b,c)	通年	0	1	0			体	0.5
	(自)薬学生のための体験学習プログラムＢ　(b)	通年	16	1	16			体	0.5
	(自)薬学生のための体験学習プログラムＤ　(b,d)	通年	5	1	5			体	0.5
	(自)薬学生のための体験学習プログラムＦ　(b)	通年	31	1	31			体	0.5
演習	(自)有機化学演習ⅡＡ	春学期	76	1	76	コ	エ		1
	(自)有機化学演習ⅡＢ	秋学期	71	1	71	コ	エ		1
	(自)数学演習	秋学期	39	1	39	コ	エ		1
単位数の合計						（必須科目）			32.5
						（選択科目）			0
						合計			32.5

（凡例）

講義＝コ　　PBL/SGD＝Ｓ

実習＝実　　体験学習＝体

演習＝エ

［注］　１　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

２　下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

３　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

４　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。

５　表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の２つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝Ｓ

６　行は適宜加除し、記入してください。

［大学追記］　(a)　自由科目については、頭に「(自)」と記した。

(b)　これらの科目は2～6年次の科目であるが、2年次の授業科目表のみに記した。

(c)　1年次の「多職種連携体験学習」と同一科目であるため、基礎資料1-7では、科目数と単位数の計算から除外した。

(d)　1年次の「リハビリ体験学習」と同一科目であるため、基礎資料1-7では、科目数と単位数の計算から除外した。

(e)　平成27年度2～6年次生が学ぶ旧カリキュラムに従って作成した。

（基礎資料１－３）学年別授業科目（３年次）

	３　年　次								
	科目名	春学期・秋学期	１クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	(択必)薬学英語Ａ	春学期	61	1	61	コ			1
	(択必)薬学英語Ｂ	春学期	61	1	61	コ			1
	(択必)薬学英語Ｃ	春学期	44	1	44	コ			1
	(択必)薬学英語Ｄ	春学期	44	1	44	コ			1
	(択必)医療薬学英語Ａ	秋学期	40	1	40	コ			1
	(択必)医療薬学英語Ｂ	秋学期	40	1	40	コ			1
	(択必)医療薬学英語Ｃ	秋学期	38	1	38	コ			1
	(択必)医療薬学英語Ｄ	秋学期	38	1	38	コ			1
	(自)Science Lectures in English	秋学期	53	1	53	コ			1
薬学専門教育	A(3)生命の大切さを知るために-3(患者から学ぶ)	春学期	189	1	189	コ	S		1
	C2(3)分析技術の臨床応用	春学期	204	1	204	コ			1
	C5(1)官能基の導入・変換	春学期	210	1	210	コ			0.5
	C5(2)複雑な化合物の合成	秋学期	207	1	207	コ			0.5
	C6(1)生体分子のコアとパーツＢ	春学期	204	1	204	コ			0.5
	C6(2)医薬品のコアとパーツ	春学期	210	1	210	コ			1
	C7(2)天然物化学	春学期	211	1	211	コ			1
	C10(1)身体をまもる	春学期	209	1	209	コ			1
	C10(2)免疫系の破綻・免疫系の応用	秋学期	211	1	211	コ			1
	C11(1)栄養と健康	春学期	210	1	210	コ			1
	C11(2)社会・集団と健康	秋学期	211	1	211	コ			1
	C11(3)疾病の予防	秋学期	210	1	210	コ			0.5
	C12(1)化学物質の生体への影響Ａ	秋学期	210	1	210	コ			1
	C13(1)(2)薬の作用と生体内運命・薬の効き方Ⅰ	春学期	210	1	210	コ			2
	C13(3)薬の効き方Ⅱ	秋学期	210	1	210	コ			1
	C13(4)薬物の臓器への到達と消失	春学期	208	1	208	コ			1
	C13(5)薬物動態の解析	秋学期	210	1	210	コ			1
	C14(1)体の変化を知る　疾病と検査値Ａ	秋学期	211	1	211	コ			1
	C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うＡ	春学期	211	1	211	コ			1
	C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うＢ	秋学期	208	1	208	コ			1
	C16(1)製剤材料の性質	春学期	209	1	209	コ			1
	C16(2)剤形をつくる	秋学期	210	1	210	コ			1
	C16(3)薬物送達システムＤＤＳ	秋学期	209	1	209	コ			0.5
	C17(1)医薬品開発と生産の流れ	春学期	206	1	206	コ			1
	C17(4)(5)治験・バイオスタティスティクス	秋学期	208	1	208	コ			1.5
	C18(2)社会保障制度と薬剤経済	春学期	191	1	191	コ			1
	C18(3)コミュニティーファーマシー	秋学期	167	1	167	コ			1
	(自)精密有機合成	秋学期	53	1	53	コ			1
	(自)企業インターンシップ	通年	46	1	46	コ		体	0.5
実習	薬学実習ⅢＡ(微生物系)	春学期	4～5		210			実	2
	薬学実習ⅢＢ(生化学)	春学期	4		210			実	2
	薬学実習ⅢＣ(衛生化学、公衆衛生学)	春学期	3		210			実	2
	薬学実習ⅢＤ(薬理学)	秋学期	8		210			実	2
	薬学実習ⅢＥ(物理薬剤、製剤、TDM)	秋学期	2～4		210			実	1
単位数の合計						（必修科目）			35
						（選択必修科目）			8
						（選択科目）			0
						合計			43

（凡例）

講義＝コ　　PBL/SGD＝Ｓ

実習＝実　　体験学習＝体

［注］　１　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

２　下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

３　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

４　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。

５　表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の２つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝Ｓ

６　行は適宜加除し、記入してください。

［大学追記］　(a)　選択必修科目、自由科目については、それぞれ頭に「(択必)」「(自)」と記した。

(b)　平成27年度2～6年次生が学ぶ旧カリキュラムに従って作成した。

（基礎資料１－４）学年別授業科目（４年次）

	４　年　次								
	科目名	春学期・秋学期	１クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
薬学専門教育	C7(3)漢方概論	春学期	147	1	147	コ			1
	C12(1)化学物質の生体への影響Ｂ	春学期	186	1	186	コ			0.5
	C12(2)生活環境と健康	春学期	174	1	174	コ			1
	C14(1)体の変化を知る　疾病と検査値Ｂ	秋学期	146	1	146	コ			1
	C14(2)疾患と薬物治療(心臓疾患等)Ａ	春学期	148	1	148	コ			1
	C14(2)疾患と薬物治療(心臓疾患等)Ｂ	秋学期	146	1	146	コ			1
	C14(3)疾患と薬物治療(腎臓疾患等)Ａ	春学期	146	1	146	コ			1
	C14(3)疾患と薬物治療(腎臓疾患等)Ｂ	秋学期	146	1	146	コ			1
	C14(4)疾患と薬物治療(精神疾患等)Ａ	春学期	146	1	146	コ			1
	C14(4)疾患と薬物治療(精神疾患等)Ｂ	秋学期	146	1	146	コ			1
	C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うＣ	春学期	175	1	175	コ			1
	C15(1)医薬品情報	春学期	147	1	147	コ			1
	C15(2)患者情報	秋学期	147	1	147	コ			1
	C15(3)テーラーメイド薬物治療を目指して	春学期	148	1	148	コ			0.5
	C17(2)リード化合物の創製と最適化	春学期	211	1	211	コ			0.5
	C17(3)バイオ医薬品とゲノム情報	春学期	211	1	211	コ			0.5
	C18(1)薬剤師を取り巻く法律と制度	春学期	148	1	148	コ			1.5
	D1病院・薬局に行く前にＡ	春学期	147	1	147	コ			2
	D1病院・薬局に行く前にＢ	秋学期	147	1	147	コ			1
	総合薬学演習Ⅰ	秋学期	147	1	147	コ	エ		1
	(択)日本薬局方	春学期	132	1	132	コ			1
	(択)病態生化学	春学期	80	1	80	コ			1
	(択)基礎神経科学	春学期	163	1	163	コ			1
	(択)バイオと医療・ゲノム医学	春学期	140	1	140	コ			1
	(択)画像・生理機能検査	春学期	146	1	146	コ			1
	(択)臨床物理薬剤・製剤学	春学期	142	1	142	コ			1
	(択)老年薬学と在宅医療	春学期	144	1	144	コ			1
	(自)基礎薬化学	春学期	20	1	20	コ			1
	(自)生命科学の基礎	春学期	21	1	21	コ			1
	(自)健康食品学	春学期	145	1	145	コ			0.5
	(自)香粧品・皮膚科学	春学期	50	1	50	コ			0.5
	(自)バイオ産業論	春学期	18	1	18	コ			1
	(自)栄養情報学演習	秋学期	115	1	115	コ			0.5
実習	実務実習事前学習	秋学期	1～4		147	コ	エ	実	5
単位数の合計						（必須科目）			24.5
						（選択科目）			7
						合計			31.5

（凡例）
講義＝コ　　演習＝エ
実習＝実

［注］　１　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
２　下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

３　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

４　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。

５　表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の２つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝Ｓ

６　行は適宜加除し、記入してください。

［大学追記］　(a)　自由科目については、頭に「(自)」と記した。

(b)　平成27年度2～6年次生が学ぶ旧カリキュラムに従って作成した。

（基礎資料１－５）学年別授業科目（５年次）

	５　年　次								
	科目名	春学期・秋学期	１クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	(択)Introduction to overseas clinical rotation	秋学期	10	1	10	コ			1.5
	(択)薬学英語演習Ａ～Ｕ　(b)	通年	2～12	21	158	コ	エ		(2)
薬学専門教育	実務実習の前に(1)	春学期	159	1	159	コ			0.5
	実務実習の前に(2)	春学期	159	1	159	コ			0.5
	実務実習の前に(3)	春学期	160	1	160	コ			0.5
	実務実習の前に(4)	春学期	159	1	159	コ			0.5
	実務実習の前に(5)	春学期	160	1	160	コ			0.5
	実務実習の前に(6)	春学期	160	1	160	コ			0.5
	実務実習の前に(7)	春学期	161	1	161	コ			0.5
	実務実習の前に(8)	春学期	159	1	159	コ			0.5
	(択必)卒業研究Ａ　(b)	通年	－	－	141		Ｓ	実	(23)
	(択必)卒業研究Ｂ　(b)	通年	－	－	7		Ｓ	実	(13)
	(択必)卒業研究Ｃ　(b)	通年	－	－	10		Ｓ	実	(21)
実習	病院実務実習	通年			159			実	10
	薬局実務実習	通年			159			実	10

単位数の合計		
	（必須科目）	24
	（選択必修科目）	0
	（選択科目）	1.5
	合計	25.5

（凡例）
講義＝コ　　PBL/SGD＝Ｓ
実習＝実　　演習＝エ

［注］
１　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
２　下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

３　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

４　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。

５　表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の２つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝Ｓ

６　行は適宜加除し、記入してください。

［大学追記］
(a)　選択必修科目については、頭に「(択必)」と記した。
(b)　これらの科目は5～6年次の2年間を通して開講している。基礎資料1-5、1-6、1-7では、6年次科目として単位数を計算した。
(c)　平成27年度2～6年次生が学ぶ旧カリキュラムに従って作成した。

（基礎資料１－６）学年別授業科目（６年次）

	６　年　次								
	科目名	春学期・秋学期	１クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	(択)Case Study Practice	春学期	5	1	5	コ			1.5
	(択)薬学英語演習Ａ～Ｕ　(c)	通年	2～12	21	155	コ	エ		2
薬学専門教育	総合薬学演習Ⅱ	通年	162	1	162	コ	エ		3
	(択)生体試料分析	春学期	142	1	142	コ			0.5
	(択)医薬品天然物化学	春学期	144	1	144	コ			0.5
	(択)漢方医薬学	春学期	152	1	152	コ			1
	(択)臨床薬剤師に必要な感染症の知識	春学期	129	1	129	コ			1
	(択)症例検討Ｂ	春学期	8	2	16	コ			0.5
	(択)臨床薬物評価学	春学期	93	1	93	コ			1
	(択)薬剤経済学	春学期	72	1	72	コ			0.5
	(択)医薬品の安全性評価と薬剤疫学の基礎	春学期	86	1	86	コ			0.5
	(択)医薬品の安全性評価と薬剤疫学の応用	春学期	75	1	75	コ			0.5
	(択必)卒業研究Ａ　(d)	通年	－	－	137		Ｓ	実	23
	(択必)卒業研究Ｂ　(d)	通年	－	－	15		Ｓ	実	13
	(択必)卒業研究Ｃ　(d)	通年	－	－	5		Ｓ	実	21
実習	(択必)アドバンスト病院実習	春学期	15	1	15			実	10
	(択必)アドバンスト海外病院実習	春学期	5	1	5			実	2
単位数の合計						（必須科目）			3
						（選択必修科目）			35
						（選択科目）			9.5
						合計			47.5

（凡例）

講義＝コ　　PBL/SGD＝Ｓ

実習＝実　　演習＝エ

［注］　１　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

２　下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

- ヒューマニズム教育・医療倫理教育
- 教養教育科目
- 語学教育科目
- 医療安全教育科目
- 生涯学習の意欲醸成科目
- コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

３　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

４　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。

５　表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の２つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝Ｓ

６　行は適宜加除し、記入してください。

［大学追記］　(a)　選択必修科目については、頭に「(択必)」と記した。

(b)　「アドバンスト病院実習」を選択した学生は「卒業研究Ｂ」を、「アドバンスト海外病院実習」を選択した学生は「卒業研究Ｃ」を履修する。

(c)　「薬学英語演習Ａ～Ｕ」は、5～6年次の2年間を通して開講している。基礎資料1-5、1-6、1-7では、6年次科目として単位数を計算した。

(d)　「卒業研究Ａ、Ｂ、Ｃ」は、5～6年次の2年間を通して開講している。基礎資料1-5、1-6、1-7では、6年次科目として単位数を計算した。

また、卒業研究としては同一科目であるため、単位数の合計は、最大の単位数である23単位とした。

(e)　平成27年度2～6年次生が学ぶ旧カリキュラムに従って作成した。

（基礎資料１－７）学年別授業科目（まとめ）

（基礎資料１－１）から（基礎資料１－６）までの結果から下記の（１）および（２）を記入してください。

（１）下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育　(a)	7	5
教養教育科目　(b)	3	4
語学教育科目　(c)	28	42
医療安全教育科目	0	0
生涯学習の意欲醸成科目	0	0
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	1	1

（２）学年別授業科目の表から前期と後期の単位数を合算して記入してください。

学　　年	単位数			
	必修科目	選択必修科目	選択科目　(b, c)	合計
１　年　次	26	0	27	53
２　年　次	32.5	0	0	32.5
３　年　次	35	8	0	43
４　年　次	24.5	0	7	31.5
５　年　次	24	0	1.5	25.5
６　年　次	3	35	9.5	47.5
合計	145	43	45	233

［大学追記］ (a)　（１）の表では、自由科目を含めた科目数、単位数を記載した。

(b)　一般教養（日吉共通科目319科目）、体育実技（229科目）、センター設置科目（16科目）は除外した。

(c)　外国語教育センター設置の語学科目（39科目）は除外した。

(d)　1年次は、平成27年度1年次生の新カリキュラムで作成した。

(e)　2～6年次は、平成27年度2～6年次生の旧カリキュラムで作成した。

（基礎資料２－１ａ）　在籍学生数（薬学科）

			１年次	２年次	３年次	４年次	５年次	６年次	合計		
入学年度における	入学定員数		150	150	150	150	150	180	930		A
	編入定員数										B
	入学者数		150	160	161	162	173	195	1,001		
基準日における	各学年の在籍学生数		154	160	157	150	158	162	941		C
	転学科者数（内）(a)	薬科学科から転入				6	3	2	11	△11	D
		薬科学科へ転出				9	5	8	22		
	留年者数（内）		4	10	11	11	15	7	58		
	留年者の入学年度	平成20年度以前						2	2		
		平成21年度					2	5	7		
		平成22年度			1	5	13		19		
		平成23年度			1	6			7		
		平成24年度		1	9				10		
		平成25年度		9					9		
		平成26年度	4						4		

C／（A＋B）	1.01
D／B	

※編入生すべて編入した学年を、別添でご提出ください。

［注］　１　「C／（A＋B）」と「D／B」については、小数点以下第３位を四捨五入し、小数点以下第２位まで表示してください。

２　「編入学生数（内）」および「留年者数（内）」は、「各学年の在籍学生数」の内数を記入してください。

［大学追記］　(a)　編入学の制度はないが、4年進級時に転学科する制度がある。

4年進級時に転学科制度により薬科学科から転入･薬科学科へ転出した学生数（内数）を示した。

(b)　入学年度別の転学科者数を、基礎資料2－1c に示した。

（基礎資料２－１ｂ）　在籍学生数（薬科学科）

			１年次	２年次	３年次	４年次	合計		
入学年度における	入学定員数		60	60	60	60	240		A
	編入定員数						0		B
	入学者数		66	67	57	65	255		
基準日における	各学年の在籍学生数		68	67	55	66	256		C
	転学科者数（内）(a)	薬学科から転入				9	9	3	D
		薬学科へ転出				6	6		
	留年者数（内）		2	3	4	10	19		
	留年者の入学年度	平成20年度以前					0		
		平成21年度				2	2		
		平成22年度				1	1		
		平成23年度		2	2	7	11		
		平成24年度			2		2		
		平成25年度		1			1		
		平成26年度	2				2		
Ｃ／（Ａ＋Ｂ）			1.07	※編入生すべて編入した学年を、別添でご提出ください。					
Ｄ／Ｂ									

［注］　１　「Ｃ／（Ａ＋Ｂ）」と「Ｄ／Ｂ」については、小数点以下第３位を四捨五入し、小数点以下第２位まで表示してください。

２　「編入学生数（内）」および「留年者数（内）」は、「各学年の在籍学生数」の内数を記入してください。

［大学追記］　(a)　編入学の制度はないが、4年進級時に転学科する制度がある。

4年進級時に転学科制度により薬学科から転入･薬学科へ転出した学生数（内数）を示した。

(b)　入学年度別の転学科者数を、基礎資料2－1c に示した。

（基礎資料２－１c） 転学科状況（薬学科・薬科学科）

薬学科	1年次入学者数	21年度4年次		22年度4年次		23年度4年次		24年度4年次		25年度4年次		26年度4年次		27年度4年次		28年度4年次		入学者総数
		転入者	転出者	転入者	転出者	転入者	転出者	転入者	転出者	転入者	転出者	転入者	転出者	転入者	転出者	転入者	転出者	
平成18年度入学者	180	13	1		2													190 名
平成19年度入学者	185			6	4													187 名
平成20年度入学者	188					1	7		1									181 名
平成21年度入学者	176							1	18									159 名
平成22年度入学者	195									2	8		1		1			187 名
平成23年度入学者	173											3	4		2			170 名
平成24年度入学者	162													6	6			162 名
平成25年度入学者	161															6	3	164 名
転学科者数		13	1	6	6	1	7	1	19	2	8	3	5	6	9	6	3	

薬科学科	1年次入学者数	21年度4年次		22年度4年次		23年度4年次		24年度4年次		25年度4年次		26年度4年次		27年度4年次		28年度4年次		入学者総数
		転入者	転出者	転入者	転出者	転入者	転出者	転入者	転出者	転入者	転出者	転入者	転出者	転入者	転出者	転入者	転出者	
平成18年度入学者	30	1	13	2														20 名
平成19年度入学者	35			4	6													33 名
平成20年度入学者	43					7	1	1										50 名
平成21年度入学者	33							18	1									50 名
平成22年度入学者	37									8	2	1		1				45 名
平成23年度入学者	74											4	3	2				77 名
平成24年度入学者	65													6	6			65 名
平成25年度入学者	57															3	6	54 名
転学科者数		1	13	6	6	7	1	19	1	8	2	5	3	9	6	3	6	

［大学追記］ (a) 転入者は、転学科により4年進級時に当該学科に転入した者。転出者は、転学科により4年進級時に当該学科より転出した者。

(b) 入学者総数は、1年次入学者数に、4年次転入者数を加え、4年次転出者数を除いた学生数である。

（基礎資料２－２ａ）　休学者数、留年者数、退学者数および転学科者数（薬学科）

	平成22年度				平成23年度				平成24年度				平成25年度				平成26年度				平成27年度			
総在籍学生数	883				1,039				987				957				938				941			
	休学者数	留年者数	退学者数	転学科者数	休学者数	留年者数	退学者数	転学科者数	休学者数	留年者数	退学者数	転学科者数	休学者数	留年者数	退学者数	転学科者数	休学者数	留年者数	退学者数	転学科者数	休学者数	留年者数	退学者数	転学科者数
１年次	2	4	12		2	11	10		0	12	14		3	4	7		2	5	6		3	4	3	
２年次	0	8	4		0	6	1		3	16	2		0	11	1		1	15	4		1	10	1	
３年次	0	12	1		1	7	0		1	6	1		2	18	1		1	12	3		1	11	0	
４年次	0	5	0	6	0	10	0	2	0	8	1	1	1	3	0	2	1	18	0	3	0	11	0	6
５年次	0	0	0	13	0	4	0	5	0	7	2	2	0	6	0	1	0	3	0	2	0	15	0	3
６年次					0	0	0	13	0	7	0	5	0	7	0	2	0	9	1	1	3	7	0	2
合計	2	29	17	19	3	38	11	20	4	56	20	8	6	49	9	5	5	62	14	6	8	58	4	11

［注］　平成27年度以外は年度末の現状を記入してください。

［大学追記］ (a) 転学科者数は、当該学年の学生の内、4年進級時に転学科により薬科学科から薬学科に転入した学生の数。

(b) 転学科後に留年した学生がいるため、転学科者数は、基礎資料２－１ｃ に記載した転入者数と一致しないことがある。

（基礎資料２－２ｂ）　休学者数、留年者数、退学者数および転学科者数（薬科学科）

	平成22年度				平成23年度				平成24年度				平成25年度				平成26年度				平成27年度			
総在籍学生数	139				181				212				228				252				256			
	休学者数	留年者数	退学者数	転学科者数	休学者数	留年者数	退学者数	転学科者数	休学者数	留年者数	退学者数	転学科者数	休学者数	留年者数	退学者数	転学科者数	休学者数	留年者数	退学者数	転学科者数	休学者数	留年者数	退学者数	転学科者数
１年次	0	1	2		1	1	3		1	3	6		1	2	4		0	2	3		2	2	3	
２年次	0	1	0		0	3	0		1	2	0		2	7	0		2	6	1		2	3	1	
３年次	0	1	1		0	0	0		0	3	0		1	3	2		0	6	0		0	4	1	
４年次	0	5	0	6	0	2	1	7	2	1	0	19	2	5	0	10	2	7	0	7	0	10	1	10
合計	0	8	3	6	1	6	4	7	4	9	6	19	6	17	6	10	4	21	4	7	4	19	6	10

［注］　平成27年度以外は年度末の現状を記入してください。

［大学追記］ (a) 転学科者数は、当該学年の学生の内、4年進級時に転学科により薬学科から薬科学科に転入した学生の数。

(b) 転学科後に留年した学生がいるため、転学科者数は、基礎資料２－１ｃ に記載した転入者数と一致しないことがある。

（基礎資料２－３ａ）　学士課程修了状況（薬学科）

		平成23年度（平成24年3月卒業）	平成24年度（平成25年3月卒業）	平成25年度（平成26年3月卒業）	平成26年度（平成27年3月卒業）	平成27年度（平成28年3月卒業）	平成28年度（平成29年3月卒業）
卒　業　者　総　数		177　名	174　名	163　名	144　名	158　名	名
卒業者の入学年度内訳	平成18年度入学者	176　名	7　名	2　名	0　名	0　名	名
	平成19年度入学者	名	167　名	3　名	3　名	1　名	名
	平成20年度入学者	名	名	158　名	4　名	1　名	名
	平成21年度入学者	名	名	名	137　名	4　名	名
	平成22年度入学者	名	名	名	名	152　名	名
	平成23年度入学者	名	名	名		名	名

入学者総数（a）		卒業率（b）（%）
平成18年度	190　名	92.6%
平成19年度	187　名	89.3%
平成20年度	181　名	87.3%
平成21年度	159　名	86.2%
平成22年度	187　名	81.3%
平成23年度	170　名	

［大学加筆］ (a) 入学者総数は、1年次入学者数に、4年次転入者数を加え、4年次転出者数を除いた学生数である。詳細は基礎資料２-１c に記した。

(b) 卒業率は、当該年度に入学した学生の内、6年後に卒業した学生数を、当該年度の入学者総数で除した数字である。

(c) 平成23年度卒業者には、平成17年度（旧課程）入学者1名を含む。

（基礎資料２－３ｂ） 学士課程修了状況（薬科学科）

		平成23年度 （平成24年3月卒業）	平成24年度 （平成25年3月卒業）	平成25年度 （平成26年3月卒業）	平成26年度 （平成27年3月卒業）	平成27年度 （平成28年3月卒業）	平成28年度 （平成29年3月卒業）
卒　業　者　総　数		45　名	41　名	41　名	65　名	63　名	名
卒業者の入学年度内訳	平成20年度入学者	44　名	1　名	0　名	1　名	0　名	名
	平成21年度入学者	名	40　名	3　名	0　名	0　名	名
	平成22年度入学者	名	名	38　名	4　名	1　名	名
	平成23年度入学者	名	名	名	60　名	7　名	名
	平成24年度入学者	名	名	名	名	55　名	名
	平成25年度入学者	名	名	名	名	名	名

入学者総数（a）		卒業率（b）（%）
平成20年度	50　名	88.0%
平成21年度	50　名	80.0%
平成22年度	45　名	84.4%
平成23年度	77　名	77.9%
平成24年度	65　名	84.6%
平成25年度	54　名	

［大学加筆］ (a) 入学者総数は、1年次入学者数に、4年次転入者数を加え、4年次転出者数を除いた学生数である。詳細は基礎資料２-１ｃ に記した。

(b) 卒業率は、当該年度に入学した学生の内、4年後に卒業した学生数を、当該年度の入学者総数で除した数字である。

(c) 平成23年度卒業者には、平成19年度入学者1名を含む。

（基礎資料３－１）薬学教育モデル・コアカリキュラムのＳＢＯｓに該当する科目（旧カリキュラム）

［注］　１　薬学教育モデル・コアカリキュラムのＳＢＯｓに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。

　　２　同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
Ａ　全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ						
（１）生と死						
【生命の尊厳】						
１）人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。（知識・態度）	A(1)生命の大切さを知るために-1	A(2)生命の大切さを知るために-2				
２）誕生に関わる倫理的問題（生殖技術、クローン技術、出生前診断など）の概略と問題点を説明できる。						
３）医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。			A(3)生命の大切さを知るために-3			
４）死に関わる倫理的問題（安楽死、尊厳死、脳死など）の概略と問題点を説明できる。						
５）自らの体験を通して、生命の尊さと医療の関わりについて討議する。（態度）						
【医療の目的】						
１）予防、治療、延命、QOLについて説明できる。	A(1)生命の大切さを知るために-1	A(2)生命の大切さを知るために-2				
【先進医療と生命倫理】						
１）医療の進歩（遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など）に伴う生命観の変遷を概説できる。	A(1)生命の大切さを知るために-1	A(2)生命の大切さを知るために-2				
（２）医療の担い手としてのこころ構え						
【社会の期待】						
１）医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。（態度）					卒業研究A/B/C	卒業研究A/B/C
２）医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。（知識・態度）						
３）医療の担い手にふさわしい態度を示す。（態度）	A(1)生命の大切さを知るために-1		A(3)生命の大切さを知るために-3			
【医療行為に関わるこころ構え】						
１）ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。	A(1)生命の大切さを知るために-1	A(2)生命の大切さを知るために-2	C17(4)(5)治験・バイオスタティスティクス			
２）医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。			A(1)生命の大切さを知るために-3			
３）インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。			C17(4)(5)治験・バイオスタティスティクス			
４）患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。（態度）			A(3)生命の大切さを知るために-3			
５）医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。（態度）						
【研究活動に求められるこころ構え】						
１）研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。					卒業研究A/B/C	卒業研究A/B/C
２）研究者に求められる自立した態度を身につける。（態度）						
３）他の研究者の意見を理解し、討論する能力を身につける。（態度）						
【医薬品の創製と供給に関わるこころ構え】						
１）医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。（態度）			A(3)生命の大切さを知るために-3			
２）医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。（態度）						
【自己学習・生涯学習】						
１）医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。（知識・技能・態度）	A(1)生命の大切さを知るために-1				卒業研究A/B/C	卒業研究A/B/C

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
２）医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。（態度）	B(2)薬学的保健体験学習				卒業研究A/B/C	卒業研究A/B/C
（３）信頼関係の確立を目指して						
【コミュニケーション】						
１）言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。	A(1)生命の大切さを知るために-1		A(3)生命の大切さを知るために-3			
２）意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。						
３）相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。						
【相手の気持ちに配慮する】						
１）対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。	A(1)生命の大切さを知るために-1					
２）相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。（知識・態度）					病院・薬局実務実習	
３）対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。（技能）		A(2)生命の大切さを知るために-2				
【患者の気持ちに配慮する】						
１）病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。	A(1)生命の大切さを知るために-1		A(3)生命の大切さを知るために-3			
２）患者の心理状態を把握し、配慮する。（知識・態度）		A(2)生命の大切さを知るために-2			病院・薬局実務実習	
３）患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。（知識・態度）						
４）患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。（態度）						
５）不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。（知識・態度）	B(2)薬学的保健体験学習					
【チームワーク】						
１）チームワークの重要性を例示して説明できる。	A(1)生命の大切さを知るために-1					
２）チームに参加し、協調的態度で役割を果たす。（態度）						
３）自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。（態度）						
【地域社会の人々との信頼関係】						
１）薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。			C18(3)コミュニティーファーマシー			
２）薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。（態度）	B(2)薬学的保健体験学習					
Ｂ　イントロダクション						
（１）薬学への招待						
【薬学の歴史】						
１）薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。	B(1)薬学への招待					
２）薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。						
【薬剤師の活動分野】						
１）薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政など）について概説できる。	B(1)薬学への招待					
２）薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。						
３）医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。						
４）医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。						
５）疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。	B(1)薬学への招待 B(2)薬学的保健体験学習					
【薬について】						
１）「薬とは何か」を概説できる。	B(1)薬学への招待					
２）薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。						
３）化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。			C17(1)医薬品開発と生産の流れ			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
４）種々の剤形とその使い方について概説できる。	B(1)薬学への招待					
５）一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。			C18(2)社会保障制度と薬剤経済			
【現代社会と薬学との接点】						
１）先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。	B(1)薬学への招待		C17(1)医薬品開発と生産の流れ			
２）麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。			C13(3)薬の効き方Ⅱ			
３）薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。	B(1)薬学への招待		A(3)生命の大切さを知るために-3			
【日本薬局方】						
１）日本薬局方の意義と内容について概説できる。		薬学実習ⅡA				
【総合演習】						
１）医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。（態度）	B(1)薬学への招待					
２）身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。（技能）		薬学実習ⅡA				
（２）早期体験学習						
１）病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。	B(2)早期体験学習(病院・薬局)					
２）開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。（知識・態度）						
３）製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する。（知識・態度）						
４）保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。（知識・態度）						
Ｃ　薬学専門教育						
[物理系薬学を学ぶ]						
C1　物質の物理的性質						
（１）物質の構造						
【化学結合】						
１）化学結合の成り立ちについて説明できる。	C1(1)物質の構造					
２）軌道の混成について説明できる。						
３）分子軌道の基本概念を説明できる。						
４）共役や共鳴の概念を説明できる。						
【分子間相互作用】						
１）静電相互作用について例を挙げて説明できる。	C1(1)物質の構造					
２）ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。						
３）双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。						
４）分散力について例を挙げて説明できる。						
５）水素結合について例を挙げて説明できる。						
６）電荷移動について例を挙げて説明できる。						
７）疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。						
【原子・分子】						
１）電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	C1(1)物質の構造	C4(4)化学物質の構造決定				
２）分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。						
３）スピンとその磁気共鳴について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
４）分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。		C4(4)化学物質の構造決定				
５）代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。（知識・技能）						
６）偏光および旋光性について説明できる。						
７）散乱および干渉について説明できる。						
８）結晶構造と回折現象について説明できる。						
【放射線と放射能】						
１）原子の構造と放射壊変について説明できる。	C1(1)物質の構造					
２）電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。						
３）代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。						
４）核反応および放射平衡について説明できる。						
５）放射線の測定原理について説明できる。						
（２）物質の状態 I						
【総論】						
１）ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	C1(2)物質の状態Ⅰ					
２）気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。						
３）エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。						
【エネルギー】						
１）系、外界、境界について説明できる。	C1(2)物質の状態I					
２）状態関数の種類と特徴について説明できる。						
３）仕事および熱の概念を説明できる。						
４）定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。						
５）熱力学第一法則について式を用いて説明できる。						
６）代表的な過程（変化）における熱と仕事を計算できる。（知識、技能）						
７）エンタルピーについて説明できる。						
８）代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。（知識、技能）						
９）標準生成エンタルピーについて説明できる。						
【自発的な変化】						
１）エントロピーについて説明できる。	C1(2)物質の状態I					
２）熱力学第二法則について説明できる。						
３）代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。（知識、技能）						
４）熱力学第三法則について説明できる。						
５）自由エネルギーについて説明できる。						
６）熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。（知識、技能）						
７）自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。		C1(3)物質の状態ⅡA				
８）自由エネルギーと平衡定数の温度依存性（van't Hoffの式）について説明できる。						
９）共役反応について例を挙げて説明できる。						
（３）物質の状態 II						
【物理平衡】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
１）相変化に伴う熱の移動（Clausius-Clapeyronの式など）について説明できる。		C1(3)物質の状態ⅡA				
２）相平衡と相律について説明できる。						
３）代表的な状態図（一成分系、二成分系、三成分系相図）について説明できる。						
４）物質の溶解平衡について説明できる。						
５）溶液の束一的性質（浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など）について説明できる。						
６）界面における平衡について説明できる。		C1(3)物質の状態ⅡB				
７）吸着平衡について説明できる。						
８）代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。（技能）		C1(3)物質の状態ⅡA 薬学実習ⅡA				
【溶液の化学】						
１）化学ポテンシャルについて説明できる。		C1(3)物質の状態ⅡB				
２）活量と活量係数について説明できる。						
３）平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。						
４）電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。						
５）イオンの輸率と移動度について説明できる。						
６）イオン強度について説明できる。						
７）電解質の活量係数の濃度依存性（Debye-Hückel の式）について説明できる。						
【電気化学】						
１）代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。		C1(3)物質の状態ⅡB				
２）標準電極電位について説明できる。						
３）起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。						
４）Nernstの式が誘導できる。						
５）濃淡電池について説明できる。						
６）膜電位と能動輸送について説明できる。						
（４）物質の変化						
【反応速度】						
１）反応次数と速度定数について説明できる。		C1(4)物質の変化				
２）微分型速度式を積分型速度式に変換できる。（知識・技能）						
３）代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。						
４）代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。（技能）		C1(4)物質の変化 薬学実習ⅡA				
５）代表的な複合反応（可逆反応、平行反応、連続反応など）の特徴について説明できる。		C1(4)物質の変化				
６）反応速度と温度との関係（Arrheniusの式）を説明できる。						
７）衝突理論について概説できる。						
８）遷移状態理論について概説できる。						
９）代表的な触媒反応（酸・塩基触媒反応など）について説明できる。						
10）酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。						
【物質の移動】						
１）拡散および溶解速度について説明できる。		C1(4)物質の変化				
２）沈降現象について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
３）流動現象および粘度について説明できる。		C1(4)物質の変化				
C2　化学物質の分析						
（１）化学平衡						
【酸と塩基】						
１）酸・塩基平衡を説明できる。	C2(1)化学平衡					
２）溶液の水素イオン濃度（pH）を測定できる。（技能）		薬学実習ⅡA				
３）溶液のpHを計算できる。（知識・技能）						
４）緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。						
５）代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。						
６）化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。						
【各種の化学平衡】						
１）錯体・キレート生成平衡について説明できる。	C2(1)化学平衡					
２）沈殿平衡（溶解度と溶解度積）について説明できる。						
３）酸化還元電位について説明できる。						
４）酸化還元平衡について説明できる。						
５）分配平衡について説明できる。						
６）イオン交換について説明できる。		薬学実習ⅡA				
（２）化学物質の検出と定量						
【定性試験】						
１）代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	C2(1)化学平衡					
２）日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。						
３）日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。						
【定量の基礎】						
１）実験値を用いた計算および統計処理ができる。（技能）	C2(1)化学平衡	薬学実習ⅡA				
２）医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。						
３）日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。		薬学実習ⅡA				
４）日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。						
５）日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。		薬学実習ⅡA	C2(3)分析技術の臨床応用			
【容量分析】						
１）中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	C2(1)化学平衡	薬学実習ⅡA				
２）非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
３）キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
４）沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
５）酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
６）電気滴定（電位差滴定、電気伝導度滴定など）の原理、操作法および応用例を説明できる。		薬学実習ⅡA				
７）日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。（技能）						
【金属元素の分析】						
１）原子吸光光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。	C2(1)化学平衡		C2(3)分析技術の臨床応用			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
２）発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。	C2(1)化学平衡		C2(3)分析技術の臨床応用			
【クロマトグラフィー】						
１）クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。	C2(2)化学物質の検出と定量	薬学実習ⅡA				
２）クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。						
３）薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。（知識・技能）		薬学実習ⅡA 薬学実習ⅡC	薬学実習ⅢC			
（３）分析技術の臨床応用						
【分析の準備】						
１）代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。（技能）	C2(2)化学物質の検出と定量	薬学実習ⅡA				
２）臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。			C2(3)分析技術の臨床応用			
【分析技術】						
１）臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。	C2(2)化学物質の検出と定量		C2(3)分析技術の臨床応用			
２）免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。						
３）酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）		薬学実習ⅡA	C2(3)分析技術の臨床応用 薬学実習ⅢB			
４）電気泳動法の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）						
５）代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。			C2(3)分析技術の臨床応用			
６）代表的なドライケミストリーについて概説できる。		薬学実習ⅡA				
７）代表的な画像診断技術（X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など）について概説できる。		C4(4)化学物質の構造決定				
８）画像診断薬（造影剤、放射性医薬品など）について概説できる。						
９）薬学領域で繁用されるその他の分析技術（バイオイメージング、マイクロチップなど）について概説できる。						
【薬毒物の分析】						
１）毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。	C2(2)化学物質の検出と定量		C2(3)分析技術の臨床応用			
２）代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）のスクリーニング法を列挙し、説明できる。						
３）代表的な中毒原因物質を分析できる。（技能）			薬学実習ⅢC			
C3　生体分子の姿・かたちをとらえる						
（１）生体分子を解析する手法						
【分光分析法】						
１）紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。	C2(2)化学物質の検出と定量		C2(3)分析技術の臨床応用			
２）蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
３）赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。		C4(4)化学物質の構造決定				
４）電子スピン共鳴（ESR）スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
５）旋光度測定法（旋光分散）、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。		薬学実習ⅡC				
６）代表的な生体分子（核酸、タンパク質）の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。(知識・技能)			C2(3)分析技術の臨床応用 薬学実習ⅢB			
【核磁気共鳴スペクトル】						
１）核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。		C4(4)化学物質の構造決定 薬学実習ⅡC				
２）生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。						
【質量分析】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
１）質量分析法の原理を説明できる。		C4(4)化学物質の構造決定 薬学実習ⅡC				
２）生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。						
【Ｘ線結晶解析】						
１）Ｘ線結晶解析の原理を概説できる。		C4(4)化学物質の構造決定				
２）生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。						
【相互作用の解析法】						
１）生体分子間相互作用の解析法を概説できる。			C2(3)分析技術の臨床応用			
（２）生体分子の立体構造と相互作用						
【立体構造】						
１）生体分子（タンパク質、核酸、脂質など）の立体構造を概説できる。		C6(1)生体分子のコアとパーツA	C2(3)分析技術の臨床応用			
２）タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。						
３）タンパク質の立体構造を規定する因子（疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など）について、具体例を用いて説明できる。						
４）タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。						
５）核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。						
６）生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。						
【相互作用】						
１）鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。	C9(3)生命活動を担うタンパク質		C6(2)医薬品のコアとパーツ			
２）転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。		C9(2)生命情報を担う遺伝子	C2(3)分析技術の臨床応用			
３）脂質の水中における分子集合構造（膜、ミセル、膜タンパク質など）について説明できる。	C9(1)細胞を構成する分子					
４）生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。						
C4　化学物質の性質と反応						
（１）化学物質の基本的性質						
【基本事項】						
１）基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。	C4(1)化学物質の基本的性質					
２）薬学領域で用いられる代表的化合物を慣用名で記述できる。						
３）有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。						
４）有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。						
５）基本的な有機反応（置換、付加、脱離、転位）の特徴を概説できる。						
６）ルイス酸・塩基を定義することができる。						
７）炭素原子を含む反応中間体（カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン）の構造と性質を説明できる。						
８）反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。						
９）有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。						
【有機化合物の立体構造】						
１）構造異性体と立体異性体について説明できる。	C4(1)化学物質の基本的性質					
２）キラリティーと光学活性を概説できる。						
３）エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。						
４）ラセミ体とメソ化合物について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
５）絶対配置の表示法を説明できる。	C4(1)化学物質の基本的性質					
６）Fischer投影式とNewman投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。						
７）エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。						
【無機化合物】						
１）代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。			C6(1)生体分子のコアとパーツB			
２）代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。						
３）窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。						
４）イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。						
５）代表的な無機医薬品を列挙できる。						
【錯体】						
１）代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。			C6(1)生体分子のコアとパーツB			
２）配位結合を説明できる。						
３）代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。						
４）錯体の安定度定数について説明できる。						
５）錯体の安定性に与える配位子の構造的要素（キレート効果）について説明できる。						
６）錯体の反応性について説明できる。						
７）医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。						
（２）有機化合物の骨格						
【アルカン】						
１）基本的な炭化水素およびアルキル基をIUPACの規則に従って命名することができる。	C4(2)有機化合物の骨格					
２）アルカンの基本的な物性について説明できる。						
３）アルカンの構造異性体を図示し、その数を示すことができる。						
４）シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。						
５）シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。						
６）シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向（アキシアル、エクアトリアル）を図示できる。						
７）置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。						
【アルケン・アルキンの反応性】						
１）アルケンへの代表的なシン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。	C4(2)有機化合物の骨格					
２）アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性（アンチ付加）を説明できる。						
３）アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性（Markovnikov 則）について説明できる。						
４）カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。						
５）共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。						
６）アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。						
７）アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。						
【芳香族化合物の反応性】						
１）代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。	C4(2)有機化合物の骨格	薬学実習ⅡC				
２）芳香族性（Hückel則）の概念を説明できる。						
３）芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。		薬学実習ⅡC				

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
４）芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。		C4(3)官能基B				
５）芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。	C4(2)有機化合物の骨格					
（３）官能基						
【概説】						
１）代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。		C4(3)官能基A				
２）複数の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。						
３）生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。						
４）代表的な官能基の定性試験を実施できる。（技能）		薬学実習ⅡC				
５）官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。（技能）						
６）日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。		C4(3)官能基A				
【有機ハロゲン化合物】						
１）有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		C4(3)官能基A				
２）求核置換反応（S_N1および S_N2反応）の機構について、立体化学を含めて説明できる。						
３）ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性（Saytzeff則）を説明できる。						
【アルコール･フェノール・チオール】						
１）アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		C4(3)官能基A				
２）フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
３）フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。						
【エーテル】						
１）エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		C4(3)官能基B				
２）オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。						
【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】						
１）アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。		C4(3)官能基B 薬学実習ⅡC				
２）カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
３）カルボン酸誘導体（酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル）の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		C4(3)官能基B				
【アミン】						
１）アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		C4(3)官能基B				
２）代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。						
【官能基の酸性度・塩基性度】						
１）アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。		C4(3)官能基B				
２）アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。						
３）含窒素化合物の塩基性度を説明できる。						
（４）化学物質の構造決定						
【総論】						
１）化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。		C4(4)化学物質の構造決定				
【^{1}H NMR】						
１）NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		C4(4)化学物質の構造決定 薬学実習ⅡC				

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
２）化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。		C4(4)化学物質の構造決定 薬学実習ⅡC				
３）有機化合物中の代表的水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
４）重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。						
５）^{1}H NMRの積分値の意味を説明できる。						
６）^{1}H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂（カップリング）する理由と、分裂様式を説明できる。						
７）^{1}H NMRのスピン結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。						
８）代表的化合物の部分構造を^{1}H NMR から決定できる。(技能)						
【^{13}C NMR】						
１）^{13}C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。		C4(4)化学物質の構造決定				
２）代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
【IRスペクトル】						
１）IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		C4(4)化学物質の構造決定 薬学実習IIC				
２）IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。（知識・技能）						
【紫外可視吸収スペクトル】						
１）化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。		C4(4)化学物質の構造決定				
【マススペクトル】						
１）マススペクトルの概要と測定法を説明できる。		C4(4)化学物質の構造決定 薬学実習ⅡC				
２）イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
３）ピークの種類（基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク）を説明できる。						
４）塩素原子や臭素原子を含む化合物のマススペクトルの特徴を説明できる。						
５）代表的なフラグメンテーションについて概説できる。						
６）高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。						
７）基本的な化合物のマススペクトルを解析できる。（技能）						
【比旋光度】						
１）比旋光度測定法の概略を説明できる。		薬学実習ⅡC				
２）実測値を用いて比旋光度を計算できる。（技能）						
３）比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。						
４）旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。				総合薬学演習Ⅰ		
【総合演習】						
１）代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。（技能）		C4(4)化学物質の構造決定 薬学実習ⅡC				
C5　ターゲット分子の合成						
（１）官能基の導入・変換						
１）アルケンの代表的な合成法について説明できる。			C5(1)官能基の導入・置換			
２）アルキンの代表的な合成法について説明できる。						
３）有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。						
４）アルコールの代表的な合成法について説明できる。						
５）フェノールの代表的な合成法について説明できる。						
６）エーテルの代表的な合成法について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
７）アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。			C5(1)官能基の導入・置換			
８）カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。						
９）カルボン酸誘導体（エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物）の代表的な合成法について説明できる。						
10）アミンの代表的な合成法について説明できる。						
11）代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。		C4(3)官能基B				
12）代表的な官能基を他の官能基に変換できる。（技能）		薬学実習ⅡC				
（２）複雑な化合物の合成						
【炭素骨格の構築法】						
１）Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。		C4(3)官能基B	C5(2)複雑な化合物の合成			
２）転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙できる。						
３）代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。						
４）代表的な炭素-炭素結合生成反応（アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など）について概説できる。						
【位置および立体選択性】						
１）代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。			C5(2)複雑な化合物の合成			
２）代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。						
【保護基】						
１）官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。			C5(2)複雑な化合物の合成			
【光学活性化合物】						
１）光学活性化合物を得るための代表的な手法（光学分割、不斉合成など）を説明できる。		薬学実習ⅡC	C5(2)複雑な化合物の合成			
【総合演習】						
１）課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。（知識・技能）		薬学実習ⅡC				
２）課題として与えられた医薬品を合成できる。（技能）						
３）反応廃液を適切に処理する。（技能・態度）						
C6　生体分子・医薬品を化学で理解する						
（１）生体分子のコアとパーツ						
【生体分子の化学構造】						
１）タンパク質の高次構造を規定する結合（アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など）および相互作用について説明できる。	C9(3)生命活動を担うタンパク質	C6(1)生体分子のコアとパーツA				
２）糖類および多糖類の基本構造を概説できる。	C9(1)細胞を構成する分子					
３）糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。						
４）核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。		C6(1)生体分子のコアとパーツA C9(2)生命情報を担う遺伝子				
５）生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。	C9(1)細胞を構成する分子	C6(1)生体分子のコアとパーツA				
【生体内で機能する複素環】						
１）生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。		C6(1)生体分子のコアとパーツA				
２）核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。						
３）複素環を含む代表的な補酵素（フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサール、葉酸など）の機能を化学反応性と関連させて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【生体内で機能する錯体・無機化合物】						
１）生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。			C6(1)生体分子のコアとパーツB			
２）活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。		C6(1)生体分子のコアとパーツA				
３）一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。						
【化学から観る生体ダイナミクス】						
１）代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。	C9(3)生命活動を担うタンパク質		C6(2)医薬品のコアとパーツ			
２）代表的な酵素（キモトリプシン、リボヌクレアーゼなど）の作用機構を分子レベルで説明できる。						
３）タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。		C6(1)生体分子のコアとパーツA				
（２）医薬品のコアとパーツ						
【医薬品のコンポーネント】						
１）代表的な医薬品のコア構造（ファーマコフォア）を指摘し、分類できる。			C6(2)医薬品のコアとパーツ			
２）医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。		C6(1)生体分子のコアとパーツA				
【医薬品に含まれる複素環】						
１）医薬品として複素環化合物が繁用される根拠を説明できる。			C6(2)医薬品のコアとパーツ			
２）医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。						
３）代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。		C4(3)官能基B				
４）代表的芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。						
５）代表的芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。						
【医薬品と生体高分子】						
１）生体高分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。		C6(1)生体分子のコアとパーツA	C6(2)医薬品のコアとパーツ			
２）生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。						
３）分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。（知識・技能）	C4(1)化学物質の基本的性質					
【生体分子を模倣した医薬品】						
１）カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			C6(2)医薬品のコアとパーツ			
２）アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
３）ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
４）核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
５）ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
【生体内分子と反応する医薬品】						
１）アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。			C6(2)医薬品のコアとパーツ			
２）インターカレーターの作用機序を図示し、説明できる。						
３）β-ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。						
C7　自然が生み出す薬物						
（１）薬になる動植鉱物						
【生薬とは何か】						
１）代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。		C7(1)生薬学A				
２）生薬の歴史について概説できる。						
３）生薬の生産と流通について概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【薬用植物】						
１）代表的な薬用植物の形態を観察する。（技能）		C7(1)生薬学A C7(1)生薬学B				
２）代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。						
３）代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。		C7(1)生薬学A				
４）代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。（技能）		C7(1)生薬学A C7(1)生薬学B				
５）代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。						
【植物以外の医薬資源】						
１）動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。		C7(1)生薬学B				
【生薬成分の構造と生合成】						
１）代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。		C7(1)生薬学A				
２）代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。			C7(2)天然物化学			
３）代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
４）代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。		C7(1)生薬学B				
５）代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
６）代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。		C7(1)生薬学A C7(1)生薬学B				
７）代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
【農薬、香粧品としての利用】						
１）天然物質の農薬、香粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。		C7(1)生薬学B				
【生薬の同定と品質評価】						
１）日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。		C7(1)生薬学A				
２）代表的な生薬を鑑別できる。（技能）		薬学実習ⅡC				
３）代表的な生薬の確認試験を実施できる。（技能）						
４）代表的な生薬の純度試験を実施できる。（技能）						
５）生薬の同定と品質評価法について概説できる。		C7(1)生薬学A				
（２）薬の宝庫としての天然物						
【シーズの探索】						
１）医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。			C7(2)天然物化学			
２）シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。						
３）医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。						
【天然物質の取扱い】						
１）天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。（技能）		薬学実習ⅡC				
２）代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。		C4(4)化学物質の構造決定				
【微生物が生み出す医薬品】						
１）抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。			C7(2)天然物化学			
【発酵による医薬品の生産】						
１）微生物による抗生物質（ペニシリン、ストレプトマイシンなど）生産の過程を概説できる。			C7(2)天然物化学			
【発酵による有用物質の生産】						
１）微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。			C7(2)天然物化学			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
（３）現代医療の中の生薬・漢方薬						
【漢方医学の基礎】						
１）漢方医学の特徴について概説できる。				C7(3)漢方概論		
２）漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。						
３）漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。						
４）漢方処方と「証」との関係について概説できる。						
５）代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。						
６）漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。						
７）漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。						
【漢方処方の応用】						
１）代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。				C7(3)漢方概論		
２）漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。						
[生物系薬学を学ぶ]						
C8　生命体の成り立ち						
（１）ヒトの成り立ち						
【概論】						
１）ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。	C8(1)ヒトの成り立ちA					
２）ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。						
【神経系】						
１）中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。	C8(1)ヒトの成り立ちA	C8(3)生理学A				
２）体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。						
３）自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。						
【骨格系・筋肉系】						
１）主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。		C8(1)ヒトの成り立ちB				
２）主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。						
【皮膚】						
１）皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。		C8(1)ヒトの成り立ちB C8(3)生理学A				
【循環器系】						
１）心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。		C8(1)ヒトの成り立ちB C8(3)生理学A				
２）血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。						
３）リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。						
【呼吸器系】						
１）肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。		C8(1)ヒトの成り立ちB C8(3)生理学B				
【消化器系】						
１）胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。		C8(1)ヒトの成り立ちB C8(3)生理学B				
２）肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。						
【泌尿器系】						
１）腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		C8(1)ヒトの成り立ちB C8(3)生理学B				

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【生殖器系】						
１）精巣、卵巣、子宮などの生殖器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		C8(1)ヒトの成り立ちB				
【内分泌系】						
１）脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		C8(1)ヒトの成り立ちB C8(3)生理学B				
【感覚器系】						
１）眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。		C8(1)ヒトの成り立ちB C8(3)生理学A				
【血液・造血器系】						
１）骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		C8(1)ヒトの成り立ちB C8(3)生理学A				
（２）　生命体の基本単位としての細胞						
【細胞と組織】						
１）細胞集合による組織構築について説明できる。	C8(2)生命体の基本単位としての細胞A					
２）臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。						
３）代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。（技能）		薬学実習ⅡB				
【細胞膜】						
１）細胞膜の構造と性質について説明できる。	C8(2)生命体の基本単位としての細胞A C9(1)細胞を構成する分子					
２）細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。						
３）細胞膜を介した物質移動について説明できる。						
【細胞内小器官】						
１）細胞内小器官（核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど）の構造と機能を説明できる。	C8(2)生命体の基本単位としての細胞A	C8(2)生命体の基本単位としての細胞B				
【細胞の分裂と死】						
１）体細胞分裂の機構について説明できる。		C8(2)生命体の基本単位としての細胞B				
２）生殖細胞の分裂機構について説明できる。						
３）アポトーシスとネクローシスについて説明できる。						
４）正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。						
【細胞間コミュニケーション】						
１）細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。		C8(2)生命体の基本単位としての細胞B				
２）主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。						
（３）生体の機能調節						
【神経・筋の調節機構】						
１）神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。	C8(1)ヒトの成り立ちA	C8(3)生理学A				
２）シナプス伝達の調節機構を説明できる。						
３）神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。						
４）筋収縮の調節機構を説明できる。						
【ホルモンによる調節機構】						
１）主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。		C8(1)ヒトの成り立ちB C8(3)生理学A				
２）血糖の調節機構を説明できる。		C8(3)生理学A				
【循環・呼吸系の調節機構】						
１）血圧の調節機構を説明できる。		C8(3)生理学A C8(3)生理学B				

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
２）肺および組織におけるガス交換を説明できる。		C8(3)生理学A C8(3)生理学B				
３）血液凝固・線溶系の機構を説明できる。						
【体液の調節機構】						
１）体液の調節機構を説明できる。		C8(1)ヒトの成り立ちB C8(3)生理学B				
２）尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。		C8(3)生理学B				
【消化・吸収の調節機構】						
１）消化、吸収における神経の役割について説明できる。		C8(3)生理学B				
２）消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。						
【体温の調節機構】						
１）体温の調節機構を説明できる。		C8(3)生理学B				
（４）小さな生き物たち						
【総論】						
１）生態系の中での微生物の役割について説明できる。		C10(3)感染症にかかる				
２）原核生物と真核生物の違いを説明できる。						
【細菌】						
１）細菌の構造と増殖機構を説明できる。		C10(3)感染症にかかる				
２）細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。						
３）グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。						
４）マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。						
５）腸内細菌の役割について説明できる。						
６）細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。		C9(6)遺伝子を操作する				
【細菌毒素】						
１）代表的な細菌毒素の作用を説明できる。		C10(3)感染症にかかる				
【ウイルス】						
１）代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。			C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うA			
２）ウイルスの分類法について概説できる。						
３）代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。						
【真菌・原虫・その他の微生物】						
１）主な真菌の性状について説明できる。			C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うA			
２）主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。			C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うB			
【消毒と滅菌】						
１）滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。		薬学実習ⅢA				
２）主な消毒薬を適切に使用する。（技能・態度）　(OSCEの対象)						
３）主な滅菌法を実施できる。（技能）　(OSCEの対象)						
【検出方法】						
１）グラム染色を実施できる。（技能）		薬学実習ⅢA				
２）無菌操作を実施できる。（技能）						
３）代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。（技能）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
４）細菌の同定に用いる代表的な試験法（生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験）について説明できる。		C10(3)感染症にかかる薬学実習ⅢA				
５）代表的な細菌を同定できる。（技能）		薬学実習ⅢA				
C9　生命をミクロに理解する						
（１）細胞を構成する分子						
【脂質】						
１）脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。	C9(1)細胞を構成する分子					
２）脂肪酸の種類と役割を説明できる。						
３）脂肪酸の生合成経路を説明できる。						
４）コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。						
【糖質】						
１）グルコースの構造、性質、役割を説明できる。	C9(1)細胞を構成する分子					
２）グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。						
３）代表的な多糖の構造と役割を説明できる。						
４）糖質の定性および定量試験法を実施できる。（技能）		薬学実習ⅡA				
【アミノ酸】						
１）アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	C9(1)細胞を構成する分子					
２）アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。						
３）アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。（技能）						
【ビタミン】						
１）水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。	C9(1)細胞を構成する分子					
２）脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。						
３）ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。						
（２）生命情報を担う遺伝子						
【ヌクレオチドと核酸】						
１）核酸塩基の代謝（生合成と分解）を説明できる。		C9(2)生命情報を担う遺伝子				
２）DNAの構造について説明できる。						
３）RNAの構造について説明できる。						
【遺伝情報を担う分子】						
１）遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。		C9(2)生命情報を担う遺伝子				
２）DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。						
３）ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。						
４）染色体の構造を説明できる。						
５）遺伝子の構造に関する基本的用語（プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど）を説明できる。						
６）RNAの種類と働きについて説明できる。						
【転写と翻訳のメカニズム】						
１）DNAからRNAへの転写について説明できる。		C9(2)生命情報を担う遺伝子				
２）転写の調節について、例を挙げて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
３）RNAのプロセシングについて説明できる。		C9(2)生命情報を担う遺伝子				
４）RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。						
５）リボソームの構造と機能について説明できる。						
【遺伝子の複製・変異・修復】						
１）DNAの複製の過程について説明できる。		C9(2)生命情報を担う遺伝子				
２）遺伝子の変異（突然変異）について説明できる。						
３）DNAの修復の過程について説明できる。						
【遺伝子多型】						
１）一塩基変異（SNPs）が機能におよぼす影響について概説できる。		C9(6)遺伝子を操作する				
（３）生命活動を担うタンパク質						
【タンパク質の構造と機能】						
１）タンパク質の主要な機能を列挙できる。	C9(3)生命活動を担うタンパク質					
２）タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。						
３）タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。						
【酵素】						
１）酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。	C9(3)生命活動を担うタンパク質		薬学実習ⅢB			
２）酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。						
３）酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。						
４）酵素反応速度論について説明できる。						
５）代表的な酵素活性調節機構を説明できる。						
６）代表的な酵素の活性を測定できる。（技能）						
【酵素以外の機能タンパク質】						
１）細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質（受容体、チャネルなど）の構造と機能を概説できる。	C9(3)生命活動を担うタンパク質		薬学実習ⅢB			
２）物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。						
３）血漿リポタンパク質の種類と機能を概説できる。						
４）細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。						
５）細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。						
【タンパク質の取扱い】						
１）タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。（技能）	C9(3)生命活動を担うタンパク質		薬学実習ⅢB			
２）タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。（知識・技能）						
３）タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。						
（４）生体エネルギー						
【栄養素の利用】						
１）食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。		C9(4)生体エネルギー				
【ATPの産生】						
１）ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。		C9(4)生体エネルギー				
２）解糖系について説明できる。						
３）クエン酸回路について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
４）電子伝達系（酸化的リン酸化）について説明できる。		C9(4)生体エネルギー				
５）脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。						
６）アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。						
７）エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。						
８）ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。						
９）ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。						
10）アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。						
【飢餓状態と飽食状態】						
１）グリコーゲンの役割について説明できる。		C9(4)生体エネルギー				
２）糖新生について説明できる。						
３）飢餓状態のエネルギー代謝（ケトン体の利用など）について説明できる。						
４）余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。						
５）食餌性の血糖変動について説明できる。						
６）インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。						
７）糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。						
８）ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。						
（５）生理活性分子とシグナル分子						
【ホルモン】						
１）代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		C9(5)生理活性分子とシグナル分子				
２）代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
３）代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
４）代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。						
【オータコイドなど】						
１）エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。		C9(5)生理活性分子とシグナル分子				
２）代表的なエイコサノイドを挙げ、その生合成経路を説明できる。						
３）代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義（生理活性）を説明できる。						
４）主な生理活性アミン（セロトニン、ヒスタミンなど）の生合成と役割について説明できる。						
５）主な生理活性ペプチド（アンギオテンシン、ブラジキニンなど）の役割について説明できる。						
６）一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割を説明できる。						
【神経伝達物質】						
１）モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		C9(5)生理活性分子とシグナル分子				
２）アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
３）ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
４）アセチルコリンの生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】						
１）代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。			C10(1)身体を守る			
２）代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。		C9(5)生理活性分子とシグナル分子				
３）代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。			C10(1)身体を守る			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【細胞内情報伝達】						
１）細胞内情報伝達に関与するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。		C9(5)生理活性分子とシグナル分子				
２）細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。						
３）細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。						
４）代表的な細胞内（核内）受容体の具体例を挙げて説明できる。						
（６）遺伝子を操作する						
【遺伝子操作の基本】						
１）組換えDNA技術の概要を説明できる。		C9(6)遺伝子を操作する	薬学実習ⅢB			
２）細胞からDNAを抽出できる。（技能）		薬学実習ⅡB				
３）DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。（技能）		C9(6)遺伝子を操作する				
４）組換えDNA実験指針を理解し守る。（態度）						
５）遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。（態度）						
【遺伝子のクローニング技術】						
１）遺伝子クローニング法の概要を説明できる。		C9(6)遺伝子を操作する	薬学実習ⅢB			
２）cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。						
３）遺伝子ライブラリーについて説明できる。						
４）PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）						
５）RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。						
６）DNA塩基配列の決定法を説明できる。						
７）コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。（技能）						
【遺伝子機能の解析技術】						
１）細胞（組織）における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。		C9(6)遺伝子を操作する	薬学実習ⅢB			
２）外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。						
３）特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。						
４）遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。						
C10 生体防御						
（１）身体をまもる						
【生体防御反応】						
１）自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。			C10(1)身体をまもる			
２）異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。						
３）補体について、その活性化経路と機能を説明できる。						
４）免疫反応の特徴（自己と非自己、特異性、記憶）を説明できる。						
５）クローン選択説を説明できる。						
６）体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。						
【免疫を担当する組織・細胞】						
１）免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。			C10(1)身体をまもる			
２）免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。						
３）食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
４）免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。			C10(1)身体をまもる			
【分子レベルで見た免疫のしくみ】						
１）抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。			C10(1)身体をまもる			
２）MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。						
３）T細胞による抗原の認識について説明できる。						
４）抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構（遺伝子再構成）を概説できる。						
５）免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。						
（２）免疫系の破綻・免疫系の応用						
【免疫系が関係する疾患】						
１）アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。			C10(1)身体をまもる C10(2)免疫系の破綻・免疫系の応用			
２）炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。						
３）代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。			C10(2)免疫系の破綻・免疫系の応用			
４）代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。						
【免疫応答のコントロール】						
１）臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。			C10(2)免疫系の破綻・免疫系の応用			
２）細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。						
３）腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。						
４）代表的な免疫賦活療法について概説できる。						
【予防接種】						
１）予防接種の原理とワクチンについて説明できる。			C10(2)免疫系の破綻・免疫系の応用 C11(2)社会・集団と健康			
２）主なワクチン（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン）について基本的特徴を説明できる。						
３）予防接種について，その種類と実施状況を説明できる。						
【免疫反応の利用】						
１）モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。			C10(2)免疫系の破綻・免疫系の応用			
２）抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。						
３）沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。（技能）						
４）ELISA法、ウエスタンブロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。（技能）			C10(2)免疫系の破綻・免疫系の応用 薬学実習ⅢB			
（３）感染症にかかる						
【代表的な感染症】						
１）主なDNAウイルス（△サイトメガロウイルス、△EBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、△アデノウイルス、△パルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。			C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うA			
２）主なRNAウイルス（△ポリオウイルス、△コクサッキーウイルス、△エコーウイルス、△ライノウイルス、Ａ型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、△麻疹ウイルス、△ムンプスウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
３）レトロウイルス（HIV、HTLV）が引き起こす疾患について概説できる。						
４）グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		C10(3)感染症にかかる				
５）グラム陰性球菌（淋菌、△髄膜炎菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
６）グラム陽性桿菌（破傷風菌、△ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、△ジフテリア菌、△炭疽菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		C10(3)感染症にかかる				
７）グラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、△チフス菌、△ペスト菌、コレラ菌、△百日咳菌、腸炎ビブリオ菌、緑膿菌、△ブルセラ菌、レジオネラ菌、△インフルエンザ菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
８）グラム陰性スピリルム属病原菌（ヘリコバクター・ピロリ菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
９）抗酸菌（結核菌、非定型抗酸菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
10）スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
11）真菌（アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、△ムーコル）の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うA			
12）代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。			C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うB			
13）プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。						
【感染症の予防】						
１）院内感染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。			C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うA			
[健康と環境]						
C11 健康						
（１）栄養と健康						
【栄養素】						
１）栄養素（三大栄養素、ビタミン、ミネラル）を列挙し、それぞれの役割について説明できる。			C11(1)栄養と健康 薬学実習ⅢC			
２）各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。			C11(1)栄養と健康			
３）脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。						
４）食品中のタンパク質の栄養的な価値（栄養価）を説明できる。						
５）エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。			C11(1)栄養と健康 薬学実習ⅢC			
６）栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。			C11(1)栄養と健康			
７）日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。						
８）栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。						
【食品の品質と管理】						
１）食品が腐敗する機構について説明できる。			C11(1)栄養と健康			
２）油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）			C11(1)栄養と健康 薬学実習ⅢC			
３）食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。			C11(1)栄養と健康			
４）食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。						
５）食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。						
６）代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。						
７）食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。						
８）主な食品添加物の試験法を実施できる。（技能）			薬学実習ⅢC			
９）代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。			C11(1)栄養と健康			
10）遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。（知識・態度）			C11(1)栄養と健康 薬学実習ⅢC			
【食中毒】						
１）食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。			C11(2)社会・集団と健康			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
２）代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。			C11(2)社会・集団と健康			
３）食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。						
４）代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。						
５）化学物質（重金属、残留農薬など）による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。						
（２）社会・集団と健康						
【保健統計】						
１）集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。			C11(2)社会・集団と健康			
２）人口静態と人口動態について説明できる。						
３）国勢調査の目的と意義を説明できる。						
４）死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。						
５）人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。						
【健康と疾病をめぐる日本の現状】						
１）死因別死亡率の変遷について説明できる。			C11(2)社会・集団と健康			
２）日本における人口の推移と将来予測について説明できる。						
３）高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。（知識・態度）						
【疫学】						
１）疾病の予防における疫学の役割を説明できる。			C11(2)社会・集団と健康			
２）疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。						
３）疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。						
４）患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。（知識・技能）				C15(1)医薬品情報		
５）要因・対照研究（コホート研究）の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。（知識・技能）						
６）医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。						
７）疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。						
（３）疾病の予防						
【健康とは】						
１）健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。			C11(3)疾病の予防			
２）世界保健機構（WHO）の役割について概説できる。						
【疾病の予防とは】						
１）疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。			C11(3)疾病の予防			
２）疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。			C11(2)社会・集団と健康 C11(3)疾病の予防			
３）新生児マススクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。			C11(2)社会・集団と健康			
４）疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。（態度）			C11(2)社会・集団と健康 C11(3)疾病の予防			
【感染症の現状とその予防】						
１）現代における感染症（日和見感染、院内感染、国際感染症など）の特徴について説明できる。			C11(3)疾病の予防			
２）新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。						
３）一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。						
４）母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
５）性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。			C11(3)疾病の予防			
６）予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。			C11(2)社会・集団と健康 C11(3)疾病の予防			
【生活習慣病とその予防】						
１）生活習慣病の種類とその動向について説明できる。			C11(3)疾病の予防			
２）生活習慣病のリスク要因を列挙できる。						
３）食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。						
【職業病とその予防】						
１）主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。			C11(2)社会・集団と健康			
C12　環境						
（１）化学物質の生体への影響						
【化学物質の代謝・代謝的活性化】						
１）代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。			C12(1)化学物質の生体への影響A			
２）第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。						
３）第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。						
【化学物質による発がん】						
１）発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。			C12(1)化学物質の生体への影響A			
２）変異原性試験（Ames試験など）の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）						
３）発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。						
４）代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。				C12(1)化学物質の生体への影響B		
【化学物質の毒性】						
１）化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。			C12(1)化学物質の生体への影響A			
２）肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。				C12(1)化学物質の生体への影響B		
３）重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。			C12(1)化学物質の生体への影響A			
４）重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。		C6(1)生体分子のコアとパーツA				
５）毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量（NOAEL）などについて概説できる。			C12(1)化学物質の生体への影響A			
６）化学物質の安全摂取量（1日許容摂取量など）について説明できる。						
７）有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制（化審法など）を説明できる。				C12(1)化学物質の生体への影響B		
８）環境ホルモン（内分泌撹乱化学物質）が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。（態度）						
【化学物質による中毒と処置】						
１）代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。				C12(1)化学物質の生体への影響B C15(2)患者情報		
２）化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。（技能）				C12(1)化学物質の生体への影響B		
【電離放射線の生体への影響】						
１）人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。			C12(1)化学物質の生体への影響A			
２）電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。						
３）電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。						
４）電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子（酸素効果など）について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
５）電離放射線を防御する方法について概説できる。			C12(1)化学物質の生体への影響A			
６）電離放射線の医療への応用について概説できる。						
【非電離放射線の生体への影響】						
１）非電離放射線の種類を列挙できる。			C12(1)化学物質の生体への影響A			
２）紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
３）赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
（２）生活環境と健康						
【地球環境と生態系】						
１）地球環境の成り立ちについて概説できる。				C12(2)生活環境と健康		
２）生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。						
３）人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。（態度）			薬学実習ⅢC			
４）地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。				C12(2)生活環境と健康		
５）食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。						
６）化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。						
７）環境中に存在する主な放射性核種（天然、人工）を挙げ、人の健康への影響について説明できる。			C12(1)化学物質の生体への影響A			
【水環境】						
１）原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。				C12(2)生活環境と健康		
２）水の浄化法について説明できる。						
３）水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。						
４）水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。（知識・技能）			薬学実習ⅢC			
５）下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。						
６）水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。						
７）ＤＯ，ＢＯＤ，ＣＯＤを測定できる。（技能）			薬学実習ⅢC			
８）富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。						
【大気環境】						
１）空気の成分を説明できる。				C12(2)生活環境と健康		
２）主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。						
３）主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。（知識・技能）			薬学実習ⅢC			
４）大気汚染に影響する気象要因（逆転層など）を概説できる。						
【室内環境】						
１）室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）			薬学実習ⅢC	C12(2)生活環境と健康		
２）室内環境と健康との関係について説明できる。						
３）室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。						
４）シックハウス症候群について概説できる。						
【廃棄物】						
１）廃棄物の種類を列挙できる。				C12(2)生活環境と健康		
２）廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。						
３）医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。（技能・態度）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
４）マニフェスト制度について説明できる。				C12(2)生活環境と健康		
５）PRTR法について概説できる。						
【環境保全と法的規制】						
１）典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。				C12(2)生活環境と健康		
２）環境基本法の理念を説明できる。						
３）大気汚染を防止するための法規制について説明できる。						
４）水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。		薬学実習ⅡA				
[薬と疾病]						
C13 薬の効くプロセス						
【薬の作用】						
１）薬物の用量と作用の関係を説明できる。			C13(1)(2)薬の作用と生体内運命・薬の効き方Ⅰ			
２）アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。						
３）薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。						
４）代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。						
５）薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。						
６）薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。						
７）代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。						
８）薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。			C13(3)薬の効き方Ⅱ			
【薬の運命】						
１）薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる。			C13(4)薬物の臓器への到達と消失			
２）薬物の代表的な投与方法（剤形、投与経路）を列挙し、その意義を説明できる。						
３）経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化（崩壊、分散、溶解など）を説明できる。						
４）薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。						
５）生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。						
【薬の副作用】						
１）薬物の主作用と副作用（有害作用）、毒性との関連について説明できる。			C13(1)(2)薬の作用と生体内運命・薬の効き方Ⅰ			
２）副作用と有害事象の違いについて説明できる。						
【動物実験】						
１）動物実験における倫理について配慮する。（態度）			薬学実習ⅢD			
２）代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。（技能）						
３）実験動物での代表的な薬物投与法を実施できる。（技能）						
（２）薬の効き方Ⅰ						
【中枢神経系に作用する薬】						
１）代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			C13(3)薬の効き方Ⅱ 薬学実習ⅢD			
２）代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
３）代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
４）代表的な中枢神経疾患（てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など）の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
５）代表的な精神疾患（統合失調症、うつ病など）の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			C13(3)薬の効き方Ⅱ 薬学実習ⅢD			
６）中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。						
【自律神経系に作用する薬】						
１）交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			C13(1)(2)薬の作用と生体内運命・薬の効き方Ⅰ			
２）副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
３）神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
４）自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。（技能）△技能であるからCBTには馴染まない			薬学実習ⅢD			
【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】						
１）知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			C13(1)(2)薬の作用と生体内運命・薬の効き方Ⅰ			
２）運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
３）知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。（技能））			薬学実習ⅢD			
【循環器系に作用する薬】						
１）代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			C13(1)(2)薬の作用と生体内運命・薬の効き方Ⅰ			
２）代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
３）代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
４）代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【呼吸器系に作用する薬】						
１）代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			C13(1)(2)薬の作用と生体内運命・薬の効き方Ⅰ			
２）代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
３）代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						
１）上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。			C6(2)医薬品のコアとパーツ			
（３）薬の効き方II						
【ホルモンと薬】						
１）ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			C13(3)薬の効き方Ⅱ			
２）代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。						
３）代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用についてできる。						
【消化器系に作用する薬】						
１）代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			C13(1)(2)薬の作用と生体内運命・薬の効き方Ⅰ			
２）その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
３）代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						
４）代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			C13(3)薬の効き方Ⅱ			
５）代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【腎に作用する薬】						
１）利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。			C13(1)(2)薬の作用と生体内運命・薬の効き方Ⅰ			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【血液・造血器系に作用する薬】						
１）代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			C13(1)(2)薬の作用と生体内運命・薬の効き方Ⅰ			
２）代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
３）代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
【代謝系に作用する薬】						
１）代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			C13(1)(2)薬の作用と生体内運命・薬の効き方Ⅰ			
２）代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
３）代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
４）カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			C13(3)薬の効き方Ⅱ			
【炎症・アレルギーと薬】						
１）代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。		薬学実習ⅡC	C13(3)薬の効き方Ⅱ			
２）慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						
３）アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						
１）上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。			C6(2)医薬品のコアとパーツ			
（４）薬物の臓器への到達と消失						
【吸収】						
１）薬物の主な吸収部位を列挙できる。			C13(4)薬物の臓器への到達と消失			
２）消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。						
３）受動拡散（単純拡散）、促進拡散の特徴を説明できる。						
４）能動輸送の特徴を説明できる。						
５）非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。						
６）薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。						
【分布】						
到達目標：						
１）薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。			C13(4)薬物の臓器への到達と消失			
２）薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。						
３）薬物の胎児への移行について、その機構と血液 - 胎盤関門の意義を説明できる。						
４）薬物の体液中での存在状態（血漿タンパク結合など）を組織への移行と関連づけて説明できる。						
５）薬物分布の変動要因（血流量、タンパク結合性、分布容積など）について説明できる。						
６）分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。						
７）代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。（技能）			薬学実習ⅢE			
【代謝】						
１）薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。			C13(4)薬物の臓器への到達と消失			
２）薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。						
３）薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。						
４）シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。						
５）薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
６）薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。			C13(4)薬物の臓器への到達と消失			
７）薬物代謝酵素の変動要因（誘導、阻害、加齢、SNPsなど）について説明できる。						
８）初回通過効果について説明できる。						
９）肝および固有クリアランスについて説明できる。						
【排泄】						
１）腎における排泄機構について説明できる。			C13(4)薬物の臓器への到達と消失			
２）腎クリアランスについて説明できる。						
３）糸球体ろ過速度について説明できる。						
４）胆汁中排泄について説明できる。						
５）腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。						
６）唾液・乳汁中への排泄について説明できる。						
７）尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。						
【相互作用】						
１）薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。			C13(4)薬物の臓器への到達と消失			
２）薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。						
（５）薬物動態の解析						
【薬動学】						
１）薬物動態に関わる代表的なパラメーターを列挙し、概説できる。			C13(5)薬物動態の解析 薬学実習ⅢE			
２）薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。						
３）線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。（知識・技能）						
４）線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。（知識・技能）			C13(5)薬物動態の解析			
５）線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。						
６）生物学的半減期を説明し、計算できる。（知識・技能）			C13(5)薬物動態の解析 薬学実習ⅢE			
７）全身クリアランスについて説明し、計算できる。（知識・技能）			C13(5)薬物動態の解析			
８）非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。						
９）モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。						
10）薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。（技能）						
11）点滴静注の血中濃度計算ができる。（技能）						
12）連続投与における血中濃度計算ができる。（技能）						
【TDM (Therapeutic Drug Monitoring)】						
１）治療的薬物モニタリング（TDM）の意義を説明できる。			C13(5)薬物動態の解析	実務実習事前学習		
２）TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。						
３）薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。（技能）						
４）至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動学的パラメーターを用いて説明できる。				実務実習事前学習		
５）代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。（技能）						
C14　薬物治療						
（１）体の変化を知る						
【症候】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
１）以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、嚥下障害、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しび　れ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい				C14(1)体の変化を知る 疾病と検査値B		
【症候と臨床検査値】						
１）代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			C14(1)体の変化を知る 疾病と検査値A			
２）代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
３）代表的な呼吸機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
４）代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
５）代表的な血液および血液凝固検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
６）代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
７）感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べることができる。						
８）悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。						
９）尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
10）動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。						
11）代表的なバイタルサインを列挙できる。						
（２）疾患と薬物治療（心臓疾患等）						
【薬物治療の位置づけ】						
１）代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療（外科手術、食事療法など）の位置づけを説明できる。				C14(2)疾患と薬物治療A		
２）適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。（知識・技能）						
【心臓・血管系の疾患】						
１）心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。				C14(2)疾患と薬物治療A		
２）不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
５）虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
６）以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック						
【血液・造血器の疾患】						
１）血液・造血器における代表的な疾患を挙げることができる。				C14(2)疾患と薬物治療A		
２）貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）播種性血管内凝固症候群（DIC）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				C14(2)疾患と薬物治療B		
５）以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓						
【消化器系疾患】						
１）消化器系の部位別（食道、胃・十二指腸、小腸･大腸、胆道、肝臓、膵臓）に代表的な疾患を挙げることができる。				C14(3)疾患と薬物治療A		
２）消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
３）腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				C14(3)疾患と薬物治療A		
４）肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
５）膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
６）以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病						
【総合演習】						
１）指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。（技能）				実務実習事前学習		
（３）疾患と薬物治療（腎臓疾患等）						
【腎臓・尿路の疾患】						
１）腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。				C14(3)疾患と薬物治療A C14(3)疾患と薬物治療B		
２）腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				C14(3)疾患と薬物治療B		
３）ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石				C14(3)疾患と薬物治療A C14(3)疾患と薬物治療B		
【生殖器疾患】						
１）男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。				C14(4)疾患と薬物治療B		
２）前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜症						
【呼吸器・胸部の疾患】						
１）肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。				C14(2)疾患と薬物治療B		
２）閉塞性気道疾患（気管支喘息、肺気腫）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）以下の疾患について概説できる。上気道炎（かぜ症候群）、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌						
【内分泌系疾患】						
１）ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。				C14(3)疾患と薬物治療B		
２）甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
５）以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、、アルドステロン症、アジソン病						
【代謝性疾患】						
１）糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				C14(3)疾患と薬物治療B C14(4)疾患と薬物治療B		
２）高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				C14(2)疾患と薬物治療B		
３）高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				C14(4)疾患と薬物治療B		
【神経・筋の疾患】						
１）神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。				C14(3)疾患と薬物治療B		
２）脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
５）アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
６）以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆				C14(3)疾患と薬物治療B		
【総合演習】						
１）指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。				C14(2)疾患と薬物治療B 実務実習事前学習		
（４）疾患と薬物治療（精神疾患等）						
【精神疾患】						
１）代表的な精神疾患を挙げることができる。				C14(4)疾患と薬物治療B		
２）統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症						
【耳鼻咽喉の疾患】						
１）耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。				C14(4)疾患と薬物治療A		
２）めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎						
【皮膚疾患】						
１）皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。				C14(4)疾患と薬物治療A C14(4)疾患と薬物治療B		
２）アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）以下の疾患を概説できる。蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症						
【眼疾患】						
１）眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。				C14(4)疾患と薬物治療A		
２）緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症						
【骨・関節の疾患】						
１）骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。				C14(4)疾患と薬物治療A C14(4)疾患と薬物治療B		
２）骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症						
【アレルギー・免疫疾患】						
１）代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。				C14(2)疾患と薬物治療B		
２）アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）自己免疫疾患（全身性エリテマトーデスなど）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【移植医療】						
１）移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				C14(2)疾患と薬物治療B		
【緩和ケアと長期療養】						
１）癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。				C14(4)疾患と薬物治療A		

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
２）長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。				C14(4)疾患と薬物治療B		
【総合演習】						
１）指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。（技能）				C14(2)疾患と薬物治療B 実務実習事前学習		
（５）病原微生物・悪性新生物と戦う						
【感染症】						
１）主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。		C10(3)感染症にかかる	C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うA			
【抗菌薬】						
１）抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。			C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うB			
２）代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。		C10(3)感染症にかかる	C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うA			
３）代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
４）テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
５）マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
６）アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
７）ピリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
８）サルファ薬（ST合剤を含む）の有効な感染症を列挙できる。						
９）代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
10）細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。		C10(3)感染症にかかる				
11）代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。						
12）特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。						
【抗原虫・寄生虫薬】						
１）代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うB			
【抗真菌薬】						
１）代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うA			
【抗ウイルス薬】						
１）代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うB			
２）抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。						
【抗菌薬の耐性と副作用】						
１）主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。		C10(3)感染症にかかる	C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うA			
２）主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。						
【悪性腫瘍の病態と治療】						
１）悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。			C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うB			
２）悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。						
３）化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。				C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うC		
【抗悪性腫瘍薬】						
１）代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。			C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うB	C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うC		
２）代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
３）代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
４）代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。				C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うC		

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
５）抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。				C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うC		
６）抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
７）代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。			C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うB			
８）代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。			C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うB C6(2)医薬品のコアとパーツ	C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うC		
【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】						
１）主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。			C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うB	C14(5)病原微生物・悪性新生物と戦うC		
２）主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。						
３）副作用軽減のための対処法を説明できる。						
C15　薬物治療に役立つ情報						
（１）医薬品情報						
【情報】						
１）医薬品として必須の情報を列挙できる。				C15(1)医薬品情報		
２）医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。						
３）医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。						
４）医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。						
５）医薬品情報に関係する代表的な法律と制度について概説できる。						
【情報源】						
１）医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。				C15(1)医薬品情報		
２）医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
３）厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
４）医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけと用途を説明できる。						
５）医薬品添付文書（医療用、一般用）に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。						
６）医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。						
７）医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分けができる。（技能）				C15(1)医薬品情報 実務実習事前学習		
【収集・評価・加工・提供・管理】						
１）目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）				C15(1)医薬品情報		
２）医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。						
３）医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。（技能）						
４）医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。（知識・態度）						
５）主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
【データベース】						
１）代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。				C15(1)医薬品情報		
２）医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。（知識・技能）						
３）インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。（技能）				C15(1)医薬品情報 実務実習事前学習		
【EBM（Evidence-Based Medicine）】						
１）EBMの基本概念と有用性について説明できる。				C15(1)医薬品情報		

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
２）EBM実践のプロセスを概説できる。				C15(1)医薬品情報		
３）臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など）の長所と短所を概説できる。						
４）メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。（知識・技能）				C15(1)医薬品情報 実務実習事前学習		
５）真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。				C15(1)医薬品情報		
６）臨床適用上の効果指標（オッズ比、必要治療数、相対危険度など）について説明できる。						
【総合演習】						
１）医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。				C15(1)医薬品情報		
２）医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。（知識・技能）				C15(1)医薬品情報 実務実習事前学習		
（２）患者情報						
【情報と情報源】						
１）薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。				C15(2)患者情報		
２）患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。						
【収集・評価・管理】						
１）問題志向型システム（POS）を説明できる。				C15(2)患者情報 実務実習事前学習		
２）薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。（技能）						
３）患者、介護者との適切なインタビューから患者基本情報を収集できる。（技能）						
４）得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。（知識・技能）						
５）SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。（技能）						
６）チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。（態度）						
７）患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。（知識・態度）						
（３）テーラーメイド薬物治療を目指して						
【遺伝的素因】						
１）薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。				C15(3)テーラーメイド薬物療法をめざして		
２）薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。						
３）遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。						
【年齢的要因】						
１）新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。				C15(3)テーラーメイド薬物療法をめざして		
２）幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
３）高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【生理的要因】						
１）生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				C15(3)テーラーメイド薬物療法をめざして		
２）授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
３）栄養状態の異なる患者（肥満など）に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【合併症】						
１）腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				C15(3)テーラーメイド薬物療法をめざして		
２）肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
３）心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【投与計画】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
１）患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。（知識・技能）				C15(3)テーラーメイド薬物療法をめざして実務実習事前学習		
２）ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。						
３）薬動力学的パラメーターを用いて投与設計ができる。（知識・技能）						
４）薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。						
［医薬品をつくる］						
C16　製剤化のサイエンス						
（１）製剤材料の性質						
【物質の溶解】						
１）溶液の濃度と性質について説明できる。			C16(1)製剤材料の性質			
２）物質の溶解とその速度について説明できる。						
３）溶解した物質の膜透過速度について説明できる。						
４）物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。						
【分散系】						
１）界面の性質について説明できる。			C16(1)製剤材料の性質 薬学実習ⅢE			
２）代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。						
３）乳剤の型と性質について説明できる。						
４）代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。			C16(1)製剤材料の性質			
５）分散粒子の沈降現象について説明できる。						
【製剤材料の物性】						
１）流動と変形（レオロジー）の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。			C16(1)製剤材料の性質 薬学実習ⅢE			
２）高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。			C16(1)製剤材料の性質			
３）製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。						
４）粉体の性質について説明できる。			C16(1)製剤材料の性質 薬学実習ⅢE			
５）製剤材料としての分子集合体について説明できる。			C16(1)製剤材料の性質			
６）薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。						
７）粉末Ｘ線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。						
８）製剤材料の物性を測定できる。（技能）			C16(1)製剤材料の性質 薬学実習ⅢE			
（２）剤形をつくる						
【代表的な製剤】						
１）代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。			C16(2)剤形をつくる			
２）代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。						
３）代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。						
４）代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。						
５）代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。						
６）エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。						
７）代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。						
８）代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【製剤化】						
１）製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。			C16(2)剤形をつくる			
２）単位操作を組み合わせて代表的製剤を調製できる。（技能）			薬学実習ⅢE			
３）汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。			C16(2)剤形をつくる			
【製剤試験法】						
１）日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。			C16(2)剤形をつくる			
２）日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。（技能）			薬学実習ⅢE			
（３）DDS（Drug Delivery System： 薬物送達システム）						
【DDSの必要性】						
１）従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。			C16(3)薬物送達システム DDS			
２）DDSの概念と有用性について説明できる。						
【放出制御型製剤】						
１）放出制御型製剤（徐放性製剤を含む）の利点について説明できる。			C16(3)薬物送達システム DDS			
２）代表的な放出制御型製剤を列挙できる。						
３）代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。						
４）徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。						
５）経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる						
６）腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。						
【ターゲティング】						
１）ターゲティングの概要と意義について説明できる。			C16(3)薬物送達システム DDS			
２）代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる。						
【プロドラッグ】						
１）代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。			C16(3)薬物送達システム DDS			
【その他のDDS】						
１）代表的な生体膜透過促進法について説明できる。			C16(3)薬物送達システム DDS			
C17　医薬品の開発と生産						
（１）医薬品開発と生産のながれ						
【医薬品開発のコンセプト】						
１）医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。			C17(1)医薬品開発と生産の流れ			
２）疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。						
【医薬品市場と開発すべき医薬品】						
１）医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。			C17(1)医薬品開発と生産の流れ			
２）新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。						
３）ジェネリック医薬品の役割について概説できる。						
４）希少疾病に対する医薬品（オーファンドラッグ）開発の重要性について説明できる。						
【非臨床試験】						
１）非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。			C17(1)医薬品開発と生産の流れ	C15(1)医薬品情報		
【医薬品の承認】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
１）臨床試験の目的と実施概要を説明できる。			C17(1)医薬品開発と生産の流れ	C15(1)医薬品情報		
２）医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。						
３）市販後調査の制度とその意義について説明できる。						
４）医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション（ICH）について概説できる。						
【医薬品の製造と品質管理】						
１）医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。			C17(1)医薬品開発と生産の流れ			
２）医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。						
３）医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。						
【規範】						
１）GLP（Good Laboratory Practice）、GMP（Good Manufacturing Practice）、GCP（Good Clinical Practice）、GPMSP（Good Post-Marketing Surveillance Practice）の概略と意義について説明できる。			C17(1)医薬品開発と生産の流れ			
【特許】						
１）医薬品の創製における知的財産権について概説できる。			C17(1)医薬品開発と生産の流れ			
【薬害】						
１）代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど）について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）			C17(1)医薬品開発と生産の流れ			
（２）リード化合物の創製と最適化						
【医薬品創製の歴史】						
１）古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。	B(1)薬学への招待			C17(2)リード化合物の創製と最適化		
【標的生体分子との相互作用】						
１）医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。		C6(1)生体分子のコアとパーツA		C17(2)リード化合物の創製と最適化		
２）医薬品と標的生体分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。						
３）立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。						
４）医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。			C6(2)医薬品のコアとパーツ			
【スクリーニング】						
１）スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。				C17(2)リード化合物の創製と最適化		
２）代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。						
【リード化合物の最適化】						
１）定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。				C17(2)リード化合物の創製と最適化		
２）生物学的等価性（バイオアイソスター）の意義について概説できる。			C6(2)医薬品のコアとパーツ			
３）薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。						
（３）バイオ医薬品とゲノム情報						
【組換え体医薬品】						
１）組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。				C17(3)バイオ医薬品とゲノム情報		
２）代表的な組換え体医薬品を列挙できる。						
３）組換え体医薬品の安全性について概説できる。						
【遺伝子治療】						
１）遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）				C17(3)バイオ医薬品とゲノム情報		
【細胞を利用した治療】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
１）再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）				C17(3)バイオ医薬品とゲノム情報		
【ゲノム情報の創薬への利用】						
１）ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。				C17(3)バイオ医薬品とゲノム情報		
２）バイオインフォマティクスについて概説できる。						
３）遺伝子多型（欠損、増幅）の解析に用いられる方法（ゲノミックサザンブロット法など）について概説できる。						
４）ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例（イマチニブなど）を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。						
【疾患関連遺伝子】						
１）代表的な疾患（癌、糖尿病など）関連遺伝子について説明できる。				C17(3)バイオ医薬品とゲノム情報		
２）疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。						
（４）治験						
【治験の意義と業務】						
１）治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。			C17(4)(5)治験・バイオスタティスティクス			
２）医薬品創製における治験の役割を説明できる。						
３）治験（第Ⅰ、Ⅱ、およびⅢ相）の内容を説明できる。						
４）公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。				C15(1)医薬品情報		
５）治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。（態度）						
６）治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。						
【治験における薬剤師の役割】						
１）治験における薬剤師の役割（治験薬管理者など）を説明できる。			C17(4)(5)治験・バイオスタティスティクス			
２）治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。						
３）治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。						
４）インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。（態度）						
（５）バイオスタティスティクス						
【生物統計の基礎】						
１）帰無仮説の概念を説明できる。			C17(4)(5)治験・バイオスタティスティクス			
２）パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。						
３）主な二群間の平均値の差の検定法（t-検定、Mann-Whitney U検定）について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。（知識・技能）						
４）χ2検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。（知識・技能）						
５）最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。（知識・技能）						
６）主な多重比較検定法（分散分析、Dunnett検定、Tukey検定など）の概要を説明できる。						
７）主な多変量解析の概要を説明できる。						
【臨床への応用】						
１）臨床試験の代表的な研究デザイン（症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験）の特色を説明できる。			C17(4)(5)治験・バイオスタティスティクス	C15(1)医薬品情報		
２）バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。						
３）バイアスを回避するための計画上の技法（盲検化、ランダム化）について説明できる。						
４）リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。（知識・技能）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
５）基本的な生存時間解析法（Kaplan-Meier曲線など）の特徴を説明できる。			C17(4)(5)治験・バイオスタティスティクス			
C18　薬学と社会						
（１）薬剤師を取り巻く法律と制度						
【医療の担い手としての使命】						
１）薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。（態度）			C18(2)社会保障制度と薬剤経済			
２）医療過誤、リスクマネージメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。（態度）						
【法律と制度】						
１）薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。				C18(1)薬剤師を取り巻く法律と制度		
２）薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
３）薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
４）薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。						
５）医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。						
６）医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。						
７）製造物責任法を概説できる。			C18(2)社会保障制度と薬剤経済			
【管理薬】						
１）麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。				C18(1)薬剤師を取り巻く法律と制度		
２）覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。						
３）大麻取締法およびあへん法を概説できる。						
４）毒物及び劇物取締法を概説できる。						
【放射性医薬品】						
１）放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準（放射性医薬品基準など）および制度について概説できる。				C18(1)薬剤師を取り巻く法律と制度		
２）代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。						
（２）社会保障制度と薬剤経済						
【社会保障制度】						
１）日本における社会保障制度のしくみを説明できる。			C18(2)社会保障制度と薬剤経済			
２）社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。				C18(1)薬剤師を取り巻く法律と制度		
３）介護保険制度のしくみを説明できる。						
４）高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。				C18(1)薬剤師を取り巻く法律と制度		
【医療保険】						
１）医療保険の成り立ちと現状を説明できる。			C18(2)社会保障制度と薬剤経済			
２）医療保険のしくみを説明できる。						
３）医療保険の種類を列挙できる。						
４）国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。						
【薬剤経済】						
１）国民医療費の動向を概説できる。			C18(2)社会保障制度と薬剤経済			
２）保険医療と薬価制度の関係を概説できる。						
３）診療報酬と薬価基準について説明できる。						
４）医療費の内訳を概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
５）薬物治療の経済評価手法を概説できる。			C18(2)社会保障制度と薬剤経済	C15(1)医薬品情報		
６）代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。（知識・技能）						
（３）コミュニティーファーマシー						
【地域薬局の役割】						
１）地域薬局の役割を列挙できる。			C18(3)コミュニティーファーマシー			
２）在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。						
３）学校薬剤師の役割を説明できる。						
【医薬分業】						
１）医薬分業のしくみと意義を説明できる。			C18(3)コミュニティーファーマシー			
２）医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。（知識・態度）						
３）かかりつけ薬局の意義を説明できる。						
【薬局の業務運営】						
１）保険薬剤師療養担当規則および保険医療養担当規則を概説できる。				C18(1)薬剤師を取り巻く法律と制度		
２）薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。						
３）医薬品の流通のしくみを概説できる。			C18(2)社会保障制度と薬剤経済			
４）調剤報酬および調剤報酬明細書（レセプト）について説明できる。						
【OTC薬・セルフメディケーション】						
１）地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。（態度）			C18(3)コミュニティーファーマシー			
２）主な一般用医薬品（OTC薬）を列挙し、使用目的を説明できる。						
３）漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。						

（基礎資料３－２）実務実習モデル・コアカリキュラムのＳＢＯｓに該当する科目（実務実習）

［注］　１　実務実習モデル・コアカリキュラムのＳＢＯｓに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。

２　同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

３　「（７）の事前学習のまとめ」において大学でＳＢＯsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）ＳＢＯｓ	該　当　科　目		
	３年	４年	５年
Ｄ　実務実習教育			
（Ｉ）実務実習事前学習			
（１）事前学習を始めるにあたって			
《薬剤師業務に注目する》			
1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。		D1病院薬局に行く前にA 実務実習事前学習	
2. 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。			
3. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。（態度）			
《チーム医療に注目する》			
4. 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。		D1病院薬局に行く前にA 実務実習事前学習	実務実習の前に(8)
5. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。			
6. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。（態度）			
《医薬分業に注目する》			
7. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。		D1病院薬局に行く前にA	
（２）処方せんと調剤			
《処方せんの基礎》			
1. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。		D1病院薬局に行く前にA D1病院薬局に行く前にB 実務実習事前学習	
2. 処方オーダリングシステムを概説できる。			
3. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。			
4. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。			
5. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。（知識・技能）			
6. 不適切な処方せんの処置について説明できる。			
《医薬品の用法・用量》			
1. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。		D1病院薬局に行く前にA D1病院薬局に行く前にB 実務実習事前学習	
2. 患者に適した剤形を選択できる。（知識・技能）			
3. 患者の特性（新生児、小児、高齢者、妊婦など）に適した用法・用量について説明できる。			
4. 患者の特性に適した用量を計算できる。（技能）			
5. 病態（腎、肝疾患など）に適した用量設定について説明できる。			

《服薬指導の基礎》			
1. 服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。		実務実習事前学習	
《調剤室業務入門》			
1. 代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。（技能）		D1病院薬局に行く前にA 実務実習事前学習	
2. 処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。（技能）			
3. 処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。（技能）			
4. 調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。（技能）			
5. 処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。（態度）			
（３）疑義照会			
《疑義照会の意義と根拠》			
1. 疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。		D1病院薬局に行く前にA 実務実習事前学習	
2. 代表的な配合変化の組合せとその理由を説明できる。			
3. 特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。（技能）			
4. 不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。			
《疑義照会入門》			
1. 処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。（態度）		D1病院薬局に行く前にA 実務実習事前学習	
2. 代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。			
3. 代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。			
4. 代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。			実務実習の前に(2) 実務実習の前に(3)
5. 疑義照会の流れを説明できる。			
6. 疑義照会をシミュレートする。（技能・態度）		実務実習事前学習	
（４）医薬品の管理と供給			
《医薬品の安定性に注目する》			
1. 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。		D1病院薬局に行く前にB 実務実習事前学習	
2. 代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。			
《特別な配慮を要する医薬品》			
1. 毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。		D1病院薬局に行く前にA D1病院薬局に行く前にB 実務実習事前学習	
2. 麻薬、向精神薬などの管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。			
3. 血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。			
4. 輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。			
5. 代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。			
6. 生物製剤の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。			
7. 麻薬の取扱いをシミュレートできる。（技能）			
8. 代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。			
9. 放射性医薬品の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。			
《製剤化の基礎》			
1. 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		D1病院薬局に行く前にB 実務実習事前学習	

2. 薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		D1病院薬局に行く前にB 実務実習事前学習	
3. 代表的な院内製剤を調製できる。（技能）		実務実習事前学習	
4. 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）		D1病院薬局に行く前にA 実務実習事前学習	実務実習の前に(6)
5. 抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的手技を実施できる。（技能）			
《注射剤と輸液》			
1. 注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。		D1病院薬局に行く前にA 実務実習事前学習	
2. 代表的な配合変化を検出できる。（技能）			
3. 代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。			
4. 体内電解質の過不足を判断して補正できる。（技能）			
《消毒薬》			
1. 代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。		D1病院薬局に行く前にA	
2. 消毒薬調製時の注意点を説明できる。			
（５）リスクマネージメント			
《安全管理に注目する》			
1. 薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。		D1病院薬局に行く前にB 実務実習事前学習	実務実習の前に(6)
2. 誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。			
3. 院内感染の回避方法について説明できる。		D1病院薬局に行く前にA	
《副作用に注目する》			
1. 代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。		Ｄ1病院薬局に行く前にＢ	実務実習の前に(1) 実務実習の前に(5)
《リスクマネージメント入門》			
1. 誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。		D1病院薬局に行く前にA 実務実習事前学習	
2. リスクを回避するための具体策を提案する。（態度）			
3. 事故が起こった場合の対処方法について提案する。（態度）			
（６）服薬指導と患者情報			
《服薬指導に必要な技能と態度》			
1. 患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。		D1病院薬局に行く前にA 実務実習事前学習	
2. 代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。			実務実習の前に(4)
3. 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。			
4. インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。（態度）			
5. 適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。（技能・態度）			
6. 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。（知識・態度）			
7. 患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。			
《患者情報の重要性に注目する》			
1. 服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。		D1病院薬局に行く前にA 実務実習事前学習	
2. 患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。（技能）			
3. 医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。			
《服薬指導入門》			

1. 代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。（知識・技能）		D1病院薬局に行く前にA 実務実習事前学習	実務実習の前に(4)
2. 共感的態度で患者インタビューを行う。（技能・態度）			
3. 患者背景に配慮した服薬指導ができる。（技能）			
4. 代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。（技能）			
（7）事前学習のまとめ			
1. 代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。		実務実習事前学習	
2. 不適切な処方せん例についてその理由を説明できる。			
3. 疑義照会をシミュレートできる。			
4. 処方せん例に従って、的確に内服薬、頓用薬、外用薬の薬袋・薬札の記載ができる。			
5. 処方せんに従って、計数調剤、計量調剤をシミュレートできる。			
6. 共感的態度で患者インタビューを行う。			
7. 代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。			
8. 患者背景に配慮した服薬指導ができる。			
9. 適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。			
10. 患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。			
11. 衛生的手洗いと無菌調製時の手洗いができる。			
12. 院内感染の回避方法に応じたマスクの着用ができる。			
13. 処方せん例に従って注射剤の計数調剤ができる。			
14. 代表的な注射処方せん例の鑑査ができる。			
15. 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。			
16. 診療録調査や初回面談から患者背景、情報（コンプライアンス、経過、薬歴、副作用歴など）を把握できる。			
17. 患者背景や心理状態に配慮しつつ、適切な言葉、順序、適切な服薬指導ができる。			

〔大学追記〕「（7）事前学習のまとめ」については、「実務実習事前学習」の「総合演習」のSBOsを記載した。

（基礎資料３－３）平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのＳＢＯｓに該当する科目（新カリキュラム）

［注］　１　平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのＳＢＯｓに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。

　　２　同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
Ａ　基本事項						
（１）薬剤師の使命						
【①医療人として】						
１）常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。（態度）	早期体験学習(薬学科)		医療・薬剤師倫理	実務実習事前学習(実習)		
２）患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。（態度）						
３）チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。（態度）						
４）患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。（知識・態度）			医療・薬剤師倫理			
５）生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。（知識・態度）	生命倫理					
６）一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。（知識・態度）						
７）様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。（知識・ 態度）	生命倫理		医療・薬剤師倫理			
【②薬剤師が果たすべき役割】						
１）患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。（態度）				実務実習事前学習(実習)		
２）薬剤師の活動分野（医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。	薬学への招待 早期体験学習(薬学科)					
３）医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。			社会保障制度と医療			
４）医薬品の効果が確率論的であることを説明できる。			医療統計学			
５）医薬品の創製（研究開発、生産等）における薬剤師の役割について説明できる。	薬学への招待					
６）健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。		公衆衛生と予防薬学	地域における薬局と薬剤師			
７）薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。						
８）現代社会が抱える課題（少子・超高齢社会等）に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。（知識・態度）				老年薬学		
【③患者安全と薬害の防止】						
１）医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。（態度）			医療・薬剤師倫理 社会保障制度と医療			
２）ＷＨＯによる患者安全の考え方について概説できる。			実務実習事前学習3			
３）医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。						
４）医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。						
５）重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）			医療・薬剤師倫理 実務実習事前学習3			
６）代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等）について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。			医療・薬剤師倫理			
７）代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）						
【④薬学の歴史と未来】						
１）薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	薬学への招待					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
２）薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	薬学への招待					
３）薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史（医薬分業を含む）について説明できる。			社会保障制度と医療			
４）将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。（知識・態度）	薬学への招待 早期体験学習(薬学科)		医療・薬剤師倫理			
（２）薬剤師に求められる倫理観						
【①生命倫理】						
１）生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。（知識・態度）	生命倫理					
２）生命倫理の諸原則（自律尊重、無危害、善行、正義等）について説明できる。						
３）生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。（知識・態度）				実務実習事前学習(実習)		
４）科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。						
【②医療倫理】						
１）医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。			医療・薬剤師倫理			
２）薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。						
３）医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	生命倫理					
【③患者の権利】						
１）患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。（態度）			医療・薬剤師倫理	実務実習事前学習(実習)		
２）患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。						
３）患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。			医療・薬剤師倫理 社会保障制度と医療			
４）知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。（知識・ 技能・態度）						
【④研究倫理】						
１）臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。			医薬品の開発と規制			
２）「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。						
３）正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度）					卒業研究I(薬学科)	
（３）信頼関係の構築						
【①コミュニケーション】						
１）意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。	情報・コミュニケーション論					
２）言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。						
３）相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。						
４）対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。				実務実習事前学習(実習)		
５）相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。（態度）	情報・コミュニケーション論					
６）自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。（態度）						
７）適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。（技能・態度）	情報・コミュニケーション論 生命倫理					
８）適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。（技能・態度）						
９）他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。（知識・技能・態度）						
【②患者・生活者と薬剤師】						
１）患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。	生命倫理			老年薬学		
２）患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。（態度）			医療・薬剤師倫理			
（４）多職種連携協働とチーム医療						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
１）保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。				老年薬学		
２）多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。						
３）チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。				老年薬学 実務実習事前学習(実習)		
４）自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。（態度）	情報・コミュニケーション論					
５）チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。（知識・態度）				老年薬学 実務実習事前学習(実習)		
（５）自己研鑽と次世代を担う人材の育成						
【①学習の在り方】						
１）医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。（態度）	薬学への招待 情報・コミュニケーション論					
２）講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。（技能）					卒業研究I(薬学科)	
３）必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。（知識・技能）	情報・コミュニケーション論					
４）得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。（技能）						
５）インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。（知識・態度）						
【②薬学教育の概要】						
１）「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	薬学への招待					
２）薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。（知識・態度）						
【③生涯学習】						
１）生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	薬学への招待				卒業研究I(薬学科)	
２）生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。（技能）						
【④次世代を担う人材の育成】						
１）薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。（態度）					卒業研究I(薬学科)	
２）後輩等への適切な指導を実践する。（技能・態度）						
Ｂ　薬学と社会						
（１）人と社会に関わる薬剤師						
１）人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。				実務実習事前学習(実習)		
２）人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。（態度）			医療・薬剤師倫理			
３）人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。（態度）						
４）薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。（態度）						
５）倫理規範や法令に則した行動を取る。（態度）					卒業研究I(薬学科)	
（２）薬剤師と医薬品等に係る法規範						
【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】						
１）薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。				薬事関係法規2		
２）薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。						
３）薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。						
４）薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。						
５）医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。						
６）医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。						
７）個人情報の取扱いについて概説できる。			社会保障制度と医療			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
８）薬剤師の刑事責任、民事責任（製造物責任を含む）について概説できる。			社会保障制度と医療			
【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】						
１）「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等（医薬品（薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品）、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品）の定義について説明できる。			薬事関係法規1 社会保障制度と医療			
２）医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。						
３）治験の意義と仕組みについて概説できる。						
４）医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。						
５）製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。			薬事関係法規1			
６）薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。				薬事関係法規2		
７）医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。			薬事関係法規1			
８）日本薬局方の意義と構成について説明できる。			日本薬局方			
９）生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。			医薬品の開発と規制			
10）健康被害救済制度について説明できる。			薬事関係法規1			
11）レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。			薬事関係法規1 医薬品の開発と規制			
【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】						
１）麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。				薬事関係法規2		
２）覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。						
３）毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。						
（３）社会保障制度と医療経済						
【①医療、福祉、介護の制度】						
１）日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。			社会保障制度と医療			
２）医療保険制度について説明できる。				薬事関係法規2		
３）療養担当規則について説明できる。						
４）公費負担医療制度について概説できる。			社会保障制度と医療			
５）介護保険制度について概説できる。				薬事関係法規2		
６）薬価基準制度について概説できる。						
７）調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。						
【②医薬品と医療の経済性】						
１）医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。			社会保障制度と医療			
２）国民医療費の動向について概説できる。						
３）後発医薬品とその役割について説明できる。						
４）薬物療法の経済評価手法について概説できる。			医薬品情報学1			
（４）地域における薬局と薬剤師						
【①地域における薬局の役割】						
１）地域における薬局の機能と業務について説明できる。			地域における薬局と薬剤師			
２）医薬分業の意義と動向を説明できる。						
３）かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。						
４）セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
５）災害時の薬局の役割について説明できる。			地域における薬局と薬剤師			
６）医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。						
【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】						
１）地域包括ケアの理念について説明できる。			地域における薬局と薬剤師	老年薬学		
２）在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。						
３）学校薬剤師の役割について説明できる。						
４）地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。				老年薬学		
５）地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。（知識・態度）						
Ｃ　薬学基礎						
C1　物質の物理的性質						
（１）物質の構造						
【①化学結合】						
１）化学結合の様式について説明できる。	物理化学1	物理化学2				
２）分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。		物理化学2 有機化学4				
３）共役や共鳴の概念を説明できる。		物理化学2				
【②分子間相互作用】						
１）ファンデルワールス力について説明できる。	物理化学1					
２）静電相互作用について例を挙げて説明できる。						
３）双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。						
４）分散力について例を挙げて説明できる。						
５）水素結合について例を挙げて説明できる。						
６）電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。						
７）疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。						
【③原子・分子の挙動】						
１）電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	物理化学1 有機化学2	物理化学2				
２）分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。						
３）電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。		物理化学2 物理分析学				
４）光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。	物理化学1	物理化学2	日本薬局方			
５）光の散乱および干渉について説明できる。	物理化学1 有機化学2	物理化学2 物理分析学				
６）結晶構造と回折現象について概説できる。	物理化学1					
【④放射線と放射能】						
１）原子の構造と放射壊変について説明できる。	物理化学1	物理化学2				
２）電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。						
３）代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。						
４）核反応および放射平衡について説明できる。						
５）放射線測定の原理と利用について概説できる。						
（２）物質のエネルギーと平衡						
【①気体の微視的状態と巨視的状態】						
１）ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	物理化学1					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
２）気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。	物理化学1					
３）エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。						
【②エネルギー】						
１）熱力学における系、外界、境界について説明できる。	物理化学1	物理化学2				
２）熱力学第一法則を説明できる。						
３）状態関数と経路関数の違いを説明できる。						
４）定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。						
５）定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。						
６）エンタルピーについて説明できる。						
７）化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。						
【③自発的な変化】						
１）エントロピーについて説明できる。	物理化学1	物理化学2				
２）熱力学第二法則について説明できる。						
３）熱力学第三法則について説明できる。						
４）ギブズエネルギーについて説明できる。						
５）熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。						
【④化学平衡の原理】						
１）ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。		物理化学2				
２）ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。						
３）平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。						
４）共役反応の原理について説明できる。						
【⑤相平衡】						
１）相変化に伴う熱の移動について説明できる。		物理化学3				
２）相平衡と相律について説明できる。						
３）状態図について説明できる。						
【⑥溶液の性質】						
１）希薄溶液の束一的性質について説明できる。		物理化学2				
２）活量と活量係数について説明できる。		物理化学2				
３）電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。						
４）イオン強度について説明できる。						
【⑦電気化学】						
１）起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。		物理化学2				
２）電極電位（酸化還元電位）について説明できる。						
（３）物質の変化						
【①反応速度】						
１）反応次数と速度定数について説明できる。		物理化学3				
２）微分型速度式を積分型速度式に変換できる。（知識・技能）	薬学基礎実習					
３）代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
４）代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。（技能）	薬学基礎実習	物理化学3				
５）代表的な複合反応（可逆反応、平行反応、連続反応など）の特徴について説明できる。						
６）反応速度と温度との関係を説明できる。						
７）代表的な触媒反応（酸・塩基触媒反応、酵素反応など）について説明できる。						
C2　化学物質の分析						
（１）分析の基礎						
【①分析の基本】						
１）分析に用いる器具を正しく使用できる。（知識・技能）	薬学基礎実習					
２）測定値を適切に取り扱うことができる。（知識・技能）						
３）分析法のバリデーションについて説明できる。	分析化学					
（２）溶液中の化学平衡						
【①酸・塩基平衡】						
１）酸・塩基平衡の概念について説明できる。	分析化学					
２）pH および解離定数について説明できる。（知識・技能）	薬学基礎実習					
３）溶液の pH を測定できる。（技能）						
４）緩衝作用や緩衝液について説明できる。	分析化学					
【②各種の化学平衡】						
１）錯体・キレート生成平衡について説明できる。	分析化学					
２）沈殿平衡について説明できる。						
３）酸化還元平衡について説明できる。						
４）分配平衡について説明できる。						
（３）化学物質の定性分析・定量分析						
【①定性分析】						
１）代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	分析化学		日本薬局方			
２）日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。						
【②定量分析（容量分析・重量分析）】						
１）中和滴定（非水滴定を含む）の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学					
２）キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
３）沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
４）酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
５）日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。（知識・技能）	薬学基礎実習		日本薬局方			
６）日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。	分析化学					
７）日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。						
（４）機器を用いる分析法						
【①分光分析法】						
１）紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。	分析化学		日本薬局方			
２）蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。						
３）赤外吸収（IR）スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		医薬品化学実習				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
４）原子吸光光度法、誘導結合プラズマ（ICP）発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。	分析化学					
５）旋光度測定法（旋光分散）の原理および応用例を説明できる。		医薬品化学実習				
６）分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。（技能）	薬学基礎実習					
【②核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法】						
１）核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。	分析化学					
【③質量分析法】						
１）質量分析法の原理および応用例を説明できる。		医薬品化学実習				
【④Ｘ線分析法】						
１）Ｘ線結晶解析の原理および応用例を概説できる。	分析化学	物理分析学				
２）粉末Ｘ線回折測定法の原理と利用法について概説できる。						
【⑤熱分析】						
１）熱重量測定法の原理を説明できる。		物理分析学				
２）示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。						
（５）分離分析法						
【①クロマトグラフィー】						
１）クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。	分析化学					
２）薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		医薬品化学実習				
３）液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。						
４）ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。						
５）クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。（知識・技能）	薬学基礎実習	衛生化学実習				
【②電気泳動法】						
１）電気泳動法の原理および応用例を説明できる。		物理化学3				
（６）臨床現場で用いる分析技術						
【①分析の準備】						
１）分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。		物理分析学				
２）臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。						
【②分析技術】						
１）臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。		物理分析学				
２）免疫化学的測定法の原理を説明できる。						
３）酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。						
４）代表的なドライケミストリーについて概説できる。						
５）代表的な画像診断技術（X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など）について概説できる。						
C3　化学物質の性質と反応						
（１）化学物質の基本的性質						
【①基本事項】						
１）代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。		有機化学4				
２）薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。						
３）基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	有機化学1	有機化学3				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
４）有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。	有機化学1	有機化学3				
５）ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。						
６）基本的な有機反応（置換、付加、脱離）の特徴を理解し、分類できる。						
７）炭素原子を含む反応中間体（カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル）の構造と性質を説明できる。	有機化学1 有機化学2					
８）反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。						
９）基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)	有機化学1					
【②有機化合物の立体構造】						
１）構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	有機化学1					
２）キラリティーと光学活性の関係を概説できる。						
３）エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。						
４）ラセミ体とメソ体について説明できる。						
５）絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)						
６）炭素—炭素二重結合の立体異性（cis, trans ならびに E,Z 異性）について説明できる。						
７）フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)						
８）エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。						
（２）有機化合物の基本骨格の構造と反応						
【①アルカン】						
１）アルカンの基本的な性質について説明できる。	有機化学1					
２）アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)		有機化学4				
３）シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。						
４）シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向（アキシアル、エクアトリアル）を図示できる。(技能)						
５）置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。						
【②アルケン・アルキン】						
１）アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機化学2	有機化学3				
２）アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。						
３）アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。						
【③芳香族化合物】						
１）代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。	有機化学1	有機化学3 有機化学4				
２）芳香族性の概念を説明できる。		有機化学4				
３）芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。						
４）代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。	有機化学1					
５）代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。						
（３）官能基の性質と反応						
【①概説】						
１）代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。	有機化学1		日本薬局方			
２）官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。（技能）	有機化学2	有機化学実習 医薬品化学実習				
【②有機ハロゲン化合物】						
１）有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学1	有機化学3				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
２）求核置換反応の特徴について説明できる。	有機化学1	有機化学3 有機化学実習				
３）脱離反応の特徴について説明できる。		有機化学3				
【③アルコール･フェノール･エーテル】						
１）アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学1	有機化学3 有機化学実習				
２）エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】						
１）アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学2	有機化学3 有機化学実習				
２）カルボン酸の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。						
３）カルボン酸誘導体（酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド）の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学4 有機化学実習				
【⑤アミン】						
１）アミン類の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学4 有機化学実習				
【⑥電子効果】						
１）官能基が及ぼす電子効果について概説できる。	有機化学2					
【⑦酸性度・塩基性度】						
１）アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。	有機化学1	有機化学3				
２）含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。						
（４）化学物質の構造決定						
【①核磁気共鳴（NMR）】						
１）^{1}H および ^{13}C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。	有機化学2	医薬品化学実習				
２）有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
３）^{1}H NMR の積分値の意味を説明できる。						
４）^{1}H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂（カップリング）する基本的な分裂様式を説明できる。						
５）代表的な化合物の部分構造を ^{1}H NMR から決定できる。(技能)						
【②赤外吸収（IR）】						
１）IR スペクトルより得られる情報を概説できる。	有機化学2	医薬品化学実習				
２）IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。（知識・技能）						
【③質量分析】						
１）マススペクトルより得られる情報を概説できる。	有機化学2	医薬品化学実習				
２）測定化合物に適したイオン化法を選択できる。（技能）						
３）ピークの種類（基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク）を説明できる。						
４）代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。（技能）						
【④総合演習】						
１）代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。（技能）	有機化学2	医薬品化学実習				
（５）無機化合物・錯体の構造と性質						
【①無機化合物・錯体】						
１）代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。		生物有機化学 -生体分子の化学構造-				
２）代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。						
３）活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
４）代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。		生物有機化学 -生体分子の化学構造-				
５）医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。						
C4　生体分子・医薬品の化学による理解						
（１）医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質						
【①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】						
１）代表的な生体高分子を構成する小分子（アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど）の構造に基づく化学的性質を説明できる。		生物有機化学 -生体分子の化学構造-				
２）医薬品の標的となる生体高分子（タンパク質、核酸など）の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。						
【②生体内で機能する小分子】						
１）細胞膜受容体および細胞内（核内）受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。		生物有機化学 -生体分子の化学構造-				
２）代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。						
３）活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。						
４）生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。						
（２）生体反応の化学による理解						
【①生体内で機能するリン、硫黄化合物】						
１）リン化合物（リン酸誘導体など）および硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステルなど）の構造と化学的性質を説明できる。		生物有機化学 -生体分子の化学反応-				
２）リン化合物（リン酸誘導体など）および硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステルなど）の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。						
【②酵素阻害剤と作用様式】						
１）不可逆的酵素阻害薬の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。		生物有機化学 -生体分子の化学反応-				
２）基質アナログが競合阻害薬となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。						
３）遷移状態アナログが競合阻害薬となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。						
【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】						
１）代表的な受容体のアゴニスト（作用薬、作動薬、刺激薬）とアンタゴニスト（拮抗薬、遮断薬）との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。		生物有機化学 -生体分子の化学反応-				
２）低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。						
【④生体内で起こる有機反応】						
１）代表的な生体分子（脂肪酸、コレステロールなど）の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。		生物有機化学 -生体分子の化学反応-				
２）異物代謝の反応（発がん性物質の代謝的活性化など）を有機化学の観点から説明できる。						
（３）医薬品の化学構造と性質、作用						
【①医薬品と生体分子の相互作用】						
１）医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点（結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など）から説明できる。		医薬品化学1				
【②医薬品の化学構造に基づく性質】						
１）医薬品の構造からその物理化学的性質（酸性、塩基性、疎水性、親水性など）を説明できる。		医薬品化学1				
２）プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。						
【③医薬品のコンポーネント】						
１）代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。		医薬品化学1				
２）バイオアイソスター（生物学的等価体）について、代表的な例を挙げて概説できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
３）医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。			医薬品化学2			
【④酵素に作用する医薬品の構造と性質】						
１）ヌクレオシドおよび核酸塩基アナログを有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		医薬品化学1				
２）フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
３）スルホンアミド構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
４）キノロン骨格をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
５）β-ラクタム構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
６）ペプチドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】						
１）カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学2			
２）アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
３）ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
４）ベンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
５）オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
【⑥DNA に作用する医薬品の構造と性質】						
１）DNAと結合する医薬品（アルキル化剤、シスプラチン類）を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。			医薬品化学２			
２）DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。						
３）DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。						
【⑦イオンチャネルに作用する医薬品の構造と性質】						
１）イオンチャネルに作用する医薬品の代表的な基本構造（ジヒドロピリジンなど）の特徴を説明できる。			医薬品化学2			
C5　自然が生み出す薬物						
（１）薬になる動植鉱物						
【①薬用植物】						
１）代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げることができる。			生薬学2			
２）代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。（知識、技能）						
３）植物の主な内部形態について説明できる。		生薬学1				
４）法律によって取り扱いが規制されている植物（ケシ、アサ）の特徴を説明できる。			生薬学2			
【②生薬の基原】						
１）日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類由来）を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。		生薬学1	生薬学2			
【③生薬の用途】						
１）日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来）の薬効、成分、用途などを説明できる。		生薬学1	生薬学2			
２）副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。						
【④生薬の同定と品質評価】						
１）生薬の同定と品質評価法について概説できる。		生薬学1				
２）日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
３）代表的な生薬を鑑別できる。（技能）		生薬学実習				
４）代表的な生薬の確認試験を説明できる。		生薬学1 生薬学実習	生薬学2			
５）代表的な生薬の純度試験を説明できる。						
（２）薬の宝庫としての天然物						
【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】						
１）生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。		天然物化学				
２）脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
３）芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
４）テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
５）アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】						
１）微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。		天然物化学				
２）微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。						
【③天然生物活性物質の取扱い】						
１）天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。（知識、技能）		生薬学実習				
【④天然生物活性物質の利用】						
１）医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。		天然物化学				
２）天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。						
３）農薬や香粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。			生薬学2			
C6　生命現象の基礎						
（１）細胞の構造と機能						
【①細胞膜】						
１）細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	細胞の機能と構成分子					
２）エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。						
【②細胞小器官】						
１）細胞小器官（核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど）やリボソームの構造と機能を説明できる。	細胞の機能と構成分子					
【③細胞骨格】						
１）細胞骨格の構造と機能を説明できる。	細胞の機能と構成分子					
（２）生命現象を担う分子						
【①脂質】						
１）代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。		生物有機化学 −生体分子の化学構造−				
【②糖質】						
１）代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	細胞の機能と構成分子	生物有機化学 −生体分子の化学構造−				
２）代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。						
【③アミノ酸】						
１）アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	細胞の機能と構成分子	生物有機化学 −生体分子の化学構造−				
【④タンパク質】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
１）タンパク質の構造（一次、二次、三次、四次構造）と性質を説明できる。	細胞の機能と構成分子	生物有機化学 -生体分子の化学構造-				
【⑤ヌクレオチドと核酸】						
１）ヌクレオチドと核酸（DNA、RNA）の種類、構造、性質を説明できる。	細胞の機能と構成分子	生物有機化学 -生体分子の化学構造-				
【⑥ビタミン】						
１）代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。		栄養と健康				
【⑦微量元素】						
１）代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。		栄養と健康				
【⑧生体分子の定性、定量】						
１）脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。（技能）		生化学実習				
（３）生命活動を担うタンパク質						
【①タンパク質の構造と機能】						
１）多彩な機能をもつタンパク質（酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質）を列挙し概説できる。	細胞の機能と構成分子					
【②タンパク質の成熟と分解】						
１）タンパク質の翻訳後の成熟過程（細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾）について説明できる。	細胞の機能と構成分子					
２）タンパク質の細胞内での分解について説明できる。						
【③酵素】						
１）酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。	細胞の機能と構成分子					
２）酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。						
３）代表的な酵素活性調節機構を説明できる。						
４）酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)		生化学実習				
【④酵素以外のタンパク質】						
１）膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。	細胞の機能と構成分子					
２）血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。						
（４）生命情報を担う遺伝子						
【①概論】						
１）遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。		生化学1				
２）DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。						
【②遺伝情報を担う分子】						
１）染色体の構造（ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど）を説明できる。		生化学1				
２）遺伝子の構造（プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど）を説明できる。						
３）RNA の種類(hnRNA、mRNA、rRNA、tRNA など)と機能について説明できる。						
【③遺伝子の複製】						
１）DNA の複製の過程について説明できる。		生化学1				
【④転写・翻訳の過程と調節】						
１）DNA から RNA への転写の過程について説明できる。		生化学1				
２）エピジェネティックな転写制御について説明できる。						
３）転写因子による転写制御について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
４）RNA のプロセシング（キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など）について説明できる。		生化学1				
５）RNA からタンパク質への翻訳の過程について説明できる。						
【⑤遺伝子の変異・修復】						
１）DNA の変異と修復について説明できる。		生化学1				
【⑥組換え DNA】						
１）遺伝子工学技術（遺伝子クローニング、cDNA クローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など）を概説できる。		生化学1	バイオ医薬品とゲノム情報			
２）遺伝子改変生物（遺伝子導入･欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物）について概説できる。						
（５）生体エネルギーと生命活動を支える代謝系						
【① 概論】						
１）エネルギー代謝の概要を説明できる。		代謝生化学				
【②ATP の産生と糖質代謝】						
１）解糖系及び乳酸の生成について説明できる。		代謝生化学				
２）クエン酸回路(TCA サイクル)について説明できる。						
３）電子伝達系（酸化的リン酸化）と ATP 合成酵素について説明できる。						
４）グリコーゲンの代謝について説明できる。						
５）糖新生について説明できる。						
【③脂質代謝】						
１）脂肪酸の生合成とβ酸化について説明できる。		代謝生化学				
２）コレステロールの生合成と代謝について説明できる。						
【④飢餓状態と飽食状態】						
１）飢餓状態のエネルギー代謝（ケトン体の利用など）について説明できる。		代謝生化学				
２）余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。						
【⑤その他の代謝系】						
１）アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝（尿素回路など）について説明できる。		代謝生化学				
２）ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。						
３）ペントースリン酸回路について説明できる。						
（６）細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達						
【① 概論】						
１）細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。		生化学2				
【②細胞内情報伝達】						
１）細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。		生化学2				
２）細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。						
３）細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。						
４）細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。						
５）細胞内（核内）受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。						
【③細胞間コミュニケーション】						
１）細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。		生化学2				
２）主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
（７）細胞の分裂と死						
【①細胞分裂】						
１）細胞周期とその制御機構について説明できる。		生化学2				
２）体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。						
【②細胞死】						
１）細胞死（アポトーシスとネクローシス）について説明できる。		生化学2				
【③がん細胞】						
１）正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。		生化学2				
２）がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。						
C7　人体の成り立ちと生体機能の調節						
（１）人体の成り立ち						
【①遺伝】						
１）遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。		生化学1				
２）遺伝子多型について概説できる。						
３）代表的な遺伝疾患を概説できる。						
【②発生】						
１）個体発生について概説できる。		生化学2				
２）細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。						
【③器官系概論】						
１）人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	機能生理学1					
２）組織、器官を構成する代表的な細胞の種類（上皮、内皮、間葉系など）を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。						
３）実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。（技能）	薬学基礎実習					
４）代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。（技能）						
【④神経系】						
１）中枢神経系について概説できる。	機能生理学1					
２）末梢（体性・自律）神経系について概説できる。						
【⑤骨格系・筋肉系】						
１）骨、筋肉について概説できる。	機能生理学1					
２）代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。						
【⑥皮膚】						
１）皮膚について概説できる。	機能生理学1					
【⑦循環器系】						
１）心臓について概説できる。	機能生理学1					
２）血管系について概説できる。		機能生理学2				
３）リンパ管系について概説できる。						
【⑧呼吸器系】						
１）肺、気管支について概説できる。		機能生理学2				
【⑨消化器系】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
１）胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。		機能生理学2				
２）肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。						
【⑩泌尿器系】						
１）泌尿器系について概説できる。		機能生理学2				
【⑪生殖器系】						
１）生殖器系について概説できる。		機能生理学2				
【⑫内分泌系】						
１）内分泌系について概説できる。		機能生理学2				
【⑬感覚器系】						
１）感覚器系について概説できる。	機能生理学1					
【⑭血液・造血器系】						
１）血液・造血器系について概説できる。	機能生理学1					
（２）　生体機能の調節						
【①神経による調節機構】						
１）神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	機能生理学1	生化学2				
２）代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。						
３）神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。						
４）神経による筋収縮の調節機構について説明できる。						
【②ホルモン・内分泌系による調節機構】						
１）代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。		生化学2				
【③オータコイドによる調節機構】						
１）代表的なオータコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		生化学2				
【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】						
１）代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		生化学2				
【⑤血圧の調節機構】						
１）血圧の調節機構について概説できる。	機能生理学1	機能生理学2				
【⑥血糖の調節機構】						
１）血糖の調節機構について概説できる。		生化学2				
【⑦体液の調節】						
１）体液の調節機構について概説できる。		機能生理学2 生化学2				
２）尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。		機能生理学2				
【⑧体温の調節】						
１）体温の調節機構について概説できる。		生化学2				
【⑨血液凝固・線溶系】						
１）血液凝固・線溶系の機構について概説できる。	機能生理学1					
【⑩性周期の調節】						
１）性周期の調節機構について概説できる。		生化学2				
C8　生体防御と微生物						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
（1）身体をまもる						
【① 生体防御反応】						
１）異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。		免疫学1				
２）免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。						
３）自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。						
４）体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。						
【②免疫を担当する組織・細胞】						
１）免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。		免疫学1				
２）免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。						
３）免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。						
【③分子レベルで見た免疫のしくみ】						
１）自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。		免疫学1				
２）MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。						
３）T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性（遺伝子再構成）と活性化について説明できる。						
４）抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。						
５）免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。						
（2）免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用						
【① 免疫応答の制御と破綻】						
１）炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。		免疫学2				
２）アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。		免疫学1				
３）自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。		免疫学2				
４）臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。						
５）感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。						
６）腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。						
【② 免疫反応の利用】						
１）ワクチンの原理と種類（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど）について説明できる。		免疫学2				
２）モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。						
３）血清療法と抗体医薬について概説できる。			バイオ医薬品とゲノム情報			
４）抗原抗体反応を利用した検査方法（ELISA 法、ウエスタンブロット法など）を実施できる。（技能）		生化学実習				
（3）微生物の基本						
【① 総論】						
１）原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。		微生物学				
【② 細菌】						
１）細菌の分類や性質（系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など）を説明できる。		微生物学				
２）細菌の構造と増殖機構について説明できる。						
３）細菌の異化作用（呼吸と発酵）および同化作用について説明できる。						
４）細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。						
５）薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。		化学療法学1				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
６）代表的な細菌毒素について説明できる。		微生物学				
【③ ウイルス】						
１）ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。		微生物学				
【④ 真菌・原虫・蠕虫】						
１）真菌の性状を概説できる。		微生物学				
２）原虫および蠕虫の性状を概説できる。						
【⑤ 消毒と滅菌】						
１）滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。		微生物学実習				
２）主な滅菌法および消毒法について説明できる。						
【⑥ 検出方法】						
１）グラム染色を実施できる。（技能）		微生物学実習				
２）無菌操作を実施できる。（技能）						
３）代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。（技能）						
（４）病原体としての微生物						
【①感染の成立と共生】						
１）感染の成立（感染源、感染経路、侵入門戸など）と共生（腸内細菌など）について説明できる。		微生物学				
２）日和見感染と院内感染について説明できる。		化学療法学1 公衆衛生と予防薬学				
【②代表的な病原体】						
１）DNA ウイルス（ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B 型肝炎ウイルスなど）について概説できる。		化学療法学2				
２）RNA ウイルス（ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、Ａ型肝炎ウイルス、C 型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など）について概説できる。						
３）グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌など）およびグラム陽性桿菌（破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、ディフィシル菌など）について概説できる。		微生物学				
４）グラム陰性球菌（淋菌、髄膜炎菌など）およびグラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など）について概説できる。						
５）グラム陰性らせん菌（ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ／コリなど）およびスピロヘータについて概説できる。						
６）抗酸菌（結核菌、らい菌など）について概説できる。						
７）マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。						
８）真菌（アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など）について概説できる。		化学療法学1				
９）原虫（マラリア原虫、トキソプラズマ、腟トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど）、蠕虫（回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど）について概説できる。		化学療法学2				
D　衛生薬学						
D1　健康						
（１）社会・集団と健康						
【①健康と疾病の概念】						
１）健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。		公衆衛生と予防薬学				
【②保健統計】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
１）集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。		公衆衛生と予防薬学				
２）人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。						
３）人口動態（死因別死亡率など）の変遷について説明できる。						
【③疫学】						
１）疾病の予防における疫学の役割を説明できる。		公衆衛生と予防薬学				
２）疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。						
３）疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。						
４）リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。（知識・技能）						
（２）疾病の予防						
【①疾病の予防とは】						
１）疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。		公衆衛生と予防薬学				
２）健康増進政策（健康日本２１など）について概説できる。						
【②感染症とその予防】						
１）現代における感染症（日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など）の特徴について説明できる。		公衆衛生と予防薬学				
２）感染症法における、感染症とその分類について説明できる。						
３）代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。						
４）予防接種の意義と方法について説明できる。						
【③生活習慣病とその予防】						
１）生活習慣病の種類とその動向について説明できる。		公衆衛生と予防薬学				
２）生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。						
３）食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。（態度）						
【④母子保健】						
１）新生児マススクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。		公衆衛生と予防薬学				
２）母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。						
【⑤労働衛生】						
１）代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。		公衆衛生と予防薬学				
２）労働衛生管理について説明できる。						
（３）栄養と健康						
【①栄養】						
１）五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。		栄養と健康				
２）各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。						
３）食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。						
４）五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質など）の機能について説明できる。						
５）エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。						
６）日本人の食事摂取基準について説明できる。						
７）栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。						
８）疾病治療における栄養の重要性を説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【②食品機能と食品衛生】						
１）炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。		栄養と健康				
２）油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）		栄養と健康 衛生化学実習				
３）食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。		栄養と健康				
４）食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。						
５）代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。						
６）特別用途食品と保健機能食品について説明できる。						
７）食品衛生に関する法的規制について説明できる。						
【③食中毒と食品汚染】						
１）代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。		栄養と健康				
２）食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。						
３）化学物質（重金属、残留農薬など）やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。						
D2　環境						
（１）化学物質・放射線の生体への影響						
【①化学物質の毒性】						
１）代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。			化学物質の生体影響			
２）肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。						
３）重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。		衛生化学実習				
４）重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。						
５）薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。（知識・態度）		衛生化学実習				
６）代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。						
７）代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）の試験法を列挙し、概説できる。						
【②化学物質の安全性評価と適正使用】						
１）個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。（態度）			化学物質の生体影響			
２）化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。						
３）毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量（NOAEL）などについて概説できる。						
４）化学物質の安全摂取量（1日許容摂取量など）について説明できる。						
５）有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制（化審法、化管法など）を説明できる。						
【③化学物質による発がん】						
１）発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。		生物有機化学 -生体分子の化学反応-	化学物質の生体影響			
２）遺伝毒性試験（Ames試験など）の原理を説明できる。						
３）発がんに至る過程（イニシエーション、プロモーションなど）について概説できる。						
【④放射線の生体への影響】						
１）電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。			環境科学			
２）代表的な放射性核種（天然、人工）と生体との相互作用を説明できる。						
３）電離放射線を防御する方法について概説できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
４）非電離放射線（紫外線、赤外線など）を列挙し、生体への影響を説明できる。			環境科学			
（２）生活環境と健康						
【①地球環境と生態系】						
１）地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。			環境科学			
２）生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。						
３）化学物質の環境内動態（生物濃縮など）について例を挙げて説明できる。						
４）地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。						
５）人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。（態度）						
【②環境保全と法的規制】						
１）典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。			環境科学			
２）環境基本法の理念を説明できる。						
３）環境汚染（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など）を防止するための法規制について説明できる。						
【③水環境】						
１）原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。			環境科学			
２）水の浄化法、塩素処理について説明できる。						
３）水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。（知識・技能）		衛生化学実習				
４）下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。						
５）水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）		衛生化学実習				
６）富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。						
【④大気環境】						
１）主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。			環境科学			
２）主な大気汚染物質を測定できる。（技能）		衛生化学実習				
３）大気汚染に影響する気象要因（逆転層など）を概説できる。			環境科学			
【⑤室内環境】						
１）室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）		衛生化学実習	環境科学			
２）室内環境と健康との関係について説明できる。						
【⑥廃棄物】						
１）廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。			環境科学			
２）廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。						
３）マニフェスト制度について説明できる。						
E　医療薬学						
E1　薬の作用と体の変化						
（１）薬の作用						
【①薬の作用】						
１）薬の用量と作用の関係を説明できる。		薬理学1				
２）アゴニスト（作用薬、作動薬、刺激薬）とアンタゴニスト（拮抗薬、遮断薬）について説明できる。						
３）薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。						
４）代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
５）薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。（C6(6)【②細胞内情報伝達】1.～ 5. 参照）		薬理学1				
６）薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる。（E4（1）【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照）		薬物動態学1				
７）薬物の選択（禁忌を含む）、用法、用量の変更が必要となる要因（年齢、疾病、妊娠等）について具体例を挙げて説明できる。				個別化医療		
８）薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。（E4（1）【②吸収】5.【④代謝】5.【⑤排泄】5.参照）			薬物動態学2			
９）薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。		薬理学1				
【②動物実験】						
１）動物実験における倫理について配慮できる。（態度）	薬学基礎実習		薬理学実習			
２）実験動物を適正に取り扱うことができる。（技能）						
３）実験動物での代表的な投与方法が実施できる。（技能）						
【③日本薬局方】						
１）日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。			日本薬局方			
（２）身体の病的変化を知る						
【①症候】						
１）以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、　血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、　下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満（腹水を含む）、タンパク 尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常（しびれを含む）・神経痛、視力障害、聴力障害			薬物治療学1			
【②病態・臨床検査】						
１）尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			薬物治療学1	薬物治療学6		
２）血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
３）血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
４）免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
５）動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
６）代表的な生理機能検査（心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等）、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
７）代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
８）代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						
（３）薬物治療の位置づけ						
１）代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療（外科手術など）の位置づけを説明できる。				薬物治療学6		
２）代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。（知識・技能）				実務実習事前学習(実習)		
（４）医薬品の安全性						
１）薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。		薬理学1				
２）薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。			医薬品情報学1			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
３）以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー（ショックを含む）、代謝障害、筋障害			薬物治療学1			
４）代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。（態度）			医療・薬剤師倫理			
E2　薬理・病態・薬物治療						
（１）神経系の疾患と薬						
【①自律神経系に作用する薬】						
１）交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学1				
２）副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。						
３）神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。						
４）自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）			薬理学実習			
【②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】						
１）知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学1	薬理学実習			
２）運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。						
３）知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）			薬理学実習			
４）以下の疾患について説明できる。進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré（ギラン・バレー）症候群、重症筋無力症（重複）			薬物治療学5			
【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】						
１）全身麻酔薬、催眠薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬理学3			
２）麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用（WHO三段階除痛ラダーを含む）を説明できる。			薬理学3 薬物治療学3			
３）中枢興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬理学3			
４）統合失調症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学3 薬物治療学3			
５）うつ病、躁うつ病（双極性障害）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
６）不安神経症（パニック障害と全般性不安障害）、心身症、不眠症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
７）てんかんについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学3 薬物治療学5			
８）脳血管疾患（脳内出血、脳梗塞（脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血）、くも膜下出血）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
９）Parkinson（パーキンソン）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
10）認知症（Alzheimer（アルツハイマー）型認知症、脳血管性認知症等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
11）片頭痛について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）について説明できる。						
12）中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）			薬理学実習			
13）中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。（態度）				実務実習事前学習(実習)		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
14）以下の疾患について説明できる。脳炎・髄膜炎（重複）、多発性硬化症（重複）、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy（ナルコレプシー）、薬物依存症、アルコール依存症			薬物治療学5			
【④化学構造と薬効】						
１）神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			医薬品化学2			
（２）免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬						
【①抗炎症薬】						
１）抗炎症薬（ステロイド性および非ステロイド性）および解熱性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬理学3			
２）抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。			薬物治療学4			
３）創傷治癒の過程について説明できる。						
【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】						
１）アレルギー治療薬（抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬理学3 薬物治療学4			
２）免疫抑制薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。						
３）以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息（重複）						
４）以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態（病態生理、症状等）および対処法を説明できる。Stevens-Johnson（スティーブンス-ジョンソン）症候群、中毒性表皮壊死症（重複）、薬剤性過敏症症候群、薬疹			薬理学3 薬物治療学3 薬物治療学4			
５）アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学3 薬物治療学4			
６）以下の疾患について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ベーチェット病			薬理学3 薬物治療学3			
７）以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。バセドウ病（重複）、橋本病（重複）、悪性貧血(重複）、アジソン病、1型糖尿病（重複）、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血（重複）、シェーグレン症候群			薬理学3			
８）以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎／皮膚筋炎、関節リウマチ（重複）			薬物治療学4			
９）臓器移植（腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血）について、拒絶反応および移植片対宿主病（GVHD）の病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】						
１）関節リウマチについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学3 薬物治療学4			
２）骨粗鬆症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学3 薬物治療学4 薬物治療学5			
３）変形性関節症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
４）カルシウム代謝の異常を伴う疾患（副甲状腺機能亢進（低下）症、骨軟化症（くる病を含む）、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学3 薬物治療学5			
【④化学構造と薬効】						
１）免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			医薬品化学2			
（３）循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬						
【①循環器系疾患の薬、病態、治療】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
１）以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。不整脈の例示：上室性期外収縮（PAC）、心室性期外収縮（PVC）、心房細動（Af）、発作性上室頻拍（PSVT）、WPW症候群、心室頻拍（VT）、心室細動（Vf）、房室ブロック、QT延長症候群		薬理学2	薬物治療学2			
２）急性および慢性心不全について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
３）虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
４）以下の高血圧症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症（腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む）						
５）以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症（ASO）、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患						
６）循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）			薬理学実習			
【②血液・造血器系疾患の薬、病態、治療】						
１）止血薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		薬理学2				
２）抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬物治療学4			
３）以下の貧血について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血(悪性貧血等）、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血（AIHA）、腎性貧血、鉄芽球性貧血			薬物治療学2			
４）播種性血管内凝固症候群（DIC）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬物治療学4			
５）以下の疾患について治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病（重複）、悪性リンパ腫（重複）（E2（7）【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照）			薬物治療学2			
【③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療】						
１）利尿薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		薬理学2	薬物治療学5			
２）急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
３）ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
４）過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬物治療学3 薬物治療学5			
５）以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。慢性腎臓病（CKD）、糸球体腎炎（重複）、糖尿病性腎症（重複）、薬剤性腎症（重複）、腎盂腎炎（重複）、膀胱炎（重複）、尿路感染症（重複）、尿路結石			薬物治療学5			
６）以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内膜症、子宮筋腫		薬理学1	薬物治療学3			
７）妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
８）以下の生殖器系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症						
【④化学構造と薬効】						
１）循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			医薬品化学2			
（４）呼吸器系・消化器系の疾患と薬						
【①呼吸器系疾患の薬、病態、治療】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
１）気管支喘息について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学1	薬物治療学4			
２）慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患（ニコチン依存症を含む）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
３）間質性肺炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
４）鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。						
【②消化器系疾患の薬、病態、治療】						
１）以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 胃食道逆流症（逆流性食道炎を含む）、消化性潰瘍、胃炎		薬理学2		薬物治療学6		
２）炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
３）肝疾患（肝炎、肝硬変（ウイルス性を含む）、薬剤性肝障害）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
４）膵炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
５）胆道疾患（胆石症、胆道炎）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
６）機能性消化管障害（過敏性腸症候群を含む）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
７）便秘・下痢について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
８）悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物（催吐薬）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
９）痔について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
【③化学構造と薬効】						
１）呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			医薬品化学2			
（５）代謝系・内分泌系の疾患と薬						
【①代謝系疾患の薬、病態、治療】						
１）糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学2		薬物治療学6		
２）脂質異常症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬物治療学4			
３）高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬物治療学6		
【②内分泌系疾患の薬、病態、治療】						
１）性ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬理学3			
２）Basedow（バセドウ）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学3 薬物治療学5			
３）甲状腺炎（慢性（橋本病）、亜急性）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
４）尿崩症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
５）以下の疾患について説明できる。先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群（SIADH）、副甲状腺機能亢進症･低下症、Cushing（クッシング）症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全（急性、慢性）、子宮内膜症（重複）、アジソン病（重複）			薬物治療学5			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【③化学構造と薬効】						
１）代謝系・内分布系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			医薬品化学2			
（６）感覚器・皮膚の疾患と薬						
【①眼疾患の薬、病態、治療】						
１）緑内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学1	薬物治療学3			
２）白内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
３）加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
４）以下の疾患について概説できる。 結膜炎（重複）、網膜症、ぶどう膜炎、網膜色素変性症						
【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】						
１）めまい（動揺病、Meniere（メニエール）病等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学1	薬物治療学3			
２）以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎（重複）、花粉症（重複）、副鼻腔炎（重複）、中耳炎（重複）、口内炎・咽頭炎・扁桃腺炎(重複)、喉頭蓋炎						
【③皮膚疾患の薬、病態、治療】						
１）アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 （E2（2）【②免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照）			薬物治療学3			
２）皮膚真菌症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 （E2（7）【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】 参照）						
３）褥瘡について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				老年薬学		
４）以下の疾患について概説できる。蕁麻疹（重複）、薬疹（重複）、水疱症（重複）、乾癬(重複)、接触性皮膚炎（重複）、光線過敏症（重複）						
【④化学構造と薬効】						
１）感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			薬物治療学3			
（７）病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬						
【①抗菌薬】						
１）以下の抗菌薬の薬理（薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体（アミノグリコシド）系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤（ST合剤を含む）、その他の抗菌薬		化学療法学1				
２）細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤（ワクチン等）を挙げ、その作用機序を説明できる。						
【②抗菌薬の耐性】						
１）主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。		化学療法学1				
【③細菌感染症の薬、病態、治療】						
１）以下の呼吸器感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 上気道炎（かぜ症候群（大部分がウイルス感染症）を含む）、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎		化学療法学1	薬物治療学4			
２）以下の消化器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎				薬物治療学6		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
３）以下の感覚器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎		化学療法学1				
４）以下の尿路感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎						
５）以下の性感染症について、病態（病態生理、症状等）、予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。梅毒、淋病、クラミジア症等						
６）脳炎、髄膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
７）以下の皮膚細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等） を説明できる。伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛嚢炎、ハンセン病						
８）感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
９）以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等						
10）以下の全身性細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症						
【④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】						
１）ヘルペスウイルス感染症（単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		化学療法学2				
２）サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
３）インフルエンザについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
４）ウイルス性肝炎（HAV、HBV、HCV）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理（急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん）、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。（重複）				薬物治療学6		
５）後天性免疫不全症候群（AIDS）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬物治療学4			
６）以下のウイルス感染症（プリオン病を含む）について、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。伝染性紅斑（リンゴ病）、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob（クロイツフェルト-ヤコブ）病						
【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】						
１）抗真菌薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		化学療法学1				
２）以下の真菌感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症						
【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】						
１）以下の原虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢		化学療法学2		薬物治療学6		
２）以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。回虫症、蟯虫症、アニサキス症						
【⑦悪性腫瘍】						
１）腫瘍の定義（良性腫瘍と悪性腫瘍の違い）を説明できる。		化学療法学2				
２）悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査（細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー（腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む））、悪性腫瘍の疫学（がん罹患の現状およびがん死亡の現状）、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因						
３）悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】						
１）以下の抗悪性腫瘍薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬		化学療法学2	化学療法学3			
２）抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。						
３）抗悪性腫瘍薬の主な副作用（下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害（手足症候群を含む）、血小板減少等）の軽減のための対処法を説明できる。						
４）代表的ながん化学療法のレジメン（FOLFOX等）について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。		化学療法学2				
５）以下の白血病について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。急性（慢性）骨髄性白血病、急性（慢性）リンパ性白血病、成人T細胞白血病（ATL）			化学療法学3 薬物治療学2			
６）悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
７）骨肉腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬物治療学5			
８）以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌		化学療法学2	化学療法学3	薬物治療学6		
９）肺癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			化学療法学3 薬物治療学4			
10）以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍		化学療法学2				
11）以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。前立腺癌、子宮癌、卵巣癌			化学療法学3 薬物治療学3			
12）腎・尿路系の悪性腫瘍（腎癌、膀胱癌）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			化学療法学3			
13）乳癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			化学療法学3 薬物治療学4			
【⑨がん終末期医療と緩和ケア】						
１）がん終末期の病態（病態生理、症状等）と治療を説明できる。			薬物治療学3			
２）がん性疼痛の病態（病態生理、症状等）と薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
【⑩化学構造と薬効】						
１）病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。		化学療法学2	化学療法学3			
（８）バイオ・細胞医薬品とゲノム情報						
【①組換え体医薬品】						
１）組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報			
２）代表的な組換え体医薬品を列挙できる。						
３）組換え体医薬品の安全性について概説できる。						
【②遺伝子治療】						
１）遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）			バイオ医薬品とゲノム情報			
【③細胞、組織を利用した移植医療】						
１）移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）			バイオ医薬品とゲノム情報			
２）摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。						
３）臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。						
４）胚性幹細胞（ES細胞）、人工多能性幹細胞（iPS細胞）を用いた細胞移植医療について概説できる。						
（９）要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
１）地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。			地域における薬局と薬剤師			
２）要指導医薬品および一般用医薬品（リスクの程度に応じた区分（第一類、第二類、第三類）も含む）について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。						
３）代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。						
４）要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。（技能）				実務実習事前学習(実習)		
５）以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病　等			地域における薬局と薬剤師			
６）主な養生法（運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む）とその健康の保持・促進における意義を説明できる。						
７）要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。						
８）要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。（技能）				実務実習事前学習(実習)		
(10) 医療の中の漢方薬						
【①漢方薬の基礎】						
１）漢方の特徴について概説できる。			漢方概論			
２）以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証						
３）配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。						
４）漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などとの相違について説明できる。						
【②漢方薬の応用】						
１）漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。			漢方概論			
２）日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。						
３）現代医療における漢方薬の役割について説明できる。						
【③漢方薬の注意点】						
１）漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。			漢方概論			
(11) 薬物治療の最適化						
【①総合演習】						
１）代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。（知識・態度）				実務実習事前学習(実習)		
２）過剰量の医薬品による副作用への対応（解毒薬を含む）を討議する。（知識・態度）						
３）長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。（知識・態度）						
E3 薬物治療に役立つ情報						
（１）医薬品情報						
【①情報】						
１）医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。			医薬品情報学I			
２）医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。						
３）医薬品（後発医薬品等を含む）の開発過程で行われる試験（非臨床試験、臨床試験、安定性試験等）と得られる医薬品情報について概説できる。						
４）医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。						
５）医薬品情報に関係する代表的な法律・制度（「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など）とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。			医薬品情報学I 薬事関係法規I			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【②情報源】						
１）医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。			医薬品情報学1			
２）医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。						
３）厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。						
４）医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけについて説明できる。						
５）医薬品添付文書（医療用、一般用）の記載項目（警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など）を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。						
６）医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。						
【③収集・評価・加工・提供・管理】						
１）目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）				実務実習事前学習(実習)		
２）MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。（知識・技能）			医薬品情報学1			
３）医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。						
４）臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。（技能）				実務実習事前学習(実習)		
５）医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点（知的所有権、守秘義務など）について説明できる。			医薬品情報学1			
【④EBM（Evidence-based Medicine）】						
１）EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。			医薬品情報学2			
２）代表的な臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など）の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。			医薬品情報学2 医薬品の開発と規制 薬事関係法規1			
３）臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性（研究結果の正確度や再現性）と外的妥当性（研究結果の一般化の可能性）について概説できる。 （E3（1）【③収集・評価・加 工・提供・管理】参照）			医薬品情報学2			
４）メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。						
【⑤生物統計】						
１）臨床研究における基本的な統計量（平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など）の意味と違いを説明できる。			医薬統計学			
２）帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。						
３）代表的な分布（正規分布、ｔ分布、二項分布、ポアソン分布、χ^2分布、F分布）について概説できる。						
４）主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。						
５）二群間の差の検定（ｔ検定、χ^2検定など）を実施できる。（技能）				実務実習事前学習(実習)		
６）主な回帰分析（直線回帰、ロジスティック回帰など）と相関係数の検定について概説できる。						
７）基本的な生存時間解析法（カプラン・マイヤー曲線など）について概説できる。						
【⑥臨床研究デザインと解析】						
１）臨床研究（治験を含む）の代表的な手法（介入研究、観察研究）を列挙し、それらの特徴を概説できる。			医薬品情報学2 医薬品の開発と規制			
２）臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。						
３）観察研究での主な疫学研究デザイン（症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など）について概説できる。						
４）副作用の因果関係を評価するための方法（副作用判定アルゴリズムなど）について概説できる。			医薬品情報学2			
５）優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。			医薬品情報学2 医療統計学			
６）介入研究の計画上の技法（症例数設定、ランダム化、盲検化など）について概説できる。			医薬品情報学2 医薬品の開発と規制			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
７）統計解析時の注意点について概説できる。			医薬品情報学2 医薬品の開発と規制			
８）介入研究の効果指標（真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント）の違いを、例を挙げて説明できる。						
９）臨床研究の結果（有効性、安全性）の主なパラメータ（相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合）を説明し、計算できる。（知識・技能）				実務実習事前学習(実習)		
【⑦医薬品の比較・評価】						
１）病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。			医薬品情報学2			
２）医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。（技能）						
３）医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。（技能）				実務実習事前学習(実習)		
（２）患者情報						
【①情報と情報源】						
１）薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。			医薬品情報学2			
２）患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。						
【②収集・評価・管理】						
１）問題志向型システム（POS）を説明できる。			医薬品情報学2			
２）SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。						
３）医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。						
４）患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。（A（2）【③患者の権利】参照）						
（３）個別化医療						
【①遺伝的素因】						
１）薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。				個別化医療		
２）薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因（薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など）について、例を挙げて説明できる。						
３）遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。						
【②年齢的要因】						
１）低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				個別化医療		
２）高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				個別化医療 老年薬学		
【③臓器機能低下】						
１）腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			薬物動態学2 薬剤学実習	老年薬学		
２）肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。		薬物動態学1				
３）心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			薬剤学実習	個別化医療		
【④その他の要因】						
１）薬物の効果に影響する生理的要因（性差、閉経、日内変動など）を列挙できる。				個別化医療		
２）妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
３）栄養状態の異なる患者（肥満、低アルブミン血症、腹水など）における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【⑤個別化医療の計画・立案】						
１）個別の患者情報（遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など）と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。（技能）				個別化医療 実務実習事前学習(実習)		
２）コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。				個別化医療		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
E4 薬の生体内運命						
（１）薬物の体内動態						
【①生体膜透過】						
１）薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。		薬物動態学1				
２）薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。						
【②吸収】						
１）経口投与された薬物の吸収について説明できる。		薬物動態学1				
２）非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。						
３）薬物の吸収に影響する因子（薬物の物性、生理学的要因など）を列挙し、説明できる。						
４）薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。						
５）初回通過効果について説明できる。						
【③分布】						
１）薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。		薬物動態学1				
２）薬物の組織移行性（分布容積）と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。						
３）薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。						
４）血液－組織関門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。						
５）薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。						
６）薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。						
【④代謝】						
１）代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。		薬物動態学1				
２）薬物代謝の第Ⅰ相反応（酸化・還元・加水分解）、第Ⅱ相反応（抱合）について、例を挙げて説明できる。						
３）代表的な薬物代謝酵素（分子種）により代謝される薬物を列挙できる。						
４）プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。						
５）薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。						
【⑤排泄】						
１）薬物の尿中排泄機構について説明できる。		薬物動態学1				
２）腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。						
３）代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。						
４）薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。						
５）薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。						
（２）薬物動態の解析						
【①薬物速度論】						
１）線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ（全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など）の概念を説明できる。			薬物動態学2			
２）線形１－コンパートメントモデルに基づいた解析ができる（急速静注・経口投与［単回および反復投与］、定速静注）。（知識、技能）			薬物動態学2 薬剤学実習			
３）体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。（知識、技能）						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
４）モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。			薬物動態学2			
５）組織クリアランス（肝、腎）および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。		薬物動態学1				
６）薬物動態学－薬力学解析（PK-PD解析）について概説できる。			薬物動態学2			
【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring)と投与設計】						
１）治療薬物モニタリング（TDM）の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。			薬物動態学2			
２）TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。						
３）薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。（知識、技能）				実務実習事前学習(実習)		
４）ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。						
E5 製剤化のサイエンス						
（１）製剤の性質						
【①固形材料】						
１）粉体の性質について説明できる。			製剤学1			
２）結晶（安定形および準安定形）や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。						
３）固形材料の溶解現象（溶解度、溶解平衡など）や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。（C2（2）【①酸・塩基平衡】1.及び【②各種の化学平衡】2.参照）						
４）固形材料の溶解に影響を及ぼす因子（pHや温度など）について説明できる。						
５）固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。						
【②半固形・液状材料】						
１）流動と変形（レオロジー）について説明できる。			製剤学1			
２）高分子の構造と高分子溶液の性質（粘度など）について説明できる。						
【③分散系材料】						
１）界面の性質（界面張力、分配平衡、吸着など）や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。（C2（2）【②各種の化学平衡】4.参照）			製剤学1			
２）代表的な分散系（分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など）を列挙し、その性質について説明できる。						
３）分散した粒子の安定性と分離現象（沈降など）について説明できる。						
４）分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。						
【④薬物及び製剤材料の物性】						
１）製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。			製剤学1			
２）薬物の安定性（反応速度、複合反応など）や安定性に影響を及ぼす因子（pH、温度など）について説明できる。（C1（3）【①反応速度】1.～7.参照）						
３）薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。						
（２）製剤設計						
【①代表的な製剤】						
１）製剤化の概要と意義について説明できる。			製剤学2			
２）経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。						
３）粘膜に適用する製剤（点眼剤、吸入剤など）の種類とその特性について説明できる。						
４）注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。						
５）皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。						
６）その他の製剤（生薬関連製剤、透析に用いる製剤など）の種類と特性について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
【②製剤化と製剤試験法】						
１）代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。			製剤学2			
２）製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。						
３）汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。						
４）製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。						
【③生物学的同等性】						
１）製剤の特性（適用部位、製剤からの薬物の放出性など）を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。			製剤学2			
（３）DDS (Drug Delivery System：薬物送達システム)						
【①DDS の必要性】						
１）DDSの概念と有用性について説明できる。				個別化医療		
２）代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。（プロドラッグについては、E4(1)【④代謝】4.も参照）						
【②コントロールドリリース（放出制御）】						
１）コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。				個別化医療		
２）投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。						
３）コントロールドリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。						
【③ターゲティング（標的指向化）】						
１）ターゲティングの概要と意義について説明できる。				個別化医療		
２）投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。						
３）ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。						
【④吸収改善】						
１）吸収改善の概要と意義について説明できる。				個別化医療		
２）投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。						
３）吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。						
F　薬学臨床						
前）：病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項						
（１）薬学臨床の基礎						
【①早期臨床体験】 ※原則として 2年次修了までに学習する事項						
１）患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。（知識・態度）	早期体験学習(薬学科)					
２）地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。（知識・態度）						
３）一次救命処置（心肺蘇生、外傷対応等）を説明し、シミュレータを用いて実施できる。（知識・技能）						
【②臨床における心構え】〔Ａ（１）、（２）参照〕						
１）前）医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。（態度）			実務実習事前学習1	実務実習事前学習(実習)		
２）前）患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。（態度）						
３）前）患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。（態度）						
４）医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。（態度）					実務実習	
５）患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。（態度）						
６）薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。（態度）						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
７）職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。（態度）					実務実習	
【③臨床実習の基礎】						
１）前）病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。			実務実習事前学習1			
２）前）病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。						
３）前）病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。						
４）前）病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。				実務実習事前学習4		
５）前）薬剤師の関わる社会保障制度（医療、福祉、介護）の概略を説明できる。〔Ｂ（３）①参照〕						
６）病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。					実務実習	
７）代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。						
８）入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。（態度）						
９）急性期医療（救急医療・集中治療・外傷治療等）や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。				実務実習事前学習4		
10）周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。						
11）終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。				実務実習事前学習4		
12）外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。						
13）保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。						
14）薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。						
15）来局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。（知識・態度）						
（２）処方せんに基づく調剤						
【①法令・規則等の理解と遵守】〔Ｂ（２）、（３）参照〕						
１）前）調剤業務に関わる事項（処方せん、調剤録、疑義照会等）の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。			実務実習事前学習1			
２）調剤業務に関わる法的文書（処方せん、調剤録等）の適切な記載と保存・管理ができる。（知識・技能）					実務実習	
３）法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。（技能・態度）						
４）保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。						
【②処方せんと疑義照会】						
１）前）代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。			実務実習事前学習1	実務実習事前学習4		
２）前）処方オーダリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。						
３）前）処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。						
４）前）処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。						
５）前）処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。						
６）前）処方せん等に基づき疑義照会ができる。（技能・態度）				実務実習事前学習（実習）		
７）処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）					実務実習	
８）注射薬処方せんの記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）						
９）処方せんの正しい記載方法を例示できる。（技能）				実務実習事前学習（実習）		
10）薬歴、診療録、患者の状態から処方が妥当であるか判断できる。（知識・技能）						
11）薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。（技能・態度）						
【③処方せんに基づく医薬品の調製】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
１）前）薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。（技能）			実務実習事前学習1	実務実習事前学習(実習)		
２）前）主な医薬品の成分（一般名）、商標名、剤形、規格等を列挙できる。						
３）前）処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。（技能）				実務実習事前学習(実習)		
４）前）後発医薬品選択の手順を説明できる。						
５）前）代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。						
６）前）無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）				実務実習事前学習(実習)		
７）前）抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的手技を実施できる。（技能）						
８）前）処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。（知識・技能）						
９）主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。（技能）					実務実習	
10）適切な手順で後発医薬品を選択できる。（知識・技能）						
11）処方せんに従って計数・計量調剤ができる。（技能）						
12）錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能）						
13）一回量(一包化）調剤の必要性を判断し、実施できる。（知識・技能）						
14）注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。（技能）						
15）注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。			実務実習事前学習1			
16）注射剤（高カロリー輸液等）の無菌的混合操作を実施できる。（技能）						
17）抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。（知識・技能）			実務実習事前学習1			
18）特別な注意を要する医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等）の調剤と適切な取扱いができる。（知識・技能）						
19）調製された薬剤に対して、監査が実施できる。（知識・技能）			実務実習事前学習1			
【④患者・来局者応対、服薬指導、患者教育】						
１）前）適切な態度で、患者・来局者と応対できる。（態度）				実務実習事前学習(実習)		
２）前）妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの応対や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。			実務実習事前学習2	実務実習事前学習4		
３）前）患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）				実務実習事前学習(実習)		
４）前）患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。（技能・態度）						
５）前）代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。				実務実習事前学習4		
６）前）患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い方法を説明できる。（技能・態度）			実務実習事前学習2	実務実習事前学習(実習)		
７）前）薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。						
８）前）代表的な疾患の症例についての患者応対の内容を適切に記録できる。（技能）				実務実習事前学習(実習)		
９）患者・来局者に合わせて適切な応対ができる。（態度）					実務実習	
10）患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）			実務実習事前学習2	実務実習事前学習5		
11）医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。（知識・態度）						
12）患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。（知識・態度）						
13）妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な応対ができる。（知識・態度）						
14）お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。（態度）				実務実習事前学習(実習)		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
15）収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。（知識・技能）			実務実習事前学習2		実務実習	
【⑤医薬品の供給と管理】						
１）前）医薬品管理の意義と必要性について説明できる。			実務実習事前学習1			
２）前）医薬品管理の流れを概説できる。						
３）前）劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。				実務実習事前学習(実習)		
４）前）特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。						
５）前）代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。			実務実習事前学習3			
６）前）院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。			実務実習事前学習1			
７）前）薬局製剤・漢方製剤について概説できる。						
８）前）医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。						
９）医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。（知識・技能）					実務実習	
10）医薬品の適切な在庫管理を実施する。（知識・技能）						
11）医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。						
12）劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。（知識・技能）						
13）特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。（知識・技能）						
【⑥安全管理】						
１）前）処方から服薬（投薬）までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。			実務実習事前学習3			
２）前）特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる。				実務実習事前学習(実習)		
３）前）代表的なインシデント（ヒヤリハット）、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。（知識・態度）						
４）前）感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。						
５）前）衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。（技能）				実務実習事前学習(実習)		
６）前）代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。						
７）前）医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。						
８）特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の安全管理を体験する。（知識・技能・態度）					実務実習	
９）調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。			実務実習事前学習3			
10）施設内のインシデント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。（知識・態度）						
11）施設内の安全管理指針を遵守する。（態度）						
12）施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。（技能）						
13）臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。（技能・態度）						
14）院内での感染対策（予防、蔓延防止など）について具体的な提案ができる。（知識・態度）						
（３）薬物療法の実践						
【①患者情報の把握】						
１）前）基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。			実務実習事前学習2			
２）前）患者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度）［Ｅ３（２）①参照］				実務実習事前学習5 実務実習事前学習(実習)		
３）前）身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。				実務実習事前学習5		
４）前）基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。（知識・技能）				実務実習事前学習5 実務実習事前学習(実習)		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
５）基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。（知識・態度）			実務実習事前学習2		実務実習	
６）患者・来局者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度）						
７）患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。（技能・態度）						
【②医薬品情報の収集と活用】〔Ｅ３（１）参照〕						
１）前）薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。（知識・技能）				実務実習事前学習(実習)		
２）施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。（知識・技能）					実務実習	
３）薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。（知識・技能）						
４）医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。（知識・態度）			実務実習事前学習2			
５）安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。（知識・技能）						
６）緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。（知識・態度）			実務実習事前学習3			
【③処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】						
１）前）代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。			実務実習事前学習1	実務実習事前学習4		
２）前）病態（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。						
３）前）患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。			実務実習事前学習1 実務実習事前学習2			
４）前）皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。			実務実習事前学習1			
５）前）代表的な輸液の種類と適応を説明できる。						
６）前）患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。				実務実習事前学習4		
７）代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。					実務実習	
８）治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる。						
９）患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤的性質等）に基づき、適切な処方を提案できる。（知識・態度）			実務実習事前学習1			
10）処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコールやクリニカルパスを活用できる。（知識・態度）						
11）入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。（知識・態度）						
12）アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。（知識・態度）			実務実習事前学習1			
13）処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。						
14）処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。（知識・態度）						
【④処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】						
１）前）代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。			実務実習事前学習3	実務実習事前学習4		
２）前）代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。（知識・技能）				実務実習事前学習4 実務実習事前学習(実習)		
３）前）代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。（知識・技能）						
４）医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。（知識・態度）					実務実習	
５）薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定の提案ができる。（知識・態度）						
６）薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。（知識・技能）						
７）臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。						
８）薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。						
９）副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。						

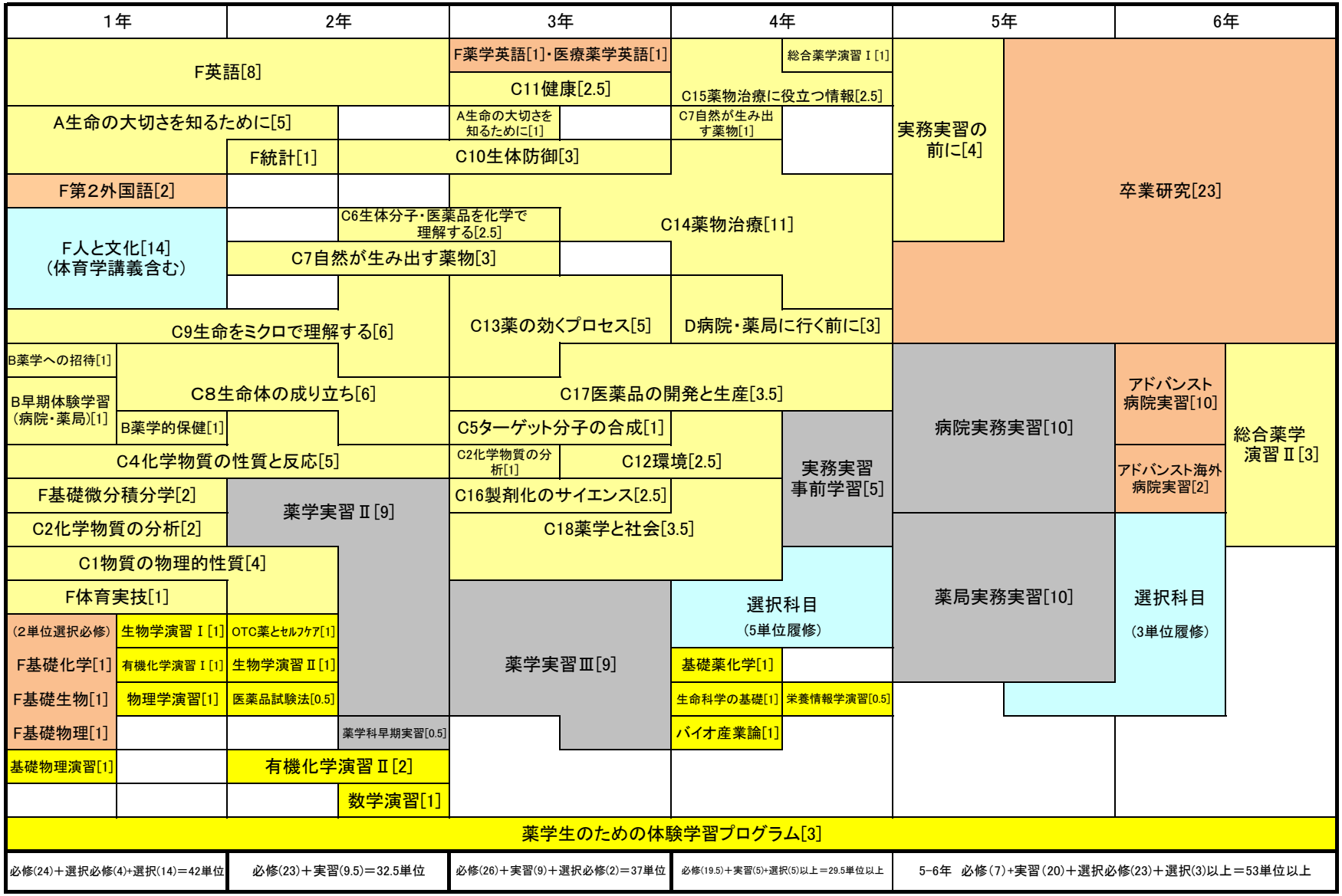
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
10）薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。（知識・態度）					実務実習	
11）報告に必要な要素（5W1H）に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。（技能）						
12）患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。（知識・技能）						
13）医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。（知識・技能）						
（４）チーム医療への参画 〔Ａ（４）参照〕						
【①医療機関におけるチーム医療】						
１）前）チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。				実務実習事前学習4		
２）前）多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。						
３）前）病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。						
４）薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。（態度）					実務実習	
５）医師・看護師等の他職種と患者の状態（病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等）、治療開始後の変化（治療効果、副作用、心理状態、QOL等）の情報を共有する。（知識・態度）						
６）医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議（カンファレンスや患者回診への参加等）する。（知識・態度）						
７）医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。（知識・態度）						
８）医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。（知識・態度）						
９）病院内の多様な医療チーム（ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等）の活動に薬剤師の立場で参加できる。（知識・態度）				実務実習事前学習4		
【②地域におけるチーム医療】						
１）前）地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）およびその意義について説明できる。				実務実習事前学習5		
２）前）地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。（知識・態度）				老年薬学 実務実習事前学習5		
３）地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。（知識・態度）					実務実習	
４）地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。（技能・態度）						
（５）地域の保健・医療・福祉への参画 〔Ｂ（４）参照〕						
【①在宅（訪問）医療・介護への参画】						
１）前）在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。				実務実習事前学習5		
２）前）在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。						
３）前）在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。						
４）在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務（訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務）を体験する。（知識・態度）					実務実習	
５）地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。（知識・態度）						
６）在宅患者の病状（症状、疾患と重症度、栄養状態等）とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。（知識・態度）						
【②地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画】						
１）前）地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等）について説明できる。				実務実習事前学習5		
２）前）公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。						
３）学校薬剤師の業務を体験する。（知識・技能）					実務実習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該　当　科　目					
	１年	２年	３年	４年	５年	６年
４）地域住民の衛生管理（消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等）における薬剤師活動を体験する。（知識・技能）					実務実習	
【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】〔Ｅ２（９）参照〕						
１）前）現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。（態度）				実務実習事前学習5 実務実習事前学習(実習)		
２）前）代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。（知識・態度）						
３）前）代表的な症候に対する薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。（技能・態度）						
４）前）代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。（知識・態度）						
５）薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。（技能・態度）					実務実習	
６）来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状（疾患、重症度等）や体調を推測できる。（知識・態度）						
７）来局者に対して、病状に合わせた適切な対応（医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等）を選択できる。（知識・態度）						
８）選択した薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点などを来局者に適切に判りやすく説明できる。（知識・態度）						
９）疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。（知識・態度）						
【④災害時医療と薬剤師】						
１）前）災害時医療について概説できる。				実務実習事前学習5		
２）災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。					実務実習	
３）災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。（態度）						
G　薬学研究						
（１）薬学における研究の位置づけ						
１）基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。					卒業研究1(薬学科)	
２）研究には自立性と独創性が求められていることを知る。						
３）現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。（知識・技能・態度）						
４）新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。（態度）						
（２）研究に必要な法規範と倫理						
１）自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。					卒業研究1(薬学科)	
２）研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。						
３）正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度）A-(2)-④-3再掲						
（３）研究の実践						
１）研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。（知識・技能）					卒業研究1(薬学科)	
２）課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。（知識・技能）						
３）研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。（技能・態度）						
４）研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。（知識・技能・態度）						
５）研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。（知識・技能・態度）						
６）研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。（技能）						

［大学追記］「実務実習事前学習(実習)」「実務実習」「卒業研究1」は、複数学年にまたがる科目であるため、そのうち最も主要な学年を記載した。

（基礎資料４a）カリキュラム・マップ（旧カリキュラム）

「薬学科」６年間のカリキュラム



・卒業必要単位数194単位　　・[ ]内単位数

［注］　1　任意（大学独自）の様式で、カリキュラムマップを作成してください。また、シラバス等に提示しているカリキュラム・マップの転記でも結構です。

2　図は、カラーでも白黒でもどちらでも結構です。

（基礎資料４ｂ）カリキュラム・マップ（新カリキュラム）

「薬学科」６年間のカリキュラム

・( ) 内は単位数を表します。(　)のない科目は1単位の科目になります。
・学期の「1」は春学期前半、「2」は春学期後半、「3」は秋学期前半、「4」は秋学期後半になります。

年次	1年次		2年次				3年次				4年次				5年次				6年次			
学期	春学期	秋学期	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
必修科目(講義)	薬学研究のための コミュニケーションスキル1A/1B(2)	薬学研究のための コミュニケーションスキル2A/2B(2)	科学と社会 A/B/C/D		科学と社会 A/B/C/D	科学と社会 A/B/C/D	科学と社会 A/B/C/D		医療・薬剤師倫理	日本薬局方	薬事関係法規2		英語演習(薬学科)(2)							薬学演習		
	物理化学1(2)	数学(2)	物理化学2		物理化学3	物理分析学	製剤学1		社会保障制度	地域における薬局と薬剤師	老年薬学		卒業研究1(薬学科)(18)							卒業研究2A(薬学科)(9)		
	有機化学1(2)	有機化学2(2)	有機化学3		有機化学4	薬物動態学1	薬物動態学2		製剤学2	薬物治療学4	薬物治療学6											
	細胞の機能と構成分子(2)	分析化学(2)	生物有機化学 −生体分子の化学構造−		生物有機化学 −生体分子の化学反応−	医薬品化学1	医薬品化学2		薬物治療学2	薬物治療学5	実務実習事前学習4(2)									卒業研究2B(薬学科)(6)		
	生命倫理	機能生理学1(2)	機能生理学2		天然物化学	生薬学1	生薬学2		薬物治療学3	バイオ医薬品とゲノム情報												
	情報・コミュニケーション論	実験法概論(2)	代謝生化学		栄養と健康	公衆衛生と予防薬学	化学物質の生体影響		医薬統計学	漢方概論	実務実習事前学習5									卒業研究2C(薬学科)(3)		
	薬学への招待		微生物学		化学療法学1	化学療法学2	化学療法学3		環境科学	実務実習事前学習3	個別化医療								総合薬学演習2(3)		※3 総合薬学演習4(3)	
			免疫学1		薬理学1	薬理学2	薬理学3		医薬品情報学1				実務実習(20)						総合薬学演習3(3)			
			生化学1		生化学2	免疫学2	薬事関係法規1		医薬品情報学2										※1※4 海外アドバンスト実習(3)			
							薬物治療学1		医薬品の開発と規制										※2 国内アドバンスト実習(6)			
									実務実習事前学習1(2)													
									実務実習事前学習2													
必修科目(実習)	早期体験学習(薬学科)	薬学基礎実習(2)	有機化学実習(2)		生薬学実習(2)	微生物学実習(1.5)	薬理学実習(1.5)			実務実習事前学習(実習)(8)			実務実習事前学習(実習)									
			医薬品化学実習(1.5)		生化学実習(1.5)	衛生化学実習(1.5)	薬剤学実習(1.5)															
選択科目 1年次: 1年次科目で18単位以上 2〜6年次: 18単位以上	第二外国語1(2)	第二外国語2(2)		有機化学演習2			精密有機合成	天然薬物学	医療人のためのプレゼンテーションスキル1A/1B	医療人のためのプレゼンテーションスキル2A/2B		フィジカルアセスメントと画像検査	総合薬学演習1				Introduction to overseas clinical rotation(1.5)	Case Study Practice(1.5)	疫学・臨床研究演習			
	基礎数学(2)			心理学概論				病態生化学				薬剤疫学							漢方医薬学			
	基礎物理学(2)			アドバンスト情報科学				医薬品製造化学				臨床物理薬剤・製剤							医療人としての倫理(0.5)			
	基礎生物学(2)							アプライド薬物動態学				レギュラトリーサイエンス										
	体育実技	体育実技						バイオ産業論				薬剤経済学(0.5)										
	一般教養(日吉共通科目および体育学講義)							医薬分子設計化学				EBMの実践(0.5)										
		多職種連携体験学習(0.5) / リハビリ体験学習(0.5)						社会調査法及び疫学方法														
								香粧品・皮膚科学(0.5)														
								栄養情報学演習(0.5)														
								健康食品学(0.5)														
自由科目	薬化学演習	有機化学演習1(2)											化学系薬学演習									
													生物系薬学演習									
			知的障がい者との交流から学ぶ(0.5)																			
			地域住民の健康サポート体験学習(0.5)																			
必修(152単位)	26単位		37単位				33単位				15単位 ＋ 4 〜 6年次〔必修 41 単位〕											
選択(36単位)	選択18単位		2 〜 6年次〔選択必修9単位、選択9単位〕　上位学年の選択科目は履修できません																			

※1　海外アドバンスト実習を履修する者は，卒業研究2Bを履修する
※2　国内アドバンスト実習を履修する者は，卒業研究2Cを履修する
※3　総合薬学演習4を履修する者は，総合薬学演習2，総合薬学演習3，卒業研究2B，卒業研究2Cの中から，6単位を履修する
※4　海外アドバンスト実習を履修する者は，Introduction to overseas clinical rotation，Case Study Practice を履修する

卒業必要単位数　188単位

［注］　1　任意（大学独自）の様式で、カリキュラムマップを作成してください。また、シラバス等に提示している
カリキュラム・マップの転記でも結構です。
2　図は、カラーでも白黒でもどちらでも結構です。

（基礎資料５）語学教育の要素

旧カリキュラム

科目名	開講年次	要素			
		読み	書き	聞く	話す
F(2)英語Ⅰ	1	○			
F(2)科学英語ⅠＡ	1	○	○	○	○
F(2)科学英語ⅠＢ	1	○		○	○
F(2)科学英語ⅠＣ	1	○			
(択必)ドイツ語	1	○			
(択必)フランス語	1	○			
(択必)スペイン語	1	○			
(択必)中国語	1	○			
(択必)韓国語	1	○			
F(2)英語Ⅱ	2	○		○	○
F(2)科学英語ⅡＡ	2	○	○	○	○
F(2)科学英語ⅡＢ	2	○		○	○
F(2)科学英語ⅡＣ	2	○	○		
(択必)薬学英語Ａ	3	○			
(択必)薬学英語Ｂ	3	○			
(択必)薬学英語Ｃ	3	○	○	○	○
(択必)薬学英語Ｄ	3	○	○	○	○
(択必)医療薬学英語Ａ	3	○	○		
(択必)医療薬学英語Ｂ	3	○	○		
(択必)医療薬学英語Ｃ	3	○	○	○	○
(択必)医療薬学英語Ｄ	3	○	○	○	○
(択)薬学英語演習Ａ～Ｕ	5～6	○			
(択)Introduction to overseas clinical rotation	5	○	○	○	○
(択)Case Study Practice	6	○		○	○

新カリキュラム

科目名	開講年次	要素			
		読み	書き	聞く	話す
薬学研究のためのコミュニケーションスキル１Ａ/１Ｂ	1	○	○	○	○
薬学研究のためのコミュニケーションスキル２Ａ/２Ｂ	1	○	○	○	○
(択)ドイツ語１	1	○			
(択)ドイツ語２	1	○			
(択)フランス語１	1	○			
(択)フランス語２	1	○			
(択)スペイン語１	1	○			
(択)スペイン語２	1	○			
(択)中国語１	1	○			
(択)中国語２	1	○			
(択)韓国語１	1	○			
(択)韓国語２	1	○			
科学と社会Ａ	2～3	○	○	○	○
科学と社会Ｂ	2～3	○		○	○
科学と社会Ｃ	2～3	○	○		
科学と社会Ｄ	2～3	○		○	○
(択)医療人のためのプレゼンテーションスキル１Ａ/１Ｂ	3	○	○	○	○
(択)医療人のためのプレゼンテーションスキル２Ａ/２Ｂ	3	○	○	○	○
(択)英語演習(薬学科)Ａ～Ｕ	4～6	○			
(択)Introduction to overseas clinical rotation	5	○	○	○	○
(択)Case Study Practice	6	○		○	○

［注］ 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

［大学追記］(a) 選択必修科目、選択科目については、それぞれ頭に「(択必)」「(択)」と記した。

(b) 旧カリキュラムの第二外国語、薬学英語、医療薬学英語は、それぞれ1科目を履修する。

(c) 旧カリキュラムの薬学英語演習、新カリキュラムの英語演習(薬学科)は、1科目を履修する。

（基礎資料６）４年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成27年4月							
	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月						
	火						
	水	1日					
	木	2日					
	金	3日	ガイダンス				
第２週	月	6日					
	火	7日				S101･103講義	
	水	8日					
	木	9日					
	金	10日					
第３週	月	13日		S102･107講義			
	火	14日				S104･105講義	
	水	15日					
	木	16日					
	金	17日					
第４週	月	20日		S201･202･203･204講義			
	火	21日				S210･211･303講義	
	水	22日					
	木	23日					
	金	24日					
第５週	月	27日		S205･206講義			
	火	28日				S207･208講義	
	水	29日	祝日				
	木	30日					
	金						

［注］　１　４年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

２　大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

３　**上記１の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。**

平成27年5月							
	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月						
	火						
	水						
	木						
	金	1日					
第２週	月	4日	祝日				
	火	5日	祝日				
	水	6日	祝日				
	木	7日					
	金	8日					
第３週	月	11日		S301･305講義			
	火	12日				S408･411講義	
	水	13日					
	木	14日					
	金	15日					
第４週	月	18日		S411･412講義			
	火	19日				S413講義	
	水	20日					
	木	21日					
	金	22日					
第５週	月	25日		S414･503講義			
	火	26日				S501･502･506･507講義	
	水	27日					
	木	28日					
	金	29日					

平成27年6月							
	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月	1日		S209･601･602講義			
	火	2日					
	水	3日					
	木	4日					
	金	5日					
第２週	月	8日		S604･605講義			
	火	9日				S604･605講義	
	水	10日					
	木	11日					
	金	12日					
第３週	月	15日					
	火	16日					
	水	17日					
	木	18日					
	金	19日					
第４週	月	22日					
	火	23日					
	水	24日					
	木	25日					
	金	26日					
第５週	月	29日					
	火	30日					
	水						
	木						
	金						

平成27年7月							
	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月						
	火						
	水	1日					
	木	2日					
	金	3日					
第２週	月	6日					
	火	7日					
	水	8日					
	木	9日			定期試験D1A		
	金	10日					
第３週	月	13日					
	火	14日					
	水	15日					
	木	16日					
	金	17日					
第４週	月	20日	祝日				
	火	21日					
	水	22日					
	木	23日					
	金	24日					
第５週	月	27日					
	火	28日					
	水	29日					
	木	30日					
	金	31日					

平成27年9月							
	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月						
	火	1日					
	水	2日			実習説明	実習説明	
	木	3日			S602･605実習	S602･605実習	S602･605実習
	金	4日			C15(1)4演習	C15(1)4演習	C15(1)4演習
第２週	月	7日					
	火	8日		S209講義	C15(1)4演習	C15(1)4演習	C15(1)4演習
	水	9日			C14(1)実習	C14(1)実習	C14(1)実習
	木	10日			C15(2)実習	C15(2)実習	C15(2)実習
	金	11日			S411･503実習	S411･503実習	S411･503実習
第３週	月	14日		S401･402･404講義			
	火	15日		S602･605講義	C15(1)4実習	C15(1)4実習	C15(1)4実習
	水	16日			C14(2)演習	C14(2)演習	C14(2)演習
	木	17日			S203･204･211･306･605 演習	S203･204･211･306･605 演習	S203･204･211･306･605 演習
	金	18日					
第４週	月	21日	祝日				
	火	22日	祝日				
	水	23日	祝日				
	木	24日			S306実習	S306実習	S306実習
	金	25日					
第５週	月	28日		S403･405講義	S410実習	S410実習	S410実習
	火	29日		S605講義			
	水	30日					
	木				C15(1)5実習	C15(1)5実習	C15(1)5実習
	金						

［大学追記］演習・実習は、1～24班に分割して実施している。この表には、1班のスケジュールを記載した。
実務実習モデル・コアカリキュラム以外の項目については、関連するSBOsを記載した。

平成27年10月							
	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月						
	火						
	水						
	木	1日			S210･411･302実習	S210･411･302実習	S210･411･302実習
	金	2日			C15(1)5実習	C15(1)5実習	C15(1)5実習
第２週	月	5日		S407講義	C14(3)演習	C14(3)演習	C14(3)演習
	火	6日		S605講義			
	水	7日			S210･211･302実習	S210･211･302実習	S210･211･302実習
	木	8日					
	金	9日			S411･302実習	S411･302実習	S411･302実習
第３週	月	12日	祝日				
	火	13日		S605講義	S603･605･606演習	S603･605･606演習	S603･605･606演習
	水	14日			S411実習	S411実習	S411実習
	木	15日			C13(5)2演習	C13(5)2演習	C13(5)2演習
	金	16日			S101･C18(3)3実習	S101･C18(3)3実習	S101･C18(3)3実習
		17・18日	学祭				
第４週	月	19日		S409講義			
	火	20日			S210･211･302実習	S210･211･302実習	S210･211･302実習
	水	21日					
	木	22日			S603･605･606実習	S603･605･606実習	S603･605･606実習
	金	23日			S605･606実習	S605･606実習	S605･606実習
第５週	月	26日		S408講義	S411実習	S411実習	S411実習
	火	27日		S605講義	S406･506･606実習	S406･506･606実習	S406･506･606実習
	水	28日			S606演習	S606演習	S606演習
	木	29日					
	金	30日			S605･606実習	S605･606実習	S605･606実習

平成27年11月							
	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月	2日		S501･502･504講義			
	火	3日					
	水	4日			S103･106演習	S103･106演習	S103･106演習
	木	5日			C18(3)4実習	C18(3)4実習	C18(3)4実習
	金	6日			C18(3)4実習	C18(3)4実習	C18(3)4実習
第２週	月	9日		S211･305講義			
	火	10日		S601講義			
	水	11日			C15(1)6実習	C15(1)6実習	C15(1)6実習
	木	12日			S701実習	S701実習	S701実習
	金	13日					
第３週	月	16日		S605講義			
	火	17日					
	水	18日			S701実習	S701実習	S701実習
	木	19日					
	金	20日					
第４週	月	23日	祝日				
	火	24日			S701実習	S701実習	S701実習
	水	25日			S701･411実習	S701･411実習	S701･411実習
	木	26日			S701実習	S701実習	S701実習
	金	27日			S603・605実習	S603・605実習	S603・605実習
第５週	月	30日					
	火						
	水						
	木						
	金						

平成27年12月							
	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月						
	火	1日			C18(3)4実習	C18(3)4実習	C18(3)4実習
	水	2日					
	木	3日			S701実習	S701実習	S701実習
	金	4日					
		6日	OSCE				
第２週	月	7日					
	火	8日					
	水	9日	定期試験C15(2)				
	木	10日			定期試験D1B		
	金	11日					

５年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成27年4月（5年次）							
	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月						
	火						
	水	1日					
	木	2日					
	金	3日	ガイダンス				
第２週	月	6日					
	火	7日	S205･305講義	S205･305講義	S205･305講義	S205･305講義	
	水	8日	S205･305講義	S205･305講義	S205･305講義	S205･305講義	
	木	9日	S305講義	S305講義	S203･204･602講義	S203･204･602講義	
	金	10日	S305講義	S305講義	S207･602講義	S207･602講義	
第３週	月	13日					
	火	14日	S504講義	S504･505講義	S210･211･506･507講義	S506･507講義	
	水	15日	S504･505講義	S504･505講義	S302･411･412講義	S411講義	
	木	16日	S606講義	S606講義	S104･105講義	S104･105講義	
	金	17日	S606講義	S606講義	S104･105講義	S104･105講義	

［大学追記］実務実習事前学習は、4年次4月に開始し、5年次4月まで行われる。
5年次については、平成27年度の5年次生のスケジュールで示した。

（基礎資料７ａ） 学生受入状況について （薬学科）

	学科名	入試の種類		平成23年度入学（22年度実施）	平成24年度入学（23年度実施）	平成25年度入学（24年度実施）	平成26年度入学（25年度実施）	平成27年度入学（26年度実施）	平成28年度入学（27年度実施）	募集定員数に対する入学者数の比率（６年間の平均）
薬学部	薬学科	一般入試	受験者数	1,677	1,676	1,895	2,010	1,970	1,841	
			合格者数	323	285	280	313	313	339	
			入学者数(A)	150	121	108	113	103	121	
			募集定員数(B)	110	100	100	100	100	100	
			A/B*100(%)	136.4%	121.0%	108.0%	113.0%	103.0%	121.0%	
		大学入試センター入試	受験者数	685						
			合格者数	120						
			入学者数(A)	4						
			募集定員数(B)	10						
			A/B*100(%)	40.0%						
		塾内進学	受験者数	19	16	21	22	23	21	
			合格者数	19	16	21	22	23	21	
			入学者数(A)	19	16	21	22	23	21	
			募集定員数(B)	30	20	20	20	20	20	
			A/B*100(%)	63.3%	80.0%	105.0%	110.0%	115.0%	105.0%	
		推薦入試（指定校）	受験者数		24	31	25	24	27	
			合格者数		24	31	25	24	27	
			入学者数(A)		24	31	25	24	27	
			募集定員数(B)		30	30	30	30	30	
			A/B*100(%)		80.0%	103.3%	83.3%	80.0%	90.0%	
		留学生入試	受験者数	0	0	2	2	2	4	
			合格者数	0	0	1	0	1	1	
			入学者数(A)	0	0	0	0	0	0	
			募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
			A/B*100(%)	－	－	－	－	－	－	
		帰国生入試	受験者数	4	1	2	3	5	1	
			合格者数	0	1	1	0	0	0	
			入学者数(A)	0	1	1	0	0	0	
			募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
			A/B*100(%)	－	－	－	－	－	－	
	薬学科　計		受験者数	2,385	1,717	1,951	2,062	2,024	1,894	
			合格者数	462	326	334	360	361	388	
			入学者数(A)	173	162	161	160	150	169	108.3%
			募集定員数(B)	150	150	150	150	150	150	
			A/B*100(%)	115.3%	108.0%	107.3%	106.7%	100.0%	112.7%	
	薬科学科　計		受験者数	781	644	765	848	803	784	
			合格者数	256	167	193	226	217	224	
			入学者数(A)	74	65	57	67	66	67	110.0%
			募集定員数(B)	60	60	60	60	60	60	
			A/B*100(%)	123.3%	108.3%	95.0%	111.7%	110.0%	111.7%	
薬学部　計			受験者数	3,166	2,361	2,716	2,910	2,827	2,678	
			合格者数	718	493	527	586	578	612	
			入学者数(A)	247	227	218	227	216	236	108.8%
			募集定員数(B)	210	210	210	210	210	210	
			A/B*100(%)	117.6%	108.1%	103.8%	108.1%	102.9%	112.4%	

［注］ １ 「編入学試験」は、この表には記入しないでください。

２ 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。
なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。

３ 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合を算出してください。

４ 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。

５ 各入学（募集）定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。

６ ６年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。

７ 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「（備考）○年次に・・・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名と注を記入してください。

（基礎資料７ｂ）　学生受入状況について　（薬科学科）

	学科名	入試の種類		平成23年度入学（22年度実施）	平成24年度入学（23年度実施）	平成25年度入学（24年度実施）	平成26年度入学（25年度実施）	平成27年度入学（26年度実施）	平成28年度入学（27年度実施）	募集定員数に対する入学者数の比率（６年間の平均）
薬学部	薬科学科	一般入試	受験者数	492	644	762	843	799	774	
			合格者数	172	167	190	223	214	220	
			入学者数(A)	69	65	55	64	63	63	
			募集定員数(B)	45	50	50	50	50	50	
			A/B*100(%)	153.3%	130.0%	110.0%	128.0%	126.0%	126.0%	
		大学入試センター入試	受験者数	285						
			合格者数	83						
			入学者数(A)	4						
			募集定員数(B)	5						
			A/B*100(%)	80.0%						
		塾内進学	受験者数	1	0	2	3	3	4	
			合格者数	1	0	2	3	3	4	
			入学者数(A)	1	0	2	3	3	4	
			募集定員数(B)	10	10	10	10	10	10	
			A/B*100(%)	10.0%	0.0%	20.0%	30.0%	30.0%	40.0%	
		留学生入試	受験者数	1	0	0	1	1	6	
			合格者数	0	0	0	0	0	0	
			入学者数(A)	0	0	0	0	0	0	
			募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
			A/B*100(%)	―	―	―	―	―	―	
		帰国生入試	受験者数	2	0	1	1	0	0	
			合格者数	0	0	1	0	0	0	
			入学者数(A)	0	0	0	0	0	0	
			募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
			A/B*100(%)	―	―	―	―	―	―	
	薬科学科　計		受験者数	781	644	765	848	803	784	
			合格者数	256	167	193	226	217	224	
			入学者数(A)	74	65	57	67	66	67	110.0%
			募集定員数(B)	60	60	60	60	60	60	
			A/B*100(%)	123.3%	108.3%	95.0%	111.7%	110.0%	111.7%	
	薬学科　計		受験者数	2,385	1,717	1,951	2,062	2,024	1,894	
			合格者数	462	326	334	360	361	388	
			入学者数(A)	173	162	161	160	150	169	108.3%
			募集定員数(B)	150	150	150	150	150	150	
			A/B*100(%)	115.3%	108.0%	107.3%	106.7%	100.0%	112.7%	
薬学部　計			受験者数	3,166	2,361	2,716	2,910	2,827	2,678	
			合格者数	718	493	527	586	578	612	
			入学者数(A)	247	227	218	227	216	236	108.8%
			募集定員数(B)	210	210	210	210	210	210	
			A/B*100(%)	117.6%	108.1%	103.8%	108.1%	102.9%	112.4%	

［注］　１　「編入学試験」は、この表には記入しないでください。

２　実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。
なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。

３　入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合を算出してください。

４　「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。

５　各入学（募集）定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。

６　６年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。

７　薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「（備考）○年次に・・・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

（基礎資料８ａ）教員・事務職員数（薬学科専任教員）

①設置基準において、必要な６年制薬学科の教員数　※１	28名
②設置基準において、必要な実務家教員数　※２	5名

※１　大学設置基準　第二条別表第一、イ備考４
※２　大学設置基準　第二条別表第一、イ十号

（教員の部）	教授	准教授	専任講師	助教	助手	備考
教養教育			1			
語学教育		2				
薬学基礎教育	1	3	1	1		
専門薬学教育	6	6	6	6(1)	1	特任助教 1名、RA 6名、TA 48名、SA 110名
実務実習教育	7(4)	3(1)	3(2)	7(4)		実務家教員 11名
小計	14	14	11	14	1	
専任教員数	53					
（事務職員の部）	局長	部長	課長	事務員	その他の職種	備考
大学業務関連			2	21(6)	1	保健師（芝共立保健管理センター）
法人業務関連		1	1	7(1)	3(1)	薬剤師（附属薬局）
小計		1	3	28	4	
事務職員数	32					

［注］　１　主に担当する科目（業務）で算出し、重複しないように注意してください。

２　該当する場合は、（　）内に実務家教員、見なし教員または特任等の数を記入し、「備考」欄にその内訳を記入してください。（例示：6(2)＝６名のうち２名が特任）

３　該当する場合は、（　）内に臨時・嘱託事務職員数を記入してください。（例示：3(1)＝３名のうち１名が嘱託事務職員）

４　「その他の職種」の欄に記入した数については、「備考」にその職種名を記入してください。

５　専任教務補助員（例えば､いわゆる副手、実験補助員等）、ティーチング・アシスタント（ＴＡ）、リサーチ・アシスタント（ＲＡ）については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

（基礎資料８ｂ）教員・事務職員数（薬学部専任教員）

（教員の部）	教授	准教授	専任講師	助教	助手	備考
教養教育			1			
語学教育		2				
薬学基礎教育	1	3	1	1		
専門薬学教育	12	10	8	12(2)	1	特任助教 2名、RA 6名、TA 48名、SA 110名
実務実習教育	7(4)	3(1)	3(2)	7(4)		実務家教員 11名
小計	20	18	13	20	1	
専任教員数	71					
（事務職員の部）	局長	部長	課長	事務員	その他の職種	備考
大学業務関連			2	21(6)	1	保健師（芝共立保健管理センター）
法人業務関連		1	1	7(1)	3(1)	薬剤師（附属薬局）
小計		1	3	28	4	
事務職員数	32					

［注］ １ 主に担当する科目（業務）で算出し、重複しないように注意してください。

２ 該当する場合は、（ ）内に実務家教員、見なし教員または特任等の数を記入し、「備考」欄にその内訳を記入してください。（例示：6(2)＝６名のうち２名が特任）

３ 該当する場合は、（ ）内に臨時・嘱託事務職員数を記入してください。（例示：3(1)＝３名のうち１名が嘱託事務職員）

４ 「その他の職種」の欄に記入した数については、「備考」にその職種名を記入してください。

５ 専任教務補助員（例えば､いわゆる副手、実験補助員等）、ティーチング・アシスタント（ＴＡ）、リサーチ・アシスタント（ＲＡ）については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

（基礎資料９ａ）専任教員年齢構成（薬学科専任教員）

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教　授		7(3)	4(0)	3(0)			14(3)
		50.0%	28.6%	21.4%			100.0%
准教授			4(2)	9(2)	1(0)		14(4)
			28.6%	64.3%	7.1%		100.0%
専任講師		1(1)	2(2)	4(2)	4(1)		11(6)
		9.1%	18.1%	36.4%	36.4%		100.0%
助教			3(3)		11(3)		14(6)
			21.4%		78.6%		100.0%
合計		8(4)	13(7)	16(4)	16(4)		53(19)
		15.1%	24.5%	30.2%	30.2%		100.0%
定年年齢		65歳					

［注］１　上段には人数、下段には%を記入してください。

２　（　　）に女性の数を記入してください。（例示：2(1)＝２名のうち１名が女性）

３　「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

（基礎資料９ｂ）専任教員年齢構成（薬学部専任教員）

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教　授		7(3)	8(1)	5(0)			20(4)
		35.0%	40.0%	25.0%			100.0%
准教授			4(2)	13 (2)	1(0)		18(4)
			22.2%	72.2%	5.6%		100.0%
専任講師		1(1)	3(3)	4(2)	5(1)		13(7)
		7.7%	23.1%	30.7%	38.5%		100.0%
助教			4(4)		14(4)	2(0)	20(8)
			20.0%		70.0%	10.0%	100.0%
合計		8(4)	19(10)	22(4)	20(5)	2(0)	71(23)
		11.3%	26.7%	31.0%	28.2%	2.8%	100.0%
定年年齢		65歳					

［注］１　上段には人数、下段には%を記入してください。

２　（　　）に女性の数を記入してください。（例示：2(1)＝２名のうち１名が女性）

３　「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科 （兼薬科学科）	天然医薬資源学講座	教授	きうち　ふみゆき 木内　文之	男	59	2009.4.1	2009.4.1	C７（１）生薬学A	0.8						0.8	0.0		東京大学 薬学系研究科 博士課程 修了 薬学博士
								C７（１）生薬学B		0.8					0.0	0.8		
								薬学実習ⅡC（有機系）						3.0	0.0	3.0		
								医薬品天然物化学	0.4						0.4	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ		0.1					0.0	0.1		
								計	1.2	0.9	0.0	0.0	0.0	3.0	1.2	3.9	2.6	
薬学科 （兼薬科学科）	衛生化学講座	教授	たむら　ひろおみ 田村　悦臣	男	60	2008.4.1	2008.4.1	C１１（１）栄養と健康	0.4						0.4	0.0		東京大学 薬学系研究科 博士課程 修了 薬学博士
								C１１（２）社会・集団と健康		0.3					0.0	0.3		
								C１２（１）化学物質の生体への影響A		0.3					0.0	0.3		
								薬学実習ⅢC（衛生化学，公衆衛生学）					3.0		3.0	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ		0.1					0.0	0.1		
								C１２（１）化学物質の生体への影響B	0.4						0.4	0.0		
								計	0.8	0.7	0.0	0.0	3.0	0.0	3.8	0.7	2.3	
薬学科 （兼薬科学科）	化学療法学講座	教授	すぎもと　よしかず 杉本　芳一	男	57	2008.4.1	2008.4.1	C１０（３）感染症にかかる		0.9					0.0	0.9		東京大学 薬学系研究科 博士課程 修了 薬学博士
								C１４（５）病原微生物・悪性新生物と戦うA	0.9						0.9	0.0		
								薬学実習ⅢA（微生物系）					2.1		2.1	0.0		
								C１４（５）病原微生物・悪性新生物と戦うB		0.9					0.0	0.9		
								C１４（５）病原微生物・悪性新生物と戦うC	0.9						0.9	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ		0.2					0.0	0.2		
								計	1.8	2.0	0.0	0.0	2.1	0.0	3.9	2.0	3.0	
薬学科 （兼薬科学科）	病態生理学講座	教授	はっとり　ゆたか 服部　豊	男	56	1997.2.1	2008.4.1	A（３）生命の大切さを知るために－３（患者から学ぶ）	0.1						0.1	0.0		慶應義塾大学 医学部 卒業 医学博士
								C１４（１）体の変化を知る　疾病と検査値A		0.1					0.0	0.1		
								病態生化学	0.2						0.2	0.0		
								C１４（２）疾患と薬物治療（心臓疾患等）A	1.1						1.1	0.0		
								C１４（２）疾患と薬物治療（心臓疾患等）B		0.5					0.0	0.5		
								C１４（１）体の変化を知る　疾病と検査値B		1.0					0.0	1.0		
								実務実習事前学習				1.2		0.9	0.0	2.1		
								実務実習の前に（７）	0.1						0.1	0.0		
								症例検討B	0.2						0.2	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ		0.1					0.0	0.1		
								生体試料分析	0.1						0.1	0.0		
								計	1.8	1.7	0.0	1.2	0.0	0.9	1.8	3.8	2.8	
薬学科 （兼薬科学科）	創薬科学講座	教授	みずしま　とおる 水島　徹	男	47	2011.4.1	2011.4.1	C８（２）生命体の基本単位としての細胞B	0.8						0.8	0.0		東京大学 薬学系研究科 修士課程 修了 博士（薬学）
								C８（１）ヒトの成り立ちB	0.7						0.7	0.0		
															0.0	0.0		
															0.0	0.0		
								計	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.8	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科 （兼薬科学科）	薬剤学講座	教授	なかしま　えみ 中島　恵美	女	64	2008.4.1	2008.4.1	ＯＴＣ薬とセルフケア	0.4						0.4	0.0		金沢大学 薬学部 卒業 薬学博士
								Ｃ１３（５）薬物動態の解析		0.4					0.0	0.4		
								薬学への招待	0.1						0.1	0.0		
								薬学実習ⅢＥ（物理薬剤，製剤，ＴＤＭ）						3.0	0.0	3.0		
								実務実習の前に（１）	0.1						0.1	0.0		
								実務実習の前に（７）	0.2						0.2	0.0		
								計	0.8	0.4	0.0	0.0	0.0	3.0	0.8	3.4	2.1	
薬学科 （兼薬科学科） （実務家教員）	医薬品情報学講座	教授	もちづき　まゆみ 望月　眞弓	女	61	2008.4.1	2008.4.1	薬学への招待	0.2						0.2	0.0		千葉大学 薬学部 卒業 医学博士
								Ｃ１５（１）医薬品情報	0.3						0.3	0.0		
								実務実習事前学習						4.2	0.0	4.2		
								実務実習の前に（５）	0.1						0.1	0.0		
								医薬品の安全性評価と薬剤疫学の基礎	0.1						0.1	0.0		
								医薬品の安全性評価と薬剤疫学の応用	0.1						0.1	0.0		
								薬剤経済学	0.1						0.1	0.0		
								計	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	0.9	4.2	2.6	
薬学科 （兼薬科学科）	臨床薬学講座	教授	おおたに　ひさかず 大谷　壽一	男	47	2009.4.1	2009.4.1	Ｃ１６（２）剤形をつくる		0.2					0.0	0.2		東京大学 薬学系研究科 修士課程 修了 博士（薬学）
								薬学への招待	0.1						0.1	0.0		
								Ｄ１病院・薬局に行く前にＡ	0.1						0.1	0.0		
								Ｃ１５（３）テーラーメイド薬物治療を目指して	0.4						0.4	0.0		
								臨床物理薬剤・製剤学	0.3						0.3	0.0		
								老年薬学と在宅医療	0.1						0.1	0.0		
								実務実習事前学習				0.6		3.6	0.0	4.2		
								実務実習の前に（２）	0.3						0.3	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ			0.3				0.3	0.0		
								Introduction to overseas clinical rotation		0.2					0.0	0.2		
								計	1.3	0.4	0.3	0.6	0.0	3.6	1.6	4.6	3.1	
薬学科 （兼薬科学科）	薬物治療学講座	教授	さいとう　ひでつぐ 齋藤　英胤	男	60	2010.4.1	2010.4.1	Ｃ１４（３）疾患と薬物治療（腎臓疾患等）Ａ	0.9						0.9	0.0		慶應義塾大学 医学研究科 博士課程 単位取得退学 医学博士
								Ｃ１４（３）疾患と薬物治療（腎臓疾患等）Ｂ		0.7					0.0	0.7		
								実務実習事前学習				0.6		0.9	0.0	1.5		
								症例検討Ｂ	0.3						0.3	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ		0.1					0.0	0.1		
								計	1.2	0.8	0.0	0.6	0.0	0.9	1.2	2.3	1.8	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科 （兼薬科学科） （実務家教員）	実務薬学講座	教授	きづ　じゅんこ 木津　純子	女	63	2008.4.1	2008.4.1	薬学への招待	0.1						0.1	0.0		共立薬科大学 薬学部 卒業 博士（薬学）
								Ｄ１病院・薬局に行く前にＡ	0.2						0.2	0.0		
								Ｃ１５（２）患者情報		0.4					0.0	0.4		
								実務実習事前学習				1.2		4.8	0.0	6.0		
								実務実習の前に（４）	0.1						0.1	0.0		
								実務実習の前に（８）	0.1						0.1	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ			0.3				0.3	0.0		
								臨床薬剤師に必要な感染症の知識	0.4						0.4	0.0		
								計	0.9	0.4	0.3	1.2	0.0	4.8	1.2	6.4	3.8	
薬学科 （兼薬科学科）	薬学教育研究センター	教授	あべ　よしひろ 阿部　芳廣	男	62	2008.4.1	2008.4.1	Ｃ４（４）化学物質の構造決定		1.0					0.0	1.0		東京大学 薬学系研究科 博士課程 修了 薬学博士
								薬学基礎実習						1.2	0.0	1.2		
								実験法概論		0.4					0.0	0.4		
								薬学実習ⅡＡ（化学，物理）					2.4		2.4	0.0		
								薬学実習ⅡＣ（有機系）						0.6	0.0	0.6		
								薬学実習ⅢＣ（衛生化学，公衆衛生学）					0.9		0.9	0.0		
								薬学英語Ｄ	1.0						1.0	0.0		
								物理化学１	0.8						0.8	0.0		
								日本薬局方	0.5						0.5	0.0		
								総合薬学演習Ⅰ				0.2			0.0	0.2		
								有機化学２		0.7					0.0	0.7		
								生体試料分析	0.3						0.3	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ		0.3		0.2			0.0	0.5		
								医薬品試験法		0.4					0.0	0.4		
								生命倫理			0.3				0.3	0.0		
								実務実習事前学習				0.3			0.0	0.3		
								基礎化学	0.8						0.8	0.0		
								計	3.4	2.8	0.3	0.7	3.3	1.8	7.0	5.3	6.2	
薬学科 （兼薬科学科）	医薬品開発規制科学講座	教授	くろかわ　たつお 黒川　達夫	男	65	2011.4.1	2011.4.1	Ｃ１７（１）医薬品開発と生産の流れ	0.1						0.1	0.0		千葉大学 薬学部 卒業 博士（薬学）
								Ｃ１７（４）（５）治験・バイオスタティスティクス		0.1					0.0	0.1		
								医療薬学英語Ａ		1.0					0.0	1.0		
								企業インターンシップ	0.6						0.6	0.0		
								薬学への招待	0.1						0.1	0.0		
								Ｃ１８（１）薬剤師を取り巻く法律と制度	0.2						0.2	0.0		
								実務実習事前学習				0.6			0.0	0.6		
								臨床薬物評価学	0.1						0.1	0.0		
								計	1.1	1.1	0.0	0.6	0.0	0.0	1.1	1.7	1.4	
薬学科 （兼薬科学科） （実務家教員）	医療薬学・社会連携センター医療薬学部門	教授	なかむら　とものり 中村　智徳	男	50	2013.4.1	2013.4.1	早期体験学習（薬学科）	0.1				1.5	0.3	1.6	0.3		千葉大学 薬学研究科 前期博士課程 修了 博士（薬学）
								Ｄ１病院・薬局に行く前にＡ	0.2						0.2	0.0		
								Ｄ１病院・薬局に行く前にＢ		0.2					0.0	0.2		
								実務実習事前学習				0.9		6.6	0.0	7.5		
								実務実習の前に（６）	0.1						0.1	0.0		
								薬学科早期実習						1.2	0.0	1.2		
								総合薬学演習Ⅱ		0.1	0.3	0.1			0.3	0.2		
								計	0.4	0.3	0.3	1.0	1.5	8.1	2.2	9.4	5.8	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科 （兼薬科学科） （実務家教員）	医療薬学・社会連携センター 社会薬学部門	教授	やまうら　かつのり 山浦　克典	男	49	2015.4.1	2015.4.1	Ａ（３）生命の大切さを知るために－３（患者から学ぶ）			0.2				0.2	0.0		千葉大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 博士（臨床薬学）
								Ｃ１８（２）社会保障制度と薬剤経済	0.4						0.4	0.0		
								Ｃ１８（３）コミュニティーファーマシー		0.2					0.0	0.2		
								早期体験学習（薬学科）	0.1				0.6	0.3	0.7	0.3		
								薬学生のための体験学習プログラムB			0.1				0.1	0.0		
								薬学生のための体験学習プログラムF			0.3	0.3			0.3	0.3		
								Ｃ１８（１）薬剤師を取り巻く法律と制度	0.2						0.2	0.0		
								薬学科早期実習						0.9	0.0	0.9		
								老年薬学と在宅医療	0.1		0.1				0.2	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ			0.3				0.3	0.0		
								実務実習事前学習				0.6		6.9	0.0	7.5		
								計	0.8	0.2	1.0	0.9	0.6	8.1	2.4	9.2	5.8	
薬学科 （兼薬科学科）	天然医薬資源学講座	准教授	はだ　のりやす 羽田　紀康	男	49	2008.4.1	2008.4.1	Ｃ７（２）天然物化学	0.8						0.8	0.0		名古屋市立大学 薬学研究科 博士課程 修了 博士（薬学）
								Ｃ７（１）生薬学A	0.1						0.1	0.0		
								Ｃ１８（３）コミュニティーファーマシー		0.1					0.0	0.1		
								薬学実習ⅡＣ（有機系）						3.0	0.0	3.0		
								Ｃ７（３）漢方概論	0.4						0.4	0.0		
								天然薬物学	0.1						0.1	0.0		
								実務実習事前学習				0.3			0.0	0.3		
								総合薬学演習Ⅱ		0.1					0.0	0.1		
								漢方医薬学	0.5						0.5	0.0		
								計	1.9	0.2	0.0	0.3	0.0	3.0	1.9	3.5	2.7	
薬学科 （兼薬科学科）	衛生化学講座	准教授	たご　めぐみ 多胡　めぐみ	女	40	2008.4.1	2014.4.1	Ｃ１１（１）栄養と健康	0.4						0.4	0.0		共立薬科大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 博士（薬学）
								Ｃ９（２）生命情報を担う遺伝子	1.6						1.6	0.0		
								薬学実習ⅢＣ（衛生化学，公衆衛生学）					3.0		3.0	0.0		
								実務実習事前学習				0.3			0.0	0.3		
								総合薬学演習Ⅱ		0.2					0.0	0.2		
								生命科学の基礎	0.2						0.2	0.0		
								計	2.2	0.2	0.0	0.3	3.0	0.0	5.2	0.5	2.9	
薬学科 （兼薬科学科）	化学療法学講座	准教授	のぐち　こうじ 野口　耕司	男	46	2008.4.1	2008.4.1	Ｃ９（６）遺伝子を操作する		0.2					0.0	0.2		東京大学 薬学系研究科 博士課程 修了 博士（薬学）
								薬学実習ⅢＡ（微生物系）					3.0		3.0	0.0		
								バイオと医療・ゲノム医学	0.1						0.1	0.0		
								Ｃ１７（３）バイオ医薬品とゲノム情報	0.4						0.4	0.0		
								実務実習事前学習				0.3			0.0	0.3		
								生命倫理			0.3				0.3	0.0		
								計	0.5	0.2	0.3	0.3	3.0	0.0	3.8	0.5	2.2	

所属学科	所属講座等	職名	ふ り が な 氏　　名	（性別）	（年齢）	就　職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授 業 科 目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科 （兼薬科学科）	病態生理学講座	准教授	まつした　まいこ 松下　麻衣子	女	44	2010.4.1	2015.4.1	Ｃ８（３）生理学Ａ	0.2						0.2	0.0		慶應義塾大学 医学研究科 博士課程 単位取得退学 博士（医学）
								Ａ（２）生命の大切さを知るために－２（生命倫理）			0.1				0.1	0.0		
								Ｃ１４（１）体の変化を知る　疾病と検査値Ａ		0.1					0.0	0.1		
								Ｃ１０（２）免疫系の破綻・免疫系の応用		0.4					0.0	0.4		
								Ｃ１４（２）疾患と薬物治療（心臓疾患等）Ａ	0.3						0.3	0.0		
								Ｃ１４（２）疾患と薬物治療（心臓疾患等）Ｂ		0.5					0.0	0.5		
								実務実習事前学習				1.2		0.9	0.0	2.1		
								症例検討Ｂ	0.2						0.2	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ				0.1			0.0	0.1		
								生命倫理			0.1				0.1	0.0		
								機能生理学１		0.1					0.0	0.1		
								計	0.7	1.1	0.2	1.3	0.0	0.9	0.9	3.3	2.1	
薬学科 （兼薬科学科）	薬剤学講座	准教授	とみ　まさとし 登美　斉俊	男	39	2009.1.1	2011.4.1	Ｃ１３（４）薬物の臓器への到達と消失	0.9						0.9	0.0		東北大学 薬学研究科 博士課程前期 修了 博士（薬学）
								Ｃ１３（５）薬物動態の解析		0.2					0.0	0.2		
								薬学実習ⅢＥ（物理薬剤，製剤，ＴＤＭ）						3.0	0.0	3.0		
								実務実習の前に（１）	0.2						0.2	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ		0.2		0.1			0.0	0.3		
								生命倫理			0.1				0.1	0.0		
								情報・コミュニケーション論			0.3				0.3	0.0		
								計	1.1	0.4	0.4	0.1	0.0	3.0	1.5	3.5	2.5	
薬学科 （兼薬科学科）	医薬品情報学講座	准教授	はしぐち　まさゆき 橋口　正行	男	54	2008.4.1	2008.4.1	Ｃ１５（１）医薬品情報	0.3						0.3	0.0		大分医科大学 医学研究科 博士課程 修了 医学博士
								実務実習事前学習						5.4	0.0	5.4		
								実務実習の前に（５）	0.2						0.2	0.0		
								薬剤経済学	0.2						0.2	0.0		
								医薬品の安全性評価と薬剤疫学の基礎	0.2						0.2	0.0		
								医薬品の安全性評価と薬剤疫学の応用	0.2						0.2	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ			0.3				0.3	0.0		
								計	1.1	0.0	0.3	0.0	0.0	5.4	1.4	5.4	3.4	
薬学科 （兼薬科学科）	薬物治療学講座	准教授	さいとう　よしまさ 齋藤　義正	男	43	2011.4.1	2011.4.1	Ａ（２）生命の大切さを知るために－２（生命倫理）			0.1				0.1	0.0		慶應義塾大学 医学研究科 博士課程 修了 博士（医学）
								病態生化学	0.1						0.1	0.0		
								画像・生理機能検査	0.6						0.6	0.0		
								Ｃ１４（４）疾患と薬物治療（精神疾患等）Ａ	0.4						0.4	0.0		
								Ｃ１４（４）疾患と薬物治療（精神疾患等）Ｂ		0.4					0.0	0.4		
								実務実習事前学習				0.6		1.2	0.0	1.8		
								症例検討Ｂ	0.2						0.2	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ		0.1					0.0	0.1		
								生命倫理			0.3				0.3	0.0		
								機能生理学１		0.2					0.0	0.2		
								計	1.3	0.7	0.4	0.6	0.0	1.2	1.7	2.5	2.1	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科 (兼薬科学科) (実務家教員)	実務薬学講座	准教授	まつもと　かずあき 松元　一明	男	40	2014.4.1	2014.4.1	Ｄ１病院・薬局に行く前にＡ	0.2						0.2	0.0	4.4	熊本大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 博士（薬学）
								Ｃ１５（２）患者情報		0.1					0.0	0.1		
								実務実習事前学習						7.5	0.0	7.5		
								実務実習の前に（４）	0.2						0.2	0.0		
								実務実習の前に（８）	0.1						0.1	0.0		
								臨床薬剤師に必要な感染症の知識	0.1						0.1	0.0		
								生命倫理			0.3				0.3	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ			0.3				0.3	0.0		
								計	0.6	0.1	0.6	0.0	0.0	7.5	1.2	7.6		
薬学科 (兼薬科学科)	薬学教育 研究 センター	准教授	すずき　たけし 鈴木　岳之	男	57	2008.4.1	2008.4.1	Ｃ８（３）生理学Ａ	1.8						1.8	0.0	6.0	東京大学 薬学系研究科 博士課程 修了 薬学博士
								Ｃ８（３）生理学Ｂ		1.4					0.0	1.4		
								Ｃ９（５）生理活性分子とシグナル分子		0.8					0.0	0.8		
								薬学基礎実習						3.0	0.0	3.0		
								薬学実習ⅡＢ（生物）					1.5		1.5	0.0		
								総合薬学演習Ⅰ				0.2			0.0	0.2		
								基礎神経科学	0.5						0.5	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ		0.3		0.2			0.0	0.5		
								バイオ産業論	0.5						0.5	0.0		
								生命倫理			0.3				0.3	0.0		
								実務実習事前学習				0.3			0.0	0.3		
								機能生理学１		1.2					0.0	1.2		
								計	2.8	3.7	0.3	0.7	1.5	3.0	4.6	7.4		
薬学科 (兼薬科学科)	薬学教育 研究 センター	准教授	いしかわ　さとこ 石川　さと子	女	50	2008.4.1	2015.4.1	情報・コミュニケーション論	0.2		2.1				2.3	0.0	5.0	共立薬科大学 薬学研究科 博士前期課程 修了 博士（薬学）
								薬化学演習			0.4				0.4	0.0		
								早期体験学習（薬学科）					0.3		0.3	0.0		
								薬学実習ⅡＣ（有機系）						3.3	0.0	3.3		
								薬学生のための体験学習プログラムＡ/多職種連携体験学習			0.4				0.4	0.0		
								薬学生のための体験学習プログラムＤ/リハビリ体験学習				0.4			0.0	0.4		
								日本薬局方	0.5						0.5	0.0		
								Ｃ１８（１）薬剤師を取り巻く法律と制度	0.2						0.2	0.0		
								基礎薬化学	1.0						1.0	0.0		
								総合薬学演習Ⅰ				0.3			0.0	0.3		
								総合薬学演習Ⅱ		0.1		0.2			0.0	0.3		
								生命倫理			0.3				0.3	0.0		
								実務実習事前学習				0.3			0.0	0.3		
								計	1.9	0.1	3.2	1.2	0.3	3.3	5.4	4.6		

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科 （兼薬科学科）	薬学教育研究センター	准教授	よこた　えりこ 横田　惠理子	女	54	2008.4.1	2015.4.1	Ａ（３）生命の大切さを知るために－３（患者から学ぶ）			0.8				0.8	0.0	5.1	慶應義塾大学 医学研究科 博士課程 修了 医学博士
								Ｃ１０（２）免疫系の破綻・免疫系の応用		0.1					0.0	0.1		
								基礎生物学	1.5						1.5	0.0		
								早期体験学習（薬学科）					0.9	0.3	0.9	0.3		
								薬学実習ⅢＢ（生化学）					1.2		1.2	0.0		
								薬学実習ⅢＤ（薬理学）						0.9	0.0	0.9		
								生命科学の基礎	0.4						0.4	0.0		
								総合薬学演習Ⅰ				0.3			0.0	0.3		
								実務実習事前学習				0.3	1.2		1.2	0.3		
								総合薬学演習Ⅱ		0.1		0.3			0.0	0.4		
								生命倫理			1.1				1.1	0.0		
								薬学生のための体験学習プログラムＡ/多職種連携体験学習			0.4				0.4	0.0		
								細胞の機能と構成分子	0.4						0.4	0.0		
								計	2.3	0.2	2.3	0.9	3.3	1.2	7.9	2.3		
薬学科 （兼薬科学科）	医薬品開発規制科学講座	准教授	うるしはら　ひさし 漆原　尚巳	男	47	2013.9.1	2013.9.1	薬学英語Ａ	1.0						1.0	0.0	1.9	京都大学 医学研究科 博士後期課程 修了 博士（社会健康医学）
								Ａ（３）生命の大切さを知るために－３（患者から学ぶ）			0.1				0.1	0.0		
								Ｃ１７（１）医薬品開発と生産の流れ	0.1						0.1	0.0		
								Ｃ１７（４）（５）治験・バイオスタティスティクス		0.6					0.0	0.6		
								医薬品開発と製造販売承認申請・審査	0.1						0.1	0.0		
								実務実習事前学習				1.2			0.0	1.2		
								臨床薬物評価学	0.5						0.5	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ		0.1		0.1			0.0	0.2		
								計	1.7	0.7	0.1	1.3	0.0	0.0	1.8	2.0		
薬学科 （兼薬科学科）	基礎教育講座	准教授	うえむら　りょうたろう 植村　良太郎	男	41	2014.4.1	2014.4.1	Ｆ（２）科学英語ⅡＢ	1.6						1.6	0.0	9.1	インディアナ大学 社会学研究科 博士課程 修了 Ph.D.（社会学）
								Ｆ（２）英語Ⅱ	1.6						1.6	0.0		
								Ｆ（２）科学英語ⅡＢ		1.6					0.0	1.6		
								Ｆ（２）英語Ⅱ		1.6					0.0	1.6		
								薬学研究のためのコミュニケーションスキル１Ａ	2.8						2.8	0.0		
								薬学研究のためのコミュニケーションスキル１Ｂ	2.8						2.8	0.0		
								薬学研究のためのコミュニケーションスキル２Ａ		2.8					0.0	2.8		
								薬学研究のためのコミュニケーションスキル２Ｂ		2.8					0.0	2.8		
								生命倫理			0.3				0.3	0.0		
								情報・コミュニケーション論			0.2				0.2	0.0		
								計	8.8	8.8	0.5	0.0	0.0	0.0	9.3	8.8		

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科 （兼薬科学科）	基礎教育講座	准教授	ぱとりっく　ふぉすたー Patric Foster	男	48	2015.4.1	2015.4.1	Ｆ（２）科学英語ⅡＡ	1.6						1.6	0.0		American University of the Caribbean, School of Medicine and Graduate Studies Doctor of Medicine
								医療薬学英語Ｃ		1.0					0.0	1.0		
								Ｓｃｉｅｎｃｅ　Ｌｅｃｔｕｒｅｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		1.0					0.0	1.0		
								薬学研究のためのコミュニケーションスキル１Ａ	2.8						2.8	0.0		
								薬学研究のためのコミュニケーションスキル１Ｂ	2.8						2.8	0.0		
								薬学研究のためのコミュニケーションスキル２Ａ		2.8					0.0	2.8		
								薬学研究のためのコミュニケーションスキル２Ｂ		2.8					0.0	2.8		
								薬学英語Ｄ	1.0						1.0	0.0		
								Ｆ（２）科学英語ⅡＡ		1.6					0.0	1.6		
								計	8.2	9.2	0.0	0.0	0.0	0.0	8.2	9.2	8.7	
薬学科 （兼薬科学科）	ＲＩ・分析室	専任講師	もりた　ゆうこ 森田　裕子	女	58	2008.4.1	2008.4.1	Ｃ１２（１）化学物質の生体への影響Ａ		0.1					0.0	0.1		共立薬科大学 薬学部 卒業 博士（薬学）
								薬学実習ⅢＥ（物理薬剤，製剤，ＴＤＭ）						1.2	0.0	1.2		
								物理化学１	0.6						0.6	0.0		
								臨床物理薬剤・製剤学	0.1						0.1	0.0		
								Ｃ１２（２）生活環境と健康	0.6						0.6	0.0		
								Ｄ１病院・薬局に行く前にＢ		0.1					0.0	0.1		
								実務実習事前学習						1.8	0.0	1.8		
								総合薬学演習Ⅱ		0.1					0.0	0.1		
								生命倫理			0.2				0.2	0.0		
								情報・コミュニケーション論			0.1				0.1	0.0		
								計	1.3	0.3	0.3	0.0	0.0	3.0	1.6	3.3	2.5	
薬学科 （兼薬科学科）	天然医薬資源学講座	専任講師	なるかわ　ゆうじ 成川　佑次	男	43	2008.4.1	2014.4.1	Ｃ７（１）生薬学Ａ	0.1						0.1	0.0		共立薬科大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 博士（薬学）
								薬学実習ⅡＣ（有機系）						3.0	0.0	3.0		
								天然薬物学	0.3						0.3	0.0		
								生命倫理			0.2				0.2	0.0		
								情報・コミュニケーション論			0.1				0.1	0.0		
								計	0.4	0.0	0.3	0.0	0.0	3.0	0.7	3.0	1.9	
薬学科 （兼薬科学科）	衛生化学講座	専任講師	しみず　みきこ 清水　美貴子	女	50	2008.4.1	2008.4.1	Ｃ１１（３）疾病の予防		0.2					0.0	0.2		明治薬科大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 博士（薬学）
								Ｃ１２（１）化学物質の生体への影響Ａ		0.4					0.0	0.4		
								生命倫理			0.1				0.1	0.0		
								薬学実習ⅢＣ（衛生化学，公衆衛生学）					3.0		3.0	0.0		
								計	0.0	0.6	0.1	0.0	3.0	0.0	3.1	0.6	1.9	
薬学科 （兼薬科学科）	化学療法学講座	専任講師	かたやま　かずひろ 片山　和浩	男	39	2008.4.1	2011.4.1	Ｃ９（６）遺伝子を操作する		1.2					0.0	1.2		東京大学 医学系研究科 博士課程 修了 博士（医学）
								薬学実習ⅢＡ（微生物系）					3.0		3.0	0.0		
								バイオと医療・ゲノム医学	0.1						0.1	0.0		
								実務実習事前学習				0.3			0.0	0.3		
								早期体験学習（薬学科）						0.1	0.0	0.1		
								情報・コミュニケーション論			0.3				0.3	0.0		
								計	0.1	1.2	0.3	0.3	3.0	0.1	3.4	1.6	2.5	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科 （兼薬科学科）	薬剤学講座	専任講師	にしむら　ともひろ 西村　友宏	男	35	2008.4.1	2014.4.1	Ｃ１３（５）薬物動態の解析		0.2					0.0	0.2		金沢大学 自然科学研究科 博士後期課程 修了 博士（薬学）
								薬学実習ⅢＥ（物理薬剤，製剤，ＴＤＭ）						3.2	0.0	3.2		
								実務実習の前に（１）	0.1						0.1	0.0		
								情報・コミュニケーション論			0.2				0.2	0.0		
								早期体験学習（薬学科）					0.3		0.3	0.0		
								計	0.1	0.2	0.2	0.0	0.3	3.2	0.6	3.4	2.0	
薬学科 （兼薬科学科）	薬物治療学講座	専任講師	きむら　まさき 木村　真規	男	45	2008.4.1	2008.4.1	Ｃ８（３）生理学Ｂ		0.6					0.0	0.6		早稲田大学 人間科学研究科 博士後期課程 修了 博士（人間科学）
								Ｃ９（５）生理活性分子とシグナル分子		0.2					0.0	0.2		
								生命科学の基礎	0.3						0.3	0.0		
								Ｃ１４（３）疾患と薬物治療（腎臓疾患等）Ａ	0.1						0.1	0.0		
								Ｃ１４（４）疾患と薬物治療（精神疾患等）Ａ	0.2						0.2	0.0		
								Ｃ１４（４）疾患と薬物治療（精神疾患等）Ｂ		0.2					0.0	0.2		
								総合薬学演習Ⅱ		0.1					0.0	0.1		
								実務実習事前学習				0.3			0.0	0.3		
								生命倫理			0.1				0.1	0.0		
								情報・コミュニケーション論			0.1				0.1	0.0		
								計	0.6	1.1	0.2	0.3	0.0	0.0	0.8	1.4	1.1	
薬学科 （兼薬科学科）	薬学教育研究センター	専任講師	ながい　ふさこ 永井　総子	女	63	2008.4.1	2008.4.1	Ａ（３）生命の大切さを知るために－３（患者から学ぶ）			0.1				0.1	0.0		共立薬科大学 薬学部 卒業 薬学博士
								Ａ（２）生命の大切さを知るために－２（生命倫理）			0.4				0.4	0.0		
								Ｃ１１（３）疾病の予防		0.3					0.0	0.3		
								Ｃ１１（２）社会・集団と健康		0.7					0.0	0.7		
								薬学実習ⅡＡ（化学，物理）					4.5		4.5	0.0		
								薬学実習ⅢＣ（衛生化学，公衆衛生学）					3.0		3.0	0.0		
								薬学実習ⅢＤ（薬理学）						1.2	0.0	1.2		
								総合薬学演習Ⅱ		0.1		0.1			0.0	0.2		
								生命倫理			0.3				0.3	0.0		
								早期体験学習（薬学科）						0.3	0.0	0.3		
								実務実習事前学習				0.3			0.0	0.3		
								薬学基礎実習					2.7		2.7	0.0		
								計	0.0	1.1	0.8	0.4	10.2	1.5	11.0	3.0	7.0	
薬学科 （兼薬科学科）	医薬品開発規制科学講座	専任講師	まつしま　ゆきこ 松嶋　由紀子	女	42	2011.6.1	2011.6.1	Ｃ１７（１）医薬品開発と生産の流れ	0.1						0.1	0.0		金沢大学 薬学研究科 修士課程 修了 修士（薬学）
								Ｃ１７（４）（５）治験・バイオスタティスティクス		0.2					0.0	0.2		
								実務実習事前学習				1.6		2.7	0.0	4.3		
								総合薬学演習Ⅱ			0.3				0.3	0.0		
								臨床薬物評価学	0.5						0.5	0.0		
								計	0.6	0.2	0.3	1.6	0.0	2.7	0.9	4.5	2.7	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科 (兼薬科学科) (実務家教員)	医療薬学・社会連携センター医療薬学部門	専任講師	すずき　さよ 鈴木　小夜	女	49	2010.1.1	2010.1.1	早期体験学習（薬学科）					2.4	0.1	2.4	0.1		京都大学 薬学研究科 修士課程 修了 博士（医学）
								Ｄ１病院・薬局に行く前にＡ	0.3						0.3	0.0		
								Ｄ１病院・薬局に行く前にＢ		0.1					0.0	0.1		
								実務実習事前学習				2.4		5.7	0.0	8.1		
								実務実習の前に（６）	0.1						0.1	0.0		
								生命倫理			0.2				0.2	0.0		
								薬学科早期実習						1.2	0.0	1.2		
								薬学生のための体験学習プログラムF			0.3	0.3			0.3	0.3		
								総合薬学演習Ⅱ			0.3				0.3	0.0		
								計	0.4	0.1	0.8	2.7	2.4	7.0	3.6	9.8	6.7	
薬学科 (兼薬科学科) (実務家教員)	医療薬学・社会連携センター医療薬学部門	専任講師	あおもり　とおる 青森　達	男	38	2013.5.1	2013.5.1	早期体験学習（薬学科）					1.6	0.1	1.6	0.1		群馬大学 医学系研究科 博士課程 修了 博士（医学）
								薬学科早期実習						1.2	0.0	1.2		
								Ｄ１病院・薬局に行く前にＡ	0.1						0.1	0.0		
								Ｄ１病院・薬局に行く前にＢ		0.1					0.0	0.1		
								実務実習事前学習				1.5		6.6	0.0	8.1		
								総合薬学演習Ⅱ			0.3				0.3	0.0		
								実務実習の前に（３）	0.2						0.2	0.0		
								実務実習の前に（６）	0.1						0.1	0.0		
								計	0.4	0.1	0.3	1.5	1.6	7.9	2.3	9.5	5.9	
薬学科 (兼薬科学科)	基礎教育講座	専任講師	いのうえ　かえ 井上　賀絵	女	39	2015.4.1	2015.4.1	Ｆ（６）基礎統計	1.6						1.6	0.0		慶應義塾大学 理工学研究科 後期博士課程 修了 博士（理学）
								基礎数学	3.0						3.0	0.0		
								数学		3.0					0.0	3.0		
								情報・コミュニケーション論			0.4				0.4	0.0		
								生命倫理			0.3				0.3	0.0		
								早期体験学習（薬学科）						0.1	0.0	0.1		
								実務実習事前学習				0.3			0.0	0.3		
								数学演習				0.8			0.0	0.8		
								計	4.6	3.0	0.7	1.1	0.0	0.1	5.3	4.2	4.8	
薬学科 (兼薬科学科)	衛生化学講座	助教	なかざわ　ようすけ 中澤　洋介	男	34	2009.4.1	2013.4.1	薬学実習ⅢＣ（衛生化学，公衆衛生学）					3.0		3.0	0.0		共立薬科大学 薬学研究科 博士前期課程 修了 博士（薬学）
								生命科学の基礎	0.1						0.1	0.0		
								Ｃ９（６）遺伝子を操作する		0.2					0.0	0.2		
								情報・コミュニケーション論			0.5				0.5	0.0		
								細胞の機能と構成分子	0.1						0.1	0.0		
								計	0.2	0.2	0.5	0.0	3.0	0.0	3.7	0.2	2.0	
薬学科 (兼薬科学科)	病態生理学講座	助教	いちかわ　だいじゅ 市川　大樹	男	36	2012.11.1	2012.11.1	Ｃ１４（１）体の変化を知る　疾病と検査値Ａ		0.5					0.0	0.5		共立薬科大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 博士（薬学）
								Ｃ１０（２）免疫系の破綻・免疫系の応用		0.2					0.0	0.2		
								病態生化学	0.1						0.1	0.0		
								実務実習事前学習				1.2		1.2	0.0	2.4		
								生体試料分析	0.1						0.1	0.0		
								生命倫理			0.2				0.2	0.0		
								情報・コミュニケーション論			0.2				0.2	0.0		
								計	0.2	0.7	0.4	1.2	0.0	1.2	0.6	3.1	1.9	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科 （兼薬科学科）	創薬科学講座	助教	たなか　けんいちろう 田中　健一郎	男	34	2013.4.1	2013.4.1	Ｃ８（１）ヒトの成り立ちＢ	0.1						0.1	0.0		熊本大学大学院 薬学教育部 博士後期課程 修了 博士（薬学）
								薬学基礎実習						1.5	0.0	1.5		
								薬学実習ⅡＢ（生物）					3.0		3.0	0.0		
															0.0	0.0		
								計	0.1	0.0	0.0	0.0	3.0	1.5	3.1	1.5	2.3	
薬学科 （兼薬科学科）	創薬科学講座	助教	いしはら　ともあき 石原　知明	男	32	2015.4.1	2015.4.1	薬学実習ⅡＢ（生物）					3.0		3.0	0.0		熊本大学大学院 薬学教育部 博士後期課程 修了 博士（薬学）
								薬学基礎実習						1.5	0.0	1.5		
								生命倫理			0.3				0.3	0.0		
															0.0	0.0		
								計	0.0	0.0	0.3	0.0	3.0	1.5	3.3	1.5	2.4	
薬学科 （兼薬科学科） （実務家教員）	医薬品情報学講座	助教	まるやま　じゅんや 丸山　順也	男	38	2013.4.1	2013.4.1	Ｃ１５（１）医薬品情報	0.2						0.2	0.0		信州大学 医学研究科 博士課程 単位取得退学 博士（医学）
								実務実習事前学習						7.5	0.0	7.5		
								実務実習の前に（５）	0.1						0.1	0.0		
								生命倫理			0.1				0.1	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ			0.3				0.3	0.0		
								情報・コミュニケーション論			0.2				0.2	0.0		
								計	0.3	0.0	0.6	0.0	0.0	7.5	0.9	7.5	4.2	
薬学科 （兼薬科学科）	臨床薬学講座	助教	あきよし　たけし 秋好　健志	男	37	2008.4.1	2009.4.1	Ａ（３）生命の大切さを知るために－３（患者から学ぶ）			0.1				0.1	0.0		武庫川女子大学 薬学研究科 修士課程 修了 博士（薬学）
								情報・コミュニケーション論			0.1				0.1	0.0		
								Ｄ１病院・薬局に行く前にＡ	0.2						0.2	0.0		
								実務実習の前に（２）	0.1						0.1	0.0		
								実務実習の前に（３）	0.2						0.2	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ			0.3				0.3	0.0		
								計	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.5	
薬学科 （兼薬科学科） （実務家教員）	実務薬学講座	助教	くろだ　ゆうこ 黒田　裕子	女	35	2013.4.1	2013.4.1	Ｃ１５（２）患者情報		0.1					0.0	0.1		慶應義塾大学 薬学研究科 博士課程 修了 博士（薬学）
								実務実習事前学習						7.5	0.0	7.5		
								実務実習の前に（４）	0.1						0.1	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ			0.3				0.3	0.0		
								計	0.1	0.1	0.3	0.0	0.0	7.5	0.4	7.6	4.0	
薬学科 （兼薬科学科）	薬学教育研究センター	助教	ごんだ　りょうこ 權田　良子	女	55	2008.4.1	2011.4.1	Ａ（３）生命の大切さを知るために－３（患者から学ぶ）			0.2				0.2	0.0		共立薬科大学 薬学部 卒業 博士（薬学）
								薬学実習ⅡＡ（化学，物理）					2.4		2.4	0.0		
								薬学実習ⅡＣ（有機系）						6.3	0.0	6.3		
								薬学実習ⅢＡ（微生物系）					3.0		3.0	0.0		
								薬学基礎実習						2.7	0.0	2.7		
								Ｃ１２（２）生活環境と健康	0.1						0.1	0.0		
								早期体験学習（薬学科）					0.2	0.3	0.2	0.3		
								実務実習事前学習				0.3			0.0	0.3		
								生命倫理			0.5				0.5	0.0		
								計	0.1	0.0	0.7	0.3	5.6	9.3	6.4	9.6	8.0	
薬学科 （兼薬科学科） （実務家教員）	医療薬学・社会連携センター医療薬学部門	助教	おおつか　なおこ 大塚　尚子	女	38	2009.8.1	2009.8.1								0.0	0.0		共立薬科大学 薬学研究科 博士前期課程 修了 修士（医療薬学）
															0.0	0.0		
															0.0	0.0		
															0.0	0.0		
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬学科 (兼薬科学科) (実務家教員)	医療薬学・社会連携センター医療薬学部門	助教	じびき　あや 地引　綾	女	35	2014.8.1	2014.8.1	早期体験学習（薬学科）					1.5	0.3	1.5	0.3		千葉大学 薬学研究科 修士課程 修了 修士（臨床薬学）
								Ｃ１５（２）患者情報		0.1					0.0	0.1		
								実務実習事前学習				2.1		6.0	0.0	8.1		
								実務実習の前に（６）	0.1						0.1	0.0		
								生命倫理			0.3				0.3	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ			0.3				0.3	0.0		
								薬学科早期実習						0.9	0.0	0.9		
								計	0.1	0.1	0.6	2.1	1.5	7.2	2.2	9.4	5.8	
薬学科 (兼薬科学科)	医療薬学・社会連携センター社会薬学部門	助教	ふじもと　かずこ 藤本　和子	女	58	2008.4.1	2010.4.1	Ａ（３）生命の大切さを知るために－３（患者から学ぶ）			0.3				0.3	0.0		共立薬科大学 薬学部 卒業 博士（薬学）
								Ｃ１８（３）コミュニティーファーマシー		0.2					0.0	0.2		
								栄養情報学演習				0.4			0.0	0.4		
								早期体験学習（薬学科）					1.2	0.3	1.2	0.3		
								薬学実習ⅡＢ（生物）					1.8		1.8	0.0		
								実務実習事前学習				0.9		6.9	0.0	7.8		
								総合薬学演習Ⅱ			0.3				0.3	0.0		
								薬学科早期実習					0.9		0.9	0.0		
								計	0.0	0.2	0.6	1.3	3.9	7.2	4.5	8.7	6.6	
薬学科 (兼薬科学科)	医療薬学・社会連携センター社会薬学部門	助教	こばやし　のりこ 小林　典子	女	54	2008.4.1	2013.4.1	Ａ（３）生命の大切さを知るために－３（患者から学ぶ）			0.1				0.1	0.0		武蔵野大学 人間社会研究科 修士課程 修了 修士（人間科学）
								Ａ（２）生命の大切さを知るために－２（生命倫理）			0.2				0.2	0.0		
								Ｃ１８（３）コミュニティーファーマシー		0.2					0.0	0.2		
								早期体験学習（薬学科）					1.8	0.3	1.8	0.3		
								Ｄ１病院・薬局に行く前にＢ		0.1					0.0	0.1		
								老年薬学と在宅医療	0.1						0.1	0.0		
								実務実習事前学習				1.2		6.6	0.0	7.8		
								総合薬学演習Ⅱ			0.3				0.3	0.0		
								薬学科早期実習						0.6	0.0	0.6		
								計	0.1	0.3	0.6	1.2	1.8	7.5	2.5	9.0	5.8	
薬学科 (兼薬科学科)	医療薬学・社会連携センター社会薬学部門	助教	いわた　ひろき 岩田　紘樹	男	31	2015.4.1	2015.4.1	Ａ（３）生命の大切さを知るために－３（患者から学ぶ）			0.1				0.1	0.0		千葉大学 医学薬学府 後期３年 博士課程 修了 博士（薬学）
								Ｃ１８（２）社会保障制度と薬剤経済	0.2						0.2	0.0		
								Ｃ１８（３）コミュニティーファーマシー		0.1					0.0	0.1		
								早期体験学習（薬学科）					1.5	0.3	1.5	0.3		
								実務実習事前学習				0.6		7.2	0.0	7.8		
								生命倫理			0.2				0.2	0.0		
								薬学科早期実習						0.6	0.0	0.6		
								総合薬学演習Ⅱ			0.3				0.3	0.0		
								薬学生のための体験学習プログラムＡ/多職種連携体験学習			0.4				0.4	0.0		
								情報・コミュニケーション論			0.1				0.1	0.0		
								計	0.2	0.1	1.1	0.6	1.5	8.1	2.8	8.8	5.8	
薬学科 (兼薬科学科)	臨床薬学講座	助手	いまおか　あゆこ 今岡　鮎子	女	27	2013.4.1	2013.4.1	早期体験学習（薬学科）					1.5		1.5	0.0		慶應義塾大学 薬学部 卒業 学士（薬学）
								実務実習事前学習				0.6		7.2	0.0	7.8		
															0.0	0.0		
															0.0	0.0		
								計	0.0	0.0	0.0	0.6	1.5	7.2	1.5	7.8	4.7	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬科学科 （兼薬学科）	創薬物理化学講座	教授	かなざわ　ひでこ 金澤　秀子	女	59	2008.4.1	2008.4.1	Ｃ１６（１）製剤材料の性質	0.7						0.7	0.0		共立薬科大学 薬学研究科 博士後期課程 修了 薬学博士
								Ｃ１６（２）剤形をつくる		0.2					0.0	0.2		
								Ｃ１６（３）薬物送達システムＤＤＳ		0.3					0.0	0.3		
								薬学実習ⅢＥ（物理薬剤，製剤，ＴＤＭ）						3.6	0.0	3.6		
								臨床物理薬剤・製剤学	0.2						0.2	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ		0.1		0.1			0.0	0.2		
								計	0.9	0.6	0.0	0.1	0.0	3.6	0.9	4.3	2.6	
薬科学科 （兼薬学科）	有機薬化学講座	教授	すがい　たけし 須貝　威	男	56	1988.4.1	2008.4.1	薬化学演習			0.4				0.4	0.0		東京大学 農学系研究科 修士課程 修了 農学博士
								有機化学演習１				0.8			0.0	0.8		
								薬学実習ⅡＣ（有機系）						3.3	0.0	3.3		
								有機化学１	1.6						1.6	0.0		
								計	1.6	0.0	0.4	0.8	0.0	3.3	2.0	4.1	3.1	
薬科学科 （兼薬学科）	医薬品化学講座	教授	ましの　ただひこ 増野　匡彦	男	59	2008.4.1	2008.4.1	Ｃ６（２）医薬品のコアとパーツ	1.0						1.0	0.0		東京大学 薬学系研究科 修士課程 修了 薬学博士
								Ｃ６（１）生体分子のコアとパーツＡ		2.0					0.0	2.0		
								薬学への招待	0.1						0.1	0.0		
								薬学実習ⅡＣ（有機系）						1.8	0.0	1.8		
								Ｃ１７（２）リード化合物の創製と最適化	0.4						0.4	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ		0.2					0.0	0.2		
								計	1.5	2.2	0.0	0.0	0.0	1.8	1.5	4.0	2.8	
薬科学科 （兼薬学科）	生化学講座	教授	はせ　こうじ 長谷　耕二	男	44	2014.4.1	2014.4.1	Ｃ１０（１）身体をまもる	0.8						0.8	0.0		富山医科薬科大学 薬学研究科 博士前期課程 修了 博士（薬学）
								薬学実習ⅢＢ（生化学）					2.0		2.0	0.0		
								病態生化学	0.1						0.1	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ		0.1					0.0	0.1		
								細胞の機能と構成分子	0.6						0.6	0.0		
								計	1.5	0.1	0.0	0.0	2.0	0.0	3.5	0.1	1.8	
薬科学科 （兼薬学科）	薬理学講座	教授	みさわ　ひでみ 三澤　日出巳	男	50	2008.4.1	2008.4.1	Ｃ１３（３）薬の効き方Ⅱ		0.5					0.0	0.5		京都大学 薬学研究科 修士課程 修了 博士（薬学）
								薬学実習ⅢＤ（薬理学）						3.0	0.0	3.0		
								Ｃ１３（１）（２）薬の作用と生体内運命・薬の効き方Ⅰ	1.1						1.1	0.0		
															0.0	0.0		
								計	1.1	0.5	0.0	0.0	0.0	3.0	1.1	3.5	2.3	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬科学科 （兼薬学科）	生命機能 物理学講座	教授	おおさわ　まさのり 大澤　匡範	男	46	2015.4.1	2015.4.1	Ｃ２（３）分析技術の臨床応用	0.8						0.8	0.0	4.1	筑波大学 農学研究科 博士後期課程 修了 博士（学術）
								Ｃ１（３）物質の状態ⅡＢ		0.4					0.0	0.4		
								薬学基礎実習						1.5	0.0	1.5		
								実験法概論		0.5					0.0	0.5		
								薬学実習ⅡＡ（化学，物理）					2.1		2.1	0.0		
								基礎物理学	1.5						1.5	0.0		
								分析化学		0.9					0.0	0.9		
								早期体験学習（薬学科）					0.3		0.3	0.0		
								基礎化学		0.2					0.0	0.2		
								計	2.3	2.0	0.0	0.0	2.4	1.5	4.7	3.5		
薬科学科 （兼薬学科）	有機薬化学 講座	准教授	しょうじ　みつる 庄司　満	男	43	2009.4.1	2009.4.1	有機化学演習ⅡＡ			0.7				0.7	0.0	4.6	東北大学 理学研究科 博士後期課程 修了 博士（理学）
								Ｃ４（３）官能基Ａ	1.6						1.6	0.0		
								Ｃ４（３）官能基Ｂ		1.0					0.0	1.0		
								有機化学演習ⅡＢ				1.0			0.0	1.0		
								有機化学演習１			0.8				0.8	0.0		
								薬学実習ⅡＣ（有機系）						3.3	0.0	3.3		
								有機化学２		0.8					0.0	0.8		
								計	1.6	1.8	1.5	1.0	0.0	3.3	3.1	6.1		
薬科学科 （兼薬学科）	医薬品 化学講座	准教授	おおえ　ともゆき 大江　知之	男	46	2011.10.1	2011.10.1	Ｃ５（１）官能基の導入・変換	0.4						0.4	0.0	2.3	東京大学 薬学系研究科 博士課程 修了 博士（薬学）
								Ｃ６（１）生体分子のコアとパーツＢ	0.4						0.4	0.0		
								Ｃ５（２）複雑な化合物の合成		0.4					0.0	0.4		
								Ｃ４（４）化学物質の構造決定		0.1					0.0	0.1		
								薬学実習ⅡＣ（有機系）						3.0	0.0	3.0		
								生命倫理			0.1				0.1	0.0		
								有機化学２		0.1					0.0	0.1		
								計	0.8	0.6	0.1	0.0	0.0	3.0	0.9	3.6		
薬科学科 （兼薬学科）	生化学講座	准教授	いしい　いさお 石井　功	男	49	2011.4.1	2011.4.11	Ｃ９（４）生体エネルギー		1.6					0.0	1.6	2.2	東京大学 薬学系研究科 博士課程 修了 博士（薬学） 博士（医学）
								Ｃ９（６）遺伝子を操作する		0.2					0.0	0.2		
								薬学実習ⅢＢ（生化学）					2.0		2.0	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ		0.1					0.0	0.1		
								細胞の機能と構成分子	0.4						0.4	0.0		
								計	0.4	1.9	0.0	0.0	2.0	0.0	2.4	1.9		

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬科学科 （兼薬学科）	薬理学講座	准教授	おくだ　たかし 奥田　隆志	男	43	2008.4.1	2012.4.1	Ｃ１３（３）薬の効き方Ⅱ		0.4					0.0	0.4	2.1	東京大学 理学系研究科 博士課程 単位取得退学 博士（理学）
								薬学実習ⅢＤ（薬理学）						3.0	0.0	3.0		
								バイオと医療・ゲノム医学	0.1						0.1	0.0		
								基礎神経科学	0.1						0.1	0.0		
								Ｃ１３（１）（２）薬の作用と生体内運命・薬の効き方Ⅰ	0.5						0.5	0.0		
								計	0.7	0.4	0.0	0.0	0.0	3.0	0.7	3.4		
薬科学科 （兼薬学科）	創薬物理 化学講座	専任講師	いとう　よしこ 伊藤　佳子	女	58	2008.4.1	2008.4.1	Ｃ１（３）物質の状態ⅡＡ	1.8						1.8	0.0	4.0	共立薬科大学 薬学部 卒業 博士（薬学）
								Ｃ１６（２）剤形をつくる		0.1					0.0	0.1		
								Ｃ１（３）物質の状態ⅡＢ		0.2					0.0	0.2		
								薬学実習ⅢＥ（物理薬剤，製剤，ＴＤＭ）						3.6	0.0	3.6		
								物理化学１	1.6						1.6	0.0		
								臨床物理薬剤・製剤学	0.1						0.1	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ		0.1					0.0	0.1		
								実務実習事前学習				0.3			0.0	0.3		
								生命倫理			0.2				0.2	0.0		
								計	3.5	0.4	0.2	0.3	0.0	3.6	3.7	4.3		
薬科学科 （兼薬学科）	薬理学講座	専任講師	もりわき　やすひろ 森脇　康博	男	39	2008.4.1	2012.4.1	Ｃ９（６）遺伝子を操作する		0.2					0.0	0.2	2.0	奈良先端科学技術大学院大学 ﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ研究科 博士後期課程 修了 博士（ﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ）
								薬学実習ⅢＤ（薬理学）						3.0	0.0	3.0		
								基礎神経科学	0.1						0.1	0.0		
								Ｃ１３（１）（２）薬の作用と生体内運命・薬の効き方Ⅰ	0.4						0.4	0.0		
								生命倫理			0.1				0.1	0.0		
								情報・コミュニケーション論			0.2				0.2	0.0		
								計	0.5	0.2	0.3	0.0	0.0	3.0	0.8	3.2		
薬科学科 （兼薬学科）	創薬物理 化学講座	助教	ひるた　ゆうき 蛭田　勇樹	男	29	2013.4.1	2013.4.1	Ｃ１（３）物質の状態ⅡＢ		0.2					0.0	0.2	2.2	慶應義塾大学 理工学研究科 博士課程 修了 博士（工学）
								薬学実習ⅢＥ（物理薬剤，製剤，ＴＤＭ）						3.6	0.0	3.6		
								分析化学		0.6					0.0	0.6		
															0.0	0.0		
								計	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0	4.4		
薬科学科 （兼薬学科）	有機薬化学 講座	助教	はなや　けんご 花屋　賢悟	男	30	2012.4.1	2012.4.1	有機化学演習ⅡＡ			0.3				0.3	0.0	2.0	東京理科大学 薬学研究科 博士課程 修了 博士（薬学）
								Ｃ４（３）官能基Ａ	0.4						0.4	0.0		
								薬学実習ⅡＣ（有機系）						3.3	0.0	3.3		
															0.0	0.0		
								計	0.4	0.0	0.3	0.0	0.0	3.3	0.7	3.3		
薬科学科 （兼薬学科）	医薬品 化学講座	助教	たかはし　きょうこ 高橋　恭子	女	50	2008.4.1	2008.4.1	薬学実習ⅡＣ（有機系）						3.0	0.0	3.0	1.9	共立薬科大学 薬学部 卒業 博士（薬学）
								実務実習事前学習				0.3			0.0	0.3		
								生命倫理			0.2				0.2	0.0		
								情報・コミュニケーション論			0.2				0.2	0.0		
								計	0.0	0.0	0.4	0.3	0.0	3.0	0.4	3.3		

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	計 前期	計 後期	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
薬科学科 （兼薬学科）	生化学講座	助教	たかはし　だいすけ 髙橋　大輔	男	32	2015.4.1	2015.4.1	薬学実習ⅢB（生化学）					2.0		2.0	0.0		横浜市立大学 国際総合科学 研究科 博士課程 単位取得退学 博士（理学）
								生命倫理			0.4				0.4	0.0		
								早期体験学習（薬学科）					0.4	0.3	0.4	0.3		
															0.0	0.0		
								計	0.0	0.0	0.4	0.0	2.4	0.3	2.8	0.3	1.6	
薬科学科 （兼薬学科）	生命機能 物理学講座	助教	よこがわ　まりこ 横川　真梨子	女	34	2015.4.1	2015.4.1	薬学実習ⅡA（化学，物理）					2.1		2.1	0.0		東京大学 薬学系研究科 博士課程 修了 博士（薬学）
								C１（４）物質の変化		0.8					0.0	0.8		
								実験法概論		0.5					0.0	0.5		
								薬学基礎実習						1.5	0.0	1.5		
								生命倫理			0.3				0.3	0.0		
								総合薬学演習Ⅱ				0.1			0.0	0.1		
								計	0.0	1.3	0.3	0.1	2.1	1.5	2.4	2.9	2.7	

・ 薬学部は、1年次は1学期15週（年間30週）、2年次以降は1学期10週（年間20週）であるが、この表では、全ての授業科目について、授業時間数を15、30で除して、毎週授業時間数、年間平均毎週授業時間数を算出した。
・ 薬科学科学生（4年制）のみを対象とした科目および大学院の科目は「授業科目」から除外した。

（注）１　「所属学科」には、（　　）に兼担の学科名を記入してください。
２　「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
３　「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、３学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
４　「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。（例：１コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間）
５　１授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時間数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。（担当教員2名で前後期各6.0時間の場合、6.0時間を２で除す。）　また、担当時間数が明らかな場合はそれを考慮して時間数を算出してください。
６　実習の場合は、1名の教員が担当する時間数をそのまま記入してください。
７　「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を２で割った年間平均の時間数を記入してください。
８　卒業研究は授業科目から除外して作成してください。

（基礎資料11）卒業研究の配属状況

6年生の在籍学生数　　薬学科　162名

5年生の在籍学生数　　薬学科　158名

4年生の在籍学生数　　薬学科　150名　薬科学科　66名（薬科学科生66名が卒業研究講座に配属）

	配属講座など	指導教員数	薬学科 6年生 配属学生数	薬学科 5年生 配属学生数	薬科学科 4年生 配属学生数	合計
1	創薬物理化学	3	7	7	6	20
2	RI・分析室	1	2	2	0	4
3	有機薬化学	3	5	3	1	9
4	天然医薬資源学	3	7	6	6	19
5	医薬品化学	3	7	6	6	19
6	生化学	3	6	6	6	18
7	衛生化学	4	7	6	6	19
8	化学療法学	3	6	6	4	16
9	病態生理学	3	8	8	4	20
10	創薬科学	3	6	6	7	19
11	生命機能物理学	2	0	4	2	6
12	薬理学	3	4	6	6	16
13	薬剤学	3	8	7	3	18
14	医薬品情報学	3	10	10	1	21
15	臨床薬学	3	10	10	0	20
16	薬物治療学	3	9	9	4	22
17	実務薬学	3	11	12	0	23
18	薬学教育研究センター	6	20	18	1	39
19	医薬品開発規制科学	3	6	8	3	17
20	医療薬学・社会連携センター　医療薬学部門	5	10	11	0	21
21	医療薬学・社会連携センター　社会薬学部門	4	13	7	0	20
合　計		67	162	158	66	386

［注］　１　卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。

２　指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。

３　講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

（基礎資料１２）講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室　数	総面積(㎡)（Ａ）	専用・共用の別	収容人員（総数）	利用学生総数（Ｂ）	利用学生１人当たり面積（㎡）（Ａ/Ｂ）	備　考
芝共立キャンパス（薬学部）	講義室	9	1,369	専用	1,325	1,197	1.14	薬学科1～6年、薬科学科1～4年が利用
	講堂（講義室兼用）	2	698	専用	606	1,197	0.58	薬学科1～6年、薬科学科1～4年が利用
	実習室	6	1,337	専用	672	811	1.65	薬学科1～4年、薬科学科1～3年が利用
	医療系実習室	3	270	専用	90	150	1.80	薬学科4年が利用
	附属薬局	2	123	専用				
	薬学メディアセンター	3	530	専用	147			
	学生ホール・食堂	1	288	専用	201			昼食時間以外は自習スペースとして開放
	マルチメディアコンピューター室	1	161	専用	94			パソコン94台
	談話室	1	55	専用	24			
	共通機器室・実験室	13	460	専用				
	実験動物飼育施設	1	286	専用				
	SPF飼育室	1	158	専用				
	RI実験施設	1	287	専用				
	体育館（芝共立）	1	742	専用				実務実習発表会・卒業研究発表会に利用
浦和共立キャンパス	薬用植物園	4	3,507	専用				
	体育館（浦和）	1	966	専用				
日吉キャンパス（全学共通）	講義室その他の施設							薬学部は1年次に週5日利用 文、経、法、商、医、理工、薬の7学部の1年次（一部の学部は2年次まで）が利用 学生数約10,600名

［注］　１　６年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。

２　全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。

３　共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名（学生数）を記載し、「利用学生総数（Ｂ）」欄にもその数を含めて記入してください。

４　「利用学生１人当たり面積」は、小数点第３位を四捨五入し、小数点第２位まで記入してください。

５　例示のように適宜行を追加して作成してください。

（基礎資料13）学生閲覧室等の規模

図書室（館）の名称	学生閲覧室 座席数（Ａ）	学生収容 定員数（Ｂ）	収容定員に対する 座席数の割合(%) Ａ／Ｂ＊100	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況	備　考
薬学メディアセンター （芝共立薬学図書館）	127	1,279	9.9	グループ学習室	12	プロジェクター,スクリーン,モニターテレビ,VHS・DVDプレイヤー,BDプレイヤー,ヘッドホンアンプ　各1	学部：1,170名 大学院：109名
				PCエリア	8	パソコン 8台	
計	127	1,279	9.9		20		

［注］　１　「学生収容定員（Ｂ）」には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

２　「備考」欄には学生収容定員（Ｂ）の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

３　「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理末端をいくつ設置しているか等を記載してください。

［大学追記］　大学院の収容定員は、学則上の人数である。

大学院薬学研究科は、平成27年度より修士課程の定員を増やしたため、平成27年度の実際の収容定員は89名である。

（基礎資料14）図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数（数）		定期刊行物の種類（種類）		視聴覚資料の所蔵数（点数）	電子ジャーナルの種類（種類）	過去３年間の図書受け入れ状況			備　　考
	図書の冊数	開架図書の冊数(内)	内国書	外国書			平成25年度	平成24年度	平成23年度	
薬学メディアセンター（芝共立薬学図書館）	51,621	42,748	249	147	421	55	1,367	1,546	1,855	電子ジャーナルの種類数は、薬学メディアセンター単独購読分と塾内他キャンパスメディアセンターとの共同購読分の合計
						72,061				全塾のメディアセンターで購入して、塾内の全てで利用できる電子ジャーナルの種類数
計	51,621	42,748	249	147	421	72,116	1,367	1,546	1,855	

［注］　１　雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

２　開架図書の冊数（内）は、図書の冊数のうち何冊かを記入してください。

３　視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、ＣＤ・ＬＤ・ＤＶＤ、スライド、映画フィルム、ＣＤ－ＲＯＭ等を含めてください。

４　電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。

５　視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載してください。

［大学追記］　平成26年度「メディアセンター標準統計」に基づき作成。平成27年版は、平成28年5月中旬に完成予定のため、本自己点検・評価では使用できない。

薬学メディアセンターで利用できる電子ジャーナルの種類は、上記に無料公開誌を加えて、97,940種類である。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	天然医薬資源学講座	教授	木内　文之

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2014年～現在	2014年度から生薬学の講義で各回の講義の理解度を確認するWEBテストをdotCampusを用いて開始し，継続的に利用している．
2　作成した教科書、教材、参考書	2010年～現在 2012年4月10日 2016年1月5日	・2010年度に講義用の生薬の標本76種を撮影して生薬写真集を作成し，PDF化して学生がダウンロードして使用できるようにした．2013年度には106種の生薬の写真をとり直し，以後春学期用と秋学期用に分けて配布している． ・「パートナー生薬学改訂第２版」南江堂（２年「生薬学」参考書） ・「現代医療の中の漢方薬　改訂第２版」南江堂（3年「漢方概論」教科書）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年8月4日 2015年3月4日 2014年12月21日 2014年4月12日	FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加 FD「第三者評価について学ぶワークショップ」参加 FD「変わりゆく医薬品開発と臨床研究」参加 FD「薬学におけるカリキュラム改訂とチュートリアル教育を考えるワークショップ」参加

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
LC-MS-based quantification method for Achyranthes root saponins.	共著	2016年1月	J. Nat. Med., **70**(1), 102-106 (2016)
Two new diterpenoids from Leonotis leonurus R. Br.	共著	2015年2月	J. Nat. Med., **69**(1), 130-134 (2015)
TLCによる炙甘草と甘草の化学的識別	共著	2014年8月	生薬学雑誌, **68**(2), 70-77 (2014)
Quantitative analysis of anti-inflammatory activity of orengedokuto: Importance of combination of flavonoids in inhibition of PGE2 production in mouse macrophage-like cell line J774.1.	共著	2013年2月	J. Nat. Med., **67**(2), 281-288 (2013)
Genetic and Phenotypic Analyses of a Papaver somniferum T-DNA Insertional Mutant with Altered Alkaloid Composition.	共著	2012年2月	Pharmaceuticals, **5**(2), 133-154 (2012)

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
A Study for Scientific Bases of Effectiveness of a Kampo Formula	2016年1月	The 6th International Conference on Natural Products for Health and Beauty

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2006年4月～現在	医薬品医療機器総合機構日本薬局方原案審議委員会生薬等(B)委員会・委員
2008年4月～2014年3月	日本生薬学会学会誌編集委員会・編集副委員長
2009年1月～現在	内閣府消費者委員会新開発食品評価第二調査会・委員
2013年4月～2015年3月	一般社団法人日本生薬学会・副会長，会長

［注］　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	衛生化学講座	教授	田村　悦臣

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2013年4月	講義資料の中で、その内容が高度のものについて「アドバンスト」と表記し、区別できるようにした。
２　作成した教科書、教材、参考書	2013年1月 2012年4月 2011年4月	薬学領域の食品衛生学(教科書) 新　衛生化学・公衆衛生学(教科書) NEW　医薬品の安全性学（教科書）
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年8月4日	FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Meta-analysis: Effects of probiotic supplementation on lipid profiles in normal to mildly hypercholesterolemic individuals.	共著	2015年10月	PLoS One 10(10):e0139795
Anti-inflammatory activity of flavonoids in Nepalese propolis is attributed to inhibition of the IL-33 signaling pathway.	共著	2015年1月	Int. Immunopharmacol. 25(1)189-198
Coffee inhibits adipocyte differentiation via inactivation of PPARg	共著	2014年11月	Biol. Pharm. Bull. 37(11) 1820-1825
Human keratinocyte caspase-14 expression is altered in human epidermal 3D models by dexamethasone and by natural products used in cosmetics.	共著	2013年8月	Arch. Dermatol. Res. 305(8), 683-689
Vitamin D3 enhances all-trans retinoic acid (ATRA)-mediated neurosteroid biosynthesis in human glioma GI-1 cells.	共著	2012年3月	J. Biochem., 152(3), 285-292

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
ヒト神経細胞腫SH-SY5Yにおける血管内皮増殖因子VGEF発現に対するコーヒーの効果	2015年12月	日本生化学会大会
ヒト神経芽細胞腫SH-SY5YにおけるBACE1発現に対するコーヒーの効果	2015年12月	日本生化学会大会
ヒト結腸がん由来Caco-2細胞のK-ras発現に対するコーヒーの影響	2015年3月	日本薬学会第135年会
コーヒー豆抽出液によるLPSシグナル伝達経路抑制機構の解析	2015年3月	日本薬学会第135年会
脂肪細胞分化における低分子量GTP結合タンパク質κB-Rasの役割	2014年12月	第37回日本分子生物学会年会
脂肪細胞分化におけるRNA helicase DDX5の役割	2014年10月	第87回日本生化学会大会
SH-SY5Y細胞において、コーヒーが脳由来神経栄養因子BDNFの働きに及ぼす影響	2014年10月	第87回日本生化学会大会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2014年4月～	日本生化学会　評議員
2015年4月～	日本認知症予防学会　理事
2015年4月～	三田評論編集委員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	化学療法学講座	教授	杉本　芳一

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		2年次後期から4年次前期までの感染症とがんの化学療法の講義を、オリジナルの講義資料を用いて行っている。講義資料は毎年改訂し、最新の医療情報を提供するように努めている。
２　作成した教科書、教材、参考書		－
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年8月4日 2014年10月21日 2014年4月12日 2013年12月7日	研究倫理と利益相反への対応に関するFDに参加 第三者評価に関するFDに参加 大学院のFDに参加 新カリキュラムの編成に関するFDに参加

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Protein phosphatase complex PP5/PPP2R3C dephosphorylates P-glycoprotein/ABCB1 and down-regulates the expression and function.	共著	2014年4月	Cancer Lett, 345(1): 124-131
FBXO15 regulates P-glycoprotein/ABCB1 expression through the ubiquitin-proteasome pathway in cancer cells.	共著	2013年6月	Cancer Sci, 104(6): 694-702
Expression of human ABCB5 confers resistance to taxanes and anthracyclines.	共著	2012年2月	Biochem Biophys Res Commun, 418(4):736-741
Novel acrylonitrile derivatives, YHO-13177 and YHO-13351, reverse BCRP/ABCG2-mediated drug resistance *in vitro* and *in vivo*.	共著	2011年7月	Mol Cancer Ther, 10(7): 1252-1263
In vivo expansion of *MDR1*-transduced cells accompanied by a post-transplantation chemotherapy regimen with mitomycin C and methotrexate.	共著	2010年7月	J Gene Med, 12(7): 596-603

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Aurora kinase阻害剤感受性に及ぼすAKT3の効果	2015年10月	第74回日本癌学会学術総会
ABCB5遺伝子導入細胞のBSO耐性機構	2015年10月	第74回日本癌学会学術総会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2000年1月～現在	日本癌学会評議員
2002年11月～現在	Cancer Science・Associate Editor
2008年3月～現在	日本臨床腫瘍学会評議員
2014年6月～現在	日本がん分子標的治療学会理事

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15)専任教員の教育および研究活動の業績　　(平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3))

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	病態生理学講座	教授	服部　豊

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2009年～現在	C14(2)薬物治療学では、最新の医療情報に基づいて、症例検討も含めた講義を行っている。内科学会講演会などで新しくかつ標準的な薬物治療に関する情報の収集に日々努力している。 C14(1)症候学、検査学、事前学習では、他大学に先駆けて早くから内科診断学をベースとしたフィジカルアセスメントの講義、演習、実習を開始している。英語によるカルテ記載のトレーニングも行い医療の国際化にも対応している。 2013年からは、大学院専攻長として研究倫理、腫瘍学等の分野で大学院教育にも努力している。
2　作成した教科書、教材、参考書	2012年9月 2009年4月(第1版)、2012年4月(第2版)	多発性骨髄腫の診療指針　第3版　日本骨髄腫学会編　文光堂 薬剤師のための症候学　慶應義塾大学薬学部監修　慶應義塾大学出版会
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2014年11月 2014年9月 2013年3月	日本薬学会第4回薬学教育者のためのアドバンストワークショップ参加（大阪） H26年度第１回薬学部FD「改訂コアカリとカリキュラム検討」 H25年度第2回薬学部FD「研究倫理について」

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の
A novel phthalimide derivative, TC11, has preclinical effects on high-risk myeloma cells and osteoclasts.	共著	2015年1月	PLoS One. 2015 Jan 24;10(1):e0116135
Codon 72 Polymorphism of TP53 Gene Is a Novel Prognostic Marker for Thalidomide Therapy in Multiple Myeloma.	共著	2014年6月	Br J Haematol. 2014 Jun;165(5): 728-731.
A Myeloma Cell Line Established from a Patient Refractory to Thalidomide Therapy Revealed High-Risk Cytogenetic Abnormalities and Produced Vascular Endothelial Growth Factor.	共著	2013年5月	Blood Cancer J 2013 May 17;3, e115
An Anilinoquinazoline Derivative Inhibits Tumor Growth through Interaction with hCAP-G2, a Subunit of Condensin II.	共著	2012年9月	PLoS One. 2012;7(9):e44889
A Phthalimide Derivative that is Effective on Multiple Myeloma Inhibits Centrosomal Clustering by Interacting with Nucleophosmin.	共著	2012年6月	PLOS One 2012;7(6):e38878

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Drug Design for Overcoming High-Risk Myeloma and Identification of Novel Binding Proteins to Immune-Modulatory Drugs.	2015年12月	57th AMERICAN SOCIETY of HEMATOLOGY Annual Meeting and Exposition（米国オーランド）
Identification of New IMiDs-Binding Proteins and Nonteratogenic Drug Design for High-Risk Myeloma.	2015年10月	第77回日本血液学会　（金沢）
Clinical significance of 11;14 translocation in myeloma, AL amyloidosis and mantle cell lymphoma.	2015年10月	第77回日本血液学会　（金沢）
ハイリスク多発性骨髄腫に対する新規治療薬の開発	2015年6月	第16回 Pharmaco-Hematology シンポジウム（日本薬学会生物系薬学部会）東京

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

平成22年4月～現在	日本血液学会代議員
同上	日本血液学会編集委員
同上	日本骨髄腫学会評議員
同上	日本骨髄腫学会監事

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	薬剤学講座	教授	中島　恵美

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		学生が勉強の動機を高めるよう工夫している。授業評価は想定内である。
２　作成した教科書、教材、参考書	2015年3月 2015年3月 2015年3月 2014年3月 2013年3月 2012年3月 2012年3月	薬の生体内運命.　ネオメディカル 今日のOTC薬. 南江堂 セルフメディケーションとOTC医薬品の使い方　ネオメディカル セルフメディケーションハンドブック2014. 日本OTC医薬品連合会 セルフメディケーションハンドブック2013.　日本OTC医薬品協会 セルフメディケーションハンドブック2012.　日本OTC医薬品協会 スタンダード薬学シリーズ.薬と疾病.薬物治療（1）東京化学同人
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2014年 2013年 2013年 2012年 2012年	第29回薬剤学会　薬剤学における国際性教育の要素 第3回日本中医学会：自然治癒力と脳:プラセボ効果の要因解析からわかること. 第38回日本香粧品学会：脳が決める効果:プラセボ効果の要因解析からわかること. 石川県薬剤師会 薬剤師PS講座：ヘルスケア薬剤師のためのOTC薬. 新潟県薬剤師会セルフメディケーション研修会：認識薬物療法とOTCセラピー.
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年4月6日 2015年3月4日 2014年4月12日	FD 研究倫理講習会 FD 第三者評価について FDWS 倫理系カリキュラム

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Influence of counseling intervention on the effectiveness of a revitalizing medicinal product in healthy volunteers, using a brain monitoring system.	共著	2014年8月	Jpn J Pharm Health Care Sci. 40(10)558-566 (2014)
Influence of counseling intervention on the effectiveness of aromatherapy with bergamot oil in healthy women volunteers measured with a brain monitoring system.	共著	2014年6月	J Jpn Cosumet soc. 38(2):81-86(2014).
Effectiveness of Aromatherapy Evaluated with Subjective and Objective Cognitive Indicators: A clinical trial on young adults using near-infrared spectroscopy.	共著	2012年4月	Jpn J Pharm Health Care Sci 38(4):265-71 (2012)
Characterization of the acute effects of alcohol on asymmetry of inferior frontal cortex activity during a Go/No-Go task using functional near-infrared spectroscopy.	共著	2011年5月	Psychopharmacology (Berl) 217,595-603(2011)
Effectiveness of administration of energy drinks, using cognitively subjective and objective indicators -A double-blind, randomized clinical trial on healthy young adults.	共著	2010年12月	Jpn J Pharm Health Care Sci 36(12):847-854 (2010)

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
プラセボ効果と遺伝子多型の関係及び臨床におけるプラセボ薬使用状況	2015年11月	日本医療薬学会
レジリエンスを変動させる薬物の文献調査と病院薬剤師の認識調査	2015年11月	日本医療薬学会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2014年4月～現在	文部科学省大学設置・学校法人審議会専門委員
2009年7月～現在	厚生労働省薬局方製剤部門委員
2009年1月～現在	厚生労働省薬事・食品衛生審議会臨時委員（医薬品第二部会）
2007年7月～現在	法務省人権擁護委員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	医薬品情報学講座	教授	望月　眞弓

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2015年春学期	本年度はポイントの説明を複数回繰り返すなどの工夫をし,昨年の授業評価よりポイントは上昇した。
2　作成した教科書、教材、参考書	2015年4月	薬学テキストシリーズ　医薬品情報学ワークブッ監修ク（朝倉書店）
	2014年3月	新・薬学概論第三版pp57-62（廣川書店）
	2014年3月	医薬品のレギュラトリーサイエンス（南山堂）
	2013年10月	スタンダード薬学シリーズ6 薬と疾病3.薬物治療(2)および薬物治療に役立つ情報 第二版.（編集責任）（東京化学同人）
	2013年7月	薬剤師による症候からの薬学判断pp1-80（じほう）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2014年3月	慶應義塾大学薬学部における海外アドバンスト病院実習の教育効果の評価.（日本薬学会年会）
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	2015年5月	薬学部FD 新モデル・コアカリキュラムが目指す実務実習
	2015年3月	薬学部FD 第三者評価について学ぶワークショップ
	2014年4月	薬学部FD 薬学におけるカリキュラム改訂とチュートリアル教育を考えるWS
	2014年10月	三学部FD 患者中心の医療を実践するための医療チームのあり方を考える
	2014年12月	大学院FD 変わりゆく医薬品開発と臨床研究
	2015年3月	薬学部FD　第三者評価について学ぶWS

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Factors Affecting the Timing of Signal Detection of Adverse Drug Reactions.	共著	2015年12月	PLoS ONE　10(12), e0144263
Effect of database profile variation on drug safety assessment: an analysis of spontaneous adverse event reports of Japanese cases.	共著	2015年6月	Drug Design, Development and Therapy, 9, 3031-3041
Meta-analysis of the efficacy and safety of Ginkgo biloba extract for the treatment of dementia.	共著	2015年5月	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences,1, 14
Quantitation of pilsicainide in microscale samples of human biological fluids using liquid chromatography-tandem mass spectrometry.	共著	2015年3月	J Chromato 985,172-179
Expected value of the additional state in evaluating the method of quantification and uncertainty of additional states in an analytical model of grade I hypertension.	共著	2015年1月	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences.1(3),1-7

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）ヒト小腸でのビフィズス菌によるBCRP発現制御機構の解明	2015年12月11日	第36回日本臨床薬理学会学術総会
（演題名）関節リウマチにおけるメトトレキサートの 有効性と遺伝子多型の関連のメタアナリシス	2015年6月28日	第18回 日本医薬品情報学会総会・学術大会
（演題名）地域薬局の参画による脂質異常症の早期発見を目的とした取り組み	2015年7月	第23回クリニカルファーマシーシンポジウム　医療薬学フォーラム2015（名古屋）
（演題名）一般用医薬品の添付文書におけるアイ・トラッカーを用いた理解度に関する応用可能性の研究	2015年6月	第18回日本医薬品情報学会総会・学術大会（岡山）

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2005年～	日本学術会議連携会員
2010年～	日本医薬品情報学会会長（現理事長）
2010年～	日本医療薬学会副会頭
2012年～	厚生労働省薬事食品衛生審議会薬事分科会委員

［注］　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	臨床薬学講座	教授	大谷　壽一

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2015年11月30日	"Introduction to overseas clinical rotation" において、海外渡航前の注意事項について英語での双方向的な講義を実施し、海外のマナー、習慣、旅行時のアドバイスを実施した。
2　作成した教科書、教材、参考書	2015年3月1日 2015年2月1日 2012年12月14日 2012年11月22日	「MRテキストI, 医薬品情報2012　2015年改訂」、南山堂　（ＭＲ認定試験公式テキスト）(編集・執筆) 「臨床検査データブック 2015-2016」、医学書院（執筆） 日本薬学会 編: スタンダード薬学シリーズ６「薬と疾病III」第２版　（東京化学同人）(執筆) 「育薬セミナーBASIC 学び直したい薬剤師のための研修教材」、日経BP社(執筆)
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2015年10月19日 2014年3月30日	Student exchange program between Keio University and US unicersities for international clinical practice", 2015 ACCP Global Conference on Clinical Pharmacy (San Francisco, ポスター) 「慶應義塾大学薬学部における海外アドバンスト病院実習の教育効果」日本薬学会第134年会(熊本, ポスター)
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年8月4日 2015年5月8日 2015年3月4日 2015年2月28日 2015年1月1日 2014年12月12日 2014年6月28・29日 2014年4月12日 2013年2月20日	平成27年度第1回薬学部FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加 医療系三学部合同教育（後期）（実施委員） 平成26年度第2回薬学部FD「第三者評価について学ぶワークショップ」(FD委員・ファシリテーター) (公社)私立大学情報教育協会「薬学教育におけるアクティブ・ラーニング研究対話集会」(東京)（実施委員） 高等学校教諭一種免許状（数学）取得 日本私立薬科大学協会 教務部長会（金沢）（参加） 第3回アジア薬科大学連合 Deans Forum "Regional Harmonization of Pharmacy Education in Asia"（東京）（組織委員・座長・ポスター発表） 平成26年度第1回薬学部FD「薬学におけるカリキュラム改訂とチュートリアル教育を考えるワークショップ」(FD委員・ファシリテーター) 筑波大学附属中学校 特別講義 出講

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Variation in the inhibitory potency of terbinafine among genetic variants of CYP2D6	共著	2015年4月	Drug Metabol Pharmacokinet, 30(4): 321-324
インターネットオークションでの違法な医薬品取引と主催者による監視、削除の実態	共著	2015年3月	薬学雑誌 135(3): 529-534
Decrease in ciprofloxacin absorption by polyvalent metal cations is not fully attributable to chelation or adsorption.	共著	2014年5月	Drug Metabol Pharmacokinet, 29(5): 414-418
Prediction of the extent and variation of grapefruit juice-drug interactions from the pharmacokinetic profile in the absence of grapefruit juice.	共著	2014年10月	Biopharm Drug Dispos 35(7): 373-381
Characterization of transplacental transfer of paroxetine in perfused human placenta: development of a pharmacokinetic model to evaluate tapered dosing.	共著	2013年12月	Drug Metabol Dispos. 41(12):2124-2132

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
消化管におけるアムロジピンと活性炭の薬物相互作用に対する食事の影響	2015年11月	第25回日本医療薬学会年会
CYP3A4 遺伝的 variant に対する競合阻害剤の阻害特性の体系的比較（優秀ポスター賞受賞）	2015年9月	第59回 日本薬学会関東支部大会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2009年４月～現在	(独)医薬品医療機器総合機構 専門委員
2010年４月～現在	厚生労働省 薬剤師試験委員
2011年11月～現在	防衛省 陸上自衛隊予備自衛官（衛生科薬剤官 予備３等陸佐）
2012年７月～現在	日本医薬品情報学会　理事・編集委員長

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	薬物治療学講座	教授	齋藤　英胤

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	毎年各授業 開始前	各種疾患ガイドラインに即した内容となるよう、毎年内容の見直しを行い、そのエッセンスをわかりやすく説明している。その年に出題された国試について関係する箇所の問題を提示し、学生と共に解答を考えるようにしている。授業評価は学生が客観的に評価できるよう工夫している。
２　作成した教科書、教材、参考書	毎年１月 2015年6月 2010年2月	ポケット版　臨床医薬品集2010~2015　分担執筆　薬事日報社 やさしい臨床医学テキスト　分担執筆（2010, 2011, 2012, 2014）薬事日報社　Pricipal Pharmacotherapy　NEO薬学シリーズ3, ネオメディカル、Pharmacotherapy NEO薬学シリーズ3, ネオメディカル、他
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2014年6月	10th International Conference Life Long Learning in PharmacyにてThe Sports Pharmacist System in Tokyo Japan.の演題で発表（共著）
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年11月27日 2015年8月4日 2014年12月21日 2014年4月12日	日本私立薬科大学協会学生部長会参加 FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加 大学院FD 「変わりゆく医薬品開発と臨床研究」参加 学部FD 「薬学におけるカリキュラム改訂とチュートリアル教育を考えるワークショップ」参加

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Inhibitors of enhancer of zeste homolog 2 (EZH2): activate tumor-suppressor microRNAs in human cancer cells.	共著	2014年5月	Oncogenesis 3: e104
Suppressive effect of the histone deacetylase inhibitor, suberoylanilide hydroxamic acid (SAHA): on hepatitis C virus replication via epigenetic changes in host cells.	共著	2013年9月	J Cell Biochem. 114(9): 1987-96
Overexpression of miR-142-5p and miR-155 in gastric mucosa-associated lymphoid tissue (MALT): lymphoma resistant to Helicobacter pylori eradication.	共著	2012年11月	PLoS One 7(11): e47396
Identification by differential tissue proteome analysis of talin-1 as a novel molecular marker of progression of hepatocellular carcinoma.	共著	2011年5月	Oncology 80: 406-415
On-treatment predictions of success in peg-interferon/ribavirin treatment using a novel formula.	共著	2010年1月	World J Gastroenterol 16: 89-97

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Decrease of microRNA-122 is a key event during hepatocarcinogenesis from non-alcoholic steatohepatitis.	2015年4月	2015 Annual Meeting of American Association for Cancer Research
Epigenetic silencing of the tumor suppressor microRNA-122 during hepatocarcinogenesis from nonalcoholic steatohepatitis.	2014年10月	United European Gastroenterology Week 2014

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2013年4月～	日本抗加齢医学会理事
2008年9月～	日本消化器病学会財団評議員　指導医
1998年4月～	日本肝臓学会評議員　指導医
1996年4月～	日本消化器免疫学会評議員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	実務薬学講座	教授	木津　純子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2011年4月～ 2014年12月	実務実習を経験した学生の意見を聴取し、学生目線で新たな実務実習事前学習を構築し、学生による実習指導体制を確立した（2011年度セルフメディケーション実習、2012年度アドバンスト服薬指導実習、2013年度感染制御実習及び総合実習、2014年度医療倫理実習を導入）
2　作成した教科書、教材、参考書	2015年4月	新小児薬用量改訂第7版(診断と治療社)
	2015年1月	今日の治療薬　解説と便覧2015（2004年版から連続して執筆）(南江堂)
	2013年4月	ハリエットレーンハンドブック第2版ジョンズ・ホプキンス病院小児科レジデントマニュアル翻訳（メディカルサイエンスインターナショナル）
	2013年1月	疾病の成り立ち②臨床薬理学（メディカ出版）
	2012年6月	新しい薬学事典(朝倉書店)
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2014年9月	新コアカリキュラムに対応した実務実習を考える　今後の展望と課題(日本医療薬学会)
	2014年2月	医療系学部における感染制御教育（日本環境感染学会）
	2013年9月	最高学年の学生による医療系三学部合同教育の評価(日本医療薬学会)
	2012年3月	新時代の薬剤師に望まれる新たな臨床能力とその学習モデルの提案(日本薬学会)
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年10月4日	OSCE実施委員会主催「薬学共用試験OSCEに関するWS」のファシリテーター
	2015年9月13日	公開講座：指導薬剤師のためのWSのコーディネーター
	2015年8月28日	文部科学省主催薬学指導者のためのWSのファシリテーター
	2015年8月4日	FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加
	2015年7月1日	第1回薬学部FD「改訂コアカリキュラムとカリキュラム検討」
	2015年5月8日	慶應義塾大学三学部合同後期教育WSのファシリテーター

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Pharmacokinetics and dosing estimation of meropenem in Japanese patients receiving continuous venovenous hemodialysis.	共著	2015年6月	J Infect Chemother, 21, 476-478, 2015
Pharmacokinetics and skin tissue penetration of daptomycin in rats.	共著	2015年5月	Clin. Pharm Adv. Appl 7, 79-82, 2015
バンコマイシン塩酸塩点滴静注用製剤の生理食塩液に対する溶解性比較	共著	2015年1月	環境感染誌30(1)29-32,2015
カラゲニン足蹠浮腫モデルを用いた各種ケトプロフェンテープ剤の抗炎症効果比較	共著	2014年11月	医療薬学40(11)672-676,2015
The efficacy, safety, and pharmacokinetics of biapenem administered thrice daily for the treatment of pneumonia in the elderly.	共著	2014年6月	J Infect Chemother. 20, 356-360, 2014
Maternal plasma and breast milk concentration of labetalol administrated to lactating women and infantile findings.	共著	2014年6月	JJS Breastfeeding Res 8(1)72-80, 2014

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
自動車運転に影響を及ぼす医薬品の処方への対応	2015年11月	第25回日本医療薬学会年会
医薬品副作用被害救済制度からみた抗菌薬が関連した副作用被害の実態	2015年10月	第62回日本化学療法学会東日本支部総会
糖尿病患者に向き合う薬剤師の育成に向けて	2015年9月	第4回薬と糖尿病学会学術集会
2014年度薬学共用試験OSCE報告	2015年7月	第47回日本医学教育学会大会
カラゲニン足蹠浮腫モデルを用いた抗MRSA薬の抗炎症作用	2015年6月	第63回日本化学療法学会総会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2006年10月～現在	薬学共用試験センターOSCE実施委員
2008年4月～現在	厚生労働省薬事分科会委員
2014年6月～現在	日本化学療法学会理事
2015年2月～現在	日本環境感染学会理事

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	薬学教育研究センター	教授	阿部　芳廣

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2009～2014年	1年「薬科学早期体験学習」：2回の実験を担当（3分割の１グループ24名程度）。定性分析の内容は個人で検証法を書き出し、その後、グループ討議によって最小回数の実験で、5つの試料に含まれる物質を検出する実験プロトコールを作成し、一人ずつ実施し、グループで考察する。物理系の内容では、ボール紙とのりだけで、「卵を入れて３Fから落としたときに割れない容器」を制作し、検証する。実験後、沈降のモデルであることを説明し、考察する。
2　作成した教科書、教材、参考書	2013年10月1日 2011年9月1日	「薬学生のための　実習実験安全ガイド」東京化学同人（共著）．　薬学における学部実習を行うとき、学生が安全への配慮ができきるような参考書。 「基礎薬学　分析化学Ⅱ 第4版」廣川書店（C4(4)教科書）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2015年3月26日	4年制薬学生の”科学的に考える力”の醸成-グループ討議によるアプローチ日本薬学科第135年会（神戸）
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年7月1日 2015年9月25日 2014年9月1日 2013年3月10日	H27年度第3回関東地区調整機構薬学教育者WS（慶應義塾大） H27年度第3回慶應義塾大学三学部合同教育ワークショップ（中期）ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ H26年度第１回薬学部FD「改訂コアカリとカリキュラム検討」 H25年度第2回薬学部FD「研究倫理について」

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Elucidation of molybosilicate complex in the molybdate yellow method by ESI-MS.	共著	2015年1月1日	Talanta, **131**, 301-8(2015).

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Electrochemical Oxidation: A research tool for drug metabolites with short lives in vitro.	2015年12月	Pacifichem2015(Honolulu, Hawaii), p.75 01Anal(#15)748.

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2006年6月～現在	関東地区調整機構　ワークショップ小委員会　委員
2006年6月～2015年4月	東京都薬剤師会　実習受入委員会委員
2013年4月～2015年3月	薬学教育評価機構評価委員
2014年12月～現在	薬学教育協議会　参与

［注］　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	医薬品開発規制科学講座	教授	黒川　達夫

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		授業の過程に学生の自主的なプレゼンテーションを取り入れ、積極的な参画を促した。
２　作成した教科書、教材、参考書	2014年2月 2014年1月	「医薬品のレギュラトリーサイエンス」南山堂 （3年 C17(1),C17(4)(5) 教科書） 「みてわかる薬学 図解医薬品情報学」南山堂
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年8月4日	薬学部ＦＤ「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加
	2014年12月3日	東京医科歯科大学「医療イノベーション推進人材養成プログラム」講義
	2014年5月23日	東京女子医科大学ＦＤプログラム「医薬品添付文書とくに禁忌について」講義
	2013年12月17日	平成25年度第2回薬学部ＦＤ「研究倫理について」参加

Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Acceptance of surrogate endpoints in clinical trials supporting approval of drugs for cancer treatment by the Japanese regulatory agency.	共著	2015年	Annal Oncol, Vol26, 211-216.
ICHの歴史 - ICHの形成にたどるわが国医薬品の国際展開-	単著	2014年	薬史学雑誌, Vol.49, No.2, 165-170.
日本における抗癌剤開発とガイドラインの歴史	共著	2014年	薬史学雑誌, Vol.49, No.2, 196-204.
「医薬品のレギュラトリーサイエンス」	共著	2014年2月	南山堂
「みてわかる薬学 図解医薬品情報学」	共著	2014年1月	南山堂
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）	
2015年8月～現在	日本ＯＴＣ医薬品協会　理事長
2015年7月～現在	ＤＩＡ(Drug Information Association) Global President Elect
2012年4月～現在	一般社団法人 くすりの適正使用協議会　理事長
2011年4月～現在	公益財団法人一般用医薬品セルフメディケーション振興財団　理事

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	医療薬学部門	教授	中村　智徳

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2014-15年度	D1 病院・薬局に行く前にＡおよびＢで、処方せんの基礎およびリスクマネージメントに関する講義の中で、映写スライドには写真をなるべく多くし、臨床現場での事例にも触れ内容の理解を深めるよう努めた。
２　作成した教科書、教材、参考書	2015年 2014年 2013年2月1日	現代医療における漢方薬 南江堂（分担） Pharmacotherapy ネオメディカル（分担） 臨床検査データブック 2013-2014 医学書院（分担）
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2014年3月	慶應義塾大学薬学部における海外アドバンスト病院実習の教育効果の評価　日本薬学会134年会
	2014年3月	事前学習における服薬指導実習改善に向けた薬学5年生のコミュニケーション能力に関する分析　日本薬学会134年会
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2013年7月～現在 2015年3月14日、15日 2014年度	H25-27年度がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン薬学分野コーディネーターとして、シンポジウム２回、研修 第18回関東地区調整機構実務実習認定指導薬剤師ワークショップ （タスクフォース） 平成26年度OSCE実施責任者

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Quantitative evaluation of biliary elimination of gadoxetate, a magnetic resonance imaging contrast agent, via geometrical isomer-specific transporting system in rats.	共著	2014年8月	Biopharm Drug Dispos 2014; 35(6) : 362-371
Assessment of DDR2, BRAF, EGFR and KRAS mutations as therapeutic targets in non-adenocarcinoma lung cancer patients.	共著	2014年6月	Molecular Clinical Oncology 2014; 2 (5): 714-718
The Effect of a Dietary Supplement Containing Raspberry Ketone on CYP3A Activity.	共著	2014年5月	Pharmaceutica Analytica Acta 2014; 5: 302
Case report: dose adjustment of warfarin using genetic information and plasma concentration monitoring.	共著	2014年5月	J Clin Pharm Ther 2014; 9(6): 319-321
OTC薬実習の問題点とその改善のための提案.	共著	2014年1月	医療薬学2014; 40: 119-123

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Effect of genetic polymorphism of azathioprine-metabolizing enzymes on response to rheumatoid arthritis treatment.	2016年3月	21st Congress of the European Association of Hospital Pharmacists
慶應義塾大学薬学部 臨床系教員の病院における実地研修（On the Job Training：OJT）	2015年11月	第25回日本医療薬学会年会
アプレピタントによる補助療法ががん化学療法の治療経過に与える影響	2015年9月	第59回日本薬学会関東支部大会
COX阻害活性評価方法の確立およびそれを用いたNSAIDsのCOX阻害活性評価	2015年9月	第59回日本薬学会関東支部大会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2014年9月～現在	日本医薬品安全性学会評議員
2014年4月～現在	日本医薬品情報学会編集委員
2013年4月～現在	日本医療薬学会代議員
2013年4月～現在	日本生薬学会学会誌編集委員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	社会薬学部門	教授	山浦　克典

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2015年4月～ （2015年4月採用）	3年「C18(2)社会保障制度と薬剤経済」：を担当（薬学科必修、薬科学科選択）。自身の薬局薬剤師勤務時の経験を踏まえて興味をひかせるよう工夫。さらに、抜き打ちドリルを課し、回答を次回に配布するなど出席を促す工夫も実施（授業評価4.0）。
2　作成した教科書、教材、参考書	2015年9月	掻痒. In: 薬学生のための新臨床医学―症候および疾患とその治療（市田公美,細山田真編）, pp.121-122, 廣川書店（東京）, 2015.
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年5月8日 2015年9月13日 2015年10月4日	医療系三学部合同教育（後期）にファシリテーターとして参加 指導薬剤師のためのワークショップファシリテーターとして参加 薬学共用試験OSCE課題見直しに関するワークショップに参加

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Protective Effect of Young Green Barley Leaf (Hordeum vulgare L.) on Restraint Stress-Induced Decrease in Hippocampal BDNF in Mice.	共著	2015年	Pharmacognosy Magazine, 11:S86-92
Increased expression of the histamine H4 receptor following differentiation and mediation of the H4 receptor on interleukin-8 mRNA expression in HaCaT keratinocytes.	共著	2014年	Experimental Dermatology, 23:138-140
Sex-related differences in SLIGRL-induced pruritus in mice.	共著	2014年	Life Sciences, 94:54-57
Sex differences in stress reactivity of hippocampal BDNF in mice are associated with the female preponderance of decreased locomotor activity in response to restraint stress.	共著	2013年	Zoological Science, 30:1019-1024
Increased expression of the histamine H4 receptor subtype in hypertrophic differentiation of chondrogenic ATDC5 cells.	共著	2012年	Journal of Cell Biochemistry, 113:1054-1060

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Long-term topical steroid therapy can be a probable cause for pruritus.(Invited).	2015年9月	8th World Congress on Itch.
Topical glucocorticoid-induced pruritus.(Invited).	2014年10月	24th International Symposium of Itch.

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2010年10月～現在	日本免疫毒性学会評議員
2013年10月～現在	日本免疫毒性学会広報委員
2014年7月～現在	日本毒性学会FTS編集委員
2015年4月～現在	日本漢方協会顧問

［注］　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　5　「Ⅲ　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	天然医薬資源学講座	准教授	羽田　紀康

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2010年4月～	漢方の講義において、実際に講義中に漢方薬を煎じてにおい、味を感じてもらうと共に、構成生薬の標本をまわして観察してもらっている
2　作成した教科書、教材、参考書	2014年4月2日 2014年2月10日	漢方重要処方60 エッセンシャル天然薬物化学第1版第4刷
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年9月26日 2015年8月4日 2015年3月4日 2014年12月21日 2014年4月12日	H27三学部合同中期教育（ファシリテーター） FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加 FD「第三者評価について学ぶワークショップ」参加 FD「変わりゆく医薬品開発と臨床研究」参加 FD「薬学におけるカリキュラム改訂とチュートリアル教育を考えるワークショップ」参加

Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Synthesis of Model compounds rerated to linear β-D-(1→6)-galactosyl side-chains of polysaccharides from Astragalus mongholicus Bunde.	共著	2014年7月	Heteracycles, 90, 563-578
Synthetic studies on glycosphingolipids from protostomia phyla: Synthesis of glycosphingolipid from the marine sponge Spheciospongia vesparia and its analogue.	共著	2013年7月	Heterocycles, 88, 689-704
Synthetic studies on glycosphingolipids from protostomia phyla: synthesis of glycosphingolipids and related carbohydrate moieties from the parasite Schistosoma mansoni.	共著	2012年8月	Carbohydr. Res., 361, 55-72
Synthesis, antigenicity against human sera and structure-activities relationships of carbohydrate moieties from toxocara larvae and their analogues.	共著	2012年7月	Molecules, 17, 9023-9042
Synthesis of the carbohydrate moiety from the parasite Echinococcus multilocularis and their antigenicity against human sera.	共著	2011年2月	Eur. J. Med. Chem., 46, 1768-1778
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）	
平成21年4月～現在	日本糖質学会評議委員
平成23年4月～現在	Glyco東京幹事
平成27年4月～	芝危険物安全協会理事

［注］　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	衛生化学講座	准教授	多胡　めぐみ

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2015年春学期	2年C9(2)、3年C11(1)は内容が多岐に渡るため、講義最終日の後半に配布資料を準備し概説を行った。また、演習問題を作製し、配布することにより、学生の理解度を深めるように努めた。
２　作成した教科書、教材、参考書		－
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年9月26日 2015年8月4日	慶應義塾大学3学部合同教育ワークショップ(中期)にファシリテーターとして参加 FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Nepetaefuran and leonotinin isolated from Leonotis nepetaefolia R. Br. potently inhibit the LPS signaling pathway by suppressing the transactivation of NF-κB.	共著	2015年 10月	Int Immunopharmacol.28(2):967-76.
Hypomyelinating leukodystrophy-associated missense mutation in HSPD1 blunts mitochondrial dynamics.	共著	2015年 7月	Biochem Biophys Res Commun.462(3):275-81.
Anti-inflammatory activity of flavonoids in Nepalese propolis is attributed to inhibition of the IL-33 signaling pathway.	共著	2015年 3月	Int Immunopharmacol. 25(1):189-98.
Arf tumor suppressor disrupts the oncogenic positive feedback loop including c-Myc and DDX5.	共著	2015年 1月	Oncogene. 34(3):314-22.
Dynamin isoforms decode action potential firing for synaptic vesicle recycling.	共著	2013年6月	J Biol Chem. 288(26):19050-9.

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
慢性骨髄増殖性腫瘍の原因遺伝子産物JAK2V617F変異体が誘導する形質転換におけるDDX5の役割	2015年12月	BMB2015
MPN原因遺伝子としてのJAK2キナーゼ変異と増殖制御	2015年6月	第16回Pharmaco-Hematologyシンポジウム

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2015年4月～2017年3月	日本生化学会男女共同参画推進委員
2012年4月～2015年3月	日本薬学会トピックス小委員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	化学療法学講座	准教授	野口　耕司

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2010年～現在	パワーポイントでオリジナルの資料を作成しているため、最先端の学術論文などの資料を活用している。(授業に対する総合評価 3.7)
２　作成した教科書、教材、参考書	2010年～現在	パワーポイントでオリジナルの資料を作成している
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年5月16日 2015年8月4日 2015年9月26日	医療系三学部合同教育（初期）にファシリテーターとして参加 FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加 医療系三学部合同教育（中期）にファシリテーターとして参加

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Protein phosphatase complex PP5/PPP2R3C dephosphorylates P-glycoprotein/ABCB1 and down-regulates the expression and function.	共著	2014年	Cancer Letters (345, 124-131)
Human ABC transporter ABCG2/BCRP expression in chemoresistance: basic and clinical perspectives for molecular cancer therapeutics.	共著	2014年	Pharmacogenomics and Personalized Medicine (7,53-64)
Biochemical Interaction of Anti-HCV Telaprevir with the ABC Transporters P-glycoprotein and Breast Cancer Resistance Protein.	共著	2013年	BMC Research Notes (6, 445)
FBXO15 regulates P-glycoprotein/ABCB1 expression through the ubiquitin-proteasome pathway in cancer cells.	共著	2013年	Cancer Science (104, 694-702)
p38MAPK and Rho-dependent kinase are involved in anoikis induced by anicequol or 25-hydroxycholesterol in DLD-1 colon cancer cells.	共著	2013年	Biochemical and Biophysical Research Communications.(430:1240-1245)

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
AKT3 expression modulates chemosensitivity to aurora kinase inhibitors.	2015年11月	Molecular Targets and Cancer Therapeutics (Boston, MA, USA)
Aurora kinase阻害剤感受性に及ぼすAKT3の効果	2015年10月	第74回日本癌学会学術総会（名古屋）

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2014年4月～現在	日本ウイルス学会・学会誌編集委員
2012年1月～現在	日本癌学会・評議員
2009年6月～現在	日本がん分子標的治療学会・評議員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	病態生理学講座	准教授	松下　麻衣子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2010年～	3年生の臨床免疫学C10(2)では様々な免疫疾患について最新の内容の講義を行っている。4年生の薬物治療学C14（2）では白血病など各種疾患について症例を提示しながら実臨床を見据えた講義を行っている。6年生の症例検討Ｂでは、少人数演習形式で、オーディオレスポンスシステム'Turning point(KEEPAD社)' を用いて双方向授業を行っている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年8月4日	FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加
	2015年7月1日	医療系三学部合同教育FDワークショップ2015に参加
	2015年3月4日	学部FD[第三者評価について学ぶワークショップ]
	2014年12月21日	大学院FD[変わりゆく医薬品開発と臨床研究]
	2014年10月4日	三学部FD「患者中心の医療を実践するための医療チームのあり方を考える」
	2014年4月12日	学部FD[薬学におけるカリキュラム改訂とチュートリアル教育を考えるワークショップ]
	2013年2月25日	学部FD「臨床研究に求められる被験者の人権保護と研究倫理審査の成立」

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Identification of Novel HLA-A*24:02-Restricted Epitope Derived from a Homeobox Protein Expressed in Hematological Malignancies.	共著	2016年1月	PLoS One. 2016 Jan;11(1): e0146371.
A Novel Phthalimide Derivative, TC11, Has Preclinical Effects on High-Risk Myeloma Cells and Osteoclasts.	共著	2015年1月	PLoS One. 2015 Jan;10(1): e0116135.
Codon 72 polymorphism of TP53 gene is a novel prognostic marker for therapy in multiple myeloma.	共著	2014年6月	Br J Haematol. 2014 Jun;165(5): 728-731.
（論文）Detection of leukemia associated antigen-specific cytotoxic T cells in a patient with Philadelphia chromosome-positive leukemia during treatment with dasatinib.	共著	2014年3月	Leuk Lymphoma. 2014 Mar;55(3): 722-724.
（論文）A myeloma cell line established from a patient refractory to thalidomide therapy revealed high-risk cytogenetic abnormalities and produced vascular endothelial growth factor.	共著	2013年5月	Blood Cancer J. 2013 May 17;3: e115.

2．学会発表（評価対象年度のみ）

	発表年・月	学会名
（演題名）Monitoring of immunity against leukemia stem cell in CML patients after cessation of TKI.	2015年11月	Society for Immunotherapy of Cancer 2015 Annual Meeting
（演題名）Drug Design Lacking Teratogenicity for High-Risk Myeloma and Identification of Novel IMiDs-Binding Proteins	2015年10月	第77回日本血液学会学術集会
（演題名）イマチニブ投与中止後CML患者におけるがん幹細胞抗原特異的CTLの解析	2015年9月	第7回血液疾患免疫療法研究会学術集会
(演題名)ハイリスク多発性骨髄腫に対する新規治療薬の開発	2015年6月	第16回 Pharmaco-Hematology シンポジウム

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2005年4月～現在	慶應義塾大学医学部生涯教育研修セミナー委員会委員

［注］　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	薬剤学講座	准教授	登美　斉俊

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2009年～現在	3年「C13(4) 薬物の臓器への到達と消失」：薬物体内動態を深く理解するため、課題解決型学習を積極的に取り入れている。（5段階授業評価: 2015年度4.2、2014年度4.1、2013年度4.2、2012年度3.9、2011年度4.2、2010年度4.3）
２　作成した教科書、教材、参考書	2013年3月 2014年4月 2015年3月	薬の運命, IN: 薬の生体内運命 改訂5版, 中島恵美(編) ネオメディカル, 厚木, 12-18 (2013). 血液胎盤関門, IN: 薬剤学実験法必携マニュアル - Pharmaceutical Scientistのために. 日本薬剤学会出版委員会（編）南江堂, 東京, 138-145. 薬の体内動態, IN: 今日のOTC薬 改訂第3版, 中島恵美, 伊藤明彦（編）南江堂, 東京, 684-687.
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		-
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年8月 2015年3月 2014年4月 2013年12月 2013年10月	FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加 FD「第三者評価について学ぶワークショップ」参加 FD「改訂コアカリとカリキュラム検討」参加 FD「研究倫理について」参加 日本薬学会 第3回薬学教育者のためアドバンストワークショップ参加

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Organic anion transporter 4-mediated transport of olmesartan at basal plasma membrane of human placental barrier	共著	2015年9月	Journal of Pharmaceutical Sciences vol.104 p3128-3135.
Role of OAT4 in Uptake of Estriol Precursor 16α-Hydroxydehydroepiandrosterone Sulfate Into Human Placental syncytiotrophoblasts From Fetus	共著	2015年7月	Endocrinology vol.156 p2704-2712.
Role of protein kinase A in regulating steroid sulfate uptake for estrogen production in human placental choriocarcinoma cells	共著	2014年8月	Placenta vol.35 p658-660.
Estrogen Receptor alpha Induction by Mitoxantrone Increases Abcg2 Expression in Placental Trophoblast Cells	共著	2013年9月	Journal of Pharmaceutical Sciences vol.102 p3364-3372.
Early life nutrient restriction impairs blood-brain metabolic profile and neurobehavior predisposing to Alzheimer's disease with aging	共著	2013年2月	Brain Research vol.1465 p61-75.

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Syncytiotrophoblast layer 2 expresses MDR1 and BCRP efflux transporters in rodent placenta	2015年9月	International Federation of Placenta Associations Meeting 2015
Differences in affinity of hypotaurine towards Slc6a GABA/taurine transporters	2015年11月	Asian Federation for Pharmaceutical Sciences Conference 2015

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2015年1月～現在	Journal of Pharmaceutical Sciences Editorial Advisory Board
2013年4月～現在	日本薬学会関東支部市民講座企画委員
2012年4月～現在	日本薬剤学会会誌「薬剤学」編集委員
2012年1月～現在	日本薬物動態学会評議員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	医薬品情報学講座	准教授	橋口　正行

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2010年～	講義での重要ポイントの整理ならびに理解の向上のために毎回講義終了時に小テストを実施した。その成績を評価して、学生の学習習得度を確認して講義を進行することを心がけた。
2　作成した教科書、教材、参考書	2012年12月1日	スタンダード薬学シリーズ６　薬と疾病　Ⅲ.薬物治療(2)および薬物治療に役立つ情報　第2版
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年8月4日 2015年3月4日 2014年9月1日 2013年3月10日	FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」 薬学部FD　第三者評価について学ぶWS H26年度第1回薬学部FD「改訂コアカリキュラム検討」 H25年度第2回薬学部FD「研究倫理について」

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Factors Affecting the Timing of Signal Detection of Adverse Drug Reactions.	共著	2015年12月	PLoS One. 2015 Dec 7;10(12):e0144263.
Meta-Analysis: Effects of Probiotic Supplementation on Lipid Profiles in Normal to Mildly Hypercholesterolemic Individuals.	共著	2015年10月	PLoS One. 2015 Oct 16;10(10):e0139795.
Meta-analysis of the efficacy and safety of Ginkgo biloba extract for the treatment of dementia.	共著	2015年4月	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 2015 1:14.
Quantitation of pilsicainide in microscale samples of human biological fluids using liquid chromatography-tandem mass spectrometry.	共著	2015年3月	J Chromatography B 985,172-9.
Expected value of the additional state in evaluating the method of quantification and uncertainty of additional states in an analytical model of grade Ⅰ hypertension.	共著	2015年1月	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences. 1(3), 1-7.

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
ヒト小腸でのビフィズス菌によるBCRP発現制御機構の解明	2015年12月11日	第36回日本臨床薬理学会学術総会
関節リウマチにおけるメトトレキサートの 有効性と遺伝子多型の関連のメタアナリシス	2015年6月28日	第18回 日本医薬品情報学会総会・学術大会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2012年10月～	八重洲桜クリニック治験審査委員
2011年4月～	日本医薬品情報学会医薬品情報専門薬剤師
2008年4月～	日本医薬品情報学会地区幹事
2007年4月～	日本臨床薬理学会指導薬剤師

［注］　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。

2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）

5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	薬物治療学講座	准教授	齋藤　義正

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2011年～現在	C14(4)A・Bおよび画像生理機能検査の講義では、実際の診療で使用された画像（レントゲン、心電図、CT、内視鏡、エコーなど）を提示して、学生が良く理解できるように工夫している。また、学期の最後に授業評価のアンケートを行い、学生からの評価をフィードバックするようにしている。
２　作成した教科書、教材、参考書	2013年9月 2011年2月15日	外来で診る消化管疾患（慶應義塾大学薬学部） レジデントコンパス消化器病編第3版（ライフサイエンス）
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年8月4日 2015年3月4日 2014年10月4日	最新の薬学情報を習得するため、慶應義塾大学病院消化器内科にて外来診療を行っている。 2014年度薬剤師国家試験問題検討委員会委員を務めた。 学部FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加 学部FD「第三者評価について学ぶワークショップ」 三学部FD「患者中心の医療を実践するための医療チームのあり方を考える」

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Silencing of microRNA-122 is an early event during hepatocarcinogenesis from non-alcoholic steatohepatitis.	共著	2014年10月	Cancer Science Vol.105, No.10
The tumor suppressor microRNA-29c is downregulated and restored by celecoxib in human gastric cancer cells.	共著	2013年4月	International Journal of Cancer Vol.132 No.8.
Overexpression of miR-142-5p and miR-155 in gastric mucosa-associated lymphoid tissue (MALT) lymphoma resistant to Helicobacter pylori eradication.	共著	2012年11月	PLoS ONE Vol.7 No.11.
Development of a novel microRNA promoter microarray for ChIP-on-chip assay to identify epigenetically regulated microRNAs.	共著	2012年9月	Biochemical and Biophysical Research Communications Vol.426 No.1.
Dysfunctional gastric emptying with down-regulation of muscle-specific microRNAs in Helicobacter pylori-infected mice.	共著	2011年1月	Gastroenterology Vol.140 No.1.

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Role of the micro RNA cluster including miR-194 and miR-215 in organoids derived from intestinal tumors.	2015年10月	第74回日本癌学会学術総会
ウレアーゼ産生常在菌により尿素呼気試験が陽性を示したHelicobacter pylori陰性胃炎の一例	2015年6月	第21回日本ヘリコバクター学会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2014年1月～現在	日本癌学会評議員
2011年11月～現在	日本潰瘍学会評議員
2011年1月～現在	日本消化器病学会関東支部会評議員
2009年12月～現在	日本消化器内視鏡学会関東支部会評議員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	実務薬学講座	准教授	松元　一明

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		-
２　作成した教科書、教材、参考書		-
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		-
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年5月8日 2015年5月16日 2015年7月1日 2015年8月4日	医療系三学部合同教育（後期）にファシリテーターとして参加 医療系三学部合同教育（初期）にファシリテーターとして参加 医療系三学部合同教育FDワークショップ2015に参加 FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Anti-inflammatory effects of linezolid on carrageenan-induced paw edema in rats.	共著	2015年12月	J Infect Chemother 2015;21:889-91.
Pharmacokinetics of prophylactic ampicillin-sulbactam and dosing optimization in patients undergoing cardiovascular surgery with cardiopulmonary bypass.	共著	2015年11月	Biol Pharm Bull 2015;38:1817-21.
Trough level monitoring of intravenous busulfan to estimate the area under the plasma drug concentration-time curve in pediatric hematopoietic stem cell transplant recipients.	共著	2015年11月	Int J Hematol 2015;102:611-6.
Pharmacokinetics and skin tissue penetration of daptomycin in rats.	共著	2015年5月	Clin Pharmacol 2015;7:79-82.
Pharmacokinetics and dosing estimation of meropenem in Japanese patients receiving continuous venovenous hemodialysis.	共著	2015年6月	J Infect Chemother 2015;21:476-8.

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
カラゲニン足蹠浮腫を用いた抗MRSA薬の抗炎症作用比較	2015年6月	第63回日本化学療法学会総会
ラットを用いたダプトマイシンの体内動態および皮膚組織移行性の検討	2015年5月	第32回日本TDM学会・学術大会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2010年４月～現在	日本病院薬剤師会感染制御専門薬剤師部門試験委員会委員
2010年11月～現在	日本化学療法学会抗菌薬TDMガイドライン委員会委員
2010年12月～現在	日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師認定委員会実務委員
2014年12月～現在	日本化学療法学会抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会委員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	薬学教育研究センター	准教授	鈴木　岳之

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2015年度	2015年度はカリキュラム以降年度でもあり、必修9単位、選択2単位の科目責任者として教育を行った。授業評価を行うすべての科目で、理解度を深める講義として学生からの授業評価が4以上となった（評価開始以降、すべての年度で4以上である）。
2　作成した教科書、教材、参考書		現および新コアカリキュラム用教科書を執筆した。（東京化学同人、スタンダード薬学シリーズ：生物系薬学II生命体の成り立ち
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2015年3月26日	「4年制薬学生の”科学的に考える力”の醸成ーグループ討議によるアプローチ」を日本薬学会第135年会（神戸）で発表
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2013年度～ 2015年5月16日 2015年7月1日 2015年8月4日 2015年9月26日	薬学部で始めて他学部・他研究科の学生の参加も前提とした専門科目「バイオ産業論」を2013年度から開講した。これは、日本の他の薬学部でも全く行われていない内容の教育を行うものである。 医療系三学部合同教育（初期）にファシリテーターとして参加 医療系三学部合同教育FDワークショップ2015に参加 FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加 医療系三学部合同教育（中期）にファシリテーターとして参加

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Paroxetine prevented the down-regulation of astrocytic L-Glu transporters in neuroinflammation.	共著	2013年1月	J. Pharmacol. Sci., 127(1), 145-149 (2015).
L-glutamate released from activated microglia downregulates astrocytic L-glutamate transporter expression in neuroinflammation: the 'collusion' hypothesis for increased extracellular L-glutamate concentration in neuroinflammation.	共著	2012年8月	J. Neuroinflam (doi:10.1186/, 1742-2094-9-275).
Cell-autonomous enhancement of glutamate-uptake by female astrocytes.	共著	2012年5月	Cell Mol Neurobiol (32(6), 953-6).
RNA editing of the Q/R site of GluA2 in different cultured cell lines that constitutively express different levels of RNA editing enzyme ADAR2.	共著	2012年3月	Neurosci Res (73, 42-48).
Biphasic time course of the changes in aldosterone biosynthesis under high-salt conditions in Dahl salt-sensitive rats.	共著	2010年9月	Arte Throm Vas Biol (32, 1194-1203).

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
承認条件の有無が新薬の承認審査期間に及ぼす影響についての検討：条件付き承認に影響を及ぼす医薬品特性の分析	2015年12月	第36回 臨床薬理学会学術総会
Emerging Growth of Orphan Drugs for Neurological Diseases in Japan: Comprehensive Analysis to Encourage Orphan Drug Developmen	2016年3月	第89回　日本薬理学会年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

1993年～現在	日本薬理学会学術評議員（1993年～）
2014年4月～2015年3月	私薬大協国試問題検討委員会薬理部会委員（毎年更新）
2014年4月～2015年3月	国公私立薬理学関連教科担当教員会議委員（毎年更新）

［注］　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	薬学教育研究センター	准教授	石川　さと子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2009年～現在	1年「情報・コミュニケーション論」：情報倫理、情報活用能力を学ぶように内容を工夫し、グループワークと、プレゼンテーションを実施している。
	2007年～現在	「薬学生のための体験学習プログラムA（多職種連携体験学習）」。他大学と合同で「保健・医療・福祉系学生交流合同セミナー」を開催し、多職種間の相互理解を促している。
	2007年～現在	「薬学生のための体験学習プログラムD（リハビリ体験学習）」：病棟実習を通じて多職種連携協働の実践を考えるプログラム。看護師、作業療法士等が指導にあたり、医療チームのあり方、患者中心の医療を体験するようにしている。
2　作成した教科書、教材、参考書	2015年4月	「スタンダード薬学シリーズII　A基本事項」東京化学同人（1年「情報・コミュニケーション論」参考書）
	2015年4月	「生命化学・医療系のための情報リテラシー 第2版」丸善出版（1年 「情報・コミュニケーション論」教科書）
	2012年3月	「ヒューマニズム薬学入門」培風館
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2015年8月	薬学生の実践的な情報利活用・プレゼンテーション能力の醸成（平成27年度ICT利用による教育改善研究発表会）
	2015年3月	4年制薬学生の”科学的に考える力”の醸成ーグループ討議によるアプローチ（日本薬学会第134年会）
	2014年3月	薬学生がリハビリテーション専門病院で行う体験実習のIPEに対する意義（日本薬学会第133年会）
	2012年10月	Impact of short-term experience programs for pharmacy students in a rehabilitation hospital. (All Together Better Health VI Conference)
4　その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	2015年12月25日	FD「ファシリテーター養成ワークショップ」参加
	2015年9月26日	医療系三学部合同教育（中期）ファシリテーターとして参加
	2015年8月4日	FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加
	2015年7月1日	医療系三学部合同教育FDワークショップ2015に参加
	2015年5月16日	医療系三学部合同教育（初期）ファシリテーターとして参加
	2015年8月4日	FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加
	2012～2013年	日本薬学会 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する調査研究チームにて「A基本事項、B薬学と社会」のカリキュラム作成
	2010年～現在	薬学教育協議会 ヒューマニティ・コミュニケーション教科担当教員会議の開催

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Assessment of the antimutagenic effects of aqueous extracts from herbal medicines against N-nitroso-N-alkylureas induced mutagenicity using the umu test.	共著	2014年5月	Gen Environ, 36(2):33-38 (2014)
Antimutagenicity screening of extracts from medicinal and edible plants against N-methyl-N-nitrosourea by the Ames assay .	共著	2014年5月	Gen Environ, 36(2):39-46 (2014)
Oxidation of N-alkyl-N-(3-carboxypropyl)-nitrosamines by iron porphyrin and oxidant forms alkylating mutagens.	共著	2013年11月	Gen Environ, 35(4):99-104 (2013)
Structure and mutagenicity of a direct-acting mutagen derived from the reaction of N-nitroso-N-methylbutylamine with hydroxyl radical.	共著	2012年2月	Heterocycles, 84(2):1081-1088 (2012)
7-Azabicyclo[2.2.1]heptane as a structural motif to block mutagenicity of nitrosamines.	共著	2011年4月	Bioorg Med Chem, 19:2726-2741 (2011)

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
ヒューマニティ教育の現状と課題（シンポジウム「薬学教育学研究」のスタートアップ～何をどのように見て、何を明らかにするのか）	2016年3月	日本薬学会第136年会（横浜）
2014年度薬学共用試験CBT報告	2015年7月	第47回日本医学教育学会大会(新潟)

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2009年10月～現在	内閣府食品安全委員会動物用医薬品専門調査会・専門委員
2010年6月～現在	薬学共用試験センター広報委員会・委員（2012年6月～副委員長）
2012年4月～現在	公益社団法人東京都薬剤師会・理事
2015年4月～現在	公益社団法人日本薬学会 薬学教育委員会・委員

［注］　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	薬学教育研究センター	准教授	横田 惠理子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2013年4月～	１年「基礎生物学」：2010年～2012年は他の教員と２名で分担して授業を行ったが、2013年から単独で担当した。高校時代に「生物Ⅰ・Ⅱ」を受講しなかった/「生物A」のみの受講/「生物」はきらい、苦手、とする学生を対象とした授業であるため、興味をひくためプリントでの図表の使用を多くし、一部の授業では、「盲点」や「痛点の間隔」など実際に体験させた。各回の授業の最後には、「まとめの問題」を配付し、授業内容を振返りながら知識を整理させるようにした。(授業評価：2013年-3.5、2014年-3.6、2015年-3.8)
	2013年4月～	１年「A(1)生命の大切さを知るためニーヒューマニズム、コミュニケーション」、2015年～「生命倫理」：2015年からは改訂コアカリキュラム導入による新カリキュラムとなり、科目名を「生命倫理」に変更し、単独で担当することになった。患者・家族の考えや感情を理解する目的で、【患者の語り】を聞くことを授業に導入した。学生のレポートからは、単に話を聴くだけでなく映像をみることで、患者の表情や声音から様々な思いを汲み取る様子がみてとれた。授業の目的の一つには、他者の多様な考えを知り、自分自身の考えを振返ることがあるため、授業時にはワークシートを配付し自身の考えを記入後、グループワークの中で気づいた事柄や考えたことを記入させるようにした。ワークシートを読むことで、どのような気づきがあり、考えが深まったかどうか、教員もたどることができ、評価する際の貴重な資料となることが明らかになった。
２　作成した教科書、教材、参考書		出版物なし
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2015年3月26日	・薬学部ヒューマニティー教育における「患者の語り」の活用 ・実務実習事前学習におけるヒューマニティ教育実践の試み ・4年制薬学生の”科学的に考える力”の醸成―グループ討議によるアプローチ 日本薬学会第135年会（神戸）
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2013年～現在 2015年5月16日 2015年7月1日 2015年8月4日	慶應義塾大学医療系三学部合同教育コアメンバーとなり、初期担当責任者として年１回の初期教育（各学部1年生対象）を実施している。 医療系三学部合同教育（初期）の実施 医療系三学部合同教育FDワークショップ2015を企画、実施 FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Characterization and localization of side population cells in the lens.	共著	2010年	Mol Vis 16, 945-953.
Licochalcones suppress degranulation by decreasing the intracellular Ca2+ level and tyrosine phosphorylation of ERK in RBL-2H3 cells.	共著	2010年	Int Immunopharmacol 10, 769-776.
Interprofessional Education at the Keio University Faculty of Pharmacy.	共著	2010年	Advanced Initiatives in Interprofessional Education in Japan (ed. by Watanabe H, Koizumi M). pp57-63 Springer

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
学生が挙げる生命倫理学的問題を包含する事象の解析	2016年3月	日本薬学会第136年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2015年10月～現在	内閣府食品安全委員会専門委員（栄養成分関連添加物WG）
2012年8月～2014年7月	日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	医薬品開発規制科学講座	准教授	漆原　尚巳

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2013年～現在	薬学英語A　臨床研究の初級者用英語テキストに専門用語の解説や、Quizを付加した自作テキストの使用、実践向け英語習得のための科学英語記事や、ビデオ学習など。（授業評価4.0） 臨床薬物評価学　6年生対象にコアカリでの生物統計に関する学習内容を振り返り理解を深めるため、実際に解析ソフトウェアJMPを用い、データを扱い解析操作をしつつ、自作テキストに従い課題を解く演習形態を取り入れた。（授業評価4.2）
2　作成した教科書、教材、参考書	2015年3月 2014年2月	「スタンダード薬学シリーズII 薬学総論Ⅰ. 薬剤師としての基本事項. 第Ⅱ部 薬剤師に求められる倫理観」第8章 研究倫理. SB038, 39, 40. 編 中村明弘他. 東京化学同人 「医薬品のレギュラトリーサイエンス」 第4章　患者・健常人で有効性や安全性を確かめるための手立て　Ⅲ　臨床研究における統計学の基礎. pp77-87. 編 豊島聰, 黒川達夫. 南山堂.
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2015年3月26日	慶應義塾創立１５０年記念未来先導基金 慶應義塾大学薬学部「国際医薬品開発と規制を先導する薬学人材育成プログラム」. 日本薬学会第135年会 26PB-pm278.（神戸）
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年8月4日 2014年6月 2015年6月	FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加 慶應義塾創立１５０年記念未来先導基金 慶應義塾大学薬学部「国際医薬品開発と規制を先導する薬学人材育成プログラム」2014,2015年度

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Medications associated with falls in older people: systematic review of publications from a recent 5-year period.	共著	2015年9月26日	European Journal of Clinical Pharmacology. 2015;71(12):1429-40.
Cost-effectiveness analysis of EGFR mutation testing and gefitinib as first-line therapy for non-small cell lung cancer.	共著	2015年7月25日	Lung Cancer. 2015;90(1):71-7.
Responsiveness of the Japanese Osteoporosis Quality of Life questionnaire in women with postmenopausal osteoporosis.	共著	2014年12月1日	Health Qual Life Outcomes 12: 178.
Increased risk of acute pancreatitis in patients with type 2 diabetes: an observational study using a Japanese hospital database.	共著	2013年1月10日	PLoS one. 7(12):e53224 (2013)
Emergency Authorization of Medical Products: Regulatory Challenges from the 2009 H1N1 Influenza Pandemic in Japan.	共著	2012年12月6日	Biosecurity and bioterrorism 10(4):372-82 (2012)

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Trends in the incidence of thyroid cancer and fine needle aspiration screening: Analysis of Japanese claims data.	2015年9月26日	The 18th ECCO - 40th ESMO European Cancer Congress. Vienna, Austria.
Effectiveness of Influenza Vaccination for Children in Japan.	2015年8月24日	The 2015 International Conference on Pharmacoepidemiology & Therapeutic Risk Management (ICPE). Boston MA.

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2010年3月～	京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院　医の倫理委員会　未承認医薬品等臨床研究・医師主導治験小委員会　委員
2012年5月～	日本臨床腫瘍薬学会　臨床研究委員会　委員
2013年10月～	日本薬剤疫学会 理事（庶務担当）、利益相反委員会委員長
2013年11月～	日本製薬医学会 理事、Medical Safety部会長

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度～27年度）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	基礎教育講座	准教授	植村　良太郎

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2014年4月～現在	1年・２年のすべての担当科目について：「英語を学ぶ」、という視点は維持しながらも、英語を授業内のコミュニケーションツールとして位置づけ、読解力とコミュニケーション力を養うことを主要な目標とした。ペアワーク、Small Group Discussion等の参加型の学習スタイルを用い、学生が自主的かつ実践的に学べる環境づくりを目指した。
２　作成した教科書、教材、参考書		該当なし
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2015年3月26日	（演題名）4年制薬学生の”科学的に考える力”の醸成ーグループ討議によるアプローチ　日本薬学会（第135年会）
４　その他教育活動上特記すべき事項	2014年4月12日	H26年度第１回薬学部FD 第一部「チュートリアル教育の目的と意義」第二部「改訂コアカリキュラムに対応した本学部のカリキュラム編成」
	2014年5月17日	H26年度慶應義塾大学医療系三学部合同教育ワークショップ（初期）ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ
	2014年6月10日	「Ａ（１）生命の大切さを知るために」5限：ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ
	2014年6月17日	「Ａ（１）生命の大切さを知るために」5限：ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ
	2014年6月24日	「Ａ（１）生命の大切さを知るために」4限・5限：ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ
	2014年6月26日	「薬科学概論Ａ」 ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ
	2014年8月27日	H26年度第2回薬学部FD「ファシリテーター養成講習会」
	2014年9月27日	H26年度慶應義塾大学医療系三学部合同教育ワークショップ（中期）ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ
	2014年11月2日	H26年度第13回関東地区調整機構認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（薬学教育者ワークショップ）（埼玉地区三大学合同）（明治薬科大学）
	2014年11月3日	H26年度第13回関東地区調整機構認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（薬学教育者ワークショップ）（埼玉地区三大学合同）（明治薬科大学）
	2015年3月4日	H26年度第3回薬学部FD「第三者評価について」
	2015年4月21日	「情報・コミュニケーション論」3限：ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ
	2015年4月28日	「情報・コミュニケーション論」3限：ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ
	2015年5月16日	H27年度慶應義塾大学医療系三学部合同教育ワークショップ（初期）ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ
	2015年5月30日	平成27年度薬学部第1回FD「新モデル・コアカリキュラムが目指す実務実習」「慶應義塾大学薬学部が目指す薬剤師教育」
	2015年7月1日	H27年度慶應義塾大学医療系三学部合同FDセミナー「より充実した三学部合同教育のために」
	2015年8月4日	平成27年度薬学部研究倫理のFD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Adolescent Mental Health, Behavior Problems, and Academic Achievement	共著	2012	Journal of Health and Social Behavior vol. 53 p482-497
Substance Use, Distress, and Adolescent School Networks	共著	2012	Journal of Research on Adolescence vol. 22 p438-452
Relative Rank Order of Salient Identities of the Japanese	単著	2011	International Journal of Japanese Sociology vol. 20 p73-88
（学位論文）　Social Structural Positions, Identity Salience, and National Attitudes	単著	2010	Indiana University. PhD dissertation

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2014年10月～現在	[学内：日吉] 学習指導主任
2014年10月～現在	[学内：日吉] 学生総合センター委員
2003年1月～現在	American Sociological Association 会員
2008年4月～現在	日本社会学会 会員

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	基礎教育講座	准教授	Foster, Patrick, MD

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	9/2013-Present	Basic Communication Guidelines,interactive lessons related to individual course content. Based on student evaluations, made lecture notes available upon request.Have also added "Fluency" lesson opportunities for students who have not received as part of their Basic Education opportunitiesin the past.
２　作成した教科書、教材、参考書	9/2013-Present	Supplemental & recommended material individualized to each class. Supplemental material of my own creation; in particular, my own textbook is currently being drafted (anticipated prototype use beginning in Spring 2016, with newly entering 1st Year students as a cohort).
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2014-2015	1.Science Communication International Seminar at The Faculty of Pharmacy 2014/02/25 2.Global Education Seminar East 2013-1st 2014/03/14 (Keynote Speaker) 3.Japan's (National) Super Science Symposium for College-Bound Students 2014/08/07 4.Poster: Student exchange program between Keio University and US universities for international clinical practice (The American College of Clinical Pharmacy) ACCP's Global Conference on Clinical Pharmacy, San Francisco, California, U.S.A. 2015/10/19
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	27-Aug-14 4/2014-Present 4/2014-Present 9/2013-Present 4/12-4/13/2014 April of 2014	Faculty Development Workshop participation Entrance Exam (English portion) Committee member International Committee member Please see extensive Annual Addendum Lists (re: Faculty, Students, Administration 2015 list) Workshop "Basic Communication for Pharmacists" Overseas Clinical Experience program assistance

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Historical and Hygienic Aspects on Roles of Quality Requirements for Antibiotic Products in Japan (Serial Parts Publication, ongoing)	Joint Work: Morimasa Yagisawa, Patrick J Foster, and Tatsuo Kurokawa	Dec. 2015	Japanese Journal for History of Pharmacy

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

平成15年４月～平成22年12月	Union of Concerned Scientists (Member)
Longstanding - Present	Nuclear Threat Initiative (Member)
	The Planetary Society (Member)

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	RI・分析室	専任講師	森田　裕子

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		１年「物理化学」：3回を担当。改訂コアとなり時間的にタイトであったが、わかりやすい資料を作成し工夫した（総合評価3.1）。4年「C12(2)/環境科学」：外部講師や他の教員と分担して6回を担当。簡易テストでまとめを行い、広範な範囲の理解をサポートした（総合評価3.1）。
２　作成した教科書、教材、参考書		－
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年8月4日 2015年5月23日 2015年3月4日 2014年8月27日 2014年5月17日 2013年12月17日 2011年5月26日	2015年度第1回FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加 第100回薬剤師国家試験問題検討委員会 衛生部会参加 2014年度FD第2回「第三者評価について学ぶワークショップ」 2014年度FD第1回「ファシリテータ養成講習会」 2014医療系三学部合同初期教育　ファシリテータ 2013年度FD「臨床研究の倫理」 「放射性物質に関する生活基礎知識」市民講演会　講師

Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
陽イオン交換樹脂を用いる放射性セシウムの除去.	共著	2013年	分析化学（62巻・6号）
（研究報告書）学事振興資金「原発由来放射性核種の定量分析による被ばく評価と吸着剤による体外排出効果の	単著	2015年3月	2013年度研究報告集録

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
乳酸菌による放射性セシウム排泄効果の検討	2015年9月	2015日本放射化学会年会・第59回放射化学討論会
乳酸菌製剤による放射性セシウム吸着効果の検討	2016年3月	日本薬学会第136年会（横浜）

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）	
2014年3月～2016年3月	日本アイソトープ協会　薬学・薬理学研究専門委員会・専門委員
2008年4月～2016年3月	薬学教育協議会教科担当委員会・委員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	天然医薬資源学講座	専任講師	成川　佑次

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2015年春学期	4年「生体分子・生理活性物質の構造解析」：カリキュラム変更で全6コマから全4コマとなり、内容を1部短縮したとともにMSイメージングなどの最新の知見を追加した。(授業評価3.7)
2　作成した教科書、教材、参考書	2015年8月	薬学実習IIC(生薬)
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年8月4日	FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
LC-MS-based quantification method for Achyranthes root saponins.	共著	2016年1月	J.Nat. Med Vol.70, p102-106
Nepetaefuran and leonotinin isolated from Leonotis nepetaefolia R. Br. potently inhibit the LPS signaling pathway by suppressing the transactivation of NF-κB.	共著	2015年8月	Int. Immunopharmacol. Vol.28, p967-976
Anti-inflammatory activity of flavonoids in Nepalese propolis is attributed to inhibition of the IL-33 signaling pathway.	共著	2015年1月	Int. Immunopharmacol. Vol.25, p189-198
Two new diterpenoids from *Leonotis leonurus* R. Br.	共著	2015年1月	J.Nat. Med vol.69 p130-134
New diterpenoids with estrogen sulfotransferase inhibitory activity from *Leonurus sibiricus* L.	共著	2014年1月	J.Nat. Med vol.68 p125-131

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
ジンコウ由来ホスホジエステラーゼ阻害物質の探索（2）	2015年9月	日本生薬学会第62回年会
メラニン生成抑制活性を有するシンイ由来リグナンの探索	2015年9月	日本生薬学会第62回年会
コウブシ由来のステロイドサルファターゼ阻害成分の探索	2015年9月	日本生薬学会第62回年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

［注］　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　5　「Ⅲ　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	衛生化学講座	専任講師	清水　美貴子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2010年～	講義での重要ポイントの整理ならびに理解の向上のために毎回講義終了時に小テストを実施した。その成績を評価して、学生の学習習得度を確認して講義を進行することを心がけた。
2　作成した教科書、教材、参考書	2010年～	パワーポイントでオリジナル資料を作成している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年8月4日 2015年3月4日 2014年9月1日 2013年3月10日	FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」 薬学部FD　第三者評価について学ぶWS H26年度第1回薬学部FD「改訂コアカリキュラム検討」 H25年度第2回薬学部FD「研究倫理について」

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Factors Affecting the Timing of Signal Detection of Adverse Drug Reactions.	共著	2015年12月1日	PLoS One. 2015 Dec 7;10(12):e0144263.
Meta-Analysis: Effects of Probiotic Supplementation on Lipid Profiles in Normal to Mildly Hypercholesterolemic Individuals.	共著	2015年10月1日	PLoS One. 2015 Oct 16;10(10):e0139795.
Meta-analysis of the efficacy and safety of Ginkgo biloba extract for the treatment of dementia.	共著	2015年4月1日	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 2015 1:14.
Quantitation of pilsicainide in microscale samples of human biological fluids using liquid chromatography-tandem mass spectrometry.	共著	2015年3月1日	J Chromatography B 985,172-9.
Relationship between genetic polymorphism and mRNA expression of dihydrofolate reductase enzyme in a healthy Japanese population.	共著	2013年6月1日	Jpn J Clin Pharmacol Ther 44(3), 185-192.

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
ヒト小腸でのビフィズス菌によるBCRP発現制御機構の解明	2015年12月11日	第36回日本臨床薬理学会学術総会
関節リウマチにおけるメトトレキサートの 有効性と遺伝子多型の関連のメタアナリシス	2015年6月28日	第18回 日本医薬品情報学会総会・学術大会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2015年12月～2016年11月	科学研究費委員会専門委員
2013年12月～2014年11月	科学研究費委員会専門委員
2012年12月～2013年11月	科学研究費委員会専門委員

［注］　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	化学療法学講座	専任講師	片山　和浩

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2011年～現在	パワーポイントでオリジナル資料を作成しており、毎年最新の知見を加えて更新している。また、学生からの意見も反映させて、より分かりやすい資料になるように改訂してきた。2015年度は学力向上のため、毎回の講義後に確認クイズを行った。
２　作成した教科書、教材、参考書	2011年～現在	パワーポイントでオリジナルの資料を作成している。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年7月1日 2015年8月4日 2015年9月26日	医療系三学部合同教育FDワークショップ2015に参加 FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加 医療系三学部合同教育（中期）にファシリテーターとして参加

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Revealing the fate of cell surface human P-glycoprotein (ABCB1): The lysosomal degradation pathway.	共著	2015年10月	Biochim. Biophys. Acta., 1853(10 Pt A): 2361-2370.
Regulations of P-glycoprotein/ABCB1/MDR1 in human cancer cells.	共著	2014年5月	New J. Sci., 476974.
Protein phosphatase complex PP5/PPP2R3C dephosphorylates P-glycoprotein/ABCB1 and down-regulates the expression and function.	共著	2014年4月	Cancer Lett., 345(1): 124-131.
FBXO15 regulates P-glycoprotein/ABCB1 expression through the ubiquitin-proteasome pathway in cancer cells.	共著	2013年6月	Cancer Sci., 104(6): 694-702.
Expression of human ABCB5 confers resistance to taxanes and anthracyclines.	共著	2012年2月	Biochem. Biophys. Res. Commun., 418(4): 736-741.

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
RSKはP-糖タンパク質／ABCB1のユビキチン化酵素UBE2R1をリン酸化する	2015年10月	第74回日本癌学会学術総会
P-糖タンパク質／ABCB1のプロテアソーム分解におけるRSKの関与	2015年6月	第19回日本がん分子標的治療学会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2014年1月～現在	日本癌学会 評議員
2013年6月～現在	日本がん分子標的治療学会 評議員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	薬剤学講座	専任講師	西村　友宏

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		-
２　作成した教科書、教材、参考書	2015年3月1日 2013年3月1日	今日のOTC薬　第3版　南江堂 薬の生体内運命　第5版　ネオメディカル
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		-
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年12月25日 2015年4月6日 2015年3月4日 2014年4月12日	FD ファシリテータ-養成 FD 研究倫理講習会 FD 第三者評価について FD 新コアカリワークショップ

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Protective effect of hypotaurine against oxidative stress-induced cytotoxicity in rat placental trophoblasts.	共著	2015年6月	Placenta,36(6).
Fetal growth retardation and lack of hypotaurine in ezrin knockout mice.	共著	2014年8月	PLoS One, 9(8): e105423.
System A amino acid transporter SNAT2 shows subtype-specific affinity for betaine and hyperosmotic inducibility in placental trophoblasts.	共著	2014年5月	Biochim Biophys Acta. 1838(5).
Systems pharmacology of adverse event mitigation by drug combinations.	共著	2013年10月	Sci. Transl. Med. 5(206).
Evaluation of rat in vivo fetal-to-maternal transfer clearances of various xenobiotics by umbilical perfusion.	共著	2012年9月	J Pharm Sci. 102(9).

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Induction of sodium-dependent neutral amino acid transporter2 (SNAT2) by hypertonic stress in placental syncytiotrophoblasts	2015・11	Asian Federation for Pharmaceutical Sciences (AFPS) 2015
胎盤trophoblastにおけるSNAT2の高浸透圧刺激による急速発現調節	2015・5	日本薬剤学会第30年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2007年～	トランスポーター研究会　幹事
2010年4月～	日本薬剤学会英語セミナー東地区委員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	薬物治療学講座	講師	木村　真規

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2014年秋学期	4年「C14(4)疾患と薬物治療（精神疾患等）B」：授業アンケートの「授業で使われた教科書・プリント等の教材はわかりやすかった」の評価が「3.9」であり，他の項目よりも低かった為，プリントにイラストやまとめのノートブックを加える等によって改善を図った.
２　作成した教科書、教材、参考書		－
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2016年3月4日 2015年12月25日 2015年9月26日 2015年3月4日 2014年10月21日 2014年9月27日 2014年8月27日 2014年4月12日 2013年12月3日 2012年8月24日 2012年5月2日 2012年4月14日 2011年10月29日 2011年1月14日 2010年4月1日～ 2010年4月1日～	H27薬学部FD(ハラスメント) H27薬学部WS(ファシリテーター養成ワークショップ) H27三学部合同中期教育(ファシリテーター) H26薬学部FD(第三者評価) H26薬学部FD(大学院) H26三学部合同中期教育(ファシリテーター) H26薬学部FD(ファシリテーター養成講習会) H26薬学部FD(カリキュラム改訂とチュートリアル教育) H25薬学部FD(研究者倫理) H24薬学部WS(カリキュラム再検討) H24三学部合同教育ワークショップ H24薬学部FD(三学部合同教育) H23薬学部FD(研究倫理) H22薬学部FD(卒業試験作問) 武蔵野大学看護学部講義[体の働き2(機能)](～現在) 慈恵第三看護専門学校体育実技(～2012年8月31日)

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Induction of heme-oxygenase-1 (HO-1) does not enhance adiponectin production in human adipocytes: Evidence against a direct HO-1 - Adiponectin axis.	共著	2015年6月	Molecular and Cellular Endocrinology, 413: 209-216.
Astaxanthin Supplementation Effects on Adipocyte Size and Lipid Profile in OLETF rats with Hyperphagia and Visceral Fat	共著	2014年11月	The Journal of Functional Foods, 11: 114-120.
Silencing of microRNA-122 is an early event during hepatocarcinogenesis from non-alcoholic steatohepatitis.	共著	2014年9月	Cancer Science, 105(10): 1254-1260.
Suppressive effect of the histone deacetylase inhibitor suberoylanilide hydroxamic acid (SAHA) on hepatitis C virus replication.	共著	2013年9月	The Journal of Cell Biochemistry, 114(9):1987-1996.
Genes and molecules related to obesity and lifestyle-related disease and exercise.	単著	2013年1月	The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine, 2:111-115.

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
腸管腫瘍オルガノイドにおける miR-194 および miR-215 を含むマイクロRNA クラスターの役割.	2015年10月	第74回 日本癌学会学術総会
若齢期の高脂肪食摂取が成熟期の骨格筋・肝臓・脂肪組織の網羅的遺伝子発現に及ぼすレガシー効果.	2015年10月	第36回 日本肥満学会大会
若齢期における運動が成熟期の骨格筋・肝臓・脂肪組織の網羅的遺伝子発現に及ぼすレガシー効果.	2015年9月	第70回 日本体力医学会大会
若齢期マウスにおける習慣的な運動が成熟期の脂肪組織中遺伝子発現に及ぼすエピジェネティクス効果.	2015年5月	第15回 日本抗加齢医学会総会
細胞内エネルギー代謝に伴うSIRT1発現を介したエピゲノム変化の網羅的解析.	2015年5月	第15回 日本抗加齢医学会総会
EZH2 阻害薬によるがん抑制マイクロRNA の活性化と肝発がん抑制.	2015年5月	第51回 日本肝臓学会総会
Decrease of microRNA-122 is a key event during hepatocarcinogenesis from non-alcoholic steatohepatitis.	2015年4月	2015 Annual Meeting of American Association for Cancer Research

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

1995年1月～現在	日本生理学会・会員（2015年3月～ 評議員）
1995年5月～現在	日本体力医学会・会員（2002年9月～ 評議員，2015年9月～ 学術委員会スポーツ医学研修会実行委員会・委員）
2004年4月～現在	日本肥満学会・会員
2011年2月～現在	日本抗加齢医学会・会員

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	薬学教育研究センター	専任講師	永井　総子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2009年～現在	３年『Ｃ11（2）』：衛生薬学の「社会・集団と健康」は、保健統計はできるだけ新しい資料を使用し、疫学は疾病の予防につながるデーターも入れて講義を行った。2014年度から講義時間が減ったため、毎時間終了時に理解度確認テストを導入し、その日の修得必須事項の確認を行った。 『Ｃ11（3）』：「疾病の予防」では現在発生している感染症についてトピックスを入れた2014年度から講義時間が減ったため、毎時間理解度確認テストを実施した。
２　作成した教科書、教材、参考書	2015年 2015年	薬学実習ⅡA（化学・物理系）実習書 薬学基礎実習（分析化学系）実習書
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年12月25日	FD講座「ファシリテーター養成講座」参加
	2015年3月4日	FD講座「第三者評価について学ぶワークショップ」参加
	2014年4月12日	FD講座「薬学におけるカリキュラム改訂とチュートリ アル教育を考えるワークショップ 」参加
	2014年10月4日	FD講座「患者中心の医療を実践するための医療チームのあり方を考える。」
	2015年9月26日	医療系三学部合同教育（中期）にファシリテーターとして参加のあり方を考える。」
	2015年5月10日	医療系三学部合同教育（初期）にファシリテーターとして参加
	2014年9月27日	医療系三学部合同教育（中期）にファシリテーターとして参加のあり方を考える。」ファシリテーターとして参加
	2014年5月17日	医療系三学部合同教育（中期）にファシリテーターとして参加

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称		発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（研究報告書）化学研究費助成事業研究成果報告		2012年	2012年文科省報告書

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2015/10)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	医薬品開発規制科学講座	専任講師	松嶋　由紀子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2015年春学期	グループワークにて臨床試験計画書・説明同意文書の作成を体験することで、より実践的な臨床研究能力を身に着けられるよう工夫し、高評価を得た（2015年度授業評価4.3）
２　作成した教科書、教材、参考書		－
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2014年7月4日	Association of Clinical Research Professionals(ACRP)による臨床試験プロフェッショナル育成と認定．招待講演　日本製薬医学会第5回年次集会
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年3月4日 2014年9月27日 2014年4月12日 2013年12月17日	2014年度薬学部第2回FD[第三者評価について] 2014年度第3回慶應義塾大学三学部合同教育ワークショップ（中期）ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ 2014年度第１回薬学部FD「改訂コアカリとカリキュラム検討」 2013年度第2回薬学部FD「研究倫理について」

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）
もっと知りたい医師主導治験のQ&A	共著	2014年11月	じほう
CRCテキストブック第3版	共著	2013年9月	医学書院
疾患からみた臨床薬理学第3版	共著	2012年9月	じほう
Vildagliptin vs liraglutide as a second-line therapy switched from sitagliptin-based regimens in patients with type 2 diabetes: A randomized, parallel-group study	共著	2015年3月	Journal of Diabetes Investigation Volume 6, Issue 2, pages 192-200
Cost-effectiveness analysis of EGFR mutation testing and gefitinib as first-line therapy for non-small cell lung cancer.	共著	2015年10月	Lung Cancer. 2015 Oct;90(1):71-7

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Advantage of the diversity in CRC’s qualification.	2015年4月	ACRP Global Conference 2015

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2011年6月～現在	東京都病院薬剤師会臨床研究専門薬剤師養成特別委員会委員
2011年4月～現在	日本臨床薬理学会認定CRC試験委員
2012年4月～現在	Association of Clinical Research Professionals（ACRP）　CCRC Examination Item writer
2014年12月～2015年12月	第15回CRCと臨床試験のあり方を考える会議プログラム委員長

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	医療薬学部門	専任講師	鈴木　小夜

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2012年～現在	4年「実務実習事前学習」で、実務実習を終えた5、6年生に自分達の経験に基づいた服薬指導実習を構築させ、4年次生の実習に加えて5、6年次生の気づきと意識向上を図った。
2　作成した教科書、教材、参考書	2016年3月 2015年6月 2010年1月～	「個別化医療を目指した臨床薬物動態学 V. 薬物治療モニタリング（p302-314）」（廣川書店） 「改訂モデル・コアカリキュラム対応 Principal Pharmacotherapy 第3部 悪性腫瘍」（ネオメディカル） 「今日の治療指針.薬物治療モニタリング(TDM)」（医学書院）（2008年度版より継続）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2014年3月30日	事前学習における服薬指導実習改善に向けた薬学5年生のコミュニケーション能力に関する分析.（日本薬学会 第134年会）
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2016年1月23日	日本TDM学会第48回セミナー（企画・運営）
	2015年10月11-12日	公益社団法人日本薬学会　第1回若手薬学教育者のためのアドバンストワークショップ 参加
	2015年10月3日	がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 第4回市民公開講座・QOLシンポジウム「がんサバイバーシップ生活の支障を改善するケアとリハビリテーション」招
	2015年9月26日	医療系3学部合同中期教育（企画・運営）
	2015年9月13日	【指導薬剤師養成講座】ワークショップ参加
	2015年8月29日	日本TDM学会第43回セミナー（企画・運営）
	2015年8月28日	「グローバル人材育成のための大学院学生のキャリアパス形成支援」キャリアデザイン談話会 in 東京（京都大学大学院薬学部研究科）招待講演
	2015年8月4日	(FD)「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加
	2015年7月27日-	慶應義塾大学病院薬剤部でのOJT研修開始
	2015年7月4日-5日	「指導薬剤師資質向上のためのタスクフォーススキルアップ研修 in 関東」参加
	2015年7月1日	医療系三学部合同教育 FDワークショップ参加
	2015年5月28日	医療系三学部合同 病棟実習トライアル参加
	2015年5月30日	(FD)「新モデル・コアカリキュラムが目指す実務実習」「慶應義塾大学薬学部が目指す薬剤師教育」参加
	2015年3月21日	日本保健薬局協会ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ参加

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）「薬物治療モニタリング(TDM)」.	共著	2016年1月	医学書院「今日の治療指針 2016年度版）」
（論文）Forced expression of S100A10 reduces sensi--tivity to oxaliplatin in colorectal cancer cells.	共著	2014年5月	Proteome Science 2014, 12:26
（論文）OTC薬実習の問題点とその改善のための提案.	共著	2014年2月	医療薬学（第40巻第2号 p117-123）
（著書）抗てんかん薬TDMガイドライン「バルプロ酸ナトリウム」.	共著（担当部分単著）	2013年4月	TDM研究（第30巻第2号 p53-108）
（論文）S100A10 protein expression is associated with oxaliplatin sensitivity in human colorectal cancer cells.	共著	2011年12月	Proteome Science 2011, 9:76

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Effect of genetic polymorphism of azathioprine-metabolizing enzymes on response to rheumatoid arthritis treatment.	2016年3月	21st Congress of the European Association of Hospital Pharmacists
慶應義塾大学薬学部 臨床系教員の病院における実地研修（On the Job Training: OJT）	2015年11月	第25回日本医療薬学会年会
アプレピタントによる補助療法ががん化学療法の治療経過に与える影響	2015年9月	第59回日本薬学会関東支部大会
COX阻害活性評価方法の確立およびそれを用いたNSAIDsのCOX阻害活性評価	2015年9月	第59回日本薬学会関東支部大会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2010年11月～2015年5月	日本TDM学会ガイドライン策定委員会委員
2011年10月～	日本私立薬科大学協会 薬剤師国家試験問題検討委員会 実務部会委員
2012年4月～2015年3月	日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究（C）（課題番号24590208）研究代表者
2013年4月～	平成25年度 薬学教育協議会病院・薬局実務実習関東地区調整機構 大学委員

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	医療薬学部門	専任講師	青森　達

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2015年春学期	4年「D1病院・薬局に行く前にA（調剤室入門）」では学生にとって理解しにくい散剤の力価計算の他、薬袋の記載方法等について一部演習形式をとりいれ、繰り返しトレーニングすることで理解の定着をはかった。
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2015年11月 2014年9月 2013年9月	慶應義塾大学薬学部 臨床系教員の病院における実地研修（On the Job Training：OJT）．第25回日本医療薬学会年会にてポスター発表 がんプロフェッショナル養成に対する全国の薬系大学・大学院の取り組み．第24回日本医療薬学会年会にてポスター発表 薬局実務実習におけるＯＴＣ薬実習の問題点とその改善のための提案．第23回日本医療薬学会年会にてポスター発表
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年12月8日	がんプロフェッショナルセミナー 企画・運営
	2014年10月4日	第2回薬学がんプロフェッショナル研修会 企画・運営
	2015年9月13日	指導薬剤師のためのワークショップに参加
	2015年8月4日	FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加
	2015年7月12日	がんプロ 薬学分野別委員会主催シンポジウム 企画・運営
	2015年7月1日	医療系三学部合同教育FDワークショップ2015に参加
	2015年6月14日	第1回薬学がんプロフェッショナル研修会 企画・運営
	2015年5月8日	医療系三学部合同教育（後期）にファシリテーターとして参加
	2015年3月4日	FD「第三者評価について」
	2015年2月8日	がんプロフェッショナルセミナー 企画・運営
	2015年2月1日	神奈川県薬剤師会アドバンストワークショップ
	2014年12月1日	慶應大学病院薬剤部にて on the job training 開始
	2014年10月21日	大学院FD「変わりゆく医薬品開発と臨床研究」
	2014年10月5日	第2回薬学がんプロフェッショナル研修会 企画・運営
	2014年10月4日	FD「患者中心の医療を実践するための医療チームのあり方を考える」
	2014年9月14日	認定実務実習指導指導薬剤師養成ワークショップ
	2014年7月6日	がんプロ 薬学分野別委員会主催シンポジウム 企画・運営
	2014年6月15日	第1回薬学がんプロフェッショナル研修会 企画・運営
	2014年4月24日	がんプロフェッショナルセミナー 企画・運営
	2014年4月22日	がんプロフェッショナルセミナー 企画・運営
	2014年4月12日	FD「チュートリアル教育,改訂コア・カリキュラム」
	2013年11月17日	東京都薬剤師会アドバンストワークショップ
	2013年11月10日	がんプロフェッショナルセミナー 企画・運営

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
The Effect of a Dietary Supplement Containing Raspberry Ketone on CYP3A Activity.	共著	2014.7	Pharmaceutica Analytica Acta. 2014, 5:6.
Quantitative evaluation of biliary elimination of gadoxetate, a magnetic resonance imaging contrast agent, via geometrical isomer-specific transporting system in rats.	共著	2014.6	Biopharmaceutics & Drug Disposition. 35: 362-71(2014)
Assessment of DDR2, BRAF, EGFR, and KRAS mutations as therapeutic markers in Japanese non-adenocarcinoma lung cancer patients.	共著	2014.9	Mol Clin Oncol. 2: 714-718 (2014)
Case report: dose adjustment of warfarin using genetic information and plasma concentration monitoring.	共著	2014.6	J Clin Pharm Ther. 39: 319-21 (2014)
Patient factors against stable control of warfarin therapy for Japanese non-valvular atrial fibrillation patients.	共著	2013.11	Thromb Res. 132: 537-42 (2013)

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Effect of genetic polymorphism of azathioprine-metabolizing enzymes on response to rheumatoid arthritis treatment	2016年3月	21st Congress of the European Association of Hospital Pharmacists
慶應義塾大学薬学部 臨床系教員の病院における実地研修（On the Job Training：OJT）	2015年11月	第25回日本医療薬学会年会
アプレピタントによる補助療法ががん化学療法の治療経過に与える影響	2015年9月	第59回日本薬学会関東支部大会
COX阻害活性評価方法の確立およびそれを用いたNSAIDsのCOX阻害活性評価	2015年9月	第59回日本薬学会関東支部大会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2015年4月～2017年3月	日本学術振興会科学研究費補助金 若手研究B 研究代表者
2012年4月～2014年3月	日本学術振興会科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究 研究分担者（研究代表者　群馬大学 山本康次郎）

［注］　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	基礎教育講座	専任講師	井上　賀絵

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2015年秋学期	1年「数学」：コアカリキュラム改訂に伴い、1年次に微分積分学と統計学の初歩的な知識を提供する。同じ授業内で行うメリットを生かし、数理統計の観点からの説明も行うことで統計知識の定着をはかった。
	2015年春学期	1年「基礎数学」：数Ⅲ未履修の学生のため、秋学期の「数学」に必要な知識を丁寧に説明する授業を設けた。選択授業のため、未履修の学生にストレスなく秋までの準備をしてもらうことが出来た。
	2014年秋学期	2年「数学演習」：内容が難しいとの意見があったため、線形代数および微分方程式の数学的説明をより分かりやすく簡単にする一方で、薬学の中での活用法により多くの時間をとった。（授業評価：4.2→4.2）
	2013年秋学期	2年「数学演習」：学生数が少ないため、1分割の授業に変更した。（授業評価：4.7→4.2）
	2013年春学期	2年「基礎統計」：授業でのスライド送りが速いとの指摘があったため、学生に記入させる量を減らし、考えさせる時間を増やした。（授業評価：3.8→3.9）
		1年「基礎微分積分学A」：授業内の演習に要する時間が学生間で大きく異なった為、少量で回数を多く演習する事で、差が生じないよう配慮した。（授業評価：4.0→4.2）
	2012年秋学期	2年「数学演習」：前任者を引き継いでExcelによる統計計算を教えたが学生からのニーズが少ないため、薬学で使われる数学的な内容に切り替えた。（授業評価：3.8→4.7）
	2012年春学期	2年「基礎統計」：板書量が多く授業中に理解する時間がとれないと指摘があったため、授業をスライドで行うことに変更し、学生に余裕を持たせた。（授業評価：3.5→3.8）
		1年「基礎微分積分学A」：スライドと板書を併用していたが、大教室で、全員に見えるよう板書する事が難しいため、OpenStageを利たして授業にした。また、より集中しやすい環境を作るため、それまでの合同授業を2分割授業にした。（授業評価：3.7→4.0）
	2011年秋学期	1年「基礎微分積分学」：大教室でOHPによる授業を行ったが、学生の書き取りが難しいため、スライドに変更した。（授業評価：3.6→3.7）
2　作成した教科書、教材、参考書	2015年4月1日	「スタンダード薬学シリーズⅡ 1(Ⅰ)薬学総論」、14-36 東京化学同人
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年9月25日	慶應義塾大学三学部合同教育ワークショップ（中期）ファシリテーター
	2015年7月1日	FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加
	2015年5月17日	慶應義塾大学三学部合同教育ワークショップ（初期）委員
	2015年3月4日	薬学部第2回FD「第三者評価について学ぶワークショップ」
	2014年9月1日	第１回薬学部FD「改訂コアカリとカリキュラム検討」
	2014年8月6日	第9回 保健・医療・福祉系学生交流合同セミナー ファシリテーター
	2014年5月16日	慶應義塾大学三学部合同教育ワークショップ（初期）委員
	2013年9月28日	慶應義塾大学三学部合同教育ワークショップ（中期）ファシリテーター
	2013年5月18日	慶應義塾大学三学部合同教育ワークショップ（初期）ファシリテーター
	2013年3月10日	H25年度第2回薬学部FD「研究倫理について」
	2012年8月24日	薬学部ワークショップ「カリキュラムの見直しについて」
	2012年5月19日	慶應義塾大学三学部合同教育ワークショップ（初期）ファシリテーター
	2012年4月14日	三学部合同FDシンポジウム
	2011年10月29日	薬学部FD「ケーススタディ 研究計画概要」
	2011年6月11日	慶應義塾大学三学部合同教育ワークショップ（初期）ファシリテーター
	2011年5月3/4日	第3回関東地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
リジェクトされない臨床薬学研究の基本！-(1)臨床薬学研究における研究デザインとデータ解析のポイント	共著	2013年7月	南山堂,薬局,64(8),2245-2251
On the Existence of a Darling-Kac Set for the Renormalized Rauzy map	共著	2011年12月	Tokyo Jounal of Mathematics,34/2,289-302

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2014年10月～現在	学生総合センター副部長（日吉）
2011年4月～現在	学習指導副主任（日吉）
2011年10月～現在	大学奨学委員（日吉）
2011年4月～2012年3月	教科用図書検定調査審議会平成23年度第3部会　専門委員

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	衛生化学講座	助教	中澤　洋介

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2015年春学期	3年「薬学実習Ⅲ」『衛生化学、公衆衛生学』を実習した。昨年度の評価で、デモと講義をもっと詳しくしてほしい、との意見があり、今年度はより時間を割いてデモと講義をするよう心がけた。』
２　作成した教科書、教材、参考書		－
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年8月4日	薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Establishment of a recessive mutant small-eye rat with lens involution and retinal detachment associated with partial deletion and rearrangement of the Crybal gene	共著	2015/10/1	Biochemical Journal　Portland Press
Hesperetin prevents selenite-induced cataract in rats	共著	2015/7/31	Molecular Vision
Lifespan of mRNA in the Lens.	共著	2015/6/10	Journal of the Japanese Society for Cataract Research
水晶体のアクアポリン0の役割および機能に関する研究	共著	2015/6/10	白内障学会雑誌

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
アクアポリン0（AQP0）の細胞間接着に関与するアミノ酸の確定。	1015/09/18	第54回日本白内障学会総会
ヒト脂肪由来幹細胞の水晶体細胞への分化誘導の試み	2015/12/2	第88回日本生化学学会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2012年6月～現在	日本白内障学会学会誌編集委員
2009年10月～現在	日本生物高分子学会評議員
2014年9月～現在	日本白内障学会プログラム委員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	病態生理学講座	助教	市川　大樹

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2013年～現在	3年「C10(2)免疫系の破綻･免疫系の応用」では，自己免疫疾の機序とその異常による疾患，抗体の作製方法や抗体反応を利用した検査法などを実例を挙げて講義する．3年「C14(1)体の変化を知る　疾病と検査数値A」では，個々の検査方法とその検査の意義、そして異常値の出るメカニズム、推測される疾病を挙げることができるように講義を行う.6年「生体試料分析」では、臨床検査の方法とその検査の意義について実例を提示し講義を行う，
２　作成した教科書、教材、参考書		－
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年7月1日 2015年8月4日	医療系三学部合同教育FDワークショップ2015に参加 FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
B cells generated by B-1 development can progress to chronic lymphocytic leukemia.	共著	2015年4月	Ann N Y Acad Sci. [Epub ahead of print]
A Novel Phthalimide Derivative, TC11, Has Preclinical Effects on High-Risk Myeloma Cells and Osteoclasts.	共著	2015年1月	PLoS One.10(1):e0116135
Natural Anti-Intestinal Goblet Cell Autoantibody Production from Marginal Zone B Cells.	共著	2015年1月	Journal of Immunol.194(2):606-14
Codon 72 polymorphism of TP53 gene is a novel prognostic marker for therapy in multiple myeloma.	共著	2014年6月	Br J Haematol.165(5):728-31
T細胞アナジーとE3ユビキチンリガーゼ	単著	2014年10月	科学評論社,臨床免疫・アレルギー科62(4):411-417
A Myeloma Cell Line Established from a Patient Refractory to Thalidomide Therapy Revealed High-Risk Cytogenetic Abnormalities and Produced Vascular Endothelial Growth Factor.	共著	2013年5月	Blood Cancer J 3:e115.

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Drug Design for Overcoming High-Risk Myeloma and Identification of Novel Binding Proteins to Immune-Modulatory Drugs.	2015年12月	ASH Annual Meeting and Exposition
Identification of New IMiDs-Binding Proteins and Nonteratogenic Drug Design for High-Risk Myeloma.	2015年10月	日本血液学会学術集会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。

２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

３　「Ⅰ　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

４　「Ⅱ　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）

５　「Ⅲ　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	創薬科学講座	助教	田中　健一郎

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2014年度 2013年度	毎回の講義の際に、質問を記載していもらう用紙を配布し、次回の講義時にはそれに対して必ず回答するようにしている。
２　作成した教科書、教材、参考書	2015年度	薬学実習生物2B実習書 薬学基礎実習　生物系　実習書
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年8月4日	第三者評価について
	2015年3月4日	FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加
	2014年4月12日	チュートリアル教育の目的と意義、改訂コアカリキュラムに対応した本学部のカリキュラム編成

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Aldioxa improves delayed gastric emptying and impaired gastric compliance, pathophysiologic mechanisms of functional dyspepsia.	共著	2015年	Sci Rep. in press
Synthesis and biological comparison of enantiomers of mepenzolate bromide, a muscarinic receptor antagonist with bronchodilatory and anti-inflammatory activities.	共著	2014年7月	Bioorg Med Chem. 22, 3488-97.
Ameliorative effect of mepenzolate bromide against pulmonary fibrosis.	共著	2014年7月	J Pharmacol Exp Ther. 350, 79-88
Superiority of pulmonary administration of mepenzolate bromide over other routes as treatment for chronic obstructive pulmonary disease.	共著	2014年3月	Sci Rep. 4.4510.
Mepenzolate bromide displays beneficial effects in a mouse model of chronic obstructive pulmonary disease.	共著	2013年12月	Nat Commun.4.2686.

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
ドラッグリポジショニング（DR）によるCOPD治療薬の開発	2015年12月	BMB2015
Superiority of Pulmonary Administration of Mepenzolate Bromide Over Other Routes as Treatment for Chronic Obstructive Pulmonary Disease.	2015年5月	ATS2015

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2015年4月～	日本薬理学会評議員
2015年4月～	実験動物施設運営委員会
2014年10月	第42回日本潰瘍学会事務局長
2014年7月	第30回日本DDS学会事務局

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	創薬科学講座	助教	石原　知明

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2015年～	1年「実験法概論」（2回担当）、1年「薬学基礎実習」（5回担当）、2年「薬学実習IIB（生物）」：実習の具体的な内容だけにとどまらず、実験に関する基本的な態度、考え方、技術、動物実験を行う際の注意点などが身に付くように留意した。 大学院「細胞培養・遺伝子実験特別演習」（2回担当）：異分野で研究を行っている学生にも理解しやすいように留意した。
２　作成した教科書、教材、参考書	2015年	2015年度　薬学実習IIB（生物系）実習書 2015年度　薬学基礎実習　生物系　実習書
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年5月16日 2015年8月4日	医療系三学部合同教育（初期）にファシリテーターとして参加 FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Encapsulation of beraprost sodium in nanoparticles: Analysis of sustained release properties, targeting abilities and pharmacological activities in animal models of pulmonary arterial hypertension.	共著	2015年	J Control Release.197:97-104.
Discovery of Novel SPAK Inhibitors That Block WNK Kinase Signaling to Cation Chloride Transporters.	共著	2015年	J Am Soc Nephrol.26(7):1525-36.
Development of biodegradable nanoparticles for liver-specific ribavirin delivery.	共著	2014年	J Pharm Sci.103(12):4005-11.
Synthesis and biological comparison of enantiomers of mepenzolate bromide, a muscarinic receptor antagonist with bronchodilatory and anti-inflammatory activities.	共著	2014年	Bioorg Med Chem.22(13):3488-97.
Diclofenac protects cultured human corneal epithelial cells against hyperosmolarity and ameliorates corneal surface damage in a rat model of dry eye.	共著	2014年	Invest Ophthalmol Vis Sci. 55(4):547-56.

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
ステルス型ナノ粒子を用いた、肺高血圧症治療薬の開発	2015, 7	第31回DDS学会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	医薬品情報学講座	助教	丸山　順也

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2014年～	C15（1）の医薬品添付文書、医薬品インタビューフォームの講義では、「スチバーガ錠」の添付文書、インタビューフォームを配布し、実物を見ながら講義を受けることでより理解し易くなるよう工夫した。
2　作成した教科書、教材、参考書	2014年～	C15（1）医薬品情報「医薬品添付文書の見方・読み方」、「医薬品インタビューフォームの見方・読み方」講義資料（医薬品情報学【第3版 補訂版】参考書）
	2013年～	実務実習事前学習（実習）の担当部分【医薬品情報DI④～⑧（2015年医薬品情報DI③～⑦に改変）】実習書作成
	2013年～	実務実習の前に（5）の講義資料（重篤副作用疾患対応マニュアル参考） 2013年4月～毎年
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2013年4月30日	2013年度慶應義塾大学三学部合同教育ワークショップ（後期）オブザーバー
	2013年6月8･9日	H25年度第3回関東地区調整機構認定実務実習指導薬剤師養成WS（城西大）
	2013年7月6日	慶應義塾大学医療系三学部合同教育2013第2回FDシンポジウム
	2014年4月12日	H26年度第1回薬学部FD「薬学におけるカリキュラム改訂とチュートリアル教育を考えるワークショップ」
	2014年4月26日	2014年度慶應義塾大学三学部合同教育ワークショップ（後期）
	2014年10月4日	慶應義塾大学医療系三学部合同教育2014第3回FDシンポジウム
	2014年10月21日	H26年度大学院薬学研究科FD「変わりゆく医薬品開発と臨床研究」
	2015年3月4日	H26年度第2回薬学部FD「第三者評価について学ぶワークショップ」
	2015年5月30日	H27年度第1回薬学部FD「新モデル・コアカリキュラムが目指す実務実習」他

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
日本ﾌﾟﾗｲﾏﾘ･ｹｱ連合学会「薬剤師研修ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ基礎編」	共著	2014年5月	南山堂
「新薬展望2013（眼科治療薬）」	共著	2013年1月	医薬ジャーナル社
Factors Affecting the Timing of Signal Detection of Adverse Drug Reactions.	共著	2015年12月	PLoS ONE 2015；10(12)：e0144263
Meta-analysis of the efficacy and safety of Ginkgo biloba extract for the treatment of dementia.	共著	2015年4月	JPHCS 2015 1：14
Differentiation of monkey embryonic stem cells to hepatocytes by feeder-free dispersion culture and expression analyses of cytochrome P450 enzymes responsible for drug metabolism.	共著	2013年2月	Biol Pharm Bull　2013；36(2)：292-298

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
地域薬局の参画による脂質異常症の早期発見の取り組みと今後の展望	2015年10月	第37回日本臨床栄養学会総会/第36回日本臨床栄養協会総会　第13回大連合大会(東京)
地域薬局の参画による脂質異常症の早期発見を目的とした取り組み	2015年7月	第23回クリニカルファーマシーシンポジウム　医療薬学フォーラム2015（名古屋）
一般用医薬品の添付文書におけるアイ・トラッカーを用いた理解度に関する応用可能性の研究	2015年6月	第18回日本医薬品情報学会総会・学術大会（岡山）

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	実務薬学講座	助教	黒田　裕子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2013年～現在	4年「実務実習事前学習」：無菌操作の実践の中で、自身の臨床経験を生かし、学生が実務実習に行ったときのベースとなるように、課題等を検討し、実習を行う。4年「C15(2)患者情報」：実務実習の一助となるように、症例を通して、様々な視点からプロブレムリストを作成できるように講義を行う。5年「実務実習の前に」(4)：実務実習で有意義な実習が送れるよう、新薬や添付文書の改訂内容も盛り込み、講義を行う。
２　作成した教科書、教材、参考書		－
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年8月4日 2015年5月8日 2015年3月4日 2014年10月21日	FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加 医療系三学部合同教育（後期）にファシリテーターとして参加 2014年度 薬学部FD「第三者評価について学ぶワークショップ」 2014年度 薬学部大学院FD「変わりゆく医薬品開発と臨床研究」

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
溶出性・分割性からみた市販アセトアミノフェン坐剤の比較.	共著	2015年10月	医療薬学（41巻10号）
医薬品副作用被害救済制度からみた一般用医薬品が関連した副作用被害の実態.	共著	2015年4月	日本病院薬剤師会雑誌（51巻4号）
診療報酬改定による医療施設の感染防止対策の変化.	共著	2014年11月	日本環境感染学会会誌（29巻6号）
複合型塩素系除菌・洗浄用製剤の安定性と色調の変化.	共著	2014年11月	日本環境感染学会会誌（29巻6号）
Usefulness of the serum 1,3-dimethyluric acid/theophylline concentration ratio in patients treated with sustained-release theophylline preparations of various designs.	共著	2011年4月	Jpn J Pharm Health Care Sci（vol.37 No.4）

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）医薬品副作用データベース（JADER）を用いたラモトリギン有害事象の実態.	2015年11月	第25回日本医療薬学会年会
（演題名）自動車運転に影響を及ぼす医薬品の処方への対応　第1報.	2015年7月	第23回クリニカルファーマシーシンポジウム/医療薬学フォーラム2015

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	薬学教育研究センター	助教	權田　良子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2015年	1年「薬学基礎実習」（4回）、2年「薬学基礎実習ⅡA」（8回）、「薬学実習ⅡC」（11回）、「薬学実習ⅢA」（12回）を担当。低学年の実習では、実験経験がないことを前提に実習指導するよう努めた。
２　作成した教科書、教材、参考書	2015年 2015年	薬学実習ⅡA（化学・物理系）実習書 薬学基礎実習（分析化学系）実習書
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年12月25日	ファシリテーター養成ワークショップ
	2015年8月4日	FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加
	2015年5月30日	「新モデルコアカリキュラムが目指す薬学実習」参加
	2015年9月26日	医療系三学部合同教育（中期）にファシリテーターとして参加
	2015年5月16日	医療系三学部合同教育（初期）にファシリテーターとして参加
	2015年3月4日	第三者評価について学ぶワークショップ
	2014年8月27日	ファシリテーター養成講習会
	2014年5月17日	医療系三学部合同　初等教育プログラム
	2014年4月12日	薬学におけるカリキュラム改訂とチュートリアル教育を考えるワークショップ

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	医療薬学部門	助教	大塚　尚子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2012年春学期	1年「早期体験学習(薬科学科)」:病院・薬局見学を終えたあと最終日に見学のポスター発表を行う。発表形式を前年度までの口頭発表のないポスター発表から班毎に行う口頭発表を含めたポスター発表に変更。学生に口頭による発表の経験をさせ発表・議論の場を増やすと共に、薬学生としての学習に対するモチベーションを更に高めてもらえるよう改善した。
2　作成した教科書、教材、参考書		－
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2012年3月29日	学生主体で構築した症状を基盤とした一般用医薬品実習の実施.（日本薬学会 第132年会）
	2011年10月2日	薬局実務実習における実務実習指導・管理システムの活用.（第21回日本医療薬学会年会）
	2011年10月2日	薬局実務実習における学生満足度に与える影響要因の解析(第2報).（第21回日本医療薬学会年会）
	2011年10月2日	インスリン自己注射を中心とした糖尿病服薬指導実習の構築.（第21回日本医療薬学会）
	2011年10月1日	実務実習受入れにおける指導薬剤師の意識調査(第2報).（第21回日本医療薬学会年会）
	2011年10月1日	学生からみた薬局実務実習における一般用医薬品実習.（第21回日本医療薬学会）
	2011年3月31日	大学教員による実務実習期間中の施設訪問の有用性.（日本薬学会 第131年会）
	2011年3月31日	実務実習受入れにおける指導薬剤師の意識調査.（日本薬学会 第131年会）
	2011年3月31日	実務実習支援を目指した実務実習指導・管理システムの有用性.（日本薬学会 第131年会）
	2011年3月31日	薬局実務実習における学生満足度に与える影響要因の解析.（日本薬学会 第131年会）
	2011年3月31日	実務実習における実務実習事前学習の有用性に関する検討.（日本薬学会 第131年会）
	2011年2月19日	薬学生による速乾性手指消毒薬の使用感評価.（第26回日本環境感染学会総会）
	2010年11月13日	実務実習受入施設への大学教員による訪問の有用性の検討.（第20回日本医療薬学会年会）
	2010年11月13日	実務実習における実務実習指導・管理システムの活用とその有用性.（第20回日本医療薬学会年会）
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年8月4日	H27年度薬学部FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加
	2015年5月30日	H27年度薬学部FD「新モデル・コアカリキュラムが目指す実務実習」参加
	2012年5月19日	H24年度慶應義塾大学三学部合同教育ワークショップ（前期）にﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰとして参加
	2012年5月2日	H24年度慶應義塾大学三学部合同教育ワークショップ（後期）にﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰとして参加

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文)患者指導用資材を活用した実践的な吸入指導実習の構築	共著	2011年3月	日本病院薬剤師会、日本病院薬剤師会雑誌(47巻 3号)

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

［注］　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	医療薬学部門	助教	地引　綾

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2015年秋学期 2015年秋学期 2015年春学期	4年「実務実習事前学習」：処方監査、服薬指導の実習において、自身の病院薬剤師経験を生かし、学生が実務実習にて即実践できるような課題や実習を検討し、指導を行った。 4年「C15(2)患者情報」：実務実習に向け、糖尿病の症例に関して様々な視点からプロブレムリストを作成できるように講義を行った。 5年「実務実習の前に」(6)：実務実習の一助となるよう、自身のCRC経験を生かし、治験薬管理において必要な基礎知識および治験薬管理の現状を盛り込み、講義を行った。
2　作成した教科書、教材、参考書		なし
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年12月25日	「ファシリテーター養成ワークショップ」参加
	2015年8月20～21日	「山口大学医学部附属病院薬学系大学教員等研修」参加
	2015年8月4日	FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加
	2015年7月1日	「医療系三学部合同教育FDワークショップ2015」参加
	2015年5月8日	医療系三学部合同教育（後期）にファシリテーターとして参加
	2015年3月4日	2014年度第2回薬学部FD「第三者評価について」参加
	2014年8月27日	2014年度第1回薬学部FD「ファシリテーターについて」参加

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
なし			

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
オキサリプラチンの減感作療法を行った1症例	2015年11月	第25回日本医療薬学会年会
アプレピタントによる補助療法ががん化学療法の治療経過に与える影響	2015年9月	第59回日本薬学会 関東支部大会
COX阻害活性評価方法の確立およびそれを用いたNSAIDsのCOX阻害活性評価	2015年9月	第59回日本薬学会 関東支部大会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

平成27年1月～	日本医療薬学会認定薬剤師
平成25年1月～	日本臨床薬理学会認定薬剤師
平成24年4月～平成25年3月	日本学術振興会科学研究費補助金　奨励研究　研究代表者

［注］　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	社会薬学部門	助教	藤本　和子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2015年秋学期	「栄養情報額演習」自由選択科目。以前は「ＮＲ」の、現在は「健康食品管理士」および「ＮＲ・サプリメントアドバイザー」資格試験の受験に必須な科目としている。5年次受験としている。資格試験の合格を目的にしているため、試験問題の傾向と対策を行っている。⇒今年度より講義回数が減り、講義の内容分類を変えて行ってみた。毎回多くのプリント資料を配布し、試験は資格試験本番と同じ問題数で出題している。（健康食品管理士の受験者の合格率は連続5回100%である。この科目は2011年より継続して担当。）
	2015年秋学期	3年C18(3)コミュニティーファーマシーの科目1.5コマ担当し、「地域における薬剤師の役割」として、健康食品と医薬品の分類および、災害時の薬剤師の役割を講義した。特に災害時の薬剤師の役割は2011年以降から作られてきた都道府県での規約や医療支援ににについて実際の行動を示す資料での講義を行った。
2　作成した教科書、教材、参考書	2012年2月	Basic English Communication Skills for Pharmacistys 薬剤師のための基礎英語コミュニケーション.　菅家甫子, 中野暖子, 藤本和子.　1-183　慶應義塾大学薬学部生涯学習センター, 東京
	2011年11月	慶應義塾大学薬学部 薬剤師継続学習通信講座 第V講座テキスト OTC薬販売のための外国語対応.　Fujimoto K, Watanabe Y, Nakano H, Maruika H, Ohu A.　1-120　慶應義塾大学薬学部 生涯学習センター, 東京
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2006年～2011年	ＮＲ養成講座として薬剤師向けにＮＲ資格取得のための講座で3時間の講演と演習問題100問作成を6年間受け持っていたことは現在の講義に役立っている。
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2010年～2014年	毎年行われている学内のＦＤ講座には参加している。2014年4月12日に行なわれたＦＤ講座のみ「薬剤師のための英語基礎ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ」と日程が重なり、参加できず。
	2015年9月25日	H26年度第3回慶應義塾大学三学部合同教育ワークショップ（中期）ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Methods for estimating causal relationships of adverse events with dietary supplements.	共著	2015年11月	BMJ Open. 2015 Nov 25; 5 (11): e009038. doi: 10.1136 / bmjopen-2015-009038.
学習を続ける薬剤師に	単著	2014年7月	薬剤学　公益社団法人 日本薬剤学会 74(4), 235-239
健康食品の摂取に伴う有害事象の因果関係評価のための樹枝状アルゴリズムの構築.	共著	2012年12月	臨床薬理　Vol. 43(No. 6), p.399-402
（活性化する薬剤師認定制度の取り組み）	単著	2010年9月	Credentials　（株）メデイカル・パブリケーションズ　2/ 7, 52-53
（学会発表）○災害医療支援薬剤師の登録とこれからの活動	単発表	2015年1月	日本災害医療薬剤師学会 第4回学術大会

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
○災害医療支援薬剤師の登録とこれからの活動 ～薬剤師の資格について～	2015年1月	日本災害医療薬剤師学会 第4回学術大会
○The Sports Pharmacist System in Tokyo Japan	2014年6月	10th International conference Life Long Learning in Pharmacy　(Life Long Learning in Pharmacy 2014)
○地域で活躍する高齢者支援指導薬剤師の養成.	2014年3月	日本薬学会第134年会
○慶應義塾大学薬学部における実務実習指導薬剤師育成講座について.	2012年10月	第22回日本医療薬学会年会
○国際化に向けて薬剤師の医療コミュニケーションのトレーニング.	2012年10月	第45回日本薬剤師会学術大会
○実務実習指導薬剤師のレベルアップをめざして、慶應義塾大学薬学部の試み.	2012年3月	日本薬学会第132年会
○Continuing Pharmacy Education Program in Keio University Faculty of Pharmacy	2011年6月	9th International conference Life Long Learning in Pharmacy　(Life Long Learning in Pharmacy 2011)
○ 慶應義塾大学薬学部「薬剤師継続学習通信講座」スクーリング演習プログラムについて.	2011年3月	日本薬学会第131年会
○薬剤師継続学習における慶應義塾大学薬学部・生涯学習センターの2010年度の取り組み.	2010年10月	第43回日本薬剤師会学術大会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2012年7月～現在	日本災害医療薬剤師学会理事（2012年～現在） 2015年1月24・25日　第4回学術大会長
2011年11月～現在	東京都薬剤師会　国体特別委員（アンチドーピング活動ワーキンググループ）
2013年5月～現在	日本災害医療支援薬剤師研修委員(発足～)
2007年6月～現在	認定薬剤師認証研修機関協議会　委員　（会計担当役員2011年発足～2014年3月）

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	社会薬学部門	助教	小林　典子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2012年～現在	実務実習終了後の学生の意見を取り入れ学生のニーズに基づいた事前学習（調剤の流れを汲んだ総合実習）、学生主体の実習（セルフメディケーション実習、服薬指導実習）を構築、改善した。事前学習の中に倫理教育を取り入れた(医療における倫理)。
2　作成した教科書、教材、参考書		－
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2015年3月26日	実務実習事前学習におけるヒューマニティ教育実践の試み，日本薬学会第135年会
	2014年9月28日	効果的な実務実習導入に向けた事前説明，第24回日本医療薬学会年会
	2013年3月29日	学生のニーズに基づく調剤業務全体の流れを意識した実務実習事前学習の構築，日本薬学会第133年会
	2013年3月29日	学生主体で構築した新たな服薬指導事前実習の評価，日本薬学会第133年会
	2012年10月27日	学生から見た実務実習におけるコミュニケーション能力の問題点―アンケート調査およびKJ法を用いたスモールグループディスカッション―，第22回日本医療薬学会年会
	2012年3月31日	学生主体で構築した症状を基盤とした一般用医薬品実習の実施，日本薬学会第132年会
	2011年10月1日	薬局実務実習における実務実習指導・管理システムの活用，第21回日本医療薬学会年会
	2010年11月14日	実務実習における実務実習指導・管理システムの活用とその有用性，第20回日本医療薬学会年会
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年5月8日	医療系三学部合同教育（後期）にファシリテーターとして参加
	2015年7月1日	医療系三学部合同教育FDワークショップ2015に参加
	2015年8月4日	FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加
	2015年3月4日	薬学部FD「第三者評価について学ぶワークショップ」参加
	2014年11月9日	文部科学省委託事業「医療人養成としての薬学教育に関するワークショップ」
	2014年10月26日	東京都薬剤師会アドバンストワークショップ～より質の高い参加型実務実習を目指して～
	2014年10月4日	2014年度　慶應義塾大学三学部FD「患者中心の医療を実践するための医療チームのあり方を考える」
	2014年4月26日	2014年度 慶應義塾大学三学部合同教育ワークショップ（後期）ファシリテーター
	2014年4月12日	2014年度 薬学部FD「薬学部におけるカリキュラム改訂とチュートリアル教育を考えるワークショップ」

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
OTC薬実習の問題点とその改善のための提案	共著	2014年2月	医療薬学誌，40(2)
患者指導用資材を活用した実践的な吸入指導実習の構築	共著	2011年3月	日病薬誌，47(3)

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
中学生に対する「薬教育」の在り方と他職種からの視点 ～医薬品の適正使用教育と薬物乱用防止教育の関連性～	2015年7月	日本社会薬学会第34年会(熊本)
全国調査による検体測定室の普及と継続を阻害する要因の解明	2016年3月	日本薬学会第136年会（横浜）
脂質検体測定イベントから見えた地域住民の脂質異常の実態	2016年3月	日本薬学会第136年会（横浜）

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

［注］　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	社会薬学部門	助教	岩田　紘樹

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2015年春学期	3年「C18(2)社会保障制度と薬剤経済」「C18(3)コミュニティーファーマシー」：スライドを用いた講義だが、私の薬局勤務経験を生かして講義内容を習得する意義を伝えた。新聞記事を引用して、関連する最新トピックスを盛り込んだ。また国家試験の過去問も取り上げ、知識の確認を行った。
２　作成した教科書、教材、参考書		なし
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年5月8日 2015年5月30日 2015年8月4日	医療系三学部合同教育（後期）にファシリテーターとして参加 FD「新モデル・コアカリキュラムが目指す実務実習」参加 FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加

Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Synergistic effect of combined treatment with gamma-tocotrienol and statin on human malignant mesothelioma cells.	共著	2013年10月	Cancer Letters 339, 116-127
New 2-Aryl-1,4-naphthoquinone-1-oxime Methyl Ether Compound Induces Microtubule Depolymerization and Subsequent Apoptosis.	共著	2012年3月	J Pharmacol Sci 118, 467-478
モルヒネのヒトがん細胞株の増殖に対する影響	共著	2011年10月	日本緩和医療薬学雑誌 4, 85-91
A demethylating agent enhances chemosensitivity to vinblastine in a xenograft model of renal cell carcinoma.	共著	2011年6月	Int. J. Oncol. 38, 1653-1661
Up-regulation of connexin 32 gene by 5-aza-2'-deoxycytidine enhances vinblastine-induced cytotoxicity in human renal carcinoma cells via the activation of JNK signaling.	共著	2010年8月	Biochem. Pharmacol. 80, 463-470
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）	
なし	

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	創薬物理化学講座	教授	金澤　秀子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要	
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2006年～現在	講義の最初に前回の講義内容の簡単な確認テストを行い講義への積極的な参加を促している。講義の資料にはできるだけ医薬品への応用例を紹介することを心がけている。（授業評価4.0）	
２　作成した教科書、教材、参考書	2014年3月	「わかりやすい薬剤学計算問題の解き方」改訂版ネオメディカル（神奈川）	
	2014年3月	「製剤化のサイエンス」第6版ネオメディカル（神奈川）	
	2013年4月	図解製剤学　南山堂（東京）	
	2013年3月	「物理薬剤学・製剤学」朝倉書店（東京）	
	2012年3月	「スタンダード薬学シリーズ2　物理系薬学IV　演習編」日本薬学会編　東京化学同人（東京）	
	2011年9月	「薬学物理化学演習第２版」廣川書店（東京）	
	2011年3月	「スタンダード薬学シリーズ2　物理系薬学　I.物質の物理的性質」日本薬学会編　東京化学同人（東京）	
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2014年8月	日本薬学会物理系薬学部会	私立薬系大学における教育と研究のバランスを考える
	2013年3月	日本薬学会	物理化学的視点で薬剤師業務を考える一薬剤師のための製剤化のサイエンス
	2012年11月	医療薬学会	「物理化学的視点から薬剤師業務を考える」医療薬学会教育講演
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2014年9月27日	医療系三学部合同教育（中期）にファシリテーターとして参加	
	2014年8月	評価者研修会(薬学教育評価機構)	
	2015年8月4日	FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加	
	2015年3月4日	第三者評価について学ぶワークショップ	

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
"Handbook of Green Analytical Chemistry"	共著	平成24年3月	John Wiley & Sons(UK)
Temperature-Responsive Smart Packing Materials Utilizing Multi-Functional Polymer.	共著	平成26年1月	Analytical Sciences 30,167-173
Development of Novel Thermally Responsible Separation Systems using Functional Polymers.	単著	平成21年1月	Chromatography, vol.30 No.1
Poly (N-isopropylacrylamide)-PLA and PLA blend nanoparticles for temperature-controllable drug release and intracellular uptake	共著	平成24年12月	Colloids and Surfaces B: Biointerfaces, vol.99
Temperature-responsive Chromatography for the Separation of Biomolecules	共著	平成23年3月	J. Chromatogr. A, vol.1218

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
招待講演「機能性高分子の特性を活かした新しい分離技術の開発」	2015年5月	第22回ｸﾛﾏﾄｸﾞﾗﾌｨｰｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ
機能性リポソームを用いた高効率な遺伝子製剤デリバリーシステムの開発	2015年7月	第31回日本DDS学会学術集会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

平成26年1月～平成27年12月	クロマトグラフィー科学会　副会長
平成27年3月～平成28年3月	(社)日本分析化学会関東支部副支部長
平成27年11月～平成28年10月	文部科学省　大学設置・学校法人審議会専門委員
平成27年6月～平成29年6月	経済産業省　計量行政審議会委員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	有機薬化学講座	教授	須貝　威

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2010年4月～現在	有機化学を深く理解するためには、中間段階における形成的評価が大切である。それまで総括的評価に用いられてきた薬剤師国家試験・総合薬学演習、講義の学期末試験等を遡及的にデータベース化、解説を付記して問題集とした「有機宅論特論」を作製・毎年更新し、C4(1)～C4(3)履修生に配布している。演習問題として活用し、低学年の基礎学力向上に貢献した。
2　作成した教科書、教材、参考書	2013年10月 2011年11月	「薬学生のための実習実験安全ガイド」東京化学同人 「ベーシックマスター有機化学」オーム社
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		上記の有機化学問題データベースから、6年生用に問題集を作成、配布して薬剤師国家試験対策に貢献した。また、2014年4月からは大学院受験訓練用問題集も作成し配布、大学院進学後の研究基礎力向上にも寄与した。

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
New synthesis of artepillin C, a prenylated phenol, utilizing lipase-catalyzed regioselective deacetylation as the key step.	共著	2015年12月	Biosci. Biotechnol. Biochem. 79巻 12号
Recognition of the remote chiral center in lipase-catalyzed kinetic resolution of [2-methyl-2-(2′-naphthyl)-1,3-benzodioxol-4-yl]methyl acetate, the precursor of 2-methyl-2-(2′-naphthyl)-1,3-benzodioxole-4-carboxylic acid (MNB carboxylic acid).	共著	2014年11月	J. Mol. Catal. B: Enz. 109巻
An expeditious route for 2-acetamido-4-O-methyl-2-deoxy-D-mannopyranose from a Ferrier derivative of tri-O-acetyl-D-glucal, which contributes to the synthesis of laninamivir (CS-8958), a neuraminidase inhibitor.	共著	2013年9月	Tetrahedron 69巻 37号
Chemo-enzymatic Enantioconvergent Approach toward Ethyl Shikimate from Ethyl 5-Hydroxy-3,4-isopropylidenedioxycyclohex-1-enecarboxylate.	共著	2013年8月	Tetrahedron 69巻 31号
Formal Synthesis of (+)-Madindoline A, a Potent IL-6 Inhibitor, Utilizing Enzymatic Discrimination of Quaternary Carbon.	共著	2013年7月	Nat. Prod. Commun. 8巻 7号

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Synthetic Approaches to Rare Flavonoids Based on Regioselective Transformation	2014年9月	ICP2014 & 8th Tannin Conference
Importance of acetyl protective group in the integration of enzymatic and chemical transformations toward fine chemical synthesis	2014年12月	Active Enzyme Molecule 2014

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2013年5月～2015年4月	日本農芸化学会理事・関東支部長
2011年2月～2013年1月	日本化学会「化学と教育」誌編集委員長
2010年4月～現在	Advisory board of Journal of Molecular Catalysis B: Enzymatic
2015年2月～現在	有機合成化学協会理事・事業革新担当

［注］　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　5　「Ⅲ　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績 （平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3) ）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	医薬品化学講座	教授	増野　匡彦

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		過去の試験問題を中心に演習問題を配付し、勉強するべき範囲をわかりやすくしている。ほぼ全ての問題が論述式のため、解答のポイントを付けている。
２　作成した教科書、教材、参考書	2013年10月	薬学生のための実習実験安全ガイド　監修
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2013年9月 2012年9月 2010年11月	薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂案に関する全国説明会　化学の説明 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に向けて招待講演　生薬学・天然物化学教科担当教員会議 チーム医療及び地域医療推進のための大学教育　事例報告　招待講演　私立大学協会医歯薬学教育推進会議
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2010年～2014年 2011年～現在	薬学教育モデル・コアカリキュラムおよび実務実習モデル・コアカリキュラムの改訂に関する調査研究委員会　委員 薬学共用試験センターCBT実施委員会委員長

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Novel bioactivation pathway of benzbromarone mediated by cytochrome P450.	共著	2015年9月	Drug Metab Dispos 43
The human immuodeficiency virus-reverse transcriptase inhibition activity of novel pyridine/pyridinium-type fullerene detivatives.	共著	2015年6月	Bioorg Med Chem, 25.
Antioxidant activities of 5-hydroxyoxindole and its 3-hydroxy-3-phenacyl derivatives: The suppression of lipid peroxidation and intracellular oxidative stress.	共著	2013年12月	Bioorg Med Chem, 21.
Synthesis, radical scavenging activity and structurer-activity relationship of uric acid analogs.	共著	2013年1月	Med Chem Comm, 4.
Ipso Substitution of bisphenol A catalyzed by microsomal cytochrome P450 and Enhancement of estrogenic activity.	共著	2011年5月	Toxicology Letters, 203.

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
抗酸化活性環状ジペプチド化合物の脂質過酸化抑制効果	平成27年6月	第68回日本酸化ストレス学会学術集会
インドール共役ヒダントイン誘導体の合成とラジカル消去活性	平成27年9月	第59回日本薬学会関東支部大会
Novel bioactivation pathway of benzbromarone mediated by cytochrome P450	平成27年11月	日本薬物動態学会第30回年会
尿酸の構造を単純化した 置換インドリノン誘導体の合成と抗酸化活性	平成27年11月	第33回メディシナルケミストリーシンポジウム
Discovery and synthesis of a novel non-covalent inhibitor for protein-protein interaction between Nrf2 and Keap1.	平成27年12月	THE INTERNATIONAL CHEMICAL CONGRESS OF PACIFIC BASIN SOCIETIES 2015
Synthesis of novel pyridine/pyridinium-type fullerene derivatives with human immunodeficiency virus-reverse transcriptase inhibition activity	平成27年12月	THE INTERNATIONAL CHEMICAL CONGRESS OF PACIFIC BASIN SOCIETIES 2015
Synthesis of multi-target fullerene derivatives with both HCV RNA polymerase inhibitory and antioxidant activities for the treatment of HCV-related disease.	平成27年12月	THE INTERNATIONAL CHEMICAL CONGRESS OF PACIFIC BASIN SOCIETIES 2015

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2010年6月～現在	薬学教育協議会業務執行理事
2011年6月～現在	薬学共用試験センター理事
2013年6月～現在	日本酸化ストレス学会理事
2013年10月～現在	私立薬科大学協会理事

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	生化学講座	教授	長谷　耕二

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2014年～現在	3年C10(1)「身体をまもる」を単独で、また2015年度からは「細胞を構成する分子」を共同で担当した。授業内容をまとめたレジメを授業中に配布すると共にウェブ上にアップした。授業理解度をミニテストで確認するとともに、質問事項を提出させて次回の授業で解説を行った。
2　作成した教科書、教材、参考書	2014年～現在	免疫生物学(C10-1参考書)、ヴォート基礎生化学（細胞を構成する分子教科書）を基にレジメを作成した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		-
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年3月14-15日 2015年8月4日 2014年8月27日	第18回関東地区調整機構認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(帝京大)参加 FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加 平成26年度慶應義塾大薬学部ファシリテーター養成講習会参加

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
The microbiota regulates type 2 immunity through RORgt+ T cells.	共著	2015年8月	Science 349: 989-93 (2015)
Epigenetic regulator Uhrf1 is critical for functional expansion of colonic regulatory T cells.	共著	2014年7月	Nature Immunology 15: 571-579 (2014)
Epithelial-stromal interaction via Notch signaling is essential for the full maturation of gut-associated lymphoid tissues.	共著	2014年 5月	EMBO Rep. 15:1297-304 (2014)
Epigenetic regulator Uhrf1 is critical for functional expansion of colonic regulatory T cells.	共著	2014年7月	Nature Immunology 15: 571-579 (2014)
Gut microbiota-generated metabolites in animal health and disease.	共著	2014年 5月	Nature Chemical Biology 10:416-24, (2014)

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
腸内細菌による免疫エピゲノム修飾機構の解明	2015年 5月	千里ライフサイエンスセミナーJ1
腸内細菌による代謝物を介した免疫調節メカニズムの解明	2014年 10月	第58回日本放線菌学会学術講演会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2015年6月～現在	日本ビフィズス菌センター　理事
2015年1月～現在	Cell Strucutre Function 常任編集委員
2012年12月～現在	日本免疫学会評議員
2012年12月～2015年11月	科研費委員会専門委員

［注］　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	薬理学講座	教授	三澤　日出巳

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2012年春学期 2010年春学期	H24年度に指摘された「実務実習に備え、代表的薬物は一般名のほかに商品名も教えて欲しい」という要望に対して←使用頻度の高い薬物については、一般名とともに商品名を記した表を示した。 H22年度指摘された「教科書に載っていない新薬についても説明して欲しい」とのコメントに対し←概ね１年以上前に承認された新薬については講義で取りあげるようにした。
２　作成した教科書、教材、参考書	2013年4月	グッドマン・ギルマン薬理書：薬物治療の基礎と臨床 12版（３年「薬の効くプロセス」参考書）
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年3月4日 2014年12月21日 2014年4月12日	学部FD 「第三者評価について学ぶワークショップ」 大学院FD 「変わりゆく医薬品開発と臨床研究」 学部FD 「薬学におけるカリキュラム改訂とチュートリアル教育を考えるワークショップ」

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
SIRT1 overexpression ameliorates a mouse model of SOD1-linked amyotrophic lateral sclerosis via HSF1/HSP70i chaperone system.	共著	2014年8月	Mol. Brain, 7: 62
SLURP-1, an endogenous alpha7 nicotinic acetylcholine receptor allosteric ligand, is expressed in CD205(+) dendritic cells in human tonsils and potentiates lymphocytic cholinergic activity.	共著	2014年2月	J. Neuroimmuniol., 267, 43-49
Selective disruption of acetylcholine synthesis in subsets of motor neurons: A new model of late-onset motor neuron disease.	共著	2014年1月	Neurobiol. Dis., 65, 102-111
Effect of secreted lymphocyte antigen-6/urokinase-type plasminogen activator receptor-related pepetide-1 (SLURP-1) on airway epithelial cells.	共著	2013年8月	Biochem. Biophys. Res. Commun., 438, 175-179
Loss of TDP-43 causes age-dependent progressive motor neuron degeneration.	共著	2013年5月	Brain, 136, 1371-1382

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
運動ニューロンサブタイプの選択的脆弱性におけるオステオポンチンとマトリックスメタロプロテアーゼ-9の役割	2015年7月	第38回日本神経科学大会
幹細胞由来ニューロンと株化シュワン細胞の共培養によるミエリン形成	2015年7月	第38回日本神経科学大会
ALSモデルマウスのアストロサイト足突起におけるアクアポリン-4局在異常の特性解析	2015年7月	第38回日本神経科学大会
組換えアデノウイルスによる培養ニューロン細胞質内TDP-43凝集体形成の経時的観察	2015年7月	第38回日本神経科学大会
運動ニューロン特異的26Sプロテアソームノックアウトマウスを用いた運動ニューロンの網羅的遺伝子発現解析	2015年7月	第38回日本神経科学大会
ALSモデルマウスにおける自然免疫TRIF経路の役割	2015年7月	第38回日本神経科学大会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2013年4月～現在	薬剤師国家試験　試験委員
2012年4月～現在	日本薬学会 薬理系薬学部会 奨励賞選考委員
2009年8月～現在	薬理学関連教科担当教員会議　事務局補佐
2008年3月～現在	日本薬理学会　学術評議員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	生命機能物理学講座	教授	大澤　匡範

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2015年春学期	1年「基礎物理学」において、自らの手を動かすことにより理解を深めることを目的として、演習を多く取り入れた。
2　作成した教科書、教材、参考書	2015年春学期 2015年秋学期	1年「基礎物理学」、3年「C2(3)]の講義資料 1年「分析化学」の講義資料
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		-
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015/9/20-21	2015年度第10回関東地区調整機構薬学教育者WS（日本薬科大）
	2015年8月4日	薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Calmodulin and STIM proteins: two major calcium sensors in the cytoplasm and endoplasmic reticulum.	共著	2015年4月	Biochem. Biophys. Res. Commun. 460(1):5-21
Structural basis for the inhibition of voltage-dependent K+ channel by gating modifier toxin.	共著	2015年9月	Scientific Reports 5:14226

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Structural insights into ATP binding and channel gating in bacterial MgtE Mg2+ channels.	2015年5月	COLD SPRING HARBOR ASIA CONFERENCES
Structural mechanism underlying the msec-gating of potassium channel.	2015年6月	第15回日本蛋白質科学会
Structural analyses of the cytosolic region of the chemokine receptor, which interacts with the chemokine signal regulator FROUNT.	2015年9月	第53回日本生物物理学会年会
Mg2+ 選択性チャネルMgtEとATPの複合体の構造及び機能解析	2015年10月	日本結晶学会年会
NMR method for characterizing microsecond-to-millisecond chemical exchanges utilizing differential multiple-quantum relaxation in high molecular weight proteins	2015年11月	第54回NMR討論会
構造機能解析によるMg2+ 選択性チャネルMgtEのイオン透過孔開閉に対するATPの作用の解明	2015年12月	日本分子生物学会年会
Gタンパク質三量体によるGタンパク質共役型内向き整流性カリウムチャネル活性制御機構の構造生物学的解明	2015年12月	日本分子生物学会年会
ポリA上でのPABP多量体化の構造生物学的解析	2016年3月	日本薬学会第136回年会
Gタンパク質三量体によるGタンパク質共役型内向き整流性カリウムチャネル活性制御機構の構造生物学的解明	2015年12月	日本分子生物学会年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2011年12月～2015年12月	日本分光学会企画委員
2010年8月～2016年3月	日本分光学会NMR分光部会世話人代表
2011年8月～2016年3月	日本薬学会物理系薬学部会若手世話人

［注］　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	有機薬化学講座	准教授	庄司　満

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2015年春学期	1年「有機科学2」2年「C4(3)官能基A、B」有機化学を深く理解するためには、講義の聴講に加え演習問題による反復学習が必須である。前年度までA4版の大きさに４題の問題を印刷していたが、学生の要望に応えプリントを２倍に拡大したところ、大変好評で学生の学習意欲が向上した。
２　作成した教科書、教材、参考書	2013年10月 2011年11月 2011年10月 2011年3月	「薬学生のための実習実験安全ガイド」東京化学同人 「ベーシックマスター有機化学」オーム社 「天然物合成で活躍した反応-実験のコツとポイント」化学同人 「合成有機化学-反応機構によるアプローチ」東京化学同人
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年8月4日	有機化学問題集の作成・頒布 FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Divergent Synthesis of Pseudoenantiomers for ABC-ring Moiety of Steroids.	共著	2014年5月	Tetrahedron Letters 55巻 20号
Stereoselective Synthesis of Scyphostatin Hydrophilic Moiety.	共著	2014年4月	Tetrahedron Letters 55巻 17号
Chemo-enzymatic Enantioconvergent Approach toward Ethyl Shikimate from Ethyl 5-Hydroxy-3,4-isopropylidenedioxycyclohex-1-enecarboxylate.	共著	2013年8月	Tetrahedron 69巻 31号
Formal Synthesis of (+)-Madindoline A, a Potent IL-6 Inhibitor, Utilizing Enzymatic Discrimination of Quaternary Carbon.	共著	2013年7月	Natural Product Communications 8巻 7号
Stereoselective Construction of cis-Decalin Framework via Radical Domino Cyclization.	共著	2013年3月	Tetrahedron Letters 54巻 12号

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Formal synthesis of madindoline A utilizing enzymatic discrimination of quaternary carbon	2015年6月	16th Tetrahedron Symposium
Formal synthesis of madindoline A via enzymatic discrimination of quaternary carbon center	2015年12月	THE INTERNATIONAL CHEMICAL CONGRESS OF PACIFIC BASIN SOCIETIES 2015 (PACIFICHEM 2015)

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2011年2月～2013年1月	有機合成化学協会誌編集委員
2011年8月～2013年7月	文部科学省研究振興局学術調査官
2012年6月～現在	The Scientific World Journal 編集委員
2013年12月～2015年11月	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	医薬品化学講座	准教授	大江　知之

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	H27年4月	演習問題の配付、毎回の小テストの実施（60人程度の講義にて）など
2　作成した教科書、教材、参考書	H28年3月	スタンダード薬学シリーズⅡ　Ⅱ生体分子・医薬品の化学による理解　日本薬学会編　東京化学同人
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	H27年8月4日 H27年3月4日 H26 & H27年6月 H25年10月～H27年9月 H26年4月～ H25年3月	FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加 FD「薬学教育第三者評価による質保証」参加 未来先導基金プログラム（米国研修）の計画、引率 慶應義塾国際センター　学習指導主任　兼　学生交換・在外研修委員 慶應義塾大学薬学部 CBT実施委員長 薬学会年会Special Synposium「薬学のさらなる発展を目指して」講演

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Novel bioactivation pathway of benzbromarone mediated by cytochrome P450	共著	2015年9月	Drug Metab Dispos 43
The human immuodeficiency virus-reverse transcriptase inhibition activity of novel pyridine/pyridinium-type fullerene detivatives	共著	2015年6月	Bioorg Med Chem, 25
Blood-Brain Barrier Pharmacoproteomics-based Reconstruction of the In-Vivo Brain Distribution of P-glycoprotein Substrates in Cynomolgus Monkeys.	共著	2014年9月	J Pharmacol Exp Ther, 350
Antioxidant activities of 5-hydroxyoxindole and its 3-hydroxy-3-phenacyl derivatives: The suppression of lipid peroxidation and intracellular oxidative stress.	共著	2013年12月	Bioorg Med Chem, 21
Synthesis, radical scavenging activity and structurer-activity relationship of uric acid analogs.	共著	2013年1月	Med Chem Comm, 4

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Discovery and synthesis of a novel non-covalent inhibitor for protein-protein interaction between Nrf2 and Keap1.	H27年12月	AIMECS 2015
Synthesis of multi-target fullerene derivatives with both HCV RNA polymerase inhibitory and antioxidant activities for the treatment of HCV-related disease.	H27年12月	AIMECS 2015
Novel bioactivation pathway of benzbromarone mediated by Cytochrome P450	H27年11月	薬物動態学会第30回年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

H26年1月～	薬物動態学会評議員
H26年9月～	慶應病院倫理委員会放射性医薬品評価小委員会委員
H24年1月～	複数の製薬企業の創薬研究コンサルタント

［注］　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	生化学講座	准教授	石井　功

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2011年～現在	主に、1年C9(1)「細胞を構成する分子」を横田先生と共同で、また２年C9(4)「生体エネルギー」を単独で担当した。復習可能なレジメを授業中に配布刷ると同時にWEBにアップし、また毎回の事業内容をミニテストで確認し、学生の理解度の向上に努めた。
２　作成した教科書、教材、参考書	2011年～現在	ヴォート基礎生化学、リッピンコットイラストレイテッド生化学を基にレジメを作成した。（1年C9(1)「細胞を構成する分子」および２年C9(4)「生体エネルギー」の教科書）
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年8月4日	FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Hyperhomocysteinemia abrogates fasting-induced cardioprotection against ischemia/reperfusion by limiting bioavailability of hydrogen sulfide anions.	共著	2015年2月	J. Mol. Med. (Berl) 93,879-889 (2015)
Hemizygosity of transsulfuration genes confers increased vulnerability against acetaminophen-induced hepatotoxicity in mice.	共著	2015年1月	Toxicol. Appl. Pharmacol. 282,195-206 (2015)
Neutral aminoaciduria in cystathionine beta-synthase-deficient mice, an animal model of homocystinuria.	共著	2014年6月	Am. J. Physiol. Renal Physiol. 306, F1462-F1476 (2014)
Dietary deprivation of each essential amino acid induces differential systemic adaptive responses in mice.	共著	2014年5月	Mol. Nutr. Food. Res. 58,1309-1321 (2014)
Methionine excess in diet induces acute lethal hepatitis in mice lacking cystathionine gamma-lyase, an animal model of cystathioninuria.	共著	2012年3月	Free Radic. Biol. Med. 52,1716-1726 (2012)

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
システイン・活性イオウ分子産生酵素CSEのアセトアミノフェン肝障害における保護的役割	2015年6月	第42回日本毒性学会学術年会（金沢）
心虚血再灌流障害におけるホモシステインの新規作用機序	2015年12月	第88回日本生化学会大会(神戸)

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

平成21年5月～平成22年12月	日本生化学会「生化学」企画協力委員
平成23年1月～現在	日本生化学会「生化学」企画委員
平成24年1月～現在	Archives of Pharmacal Research, Editorial Board
平成26年8月～現在	日本学術振興会審査会専門委員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。

２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）

５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	薬理学講座	准教授	奥田　隆志

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		毎年の薬理学講義において講義内容に関連する図書の紹介を行うなどして、学生の興味を惹くよう心がけている。
２　作成した教科書、教材、参考書		なし
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2014年12月21日 2015年3月4日 2015年8月4日	大学院FD「変わりゆく医薬品開発と臨床研究」川上浩司（京大） 学部FD「第三者評価について学ぶワークショップ」小澤孝二郎（広大） FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Substrate-induced internalization of the high-affinity choline transporter.	共著	平成23年10月	Journal of Neuroscience vol.31 No.42
Osteopontin is an alpha motor neuron marker in the mouse spinal cord.	共著	平成24年4月	Journal of Neuroscience Research vol.90 No.4
「高親和性コリントランスポーターの局在と機能」	単著	平成24年6月	Clinical Neuroscience（2012年6月号）
「神経変性疾患と創薬」	単著	平成24年6月	新しい薬学事典（朝倉書店）
Transmembrane topology and oligomeric structure of the high-affinity choline transporter.	共著	平成24年12月	Journal of Biological Chemistry vol.287 No.51

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
なし		

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

なし	

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	創薬物理化学講座	専任講師	伊藤　佳子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2010年～現在	1年C1(2)物質の状態Ⅰを8回、2年(3)物質の状態Ⅱの講義を10回行っている。講義に合わせ、図や映像等で種々の事例を示し、同時に演習問題を解きながら解説することにより理解が深まるよう工夫している。(授業評価3.2, 3.6)
２　作成した教科書、教材、参考書	2011年9月	薬学物理化学演習第3版(廣川書店)(物理化学1,1年教科書)
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年8月4日 2015年9月26日	FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加 医療系三学部合同教育（中期）にファシリテーターとして参加

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
「薬学物理化学演習第3版」	共著	2011年9月	廣川書店
Reaction monitoring of tocopherols with active nitrogen oxides by ultra high-speed liquid chromatography.	共著	2012年2月	Journal of pharmaceutical and biomedical analysis, vol.55, 2012
超高速液体クロマトグラフィーを用いたロキソプロフェンナトリウム錠溶出試験	共著	2013年8月	分析化学(第61巻第8号)
降圧配合錠の確認試験への超高速LC-PDA法の適用	共著	2014年8月	分析化学(第62巻第8号)
Simultaneous Analysis of Oral Antidiabetic Drug by LC-MS/MS.	共著	2015年	Chromatography 36, 19-24, 2015

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
複合型サプリメントの抗酸化機能評価法の探索および成分複合効果	2015年5月	第75回分析化学討論会
複合型サプリメント成分の超高速LC 迅速分析および成分組成と抗酸化活性との相関	2015年8月	第28回バイオメディカル分析科学シンポジウム

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	薬理学講座	専任講師	森脇　康博

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2009年～現在	3年「C13(1)(2)薬の作用と生体内運命」：教科書(NEW薬理学第5版)には記載されておらず、薬剤師国家試験に出題されている、また今後出題される可能性が高い薬剤いついて薬理学雑誌などより引用し講義を行っている。（平成25年度授業評価4.2/5.0、26年度授業評価4.1/5.0）
２　作成した教科書、教材、参考書		－
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年8月4日 2015年5月30日 2015年4月6日 2015年3月4日	FD 薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応 鈴木雄介（医師・弁護士　研究倫理委員会メンバー） FD 新モデル・コアカリキュラムが目指す実務実習 鈴木匡（名古屋市立大）、慶應義塾大学薬学部が目指す薬剤師教育 大谷壽一（慶應義塾大） FD 研究倫理講習会 FD［第三者評価について学ぶワークショップ」小澤孝二郎（広島大）

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
「薬学物理化学演習第3版」	共著	2011年9月	廣川書店
IL-22/STAT3-induced increases in SLURP1 expression within psoriatic lesions exerts antimicrobial effects against Staphylococcus aureus.	共著	2015年10月	PLoS One Vol.10 No.10
T cells down-regulate macrophage TNF production by IRAK1-mediated IL-10 expression and control innate hyperinflammation.	共著	2014年4月	Proc Natl Acad Sci USA Vol.111 No.14
Effect of secreted lymphocyte antigen-6/urokinase-type plasminogen activator receptor- related peptide-1 (SLURP-1) on airway epithelial cells.	共著	2013年8月	Biochem Biophys Res Commun Vol.438 No.1
Localization of acetylcholine-related molecules in the retina: implication of the communication from photoreceptor to retinal pigment epithelium.	共著	2012年8月	PLoS One Vol.7 No.8
Critical role of intracellular osteopontin in anti-fungal innate immune responses.	共著	2011年1月	J Immunol Vol.186 No.1

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
SIMPLE, a causative gene for Charcot-Marie-Tooth disease type 1C, participates in protein trafficking in trans-Golgi network and recycling endosome.	2015年10月	45th Annual Meeting, Society for Neuroscience, Chicago, USA
運動ニューロンのサブタイプ選択的脆弱性におけるオステオポンチンとマトリックスメタロプロテアーゼ-9の役割.	2015年7月	第37回日本神経科学大会, 横浜

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2005年4月～	日本薬理学会会員（2013年4月～学術評議員）
2007年4月～	日本神経科学会会員
2011年4月～	日本薬学会会員
2015年4月～	北米神経科学会会員

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成25年度(2013/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	創薬物理化学講座	助教	蛭田　勇樹

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		講座に配属される学生のレポート、卒論、修論の書き方に問題があると感じましたので、２年生に行う物理分析系アドバンスト実習において、薬科学科の学生全員にレポートの書き方、考察の仕方についてフィードバックを行いました。
２　作成した教科書、教材、参考書		－
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年8月4日 2014年9月27日 2014年3月4日	FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加 三学部合同教育WS（中期）に参加 学部FD「第三者評価について学ぶワークショップ」小澤孝二郎に参加

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Effects of Terminal Group and Chain Length on Temperature-Responsive Chromatography Utilizing Poly(N-isopropylacrylamide) Synthesized via RAFT Polymerization.	共著	2015年8月	RSC Advances, 2015, 5, 73217-73224
Near IR Emitting Red-Shifting Ratiometric Fluorophores Based on Borondipyrromethene.	共著	2015年5月	Organic letters, 2015, 17, 3022-3025
The effects of anionic electrolytes and human serum albumin on the LCST of PNIPAAm-based temperature-responsive copolymers.	共著	2015年5月	Colloids and surfaces B:Biointerfaces, 2015, 132, 299-304
pH/temperature-responsive fluorescence polymer probe with pH-controlled cellular uptake.	共著	2014年10月	Sensors and Actuators B, Chemical 2015,207, 724-731
Temperature-Responsive Fluorescence Polymer Probes with Accurate Thermally Controlled Cellular Uptakes.	共著	2014年3月	ACS Macro Letters 2014, 3, 281-285

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
pH- and temperature-responsive organic-inorganic hybrid polymer nanoparticles with controlled cellular uptake	2015年12月	Pacifichem2015
Effects of polymer chain length and terminal functional group on temperature-responsive chromatography	2015年6月	HPLC2015

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

2015年6月	HPLC2015, Best Poster Award
2014年12月	日本分析化学会関東支部新世紀新人賞受賞
2014年9月	日本分析化学会第63年会で「展望とトピックス 注目すべき最新分析化学研究16選」に選出(755件中)
2014年9月	RSC Tokyo International ConferenceにおいてRSC Best Presentation Award受賞(146件中のTop3)

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	有機薬化学講座	助教	花屋　賢悟

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2012年～現在	学生実習が滞りなく進むよう、過年度の実習における反省点をふまえ実習書を見直し、必要があれば予備実験を行い改訂を加えている。
2　作成した教科書、教材、参考書	2013年10月	「薬学生のための実習実験安全ガイド」東京化学同人
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年4月 2015年7月1日 2015年8月4日	有機化学問題集の作成・頒布 医療系三学部合同教育FDワークショップ2015に参加 FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Development of a Novel Sulfonate Ester-Based Prodrug Strategy	共著	2016年1月	Bioorg. Med. Chem. Let. 26, 545-550 (2016).
Upregulation of cellular glutathione levels in human ABCB5- and murine Abcb5-transfected cells	共著	2015年12月	BMC Pharm. Toxic. 16 (DOI:10.1186/s40360-015-0038-5).
New synthesis of artepillin C, a prenylated phenol, utilizing lipase-catalyzed regioselective deacetylation as the key step	共著	2015年12月	Biosci. Biotech. Biochem. 79、1926-1930 (2015).
Recognition of the remote chiral center in lipase-catalyzed kineticresolution of [2-methyl-2-(2 -naphthyl)-1,3-benzodioxol-4-yl]methylacetate, the precursor of2-methyl-2-(2 -naphthyl)-1,3-benzodioxole-4-carboxylic acid (MNBcarboxylic acid)	共著	2014年8月	J. Mol. Catal. B:Enz, 109,130-135 (2014).
Design, Synthesis and Photochemical Reactivation of Caged Prodrugs of 8-hydroxyquinoline-based Enzyme Inhibitor	共著	2014年7月	Chem. Pharm. Bull. 62, 648-652 (2014).

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Preparation of BSA-based hybrid enzyme containing multiple functions	2015年12月	Pacifichem 2015
プロドラッグへの応用を志向した新規刺激応答性アミノスルホン酸エステルリンカーの創製	2016年3月	日本薬学会第136年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

［注］　1　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　2　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　3　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　4　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　5　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	医薬品化学講座	助教	高橋　恭子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2009年-現在	医薬品製造プロセス；　実際の医薬品原薬あるいは中間体の工業生産の実際について学ぶため、最先端の製薬産業を題材に、その発見から上市までの概略を有機化学をベースに講義した。
２　作成した教科書、教材、参考書	2009年-現在	-
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		-
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年7月1日 2015年8月4日 2015年9月26日	医療系三学部合同教育FDワークショップ2015に参加 FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加 医療系三学部合同教育（中期）にファシリテーターとして参加

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Novel bioactivation pathway of benzbromarone mediated by cytochrome P450.	共著	2015年9月	Drug Metab Dispos 43
The human immuodeficiency virus-reverse transcriptase inhibition activity of novel pyridine/pyridinium-type fullerene detivatives.	共著	2015年6月	Bioorg Med Chem, 25.
Antioxidant activities of 5-hydroxyoxindole and its 3-hydroxy-3-phenacyl derivatives: The suppression of lipid peroxidation and intracellular oxidative stress.	共著	2013年12月	Bioorg Med Chem, 21.
Synthesis, radical scavenging activity and structurer-activity relationship of uric acid analogs.	共著	2013年1月	Med Chem Comm, 4.
Ipso Substitution of bisphenol A catalyzed by microsomal cytochrome P450 and Enhancement of estrogenic activity.	共著	2011年5月	Toxicology Letters, 203.

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
抗酸化活性環状ジペプチド化合物の脂質過酸化抑制効果	2015年6月	第68回日本酸化ストレス学会学術集会
インドール共役ヒダントイン誘導体の合成とラジカル消去活性	2015年9月	第59回日本薬学会関東支部大会
Novel bioactivation pathway of benzbromarone mediated by cytochrome P450	2015年11月	日本薬物動態学会第30回年会
尿酸の構造を単純化した 置換インドリノン誘導体の合成と抗酸化活性	2015年11月	第33回メディシナルケミストリーシンポジウム
Discovery and synthesis of a novel non-covalent inhibitor for protein-protein interaction between Nrf2 and Keap1.	2015年12月	THE INTERNATIONAL CHEMICAL CONGRESS OF PACIFIC BASIN SOCIETIES 2015
Synthesis of novel pyridine/pyridinium-type fullerene derivatives with human immunodeficiency virus-reverse transcriptase inhibition activity	2015年12月	THE INTERNATIONAL CHEMICAL CONGRESS OF PACIFIC BASIN SOCIETIES 2015
Synthesis of multi-target fullerene derivatives with both HCV RNA polymerase inhibitory and antioxidant activities for the treatment of HCV-related disease.	2015年12月	THE INTERNATIONAL CHEMICAL CONGRESS OF PACIFIC BASIN SOCIETIES 2015

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	生化学講座	助教	髙橋　大輔

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2015年(着任) ～現在	3年薬学実習 IIIB（生化学)、3年生化学アドバンスト実習: 実習の目的が分かりにくいため、スライドを作成し理解を深められるよう努めた。また手順の記載に、若干古い概念と、学生には分かりにくい記載が散見されたので、修正し理解を深められるようにした。
２　作成した教科書、教材、参考書	2015年～現在	Immunobiology、Cellular and Molecular Immunologyのテキストブックを参照に、スライドの作成を作成した。また同じくそれらを基に実習書を一部アップデートした。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年5月30日 2015年6月9日 2015年6月16日 2015年8月4日	FD「新モデル・コアカリキュラムが目指す実務実習」参加 薬学部生命倫理（1年)にファシリテーターとして参加 薬学部生命倫理（1年)にファシリテーターとして参加 FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Commensal microbiota-derived signals regulate host immune system through epigenetic modifications.	共著	2015年5月	Inflamm. and Regene. (35)
The epigenetic regulator Uhrf1 facilitates the proliferation and maturation of colonic regulatory T cells.	共著	2014年6月	Nat. Immunol. (15)
Commensal microbe-derived butyrate induces the differentiation of colonic regulatory T cells.	共著	2013年12月	Nature (504)
AP-1B-Mediated Protein Sorting Regulates Polarity and Proliferation of Intestinal Epithelial Cells in Mice.	共著	2013年9月	Gastroenterology (145)
Distinct Roles for CXCR6(+) and CXCR6(-) CD4(+) T Cells in the Pathogenesis of Chronic Colitis.	共著	2013年6月	PLoS One (8)

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
腸内細菌由来の酪酸による免疫システムの制御	2016年3月	第89回日本細菌学会総会
Epithelial-lymphocyte crosstalk: Constitutive HVEM Signals Regulate Intraepithelial Lymphocyte Homeostasis.	2015年11月	第44回日本免疫学会学術集会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）

［注］　１各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。

２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）

５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	生命機能物理学講座	助教	横川　真梨子

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2015年～現在	2年「薬学実習IIA」：分析系の実験技術を習得する。実習後は毎回レポートを作成することで理解を深めさせる。 2年「C1(4)物質の変化」：化学反応の反応速度論における数式の導出等について、板書を交えて丁寧に説明している。 1年「薬学基礎実習（分析化学系）」：分析系の実験技術を習得する。実習後は毎回レポートを作成することで理解を深めさせる。
２　作成した教科書、教材、参考書		－
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		－
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年5月16日 2015年8月4日 2016年1月10-11日	医療系三学部合同教育（初期）にファシリテーターとして参加 FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加 第18回関東地区ワークショップFDに参加

Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Structural analysis of the mechanism of phosphorylation of a critical autoregulatory tyrosine residue in FGFR1 kinase domain.	共著	2015年8月	Genes Cells, Oct;20(10) 860-870,(2015)
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
多量子遷移の緩和速度の差を利用した高分子量タンパク質のマイクロ秒からミリ秒オーダーの化学交換の解析法の開発		2015年10月	第54回NMR討論会
Gタンパク質三量体によるGタンパク質共役型内向き整流性カリウムチャネル活性制御機構の構造生物学的解明		2015年12月	BMB2015
ポリA上でのPABP多量体化の構造生物学的解析		2016年3月	日本薬学会第136回年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）	

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ　教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ　研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ　学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績　　（平成22年度(2010/4)～27年度(2016/3)）

教育および研究活動の業績一覧			
慶應義塾大学	臨床薬学講座	助手	今岡 鮎子

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2015年秋学期	4年生「実務実習事前学習」：5年次に病院・薬局へ実習に行くにあたり、病院薬剤師として勤務していた経験を活かし、必要な技能や知識を教えた。また、主に担当した入院患者に対する服薬指導については、SPさんからのフィードバックも活かして、より臨床現場に近いものを学生に経験してもらえるように改善した。
２　作成した教科書、教材、参考書		特になし
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2015年5月8日 2015年5月30日 2015年8月4日	医療系三学部合同教育（後期）にファシリテーターとして参加 FD「新モデル・コアカリキュラムが目指す実務実習」参加 FD「薬学部教員に求められる研究倫理と利益相反への対応」参加

Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Variation in the inhibitory potency of terbinafine among genetic variants of CYP2D6.	共著	2015年4月	Drug Metabol Pharmacokinet, 30(4): 321-324
常用量以下の曝露量における全身性副作用の用量依存性の推定	共著	2015年3月	医薬品情報学 17(2): 77-86
インターネットオークションでの違法な医薬品取引と主催者による監視、削除の実態	共著	2015年3月	薬学雑誌 135(3): 529-534
Decrease in ciprofloxacin absorption by polyvalent metal cations is not fully attributable to chelation or adsorption.	共著	2014年5月	Drug Metabol Pharmacokinet, 29(5): 414-418
Prediction of the extent and variation of grapefruit juice-drug interactions from the pharmacokinetic profile in the absence of grapefruit juice.	共著	2014年10月	Biopharm Drug Dispos 35(7): 373-381

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
消化管におけるアムロジピンと活性炭の薬物相互作用に対する食事の影響	2015年11月	第25回 日本医療薬学会年会
抗がん剤曝露時のダビガトラン-クラリスロマイシン薬物相互作用に対する	2015年11月	第9回 次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム
CYP3A4 遺伝的 variant に対する競合阻害剤の阻害特性の体系的比較（優秀ポスター賞受賞）	2015年9月	第59回 日本薬学会関東支部大会

Ⅲ　学会および社会における主な活動（主要なものから4つまで）	
特になし	

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
　　H27年から、古い年度へと遡及して記載ください。
　　２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
　　３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
　　４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
　　（著書論文が５つないときは、学会報告を著書論文と合わせて7つまで追加）
　　５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。